

誠意ハ南君ニ於テモ御認ニナランコトヲ希望致シマス

木下甚三郎君ノ質疑  
私ハ昨年本席ニ於テ農業問題ノ少シ許リヲ御話致シマシテ、是ガ本問題ニナツテ來ルコトハ望ム所デアルト思フテ居リマシタガ、本年ハ議會ナリ、政府ナリ、又何處モ彼處モ農業問題ヲ持嚙サレルヤウニナツテ、私ハ大ニ喜ブ、今日各派ニ於テ、政友會ヲ除ク各派ノ意見ヲ謹聽致シマシタ、寔ニ欣ビニ堪ヘヌノデアリマス、私ノ目的ヲ達スルコト遠カラズ、所デチット革新俱樂部、憲政會或ハ庚申俱樂部ト云フノガ是ガ一致シテ居ラヌト云フコトガ甚ダ遺憾デアリマス、是ハ農業問題ダカラガツチリ一致センナラヌノガ一致シテ居ラヌ是ガ遺憾デ堪ラナイ、其中デ最モ其案ノ要用ナル所ガ私了解ガ出來ヌノデス、ソレデ濱口サンガ堂ミト御話ニナリマシタ地租ノ減稅、減稅ト云フト、七千ナンボノ中二千萬トカ四千萬トカ、三千萬トカ、減リマスデヤラウ、減ツタモノガ地主ノ懷ニ歸ルカ、ソレガ聽キタイ此方ノモノハ多分サウダラウト思フ、七千萬ヤラ、ナンボヤラ全部ノ地租ガ出テシマフタラ、懷ニ止マラスニ、縣稅以下ノ地方稅トシテ其モノヲ委讓スル、ソレデ戶數割ニモ行ク、ドナイスルノデアルカ、一體農村ニ居ル皆ガ恩典ヲ蒙ル、此方ヲ聽クト一寸ソレガムヅカシイ、是モ矢張一、ニシタラドウデス、サウデナケレバ問題ガ解決シマセヌ本當ニ、ソレカラモウ一ツ次ハ營業稅ト云フモノハ、此方ハ營業モ丸出シ、此方ハ丸出シデハナイガ何ダカチット殘ツテ居ル、チット殘ルト云フト、今年ナンデセウ、營業稅ト云フモノハ、國稅ノ營業稅ト云フモノハ、此方デコナイニシテ、ヤカマシウ言ウテ居リマスガ、僅ニ二千圓以下ノ稅金ヲ拂ウテ居ル者ノ營業稅ハ、チャント定ツテ居ル、是ハ御協贊ニナツテモ府縣稅ニ屬スル營業稅デス、其方ノ事ハ一向ニ御忘レニナツテ、上ノ方ノ二千圓以上ノヤツハ若シモ此方ヘヤツタラ、此方ハ皆府縣稅ソレヲ宰領シマス、其此方ヘ行カズシテ、若シモ營業稅ガ懷ニ入ツタラドナイスルカ分ニス、此點ヲ私ハ案ズル、ドウシテモ是ハ二千圓ノ上下トニ甲乙ガアツテハ、一國ノ政治ト云フモノハイケマセヌゾ、營業稅ナント云フモノハ、大キナモノデアアル百姓ノ小イ錢ト違

フ、百姓ハ七千四百萬圓ノ稅金ヲ出スノニ、何人掛ツテ居ルカト云フタラ、戶數ニ依ツテ六百何十萬デアアル、營業者ト云フモノハ八十何萬ト云フモノデアアル、ソレデ理由ハ減ジタ稅デ、縣稅以下ノ稅金ニ移スヤ否ヤノ問題ダ、移スナラ移スデ宜イ、移サヌナラ移ラヌデ宜イ、返事ヲ聽クダケ聽キタイ、是デ宜イ

次テ十案ハ政府提出所得稅法中改正法律案(二)外四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末第一、第二、第四乃至第八ノ七案ハ原案ヲ否決スヘキモノト決シ二月九日報告書ヲ議長ニ提出セリ第三案ハ三月二十三日提出者ヨリ本案ノ撤回ヲ要求シ院議之ヲ許可ス

(議事ノ經過及結果ハ本項第一(二)參看)

九 農業組合法案

農業組合法

第一條 本法ニ於テ農業組合ト稱スルハ小作條件ノ維持改善、組合員ノ共濟慰安其ノ他共同利益ノ保護増進ヲ目的トシテ設立シタル農業従事者三十人以上ノ團體ヲ謂フ

第二條 農業組合ハ法人トス

第三條 農業組合ノ名稱中ニハ農業組合ノ文字ヲ用ウヘシ

農業組合ニ非シテ其名稱中ニ農業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

度四項 法律案



第四條 農業組合カ組合員ノ共濟慰安其ノ他共同ノ利益ヲ增進スル目的ヲ以テ事業ヲ營ム場合ニ於テハ保險業法及産業組合法ヲ適用セス

第五條 農業組合ニハ所得稅營業稅ヲ課セス

組合ノ爲ス行爲ニ付テハ登録稅ヲ課セス

組合ト組合員トノ間ノ法律行爲ニ關シテハ印紙稅ヲ課セス

第六條 農業組合ノ代表者ハ組合設立ノ日ヨリ二週間内ニ組合規約ヲ添ヘ主タル事務所所在地ノ地方長官ニ届出ツルコトヲ要ス

組合規約ニ變更アリタルトキ亦同シ

第七條 農業組合ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 第一 名稱
- 第二 目的
- 第三 主タル事務所
- 第四 地域
- 第五 組合員ノ資格ニ關スル規程
- 第六 組合ノ加入及脱退ニ關スル規程

七 組合ノ總會其ノ他ノ會議ニ關スル規程

八 組合ノ代表者其ノ他ノ役員ニ關スル規程

九 組合費加入金及會計ニ關スル規程

十 組合財産ノ管理ニ關スル規程

十一 組合ノ目的タル事業ニ關スル規程

十二 組合規約ノ變更ニ關スル規程

第八條 農業組合ノ登記スヘキ事項左ノ如シ

一 第七條第一號乃至第四號

二 設立ノ年月日

三 理事ノ住所氏名

四 監事ヲ置キタルトキハ其ノ住所氏名

前項ノ事項中變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第九條 理事及監事ハ必要アルトキニ限リ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

第十條 民法第四十四條、第四十五條、第四十八條、第五十條、第五十二條乃至第七十條、第七十



二條乃至第八十四條ノ規定ハ農業組合ニ之ヲ準用ス但シ總會ニ付テハ組合規約ノ定ムルトコロニ依リ組合員中ヨリ選舉シタル代議機關ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ總會ニ關スル規程ハ之ヲ代議機關ニ準用ス

第十一條 農業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ハ民法第六十九條ノ規定ヲ準用ス  
農業組合カ合併ヲ爲シタルトキハ二週内ニ於テ合併後存續スル組合ハ變更ノ登記ヲ爲シ又合併ニ因リテ消滅シタル組合ハ解散ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

農業組合カ合併ヲ爲シタルトキハ合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第十二條 地主ハ小作人カ農業組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ小作契約ヲ解除シ又ハ組合ニ加入セス若ハ組合ヨリ脱退スルコトヲ小作條件ト爲スコトヲ得ス

第十三條 農業組合ハ毎年一回組合ノ事業並財産ノ狀況ニ關シ地方長官ニ報告ヲ爲シ併テ之ヲ公告スヘシ

第十四條 農業組合ノ役員選舉又ハ決議ニシテ法令又ハ組合規約ニ違反スルトキハ地方長官ハ其ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第十五條 第六條ノ場合ニ於テ地方長官ハ組合規約カ法令ニ違反スルト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十六條 前二條ノ地方長官ノ處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得其審判第十七條 農業組合解散シタルトキハ他ニ特別ノ規定アル場合ノ外第六條ノ手續ニ依リ地方長官ニ届出ツルコトヲ要ス

第十八條 農業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲農業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

農業組合聯合會ハ他ノ農業組合聯合會ニ加入スルコトヲ得

第十九條 農業組合又ハ農業組合聯合會カ農業組合聯合會ニ加入シ又ハ脱退セムトスルトキハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十條 農業組合ニ關スル規定ハ農業組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第二十一條 第六條及第十條ノ届出若ハ第十三條ノ手續ヲ爲サス又ハ第十四條ノ命令ニ違反シタルトキハ組合ノ代表者其ノ他ノ役員ヲ各五十圓以下ノ過料ニ處ス其ノ届出又ハ手續ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキ亦同シ

第二十二條 第十二條ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス



第二十三條 農業組合ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ

三年以下ノ懲役ニ處ス賄賂ノ交付、提供又ハ約束シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル

トキハ其ノ價格ヲ追徴ス

第二十四條 第三條第二項ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第二十五條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ設立シタル農業組合ハ本法施行後四週内ニ第六條ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

農業組合ノ登記ニ付テハ産業組合法附則ヲ準用ス

右ハ十一年十二月二十七日土井權大君之ヲ提出ス二月八日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如

ク趣旨ヲ辯明セリ

農業組合法案ノ説明ヲ致シマス、是ハ昨年國民黨ノ案トシテ提案ニナッタノデアリマス、其當時  
縷々説明ヲ致シテ置キマシタガ爲ニ、今日ハ極メテ簡單ニ要領ノミヲ申上ゲタイト思ヒマス、御  
承知ノ通り本年ハ各政黨政派ヨリ農村振興上ニ關スル熱心ナル問題ガ提案サレタコトデアリマ  
ス、寔ニ同慶ノ至リニ堪ヘマセヌ、併ナガラ其論議サレテ居ル所ハ、負擔ノ輕減若クハ地租ノ委

讓、要スル所當面ノ問題デアリマス、又政府ニ於カセラレマシテモ、農村問題ニ付テハ種々ノ研  
究ヲサレツ、アルコトモ承知致シテ居リマス、ソレハ土地ノ保護若クハ土地ノ利用ニ關スル事  
ニ重キヲ置イテ居ラレル、言葉ヲ換ヘテ言ヒマスナラバ、何故ニ今日ノ如ク農村ガ困憊疲弊シタ  
カ、其原因ニ付テノ研究ト云フコトガ、或ハ缺ケテ居リハスマイカト私ハ考ヘル農村困憊ノ其原  
因ハ何レニ在ルカト申セバ、即チ産業革命ニ私ハ原因致シテ居ルモノト確信致スノデアリマス、  
御承知ノ通り鐵ノ利用、蒸汽ノ利用、電氣ノ利用、是等ノ利用ニ依リマシテ、大キナ機械大キナ資  
本、是等ガ勝利ヲ得ルコトニ相成ツタガ爲ニソレガ原因トシテ農村ノ所謂家族ノ自給自足ノ經濟  
政策、否經濟ノ組立ト云フモノガ打壞サレテシマッタノデナイカト私ハ考ヘル丁度三十年モ五十  
年モ前ノ農村ト申シマスモノハ、己ノ家ニ於テ米麥ヲ作り、醬油モ造リ味噌モ造リ、酒モ造リ、煙  
草モ造リ或ハ著物モ造リ、悉クノ物ガ家族ノ自給自足デアッタ、所ガ産業革命ノ結果、即チ大キ  
ナ機械、大キナ資本、鐵、蒸汽、電氣ノ利用ノ爲ニ、ソレ等ノ仕事ト云フモノ、ソレ等ノ經濟組織ト云  
フモノヲ奪去ラレタ、ソレガ即チ困ツテ居ル原因デナイカ、抑農村ノ困ツテ居ルノハ米ガ高イトカ、  
安イトカ、或ハ負擔ガ重イトカ輕イトカ、ソレ等モ原因デアリマセウケレドモ、更ニ沿革的ニ研  
究致シマス、家族ノ自給自足ト云フ經濟組織ヲ奪ハレタ、是ガ最大原因デナイカト私ハ考ヘ  
ル、ソコデ吾々ハ此際農民ヲシテ如何ニ自覺セシムルカ、彼等ハ既ニ自給自足ノ經濟ヲ奪ハレテ  
居ル、如何ニシタナラバ之ヲ復舊セラレルカト云フコトヲ、農民ヲシテ自覺セシムル必要ガアル  
ト私ハ考ヘル、ソコデ如何アル事ヲシテ自覺セシメルカト申セバ、立法的ニモ其他ノ方法モ色々  
アルデアリマセウケレドモ、彼等ヲシテ如何ナル方法ヲ以テ一致協同ノ精神ヲ持タシムルカ、一  
致協同ノ精神ヲ以テマシテ、團體的ニ自給自足ト云フ所ノ經濟組織ニセシムル必要ハアルマイ  
カト斯ウ考ヘル、昔ノヤウニ一軒一戸ニ於テ自給自足ノ事ハ今日ハ出來マスマイ、故ニ團體的ノ  
自給自足ヲ講ズルノ方法ヲ講ズル必要ガアルト斯ウ私ハ考ヘル、即チ茲ニ組合ヲ造リマシテ、總  
テノ生産ヲスル點ニ於テモ團體的ニスル、能ク此肥料ノ國營、肥料ノ專賣ナドノコトヲ本質ニ於  
テ論議サレル方ガアリマスガ、左様ナ事ヲ致サズトモ、專賣トカ或ハ官營トカ云フコトヲ致サズ



トモ、彼等が一ツノ組合ヲ造リ、團體ヲ造リ而シテ此化學的肥料、即チ窒素、磷酸加里、是等ノモノヲ彼等團體ニ於テ之ヲ造ッタナラバドウデアアルカ、其他著物ニシテモ、或ハ醬油ニ致シマシテモ、家族的ノ自給自足ガ或ハ今日ノ時勢ニ合ハナイトスレバ、團體的ノ自給自足ガ必要デアアル、ソレニハドウシテモ組合ト云フ所ノ組立ヲ造ル必要ガアル、斯ノ如クシタナラバ、自然彼等農民ノ生活費ノ輕減ト相成ルコト、思フ、又進ンデハ此共同の作業、或ハ共同の生産、又共同の購入、共同の販賣ソレ等ノ事例ハ申シマセヌ、斯ノ如ク致シマシタナラバ、自然ト生産費ノ輕減ト云フコトヲ來サシメハシナイカト思ヒマス、即チ共同作業、共同の生産ニ依リテ農産物生産費ノ輕減ヲ圖ル、是ハ私ハ第二ノ問題デアルト思フ第一ハ生活費ノ輕減、第二ハ生産費ノ輕減、更ニ肥料ヲ買フト致シマシテモ共同のニ買フ、又農産物ヲ販賣致ストシテモ、之ヲ共同デ販賣スル、斯ノ如クスレバ、自然ニ冗費ノ節減ト云フコトニ相成ルデアラウト考ヘル、是等ハ斯ノ如キ團體ノ力、組合ノ力ニ依ラナケレバ、其效ヲ奏スルコトハ出來ナイモノト考ヘル、更ニ進ンデ農村振興ノ問題トシテハ、各種アルデアリマセウガ、特ニ此團體ノ力ニ依リマシテ、副業ノ獎勵、土地ノ開拓及改良、耕作法ノ改良肥料ノ改良、農具ノ改良、斯ノ如キコトニ致シマスレバ、自然ト農村ノ收入ガ増加スルモノナリト私ハ考ヘル、斯ク團體ノ力ニ依リマシテ、只今申シマシタヤウナ事ヲ致シマシタナラバ、農村ノ生活ハ自然ト安定ニナリ、思想モ亦自然ニ良イ方ニ導クコトガ出來ル、又農村ノ美風ヲ維持スルコトモ出來ルト私ハ考ヘル、ドウ致シマシテモ今日ハ農村ニ於キマシテ、如何ニシタナラバ彼等ガ共同一致ノ下ニ樂ンデ仕事ノ出來ルカ、天ノ時ハ地ノ利ニ如カズ、地ノ利ハ人ノ和ニ如カズ、此三ツノ天地人三才ヲ應用スルヨリ外私ハ途ハ無イト考ヘル、マシ、ソコデ農業組合法案ノ理由書ニモ書イテアリマスガ、斯ウ云フ理由ヲ認メテ居ル、小作爭議ノ頻發、都市集中ノ流行、農村中堅階級ノ滅亡ハ農村ニ於ケル現下ノ趨勢ニシテ其ノ原因ハ農民ノ生活不安ニ基クヤ明ナリ今ニシテ農業の經濟組織ヲ更新シ彼等ヲシテ共同一致ノ下ニ或ハ共濟慰安ノ計ヲ爲サシメ或ハ共同利益ヲ増進セシメ或ハ小作條件ノ維持改善ヲ爲サシメ或ハ勞資ノ協調ヲ爲サシムルニ非サレハ農村ノ滅亡ヲ來シ遂ニ産業ノ基礎ヲ破リ食糧ノ缺乏ヲ來シ國家

ヲ危殆ニ陥ラシムルヤ必セリ之ヲ豫防シ農村ノ維持確立ヲ圖ルノ目的ヲ以テ農業組合ヲ設立セシムルハ現下ノ急務ナリト認ム是レ本案ヲ提出スル所以ナリ「斯ウ云フ理由書ニ相シテ居リマス、所ガ往々産業組合ハ斯ノ如キ仕事ヲ致シテ居ルガ故ニ、最早農業組合ノ如キモノヲ造ル必要ハナカラウカト云フ、斯ウ云フ御意見ヲ持タル、方ガアリマス、固ヨリ日本ニ産業組合ノ御承知ノ通り一萬三千二百、組合員ノ數ハ二百五十萬アル、所ガ是ハ翻譯的、直譯的ノ經濟組織デアリマシテ、非常ニ煩雜ナル手續ガアル、故ニ農村ニハ餘リ、不向デアアル總テ縣廳デアルトカ、農商務省デアルトカ、或ハ大藏省ガ色々ノ手續ノ事バカリ申シマシテ農民ハ其手續ノ煩雜ナルガ爲ニ、此組合ノ發達ヲ圖ルコトガ出來ナイ、斯ウ云フ状態ニ相成ッテ居リマス、又其區域ナドモ或ハ一部落、一町村ニ限ルト云フガ如キ約子定木ノ事ヲ申シマス、ソレガ故ニ本當ニ此農村ノ從來ノ美風從來ノ習慣等ヲ産業組合ニ依ッテ維持シ、發展セシムルト云フコトガ出來ナイ、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ此産業組合ハ認可主義ニナッテ居リマスガ爲ニ、非常ニ不便デアアル、又農民ハ斯ノ如キ不便ナルコトヲ好ンデヤラナイ、斯ウ云フ状態デアリマス、ソレガ爲ニ産業組合ノ數多シト雖モ、萎靡トシテ振ハナイ、色々振ハナイ原因モアリマスガ、一ツハ此認可主義、一ツハ餘リ煩瑣ナル手續ガ多イカラデアリマス、ソコデ吾々ノ提案致シテ居リマス農業組合ハ、認可主義ニ非ズシテ届出主義デアアル、商會社ノ經營ヲスルガ如ク、範圍モ自由デアアル、仕事モ自由デアアル、併ナガラ主務官廳其他縣廳トシテハ相當ノ取締ヲ致シマス、或ハ地主ト争フガ如キ喧嘩ヲスルガ如キ目的ニ出デタナラバ、其組合ヲ停止スル斯ウ云フコトニ相成ッテ居ル餘程産業組合ヨリモ一歩進ンダ所ノ經濟組織ナリト確信致シテ居ルデアリマス何卒御賛同アラント願ヒマス

次テ本案ハ安達謙藏君外四名提出農村振興ニ關スル建議案(四七)外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラザリキ



一〇 職業紹介法中改正法律案

職業紹介法中左ノ通改正ス

第六條ノ二 職業紹介所ガ失業保險組合ヨリ失業ニ關スル事項ニ關シ共助ヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ事務ノ遂行ニ付經費ヲ要スルトキハ職業紹介所ノ負擔トス

第十條中「二分ノ一」ヲ「三分ノ二」ニ改ム

附則

本法ハ失業保險法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一一 失業保險法案

失業保險法

第一章 總則

第一條 政府ハ一定ノ事業ノ經營ニ當ル僱主及職工ヲシテ一定ノ地域ニ依リ失業保險ノ爲失業保險組合ヲ設ケシムルコトヲ得

前項ノ組合成立シタルトキハ當該地域内ニ於ケル僱主及職工ハ組合ニ加入スルコトヲ要ス

政府ハ一地域内ニ數箇ノ組合ヲ設立セシムルコトヲ得

第一項ノ事業及地域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ依リ勅令ヲ以テ指定セラレタル事業ニ従事スル職業ハ之ヲ保險職業トス

第二條 失業保險ニ於テハ失業保險組合カ職工ノ失業ニ關シ保險給付ヲ爲シ之カ對償トシテ國家、僱主及保險者ヨリ保險料ヲ徵收スルモノトス

第三條 失業保險ノ保險給付及保險料ハ被保險者ノ基本給料ニ依リ之ヲ量定ス

第四條 被保險者ノ基本給料及保險料ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ被保險者ノ負擔スヘキ額ハ保險料ノ基本給料ノ千分ノ十五ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 失業保險ニ關スル爭議事項ハ司法裁判所ノ管轄トス

第六條 失業保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

保險給付ハ租稅其ノ他ノ公課ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第七條 失業保險ノ事務ニ關スル郵便物ハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二章 保險範圍

第八條 僱主ヨリ報償ヲ受ケテ指定セラレタル事業ニ従事スル左記ノ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ從業ノ時ヨリ失業保險ノ被保險者タルモノトス

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案



一 職工、傭人

二 事務員及技術員

公吏及官公署雇員、傭人其ノ他國家又ハ公共團體ノ業務ニ従事スル者ニ付テハ國家又ハ公共團體ヲ以テ傭主ト看做ス

傭主ヨリ受クル報償ハ俸給又ハ給料ノ外被保險者カ其ノ代用トシテ受クル利益配當、現品給

與其ノ他ノ給與ヲ總稱ス

前項ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ組合ニ加入スルコトヲ得ス

一 年齢十六年以下ノ者及見習職工

二 年齢六十年以上ノ者

第十條 第八條第一項第二號ニ掲ケタル者ニ於テハ其ノ受クル報償カ一年ノ所得額千二百圓以下ナルコトヲ要ス

第十一條 被保險者カ任意ニ保險職業ヲ去リタルトキ又ハ前條ノ制限ヲ超過スル報償ヲ受クル

ニ至リタルトキハ被保險者タル資格ヲ失フ

第十二條 被保險者タルヘキ義務アル者ノ從業ノ開始又ハ終了、取得ノ變更其ノ他失業保險ニ

關シ必要ナル事項ハ命令ノ定ムル所ニ依リ傭主ヨリ組合ニ報告スヘシ

第十三條 政府カ失業保險組合ノ設立ヲ命シタル場合ニ於テハ關係者ハ規約ヲ作成シ主務大臣

ノ認可ヲ受クヘシ

組合ハ前項ノ認可ニ依リ成立ス

規約ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 失業保險組合法ハ人トス

第十五條 組合成立シタルトキハ主務大臣ハ遲滞ナク組合設立ノ旨ヲ告示スルコトヲ要ス

組合ハ其ノ告示アル迄其ノ成立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條 規約ニハ左ニ掲ケル事項ヲ規定スルコトヲ要ス

一 組合ノ目的

二 組合ノ地區

三 組合員ノ資格、其ノ加入脱退ニ關スル規定

四 基本給料ノ等級

五 保險料ノ比率

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



六 保険料徴収ノ方法

七 保険給付支給ノ方法

八 組合ノ會議及役員ニ關スル規定

九 其ノ他勅令ヲ以テ定メタル事項

第十七條 組合業務ノ管理ハ政府、傭主、被保險者各同數ノ理事ヲ選任シ之ヲ爲サシムルモノトス。理事長ハ政府選任ノ理事ノ内ヨリ主務大臣之ヲ命ス。

第十八條 主務大臣ハ何時ニテモ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ徴シ事業ニ付認可ヲ受ケシメ事業及財産ノ狀況ヲ検査シ規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得。

第十九條 組合ノ役員ニ故障アルトキハ又ハ組合ノ役員其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ監督官廳ハ官吏又ハ其ノ選任シタル者ヲシテ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ其ノ費用ハ組合ノ負擔トス。

第二十條 組合ノ事業若ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、主務大臣ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ組合員ノ利益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得。

一 決議ノ取消

二 役員ノ解職

三 組合ノ解散

第二十一條 前條ニ依リ解散セラレタル組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス。

前項ニ依リ政府カ承繼シタル場合ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

第二十二條 組合ノ設立、廢止、分合及之ニ要スル要件、手續並組合加入ノ要件、手續其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

第四章 保險給付

第二十三條 被保險者其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ保險職業ヲ去リタルトキハ組合ヨリ

保險給付ヲ受クルコトヲ得。

第二十四條 保險給付ノ支給ハ失業後第十六日目ヨリ開始シ開始後一年ヲ以テ終了ス。

第二十五條 保險給付ノ額ハ被保險者失業當時ノ基本給料ノ二分ノ一乃至三分ノ二ノ範圍ニ於テ勅令ニ依リ之ヲ定ム。

第二十六條 組合ハ前條ノ給付ニ代ヘ住宅其ノ他現品ヲ貸與又ハ給付スルコトヲ得。

代用給付ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。



第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ保險給付ヲ爲サス

一 疾病保險法、工場法又ハ鑛業法ニ依リ保險給付又ハ扶助ヲ受クル期間

二 陸海軍ニ召集セラレタル者

三 自己ノ便宜ニ依リ保險職業ヲ去リタル者

四 不當ナル勞働爭議ニ加ハリ因テ失業シタル者

五 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ依テ刑ノ執行ヲ受クルニ至リタル者

六 本法施行地外ニ其ノ住所ヲ移シタルトキ

七 公費ノ救助ヲ受クルニ至リタルトキ

八 感化院ニ收容セラレタルトキ

第二十八條 失業シタル被保險者ニシテ本人ノ技能ニ適當シタル職業ヲ紹介セラレ之ヲ拒否シタル者ニ對シテハ組合ハ保險給付ヲ停止スルコトヲ得

第二十九條 季節勞働ニ従事スル職工ニ在リテハ季節失業ハ失業ト看做サス

第三十條 保險給付ヲ受クヘキ者二年間請求ヲ爲ササルトキハ請求權ハ時効ニ依リテ消滅ス

第三十一條 保險給付ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ申請ニ依リ組合之ヲ決定ス

第三十二條 保險給付ノ請求權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第三十三條 保險給付ノ請求權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第三十四條 失業ニ關スル事故發生シタルトキハ傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合ニ報告スヘシ

第五章 保險料

第三十五條 保險料ハ國庫、傭主及被保險者各其ノ三分ノ一ヲ負擔ス

第三十六條 被保險者カ報償ヲ受ケサルニ至リタルトキハ保險料ヲ徵收セス

第三十七條 傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ自己ノ負擔タルヘキ保險料額ト共ニ其ノ使用スル被保險者ノ負擔タルヘキ保險料額ヲ拂込ムヘシ

第三十八條 前條ニ依リ傭主ノ拂込ミタル被保險者ノ負擔タルヘキ保險料額ハ被保險者ノ受クヘキ報償ノ中ヨリ控除スヘキモノトス

第三十九條 被保險者カ同時ニ二箇以上ノ勞務關係ヲ有スルトキハ各傭主ハ其ノ保險料ニ付連帶シテ其ノ責ニ任ス

第四十條 組合ハ保險料ノ滯納者ニ對シ市町村又ハ之ニ準スヘキモノヲシテ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ徵收セシムルコトヲ得但シ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ交付スルコトヲ要ス

第四十一條 前條ノ徵收金ハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ先取特權ヲ有シ其ノ

第二章 事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案 千百九十一



追徴、還付及賠效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第六章 監督

第四十二條 組合ハ必要ト認メタルトキ被保險者ヲシテ組合事務所所在市町村役場又ハ職業紹介所ニ出頭セシムルコトヲ得

第四十三條 組合ハ検査員ヲシテ傭主ノ事務所工場其ノ他附屬建設物及被保險者ノ住居其ノ他所在ノ場所ニ臨ミ必要ナル調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十四條 組合ハ業務遂行ノ爲必要ナリト認ムルトキ市町村役場及職業紹介所ニ共助ヲ求ムルコトヲ得

第七章 貸付及割戻

第四十五條 組合カ其ノ責任準備金及各種積立金ヲ以テ保險給付ノ支出ニ應スルコト能ハサル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ政府ハ一十萬圓ヲ限リ無利息ヲ以テ組合ニ貸付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ貸付ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 被保險者ニシテ五年以上繼續シテ保險料ヲ支拂ヒ其ノ間保險給付ヲ受クルコトナカリシ者年齢滿五十年ニ達シタルトキハ被保險者ノ掛金ニ相當スル一時金ノ割戻ヲ受クルコトヲ得

トヲ得

前項ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ相當ノ利息ヲ附スルコトヲ得

第四十七條 組合ハ三年間繼續シテ被保險者ヲ使用シタル傭主ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ間ニ於ケル傭主ノ掛金ノ三分ノ一ヲ割戻スコトヲ要ス但シ其ノ間失業保險給付ヲ受ケタルコトナカリシ者ニ限ル

第八章 審議機關  
第四十八條 失業保險ニ關シ重要ナル事項ヲ審議セシムル爲失業保險委員會ヲ置ク

失業保險委員會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 本法ニ基キテ發スル命令ハ失業保險委員會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第五十條 失業保險委員會ハ政府、傭主及被保險者並學識經驗アル者ノ中ヨリ政府ニ於テ委員ヲ命シ之ヲ組織ス

第九章 審査機關  
第五十一條 失業保險ニ關スル爭議事項ヲ審査裁定セシムル爲失業保險審査會ヲ置ク

失業保險審査會ノ審査ニ付スヘキ事項ハ本法ニ定ムルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



第五十二條 失業保險ニ關シ民事訴訟ヲ提起セムトスル者ハ失業保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ヲ受ケタル後一箇月ヲ經過シタルトキハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十三條 前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第十章 罰則

第五十四條 正當ノ理由ナクシテ組合検査員ノ臨場調査ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ若ハ答辯ヲ爲ササル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 正當ノ理由ナクシテ被保險者ニ關スル調査ノ提出ヲ拒ミタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十六條 本法ノ保險給付ヲ受クル目的ヲ以テ故意ニ不實ノ告知又ハ陳述ヲ爲シタル者ハ六箇月以下ノ懲役ニ處ス

第五十七條 傭主カ故意ニ被保險者ノ負擔タルヘキ保險料額以上ノ金額ヲ其ノ支拂ハルヘキ給料中ヨリ控除シタルトキハ三箇月以下ノ懲役ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

保險給付、保險料、割戻其ノ他失業保險ニ關シ必要ナル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

一二 労働組合法案

労働組合法

第一條 同種若ハ類似ノ企業又ハ之ニ密接ノ關係ヲ有スル企業ニ従事スルコトヲ目的トスル労働者ハ相集リテ本法ニ依リ労働組合ヲ設立スルコトヲ得

前項ニ屬セサル労働者ハ別ニ労働組合ヲ設立スルコトヲ得

同種若ハ類似ノ企業又ハ之ニ密接ノ關係ヲ有スル企業ノ種類及前項ノ労働組合ニ關シテハ主務大臣之ヲ定ム

第二條 労働組合ハ組合員相互ノ扶助其ノ地位及利益ノ擁護並上進ヲ以テ目的トス

労働ノ條件又ハ報酬ニ關シ協同行爲ヲ爲シ又ハ之カ爲組合員ノ行爲ニ制限ヲ加フルハ前項目的ノ範圍内ノ行爲ト看做ス

第三條 労働組合ヲ設立セムトスルトキハ設立ニ同意シタル者ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定ス



前項定款ノ議定ハ設立同意者ノ四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

第四條 定款ニハ別ニ定ムル所ニ依リ規定スルコトヲ要スルモノノ外左ノ事項ヲ規定スルコト

ヲ要ス

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 區域

五 組織及事務管理ノ方法

六 資産ニ關スル規定

七 組合員タル資格ニ關スル規定

八 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

九 會費、加入金手數料又ハ授業料等ノ額及拂込方法

十 組合員相互扶助ノ事業ニ關スル規定

十一 組合員相互又ハ組合員間ノ爭議裁定ノ方法ヲ定ムル場合ニハ之ニ關スル規定

十二 組合力職業紹介及職工資格ノ證明ヲ爲ス場合ニハ之ニ關スル規定

十三 組合力販賣組合、購買組合又ハ生産組合ノ事業ヲ爲ス場合ニハ之ニ關スル規定

十四 前各號ノ外組合ノ目的タル事業ノ遂行ニ關スル規定

十五 準備金ヲ置ク場合ニハ其ノ額及積立方法

定款ハ總組合員ノ四分ノ三以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ定款ニ別

段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

定款及其ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 勞働組合ハ定款ノ認可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ區域ヲ管轄スル地方廳ニ設立ノ

届出ヲ爲スヘシ

届出ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 地方廳第一項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ公示スヘシ

前項ノ公示ハ法人ノ登記ト同一ノ效力ヲ有ス

第六條 勞働組合ハ法人トス

第七條 勞働組合ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

組合ノ爲ス行爲ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

組合ト組合員トノ間ノ法律行爲ニ關シテハ印紙稅ヲ課セス



第八條 勞働組合カ組合員相互扶助ノ目的ヲ以テ生命保險ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ保險業法ヲ適用セス

第九條 勞働組合カ組合員相互扶助ノ目的ヲ以テ販賣組合購買組合又ハ生産組合ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ産業組合法ヲ適用セス

第十條 使用者ハ使用人ニ對シ其ノ勞働組合員タルヲ理由トシ雇傭ヲ解クコトヲ得ス

第十一條 勞働組合ハ少クトモ毎年一回組合員ノ通常總會又ハ總會ニ代ル機關ノ通常會ヲ開クコトヲ要ス

第十二條 特別ノ理由ニ依リ總會ヲ開クコト困難ナル勞働組合ニ在リテハ定款ヲ以テ總會ニ代ル機關ヲ設クルコトヲ得

第十三條 總會ニ代ル機關ハ定款ノ議定其ノ變更解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 組合員ハ總會五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得但シ此ノ定數ハ定款ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得

第十五條 組合員ハ總會又ハ之ニ代ル機關ノ招集手續若ハ其ノ決議ノ方法ニシテ法令又ハ定款ニ違反スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月以内ニ其ノ決議ノ取消ヲ監督官廳ニ請求スルコトヲ得

第十六條 總會及之ニ代ル機關ハ理事ヲ招集ス

第十七條 總會又ハ之ニ代ル機關ノ招集ハ少クトモ五日前ニ其ノ會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條 勞働組合ニ理事及監事ヲ置ク

第十九條 理事ノ任期ハ三年トシ監事ノ任期ハ一年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 理事及監事ハ何時ニテモ總會又ハ之ニ代ル機關ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得



第二十一條 理事及監事ノ選舉及解任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ總會ニ代ル機關ヲ設ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 民法第五十三條乃至第五十五條、第五十七條、第五十九條、第六十三條乃至第六十六條ノ規定ハ勞働組合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 勞働組合ハ主務官廳之ヲ監督ス

主務官廳ハ何時ニテモ理事ヲシテ組合ノ事業及財産ニ關スル報告ヲ爲サシメ組合ノ事業及財産ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 勞働組合ノ事業又ハ行爲カ法令又ハ定款ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルト

キハ主務官廳ハ總會又ハ之ニ代ル機關ノ決議ヲ取消シ理事監事ノ改選ヲ命シ組合事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ得

第二十五條 民法第六十八條乃至第八十四條ノ規定ハ勞働組合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 勞働組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達成スル爲同種ノ勞働組合ハ勞働組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

勞働組合聯合會ヲ設立セムトスルトキハ各組合ノ聯合總會又ハ總會ニ代ル機關ノ聯合會ヲ開

キ定款ヲ議定スヘシ

本法ノ規定ハ勞働組合聯合會ニ之ヲ準用ス

勞働組合聯合會ハ法人トス

附則

本法ハ大正十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ成立シタル組合ニシテ本法ニ該當スルモノノ本法施行後二箇月以内ニ第四條第三項ノ認可ヲ受ケムトスル場合ニハ第三條ノ手續ヲ經ルヲ要セス

右三案ハ孰レモ十一年十二月二十八日安達謙藏君外六名之ヲ提出ス二月一日三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(野田文一郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、私ハ社會政策ニ關スル我黨ノ三箇ノ法案、即チ職業紹介法中改正法律案、失業保險法案並ニ勞働組合法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ説明セントスル者デアリマス、失業保險法並ニ職業紹介法中改正法律案ハ、第四十議會ニ提案ヲ致シタモノト其内容ヲ同ジクスルノデアリマシテ、此兩案ハ第四十五議會ニ於テハ武内作平君ニ依リマシテ、提案ノ理由ヲ説明ヲ致シマシタ、又勞働組合法案ハ、第四十四議會並ニ第四十五議會ニ提案ヲ致シマシテ、四十四議會ニ於テハ我黨ノ鈴木富士彌君ヨリ詳細ニ提案ノ理由ヲ説明ヲ致シマシタ、又四十五議會ニ於テハ、私ヨリ聊カ説明ヲ致シタ、今日ハ其概要ノミヲ説明ラスルニ止メント致シタイト思ヒマス、デ先ヅ失業保險法案ニ付テ申シマスルガ、失業者ヲ如何ニシテ救済ラスルカ、云フコトノ問題ハ頗ル重大ニシテ、且



ツ緊要ナル事柄デゴザイマシテ、此問題ノ解決ハ一日モ之ヲ忽ニスルコトヲ許サザル必要ニ迫ラレテ居ル、然ルニモ拘ラズ、政府ハ從來之ニ對シテ、何等ノ立法的政策ヲ立ツルコトナク、極テ冷淡ニ今日マデ打過ギ來テ居リマシテ、今日尙ホ此種ノ法案ヲ政府ヨリ提出セザルコトハ、本員ノ最モ遺憾トスル所デアリマス、失業ノ原因ハ、或ハ失業者ガ自ラ職業ヲ怠リマシテ、其結果トシテ職ヲ失フニ至ルコトモゴザイマセウ、又サウデナクシテ使用者ノ方デ或ハ事業ヲ廢止スルトカ、若クハ使用人ヲ減ズルトカ云フヤウナ事ノ爲ニ、即チ勞働者ノ過失ニ依ラズシテ、其職ヲ失フコトモアル、併シ其前者ニ對シテモ、國家ハ固ヨリ適當ノ處置ヲ講ジナケレバナラヌト云フコトハ勿論デアリマス、ガ特ニ必要ヲ感ズルモノハ即チ後者デアアル、自己ノ過失ニ依ラズシテ職業ヲ失ヒ、妻子ト共ニ生活ノ脅威ノ中ニ呻吟スルト云フコトハ、國家トシテ一日モ之ヲ看過スルコトハ出來ナイコトハ、申ス迄モナイコト、信ジマス、即チ之ヲ救済スルト云フコトハ國家當然ノ責任デアアルト信ズル、吾ミハ此失業者ヲ救済スル一ノ手段トシテ、我國ニ失業保險ノ制度ヲ設ケタイト云フコトガ、本案提出ノ根本理由デアリマス、失業保險ノ經營ニ付テハ、或ハ之ヲ官營トスルト云フ主義モアリマスガ、我黨ノ提案ニ係ル法案ハ、此主義ニ依ラズシテ、組合ヲシテ經營セシメルコトニ致シタ、而シテ其組合ハ政府ガ勅令ヲ以テ一定ノ事業ヲ定メ、又一定ノ地域ヲ定メマシテ、其定リタル一定ノ事業、一定ノ地域ノ間ニ於テ、失業保險組合ト云フモノヲ設立セシメルコトニ致シタ、之ニ依ッテ設立セラレタル失業保險組合ハ、法人格ヲ有スルコトニナリマシテ、其組合ノ業務ハ近代ノ思想ヲ參酌致シマシテ、單リ政府ノミ、若クハ雇主、被保險者ト云フ者ノミニ偏セズシテ、政府ト雇主ト被保險者ト此三ツノ者カラ各理事ヲ選任致シテ、其施行ノ任ニ當ラセルコトニシテ居ル、又元來本案ハ薄給者、即チ極メテ少額ノ報酬ノ下ニ勞務ニ服シテ生活ヲスル者ヲ保護スルコトガ目的デアリマスカラ、一箇年千二百圓以内ノ報酬ニ依ッテ生活ヲスル者ノミニ適用スル、又其勞務者ハ單リ單純ナル筋肉勞働者ノミニアラズシテ職工、ソレカラ事務員、技術者ト云フヤウナ者モ、矢張千二百圓以内ノ報酬ノ下ニ生活ヲスル者ハ、此失業保險法ニ依ッテ救済ヲ受ケル範圍ニ屬セシメタ、又保險料ハ國庫ト被保險者ト雇主ト、此三ツノ

者ガ各三分ノ一宛ヲ負擔スルト云フコトニナリマスガ、併ナガラ被保險者ヲ擁護スル精神ニ基キマシテ、被保險者ニ對シテハ絕對ニ給料ノ百分ノ一以上ハ負擔ヲセシメナイコトニ致シタ、先ヅ案ノ大體ノ骨子ハ以上申上ゲル通りデアリマスガ、前ニ申ス如ク失業問題ハ頗ル重大ナル社會問題デアッテ、今日ハ財界ノ不況ニ伴ヒマシテ、益失業者ノ數ハ増加シツ、アリマシテ、諸君御承知ノ如ク、最近ノ新聞ニ依リマスレバ、此東京府下ニ於テモ數千ノ勞働者ガ其職業ヲ失ッテ寢ルニ所ガ無イト云フノデ、百數十名ノ委員ヲ選任シテ、東京市役所ニ陳情ヲ致シテ居ルト云フ事實ノ記事ヲ見タノデアリマス、又更ニ神戸市ニ於テハ二月一日、即チ本日ヨリ護謨工業ガ一齊ニ休業スルト云フコトヲ發表致シマシタ爲ニ、五千ノ勞働者ハ是ガ對策ヲ講ズル爲ニ、湊川ノ勸業館ニ於テ會合ヲ致シテ、種々運動ヲシテ居ルト云フコトガ現レテ居ル、是等ノ新聞ノ記事ハ、其數ニ誤リアルヤ否ヤハ兎モ角モ斯ノ如キ有様デアッテ、現在就職難ニ陥リツ、アル者ハ、日ニ月ニ増加シツ、アルノデゴザイマシテ、之ヲ救済スルコトハ誠ニ緊要ナ事柄デアラウト信ズル、若シ本案ガ前議會ニ於テ通過ヲ致シテ、法律トシテ其效力ヲ發生ヲ致シテ居リマシタナラバ、今日ノ幾分タリトモ此法律ニ依ッテ救済ヲ受ケ得ベキモノガアッタデアラウト思ヒマスルガ、前議會ニ於キマシテ此法案ノ通過ヲ見ザリシコトハ、頗ル本員ノ遺憾トスル所デアリマス、故ニ斯ノ如キ問題ヲ吾ミガ看過スルコトハ忍ビザル事柄デゴザイマスカラ、本案ハ我黨ノ提案ニ係ルモノナリトハ雖モ、多數ノ失業者ニ同情シ、國家當然ノ責任ヲ盡ス意味ニ於キマシテ、諸君ガ特ニ御賛成アラントラ希望セザルヲ得ヌ、職業紹介法中改正法案ハ、是ハ極テ簡單デ案ヲ御一覽下サイマスレバ、直ニ明瞭ヲ致スノデアリマシテ、要スルニ失業保險法ヲ一方ニ於テ實施ヲ致シマスレバ、職業紹介所ヲシテ是ト協力シテ、其效果ヲ完カラシメルト云フコトノ趣旨ノ下ニ改正ヲ致スノデアリマス、更ニ勞働組合法案ニ付テ申上ゲヤウト思ヒマス、勞働組合法案ハ前ニモ申ス如ク、既ニ二回説明ヲ致シテ居リマスカラ、是モ簡單ニ申上ゲマスルガ、要スルニ此勞働組合法案ハ、勞働者ノ團結權ヲ承認スルト云フコトガ根本ノ思想デアリマス、其勞働者ノ團體ハ共通ノ利害關係ヲ有スル者ヲシテ、先ヅ組合ヲ組織セシメル、此共通ノ利害關係ヲ有スル者ニ依ッテ出



來タモノガ、組合ノ單位デアリマシテ、主トシテ此組合ガ活動ヲスルノデアリマヌルガ、又必要ニ依ツテハ此單位集合ガ更ニ集ツテ、聯合會ヲ形成ヲ致シテ、聯合會ノ仕事トシテ活動ヲスル場合モアル、労働組合法案ヲ制定スルコトガ、今日内外ノ必要ニ迫ラレテ居ルコトハ多ク申ス迄モナイノデアリマシテ、即チ諸君ノ御承知ノ如ク、大正八年ノ十月華盛頓ニ於ケル國際労働第一回ノ會議ニ於テ、我國ハ其労働委員内ニ於テ鞏固ナル團體ガナクシテ、團體ヲ代表セザル委員ガ出席ヲ致シタノハ、是ハ資格ニ缺クル所ガアルト云フノデ、列國ノ委員ノ前ニ色々窘メラレタト云フコトハ、私ガ前期議會ニ於キマシテモ説明ヲ致シタ通りデアリマヌルガ、更ニ諸君ノ記憶ヲ喚起スル爲ニ、其時ノ決議案ヲ一讀ヲ致シタイ、其當時ノ米國ノ委員「ゴンバース」ノ提案ニ依リマシテ斯様ナル決議案ガ提出サレテ居マス「華盛頓會議ノ労働委員ハ日本ノ正式労働委員ノ列席ナキヲ認ム此出席ナキハ日本政府ガ労働者ノ結社權ノ自由ナル行使ヲ禁止シアル結果ナリト思考スルニヨリ斯カル政策ハ民主主義ニ背戾シ兼テ國際労働會議ノ根本精神ニ抵觸スルモノナリト思考スルニ依リ本會ヨリ日本政府ニ對シ日本ニ於テモ國際聯盟ガ各構成國ト同様組合結社權ノ無制限ナル行使ヲ完全ニ承認シ且ツ遵守セシメル爲メ干涉ヲ爲スベキコトヲ要求ス」斯ノ如キ提案ヲセラレタノデアリマシテ、我國ハ今日ハ外ニ對スル國際信誼ノ立場カラ申シマシテモ、労働組合法ガ我國ニ實施セラレザルガ如キハ斷ジテ許スコトノ出來ナイ情勢ニナツテ居ル、當ニ外國ニ對スル關係ニ於テ然ルノミナラズ、國內ニ於テモ今日ノ自覺セル労働者ヲ率ユルニハ、労働組合法ニ依ツテ労働者ノ幸福ヲ増進シ、又同時ニ労働運動ヲシテ規律アリ、節制アル法規ノ下ニ活動セシムルト云フコトニ致シマシテ、資本家ヲシテ間接ニ其利益ヲ享受セシムルト云フコトガ、最モ必要デアツテ即チ労働組合法ノ制定ハ外ニ對シテハ國際信誼ノ上ニ於テ、内ニ在ツテハ資本家、労働者ヲシテ共ニ規律アル法規ノ下ニ、産業ノ發達ニ貢獻セシムル上ニ於テ、一日モ缺クベカラザル制度デアル、勿論今日ハ資本家ニ於テモ、労働者ノ人格ヲ段々ニ認メテ參リ、常ニ溫情的ノ施設、又社會ノ輿論ニ促サレテ、種々ナル設備ヲ致シマスルカラ、労働者ハ之ニ依ツテ救済スルコトモゴザイマセウシ、又一面ニ於テハ、現政府ノ下ニハ左様ナル施設ヲ見マセヌケレド

モ、曩ニ説明ヲ致シマシタ労働失業保險法案ノ如キ、社會政策ノ實施ニ依ツテ、労働者ガ救済ヲ受ケルト云フコトモアリマスルカラ、労働團體ノ持久的救濟事業ヲ經營スル範圍ハ、漸次縮小セラレケレドモ、併シ労働者ヲシテ其機宜ニ應ズル種々ナル事業ノ持久的ノ經營ヲ爲サシメルト云フコトハ必要デアリマスカラ、此法案ハ、斯様ナル問題ハ定款ヲ以テ定ムルコトニ致シテ居リマス、今日労働者ノ仲間ニ於キマシテハ、實ハ労働組合法案ナドヲ作ルト云フコトハ手續イ、更ニ一步ヲ進メテ運動ヲシナケレバナラヌト云フコトノ思想モアルノデアリマシテ、斯ノ如キ急激ナル思想ヲ持ツテ居ル者ニ對シテモ、速ニ本案ノ如キ立法ヲ完成ヲシテ、サウシテ無秩序ナル行動ヲ爲サシメズ、労働運動ハ社會現象トシテ免ルベカラザルコトデアリマスルカラ此労働運動ヲシテ健全ニ發達セシメテ、サウシテ眞ニ我が産業ニ貢獻ヲセシメルト云フコトニ致サナケレバ、労働者ノ思想ハ益險惡ニ趨キ、或ハ斯様ナル方面ヨリ致シマシテ、將來吾々ノ最モ憂フベキ事態ヲ惹起スコトナシトモ斷言スルコトガ出來ヌ、以上ノ理由ニ依リマシテ、此社會政策的三箇ノ立法ハ、今日ノ急務ニ迫ラレテ居ル問題デアリマスルカラ、慎重ナル御審議ノ下ニ御贊成アラントトヲ希望致シマス

田淵豊吉君ハ質疑ヲ爲シ野田文一郎君之ニ應答ス

田淵豊吉君ノ質疑

失業保險法案ハ一體官業ニシタラ宜シト云フ人多イダラウト思フ、官業ニシタラ宜イカ、今ノ民業ニシタラ宜イカ、其點ヲ聽キタイ、中ミソレガ重大問題ダト思フ、ソレカラ第二ニ此失業ト云フコトノ定義ハドウカ、片方デ「ストライキ」ヲスル、資本家ハ「ストライキ」ヲサレテ、其資本家ハ皆倒レテシマフカラ、全國ノ資本家ヲ悉ク網羅スルヤウニ、強制的ニヤルノカドウカ、ソレカラ百分ノ一ヲ労働者ニ出サセタナラバ、資本家ガ何分ノ一出シテ、政府ガ何分ノ一ヲ出スノカ、其分數ヲ聽キタイ、三掛ケタラ百分ノ三ニシカナラナイ、失業ガ多カッタラ立行クマイト思



フ、此三點ヲ聽キマス

野田文一郎君ノ應答

田淵君ノ御質問ノ第一點ハ、失業保險ハ官營ニシタラ宜シカラウト云フ御趣意ニ承リマシタ、曩ニ申ス如ク官營ニスルト云フコトモ一ツノ主義デアツテ、斯様ナルコトモ或ハ宜シイカモ存ジマセヌガ、我黨ノ提案ハ今日ノ時代ニ於テ、官營ト云フコトハ成ベク避ケテ、斯様ナル事ハ成ベク自治的ニサセタイト云フコトガ目的デアアル、官營ニスルト云フコトヨリハ、寧ロ全部組合ノ事業ニスルト云フコトニシテ、政府ノ干渉ヨリ全ク除クト云フコトガ理想デアアルカモ知レマセヌガ、今日ノ時代ニ於テハマダノ其程度ニ達セザルモノト認メマシテ、組合ヲシテヤラセマスケレドモ、政府ガ常ニ之ヲ監督スルト云フコトガ、今日ノ時代ニ適應シタル立法ナリト考ヘテ、斯様ニ致シタノデアリマス、ソレカラ第二點ノ率ノ問題デアリマスガ、是ハ私只今能ク聽取レナカッタ、百分ノ一ニシタナラバ百分ノ一以上ハ給料ノ百分ノ一以上ハ負擔ヲセシメナイト、斯ウ云フ風ニ致シタノデアリマスルガ、是ハ三分ノ一ヲ負擔スルノデアルケレドモ、斯ル薄給者ヲシテ多クノ保險料ヲ負擔セシメルト云フコトハ穩當デナイカラ、即チ財源等ヲ極メマシテ、百分ノ一以上ニ及ブコトハ出來ヌト云フコトニシタノデアリマス、ソレ以上ノ計數ノ問題ハ、ドノヤウナ計算ニナリマスルカ更ニ細カク伺ヒマシテ答辯ヲ致シマス

此時高見之通君ハ三案ヲ一括シテ議長指名九名ノ同一委員ニ付託スヘシトノ動議ヲ提出シ次ニ頼母木桂吉君ハ十八名ノ同一委員ニ付託スヘシトノ修正動議ヲ提出ス起立採決ノ結果十八名說ハ少數ニテ否決シ院議多數ヲ以テ九名ニ決ス即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

### 一三 身元保證ニ關スル法律案

第一條 雇傭契約其ノ他ニ因リ他人ノ事務ヲ處理スル者ノ爲ニスル身元保證契約ハ其ノ成立ノ

日ヨリ二年ヲ經過シタルトキハ身元保證人ニ於テ之ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ契約ノ解除ハ六箇月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 身元保證契約成立ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ其ノ契約ハ當然解除セラレタルモ

ノト看做ス但シ此ノ期間ハ商工業見習者ノ身元保證ニ付テハ之ヲ十年トス

第三條 身元保證契約ノ解除ハ將來ニ向テノミ其ノ效力ヲ生ス

第四條 前三條ノ規定ニ反スル特約ニシテ身元保證人ニ不利益ナルモノハ之ヲ爲ササリシモノ

ト看做ス

### 附 則

本法ノ規定ハ本法施行前ニ成立シタル身元保證契約ニ亦之ヲ適用ス但シ第一條第一項及第二條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

右ハ十二年一月二十三日上島益三郎君之ヲ提出ス二月一日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ二回本院ノ本會議ヲ通過致シマシテ、殊ニ昨年ハ貴族院ヲモ通過致シタ次第デゴザイマ



スカラシテ、最早詳細ノ事ヲ此席デ申上ゲル必要ハゴザイマセズ、適當ナル範圍ニ身元保證ノ効力ヲ制限ヲシテ、之ヲ實際ノ必要ト適合セシムルト云フコトハ、今日ノ急務デゴザイマシテ、本案ハ昨年貴族院ニ於テ加ヘラレタ多少ノ修正ヲ參酌致シテ、前年ノ法案ニ多少ノ變更ヲ加ヘタ次第デゴザイマス、ドウカ宜シク御賛成ノ程ヲ願ヒマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月一日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
(委員會報告書)  
(小字及一ハ委員會修正)

第一條 雇傭契約其ノ他ニ因リ他人ノ事務ヲ處理スル者ノ爲ニスル身元保證契約ハ其ノ成立

ノ日ヨリ二年ヲ經過シタルトキハ身元保證人ニ於テ之ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ契約ノ解除ハ六箇月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 身元保證契約成立ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ其ノ契約ハ當然解除セラレタルモノト看做ス但シ此ノ期間ハ商工業見習者ノ身元保證ニ付テハ之ヲ十年トス

第三條 身元保證契約ノ解除ハ將來ニ向テノミ其ノ効力ヲ生ス

第四條 前三條ノ規定ニ反スル特約ニシテ身元保證人ニ不利益ナルモノハ之ヲ爲ササリシモノト看做ス

附則 一 身元保證ノ關係ニ關スル法律案

本法ノ規定ハ本法施行前ニ成立シタル身元保證契約ニ亦之ヲ適用ス但シ第一條第一項及第二條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

三月五日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長北井波治目君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

身元保證契約ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマス、此案ノ内容ハ提出者ガ曩ニ説明シタル如ク、現在身元保證契約ノ義務ハ、身元保證人ノ義務ガ無制限ナル故ニ、十年或ハ二十年經ツタ後ニ、不意ニ損害賠償等ノ請求ヲサレテ、不測ノ損害ヲ被ムルコトガアル、是ハ身元保證人ニ對シテ過酷ナル、ソレガ爲ニ却テ適當ナル身元保證人ヲ得ルコトガ出來ナイ、何トカ此契約ノ効力ハ短縮シタイト云フ趣意ヨリ、此法案ヲ提出サレテ居ル、此案ハ既ニ兩度此當院ニ出マシテ可決サレテ居リマス、現ニ昨年ハ貴族院ニ廻ハリマシテ、貴族院ハ修正ヲシテ可決シテ居リマス、然ルニ遂ニ兩院ノ協議會ヲ經ルコトガ出來ズシテ、遂ニ不成立ニ了ツテ居ルノデアリマシテ、委員會ニ於キマシテ慎重調査致シタ結果、御廻シ致シタル如ク一ツノ修正ヲ致シマシタ、修正ハ第一條ヲ「雇傭契約其ノ他ニ因リ他人ノ事務ヲ處理スル者ノ爲ニスル身元保證契約ハ其ノ契約成立ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ當然解除セラレタルモノト看做ス」ト斯ウ云フ風ニ修正致シマシタ、第二條ハ削除致シマシタ、隨テ第三條ヲ第二條ト改メマシタ、第四條ヲ三條トシ、其中前三條トアルヲ前二條ト改メマシタ、要スルニ條文ノ繰上ゲデアリマス、尙ホ附則ニ至リマシテ「第一項及第二條」ト云フ文字ヲ削除致シマシタ、是ハ辯明致シテ置キマスガ、貴族院ノ方カラ解除ガ出來ルト云フコトニスルヤウニ修正サレテ居リマス、要スルニ解除權ヲ身元保證契約者ニ持タシテアル、所ガ衆議院ニ於テハ提出者及兩議院議ヲ經タ所ニ依リマスレバ、五年經テハ當然潰レルト云フ趣意ハドウシテモ採リタイ、五年經ッテカラ解除權ヲ行フト云フコトハ中々事實ニ於テ困難デアアル、身元保證契約ヲシタ後ニ於テハ其保證契約ヲシタコトモ忘レルシ、



或ハ他ニ其人ガ行ツテ居ルト云フヤウナコトデ判ラナクナツテ來テ、之ヲ身元保證人ノ方ヘ一々解除ノ提出義務ヲ持タシテ置クト云フコトハ、此效果ガ生ゼヌノデアアル、故ニ五年經テバ當然効力ヲ失フ如クニ規定シナケレバ、此法律ノ効力ハ乏シイ、又一ツノ契約ヲシテ義務ヲ負擔スルニ付テモ、大抵五年トカ何年トカノ義務ヲ負擔シナケレバ、無制限ニ與ヘルト云フコトハ出來ナイノデアアルカラ、一ツノ身元保證契約ニ於テモ、五年デ潰レルトシテ差支ナイ、尙ホソレ以上契約ノ効力必要トスル時分ニハ、更ニ契約ヲ仕直セバ宜シイノデアアルカラト云フ理由ノ爲ニ、斯様ニ修正致シテ、委員會ニ於キマシテハ一人ノ反對者ナク、此案ヲ通過致シタ、而シテ政府ハ此法律ニ對シテ、無論斯ウ云フ法律ハ必要ト認ムル、願ハクハ貴族院モ通過シテ成案ニナルヤウニ相當修正ヲ加ヘテ貫ヒタイト云フ希望ガアリマシタ、何レノ方面カラ見マシテモ、此案ハ相當ナルモノト思ヒマスカラ、何卒可決セラレンコトヲ望ミマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告

ノ通修正議決ヲ爲シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ニ於テ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

一四 借家法中改正法律案

借家法中左ノ通改正ス

第三條中「六月」ヲ「一年」ニ改ム

第五條ノ二 建物ノ賃貸借ヲ爲ス場合ニ於テ賃貸人ハ賃借人ヨリ賃料三箇月分以上ノ敷金ヲ受領スルコトヲ得ス

第五條ノ三 賃貸人ハ賃借人ヨリ賃料敷金ノ外金錢其ノ他ノ利益ヲ提供セシムルコトヲ得ス

第五條ノ四 前二條ハ之ヲ差配人其ノ他ノ管理人ニ準用ス

第五條ノ五 前三條ノ規定ニ反スル場合ニ於テハ民法第七百八條ヲ適用セス

第五條ノ六 敷金ヲ授受シタルトキハ賃貸人ハ其ノ翌月ヨリ賃貸借終了ノ前月迄一箇年三步六

厘ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

賃借人カ賃料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ其ノ月ノ利息ヲ支拂フコトヲ要セス

第五條ノ七 裁判所ハ建物ノ占據者ニ對シ明渡ヲ宣告スル場合ニ於テハ申立ニ依リ總テノ事情

ヲ斟酌シテ相當ナル期間ノ猶豫ヲ許與スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ期間及債權者ノ損害賠償其ノ他必要ナル事項ヲ定メテ宣告スヘシ

第五條ノ八 前條ノ猶豫期間ヲ得タル者カ裁判所ノ定メタル事項ヲ履行セサルトキハ其ノ裁判

所ハ申立ニ依リ相手方ノ意見ヲ聞キ決定ヲ以テ猶豫期間ニ關スル宣告ヲ取消スヘシ

此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ルコトヲ得ス

第六條中「前五條」ヲ「第一條乃至第五條ノ六」ニ改ム

一五 借地借家調停法中改正法律案

借地借家調停法中左ノ通改正ス

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



第七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

當事者及利害關係人ハ自身又ハ代理人出頭スルコトヲ要ス但シ辯護士ニ非サル者ヲ代理人トスル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

第七條ノ二 裁判所ハ當事者及利害關係人自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

右兩案ハ十二年一月二十三日横山勝太郎君外二名之ヲ提出ス二月三日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(横山勝太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

便宜上借地借家調停法ノ方ノ理由ヲ申上ゲマス、本案ハ第四十五議會ニ於テ通過シタル、極テ簡單ナル法律デアリマスガ、原案ニ、調停事件ニハ辯護士ノ訴訟代理ヲ許サナト云フ原則ニナッテ居リマシタノヲ、衆議院ニ於テ全會一致ヲ以テ辯護士ノ參加ヲ許スト云フコトニ修正ヲ致サレマシタガ、貴族院ニ於テ之ヲ原案ニ復活セラレタ、此提案ノ理由ハ、衆議院ガ曩ニ修正ヲ致シマシタ通りノ案ニ復活致シタイト云フ精神デアリマス、御審議ノ上デ御賛成ヲ給リタイ、ソレカラ借家法中改正法律案ノ其要點ノ第一ハ、借家契約ノ存在スル場合ニ於テ、豫告期間六箇月ヲ以テ契約ノ解除ガ出來ルト云フコトニ本法ハナッテ居リマスガ、之ヲ一年ニ改メタイト云フ趣旨デアリマス、其因ッテ生ズル源ハ、初メ司法省ガ提案致シマシタ當時ノ豫告期間ハ一箇年トナッテ居タノデアリマス、當院ニ於テモ其條項ヲ認メマシテ通過致シタノデアリマスガ、是亦貴族院ノ修正ニ依ッテ六箇月ニ短縮セラレタノデアリマス、併ナガラ今日ノ現狀ニ照シテ見マスルノニ、借家契約ノ存在スル場合ニ於キマシテ、僅カ六箇月ノ豫告期間ヲ以テ貸借契約ヲ消滅セシムルト云フ事柄ハ、全ク今日ノ現狀ニ適シナイ、借家人ニ取リマシテ極テ不利益ナル法文デアルト思料致シマス、此故ニ曩ニ司法省ハ民情ヲ調査致シマシテ、公平ナル見地ヨリ提出致シマシタル通り、豫告期間ヲ一年ト致シタイト云フ趣旨デアリマスカラ第二ハ、借家契約ヲ締結スル場合ニ於キ

マシテ、若クハ此契約ヲ更ニ繼續シテ參リマス場合ニ於キマシテ、賃料三箇月分以上敷金ヲ取ルコトハ出來ナイト云フ規定デアリマス、詳細ナル理由ハ委員會ニ於テ申上ゲタイト思ヒマスガ、今日ハ六箇月若クハ十箇月一年ト云フヤウナ莫大ナル敷金ヲ要求スルト同時ニ、賃料ニ於テモ非常ニ高價ナモノヲ請求スルト云フ場合ガアリマス、中産階級以下ノ借家人ニ取リマシテハ迷惑至極デアリマス、僅カ二十圓カ三十圓ノ家屋ヲ借リルモノデモ、二百圓三百圓ト云フ大金ヲ持タナケレバ、新ニ家屋ヲ借入ル、コトガ出來ナイト云フ状態ニナッテ居リマス、此故ニ敷金ニ制限ヲ加ヘマシテ提案ノ通りニ致シタイト考ヘマス、其第三ハ權利金ヲ要求スルコトヲ得ズト云フ意味デアリマス、今日ノ實情ハ洵ニ過大ナル權利金ト稱スル無償ノ金錢ヲ提供セシムルコトノ弊害ガアリマス、是ハ洵ニ借家人ニ取リマシテ迷惑至極ノコトデアリマスカラシテ、之ヲ禁止シタイト云フ趣旨デアリマス、第四ハ當事者トノ間ニ敷金ヲ受領シタル場合ニ於テ、其敷金ニ對シテ最低度ノ利息ヲ附スルト云フ事柄デアリマス、五百圓千圓ト云フ莫大ナル敷金ヲ預ッテ、而モソレガ五年、十年貸借契約ガ繼續スル場合ニ於キマシテモ、賃貸人ガ之ニ對シテ一厘ノ利息モ拂ハヌト云フコトハ、正義ノ觀念カラ申シマシテモ、公平ノ觀念カラ申シマシテモ、甚ダ不當ナ事デアリマスカラシテ、弱者ヲ保護スルノ意味ニ於テ最低度ノ利息ヲ認メル、斯ウ云フコトニ致シタイト考ヘマス、第五ハ假令契約上ノ權利ガ無ク、又不法ニ占居致シテ居ル場合ニ於キマシテモ、裁判官ガ家屋ノ明渡ヲ宣告スル場合ニ於キマシテハ、賃貸人或ハ、賃借人ノ總テノ事情ヲ斟酌シテ、相當ナル理由ガアル場合ニ於キマシテハ、裁判官ノ鑑識ニ依ッテ相當ナル猶豫ヲ與ヘルト云フ、所謂裁判上ノ恩惠的ノ利益ヲ借家人ニ與ヘタイト云フ趣旨デアリマス、是ハ實際上カラ申シマス下、何モ職業ヲ持ッテ居ラヌ人ガ、明渡ヲ請求ヲ受ケテ移轉スル場合ハ洵ニ容易デアリマスガ、都會若クハ隣接ノ町村ニ於キマシテ、譬ヘテ見マスレバ印刷業デアルトカ、或ハ料理屋デアルトカ、斯業ナ業務ヲ營ンデ居ル者ガ、假令期限ガ切レタトハ申セ、即時ニ明渡ヲ強制スルト云フヤウナコトハ、事實ニ於テ不可能デアルノミナラズ、洵ニ人情ヲ無視スルノ甚シキモノデアリマ



上ノ期限ヲ與ヘマシタ所ガ、是ガ爲ニ貸貸人若クハ所有者ノ權利ヲ侵害スル道理ガ無イノデア  
リマスカラシテ、温情主義ニ基イテ裁判官ガ公平ナリト認メタル程度ニ於テ、相當ナル猶豫期間  
ヲ附與シテヤリタイ、斯ウ云フ趣旨デゴザイマス、詳細ハ委員會ニ於キマシテ申上ゲマスルガ、  
要スルニ今日住家拂底ノ場合ニ於キマシテ、中産階級以下ノ者ガ非常ニ難澁致シテ居リマス、生  
活問題解決ノ一部ト致シマシテ、是非本案ノ如キモノヲ通過致シマシテ、中産階級以下ノ者ヲ或  
ル程度迄保護シタイト云フ、斯ウ云フ精神デアリマス、御審議ノ上デ御賛成ヲ給ハリタイ、

次テ兩案ハ上島益三郎君提出身元保證ニ關スル法律案(二三)外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委  
員ハ審査ノ末第二案(一五)ヲ可決スヘキモノト決シ三月一日報告書ヲ議長ニ提出セリ

第一案(一四)ハ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

三月五日第二案(一五)ニ付第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長北井波治目君ハ委員會ノ經過及結果ニ付  
左ノ報告ヲ爲ス

借家借地調停法案ノ委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマス、是ハ御承知ノ如ク辯護士ガ調停ニ關  
シマシテ裁判所ヘ出ルニ付テハ、裁判所ノ許可ナクシテ出來ルト云フヤウニ改正スル法案デア  
リマス、現在ノ法律ハ辯護士ハ許可ヲ得ナケレバ出來ナイ、斯ウ云フヤウナコトニナツテ居リマ  
ス、其趣意ハ要スルニ此借家借地ノ調停事件ニ付テハ、成ベク本人ヲシテヤラシメル、成ルベク  
辯護士其他ノ者ニハ關與ヲサセヌト云フ趣旨ニナツテ居ル、然ルニ此改正案ノ趣意ハ、ソレハサ  
ウデアアルケレドモ、地所ヲ持ッテ居ル者ヤ、或ハ家ヲ持ッテ居ル者ハ、多クハ富豪デアアル、決シテ  
地所ヤ家屋ノ管理ヲ自ラヤルモノデハナク、多クハ差配若クハ番頭ニ委シテ居ルノデ、本人ヲ喚  
出シテモ中々出テ來ルモノデモナシ、又本人ニハ分ルモノデモナイ、苟モ裁判所ニ一ノ事案ガ起  
ルトキニ於テハ、必ズヤ法律問題ニ關シテ居ルカラ、辯護士ガ之ニ關與シテ居ル、然ルニ其關與

シテ居ル辯護士ガ裁判所ニ出テ、其事ニ與ルノニ一々裁判所ノ許可ヲ受ケナケレバナラヌト云  
フコトハ、辯護士ノ職務ノ自由ニ對シテモ甚ダ失當ノ扱デアルシ、又實際之ヲ調停スルニ付テハ  
辯護士ガ這入ル方ガ却テ早く調停ガ出來ル、斯ウ云フ趣意デ提出者ハ提案サレタ、政府ハ不幸ニ  
シテ此案ニハ同意サレマセヌ、其理由トシテハ、此法律ヲ實行シテ未ダ一年足ラズデアアルケレ  
ドモ、過去ノ歴史ニ依レバ、別ニ改正ノ必要ヲ認メヌ、此法律ハ成ルベク本人自ラ裁判所ニ出テ、  
膝ヲ組ンデ懇談サセルノガ趣意デアアル、又辯護士ヲ頼ムコトニナレバ、費用ガ掛カルカラ貧乏人  
ハ辯護士ヲ頼ムコトガ出來ヌ、斯ウ云フ理由ノ下ニ政府ハ反對致シマシタガ、委員會ニ於キマシ  
テハ、ソレハ膝ヲ組合セテ話ヲサセルト云フコトハ、本人同土膝ヲ組ンデ懇談スルヨリモ、代理  
人ガ膝ヲ組ンデ懇談スル方ガ事案ガ早く解決スルノデアアル、本人同土ハ争ッテ熱クナツテ居ルカ  
ラ、中々解決ガ付カヌ、殊ニ本人自ラ出ルコトハムヅカシイ、又費用ノ點モ大ナル費用ヲ要スル  
譯デハナイ、又必ズシモ辯護士ヲ頼マナケレバナラヌト云フ譯デモナイ、本人自ラ出レバ宜イ、  
又裁判官ニハ本人ヲ喚出ス權能ヲ與ヘテ居ルノデアリマスカラ、一向本案反對ノ理由ニハナラ  
ヌト云フノデアリマシタ、殊ニ昨年此議場ニ於テ調停法案ニ對シテ本案ノ如キ修正ヲ加ヘタ、然  
ルニ貴族院ニ於テ政府案ニ復活サレマシタノデ、此案ノ消滅スルコトヲ懼レテ、兩院協議會ヲ開  
カズ、衆議院ハ同意シテ本案ガ成立シタノデアリマス、此改正案ニ付テハ、一旦院議ヲ經テ居ル  
ノデアリマスカラ、此提出者ノ趣意ニ賛成シテ、委員會ハ全會一致ヲ以テ原案ノ儘可決致シマシ  
タ次第デアリマス、何卒然ルベク御審議アラントヲ望ミマス

院議異議ナク(一五)案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ  
通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十日之ヲ否決ス

一六 所得稅法中改正法律案



所得税法中左ノ通改正ス

第十四條第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 山林ノ所得ハ竹木採伐ニ因ル前年ノ總收入金額ヨリ其ノ植栽養成ニ必要ナル經費ヲ控除シタル金額

第三十三條 但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ノ原因タル竹木ノ年齢ニテ除シタル平均額ニ對スル稅率ヲ適用ス

右ハ十二年一月二十三日岩本平藏君外六名之ヲ提出ス二月一日日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者岩本平藏君ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ前回及前々回トモ本院ヲ通過致シタル所ノ改正案デアリマス、此改正ノ要點ハ理由書ニ詳細書イテアル積リデアリマスカラ、私ハ多クヲ述ベルコトヲ避ケマス、但シ此提案ノ度毎ニ、其概要ヲ申シテ居リマス通リ山林ノ所得ハ、其竹木ガ土地カラ離レテ一ノ動産トナツテ、初テ其間ニ所得ガ生ズルト云フコトハ、是ハ多ク論ズル必要ハナイト私ハ思フ、然ルニ其伐採ニ到達セザル所ノ尙幼樹ノモノモ、其竹木ヲ土地ト共ニ賣買讓渡セシモノニ對シテ、尙ホ所得アリトシテ此所得稅ヲ課スルト云フコトハ、即チ一ノ資産ヲ換價致シテ金ニ換ヘタニ外ナラヌノデアリマシテ、其間ニ所得ト認メルモノハナイト私ハ信ズル、假ニ其間ニ若干ノ差益ガアルトシテモ、ソレハ例ヘバ有價證券ノ換價ノ如ク、又所謂青田賣買ノ差額ノ如ク、是等ハ營利ヲ目的トシタル所ノ賣買デハナイノデアリマシテ、是ガ所得稅法ノ第十八條ノ第五ニ、明ニ、利益ヲ目的ト

セザル一時ノ收入ニハ課稅セラレザルコトニ相成ツテ居ル、私ハ此意味ヲ以テマシテ、當然此中間ノ賣買讓渡ハ是ハ課稅スベカラザルモノト思フ、由來此森林ノ經營ニ付キマシテハ、色々其森林ノ目的ガアリマシテ、其樹木ノ養成等ニ付キマシテモ、或ハ喬林作業、或ハ倭林作業或ハ天然林作業、斯ウ云フ風ニ山ニハ幾通りモ山林作業ガアリマシテ、其目的ガ各違フ、又經濟上ノ點カラ申シマシテモ、主木ヲ以テ收入ノ目的トスルモノモアリ、又間伐ヲ以テ收入ノ目的トスルモノモアルノデアリマシテ、是等ハ其土地ノ性質運搬ノ便否、又需要等ノ如何ニ依ツテ總テノモノガ決スル、殊ニ此收入ニ付テハ數年ニ一回得ルコトガアリ、或ハ數十年ヲ要スルモノガアリ、甚シキハ百數十年ヲ要シテ初メテ其利益ヲ得ルモノガアリマシテ、此利益ニ付テハ頗ル複雑ヲ極メルモノデアリマスカラ、此一ノ不動産ノ移轉ニ因ツテ、移轉毎ニ課稅ヲスルト云フガ如キハ、全ク森林ノ經濟ヲ御存デナイ結果ニ由ツテ斯ウ云フ法案ガ定メラレタモノデアルト私ハ信ズル、是ガ即チ第十四條第一項第三號ヲ改正ヲ致ス所ノ主ナル趣意デアリマス、次ハ二十三條ニ付テ改正ヲ加ヘタイノハ、是ハ數十年間假ニ伐木ヲ致シテ、收入ヲ得ルニ致シマシテモ、數十年間乃至百數十年間蓄積シタル其益金ヲ、其所得ノ纏ツタモノニ對シテ稅率ヲ課スルト云フコトハ、如何ニモ穩當ヲ缺クト信ズル、是ハ例ヘバ其竹木ガ五十年ナラ五十年間其所ニ在ルモノナラバ、其總額ハ總益金ヲ五十年テ割ツテ、サウシテ一年ニ當ツタ所ノ稅率ヲ以テ之ヲ本金額ニ賦課スルコトニシタナラバ、丁度一年ノ所得ニ對シテ課稅スルコトニ相成リマスケレドモ、何十年ト纏ツタモノニ持ツテ來テ稅率ヲ課スルト云フコトハ、非常ニ重イコトニナル、現行ハニ依レバ、山林所得ト一般所得トハ、之ヲ引分ケテ課稅スルコトニ相成ツテ居リマスケレドモ、尙ホ之ヲ引分ケテタ所デ、只今申シタヤウナ結果ニ相成ルノデス、林業家トシテハ少シモ其恩典ヲ得ル譯デナイト信シマス、殊ニ林業一ツヲ以テヤルモノニアリテハ、此森林以外ノ所得ト引分ケルト致シマシテモ、ソレヲ引分ケヤウガナイ、一ツデアリマスカラ矢張金額ノ負擔ヲスルコトニ相成ル、故ニ蓄積シタル年限デ以テ之ヲ除シテ、サウシテ稅ヲ適用スルヤウニ本條ヲ改正シタイ、今更私ガ茲ニ更メテ申上ゲル迄モナク、我國ノ面積ノ大部分ハ森林デアリマシテ、即チ八割五歩迄ハ森林デ、我國ハ世



界ノ森林國ノ一ト申シテモ宜イニモ拘ラズ、昨年ノ如キハ總額七、八千萬圓ノ材木ヲ輸入シテ居ル次第アリマス、是ニハ色々ノ理由モアリマセウガ、一ハ山林事業ニ對シテ國家ト云ヒ地方ト云ヒ種々ナル税目ヲ設ケマシテ、餘リ種々ナル税ヲ課スルノモ其一ノ理由デアアル、ソレガ爲ニ林業家ハ山林ニ厭氣ヲサシテ、愛林思想ガ薄クナツテ、祖先傳來ノ森林事業ヲ荒廢セシムル懸念ガアリマス、一朝サウ云フコトニナリマシタラバ、外ノ事ト違ッテ直ニ取返シノ出來ナイヤウナ事ニナルノデアリマス、殊ニ山林事業、造林事業ハ直接ニハ木材ノ供給薪炭ノ供給ニ關係アルコトハ勿論デアリマスガ、一面ニ於テハ風土氣候ノ調節、或ハ水源涵養、土砂扞止、斯ウ云フ事ハ自然ニ國土保安上ニ誠ニ重大ナル關係ヲ持ツコトデアリマスカラ、寧ロ吾々ハ森林事業ハ出來ルダケ獎勵スルコソ至當デアルト思ヒマス、現ニ我が政府ニ於テモ官行造林法ノ如キモノヲ設ケテ、相當ニ造林ノ計畫ヲ立テ、居リマス、併ナガラ國有林ナリ公有林ナリ、官行造林法ノ如キニ致シマシテモ、國家ガ造林ヲ致ス事ハ半面ニ於テハ矢張、之ニ依ッテ民業ヲ壓迫スルヤウナコトニナルト私ハ考ヘル、ソレ故ニ吾々ノ理想ト致シマシテハ、寧ロ森林事業ニ對シマシテハ、所得税ノ如キハ全然之ヲ免除スルコトハ至當デナカラウカト思ヒマス、ケレドモ今日ハ、マダ其場合デナイト思ヒマスガ、本案ノ如キハ此改正案ヲ提出致シマシテ、諸君ノ御贊同ヲ願フ次第デアリマス、ドウゾ御贊成ヲ請ヒマス

次テ本案ハ政府提出所得税法中改正法律案(二)外十四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ二月九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(一ハ委員會修正)

所得税法中左ノ通改正ス

第十四條第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 山林ノ所得ハ竹木伐採ニ因ル前年ノ總收入金額ヨリ其ノ植栽養成ニ必要ナル經費ヲ控除シタル金額

第二十三條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ノ原因タル竹木ノ年齢ニテ除シタル

平均額ニ對スル税率ヲ適用ス

(議事ノ經過及結果ハ本項第一(二)參看)

一七 社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案

第一條 社寺境内地ニシテ現ニ國有ニ屬スル現境内地ハ申請ニ依リ之ヲ其ノ社寺ニ下付スヘシ

第二條 本法ニ依ル下付ノ申請ハ大正十五年七月三十一日迄ニ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ

第三條 此ノ申請ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ其ノ指令ヲ受ケタル日ヨリ三箇月内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 第一條ニ依リ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ境内地及立木竹ノ所有權ヲ取得ス

前項ニ依リ所有權ヲ取得シタル者ハ其ノ土地及立木竹ニ付第三者ノ現ニ有スル權利ヲ害スルコトヲ得ス



第五條 本法ニ依リ下付ヲ受ケタル境内地及立木竹ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ地上權、抵當權若ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第六條 本法施行前行政處分又ハ裁判所ノ判決ヲ受ケタル者ト雖本法ニ依リ下付ノ申請ヲ爲スコトヲ妨ケス

附則

本法ハ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十二年一月二十五日鶴澤總明君外二名之ヲ提出ス二月一日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(岩崎勳君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ昨年モ本院ヲ通過致シマシテ、貴族院ニ送付セラレタモノデアリマスガ、會期切迫ノ爲ニ其議ヲ經ルニ至ラナカッタデアリマス、社寺境内又ハ山林ニシテ、朱印又ハ上地ノ證據アルモノハ社寺ノ所有デアルト云フコトハ、行政裁判所ノ判例ノ夙ニ認ムル所デアリマス、總テノ社寺境内山林ハ皆同ジ性質デアリマシテ、社寺、佛堂ノ如キハ既ニ各々其當該社寺ノ所有トナッテ居ルニ拘ラズ、獨リ其敷地ノミガ國有トシテ殘ッテ居ルト云フコトハ、實ニ理由ノ無イコトデアリマス、即チ衆議院ニ於キマシテハ、明治四十四年以來、社寺上地下辰ニ關スル法律案ヲ議會ニ提出致シマテ、大正八年二月迄都合四回衆議院ヲ通過シテ貴族院ニ回付セラレテ居リマス、貴族院ノ特別委員會ニ於テハ、時ノ委員長松平直之伯ヨリ政府ニ交渉致シマシタ結果ハ社寺上地ニ關スル農商務省所管、國有林ニ對シテハ、保管林規則ヲ改正致シマシテ、保管年限ヲ五十年ニ延長シ、且ツ其主產物ノ三分ノ二ヲ其社寺ニ無償ニテ交付スルコトニ致シマシタ、又内務省所管ニ屬

スル社寺ノ境内敷地ハ、無償讓與ノ形式ニ依リマシテ、其社寺ニ交付スルコトニ協定ガ成立ッタデアリマス、此協定ニ依リマシテ、農商務省ニ於キマシテハ、保管林規則ヲ改正シテ、大正六年六月之ヲ發布致シマシテ、現ニソレガ施行セラレテ居ル、内務省ニ於テハ此協定ノ趣旨ニ依リマシテ、社寺境内敷地ヲ無償讓與ノ形式ニテ、當該社寺ニ下付スルト云フ勅令ヲ發布スル豫定ニナッテ居タデアリマスガ、其儘今日ニ至ッテ居ル、而シテ第四十四議會ニ於キマシテハ、之ニ關スル建議案モ本院ヲ通過致シテ居リマス、昨年ハ法律案トシテ本院ヨリ貴族院ニ提出セラル、ヤウニ至ッタデアリマスカラ、何卒本年モ速ニ御協贊アラントヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月五日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ理事上塚司君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス  
委員長ニ代リマシテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ主トシテ上地處分ニ依リマシテ國有ニ編入致サレマシタル社寺境内地ヲ再ビ當該社寺ニ返付ヲ願ヒタイト云フ案デアリマス、之ニ就キマシテハ既ニ明治四十四年第二十七議會以來、全國ノ各宗派十三宗、五十八派ノ人ミガ熱烈ナル要望ヲ爲シ來ッタモノデアリマス、爾來議會ヲ重ネマスルコト十有九回、其間ニ於キマシテ我が衆議院ニ於キマシテハ、法律案トシテ通過致シマスルコト前後五回、建議案トシテ通過致シマスルコト前後一回、大正五年ニ於キマシテハ、衆議院ヲ通過致シマシタル法律案ガ、貴族院ニ送付致サレマシテ、其特別委員會ニ付議致サレマスルヤ、時ノ委員長デアリマシタル松平直之伯ガ政府ト委員會トノ間ニ盡力斡旋セラレマシタル結果、政府ハ次ノ議會以前ニ於キマシテ、上地山林竝ニ此現境内地ノ處分ヲ爲スベキコトヲ公約致シタモノデアリマス、然ルニ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



此上地山林ニ付キマシテハ其後解決ヲ見タノデアリマスルガ、現境内地ニ付キマシテハ遂ニ解決ヲ見ズシテ今日ニ至ッテ居ル、斯様ニ致シマシテ此問題ハ衆議院ニ於キマシテモ、貴族院ニ於キマシテモ、又政府部内ニ於キマシテモ、普ク周知致サレテ居ル問題デアリマス、委員會ニ於キマシテハ會議ヲ開キマスルコト前後四回、其都度政府委員ノ出席ヲ求メマシテ、慎重審議ヲ重ネタノデアリマス、委員中ヨリハ宮古君、舞田君、野田君等ヨリ種々ノ質問ガ發セラレタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府當局ヨリ政府ノ意見トシテ答辯セラレマシタル所ヲ、極テ簡單ニ一括シテ申シマスレバ、先ヅ大藏當局ノ意見ト致シマシテハ、西野大藏次官ノ答辯ニ依リマスルト、大藏省トシテハ此提案ノ趣旨ハ尤デアルト思フ、併ナガラ此社寺境内地ニ付キマシテハ、曩ニ國有財産調査會ニ付議シテ、其審議ノ結果ハ之ニ國有トシテ置ク方ガ安全デアルト云フコトヲ決定致シテ、昨午國有財産法案ノ決定致サル、ニ際シテ、左様ニ規定致シタリデアラカラ、昨年之ヲ國有ニ決定シテ、今年之ヲ廢止スルト云フガ如キハ、餘リニ朝令暮改ノ甚シキモノデアアル、殊ニ本案ノ實施以來未ダ年月ヲ經テ居ナイノデアラカラ、其趣旨ハ尤デアルト思フケレドモ、先ヅ本國有財産法ノ結果如何ヲ見テ、是ガ解決ヲスルコトガ至當デアラウト云フコトデアッタ、内務省ノ意見ヲ尋ネマスルト、内務省ノ意見トシテ山田神社局長ノ御答辯ニ依リマスレバ、内務省ト致シテハ、極ク關係ガ薄イ贊成モシナイ、又反對モシナイ、ドチラデモ宜イト云フヤウナ程度デアルト云フ御答辯デアリマシタ、ソレカラ文部省ノ意見トシテ赤司文部次官ノ御答辯ニ依リマスルト、大體ニ於キマシテ大藏次官ノ御答辯ト同一デアリマシタ、唯文部省ト致シマシテハ、先ヅ宗教法案ノ制定ヲ急務ト思フ、之ニ依ッテ社寺ノ財産ノ保護法ト云フモノガ明ニ決定致シマシタナラバ、其時ニ於テ此境内地ノ處分ヲ解決スルコトガ最モ適當デアラウト云フ意味ノ御答辯デアッタノデアリマス、斯様ニ致シマシテ委員會ハ討議ニ移リマシタ、其結果委員會ニ於キマシテハ、滿場一致ヲ以チマシテ、原案通り可決確定致シタノデアリマス、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可

決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ニ於テ議決ヲ經ルニ至ラザリキ

一八 地租條例廢止法律案

地租條例ハ大正十一年分地租限リ之ヲ廢止ス

右八十二年一月二十五日松下禎二君外一名之ヲ提出ス一月三十日本案及(一乃至八)(二〇)案ノ十案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(松下禎二君)ハ本案及贊成者トシテ(二〇)案ニ對シ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今上程セラレマシタ地租條例及營業稅法廢止法律案ノ提出理由ヲ、極メテ簡單ニ申述ベタイ、明治六年曠世ノ盛典ト云フベキ地租改正ニ關シテ、實ニ有難キ上諭ガ發セラレタノデアアル、其上諭ノ一節ニ「賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカラシメン」ト云フコトガアリマス、有難キ聖旨ニ對シテ國民ハ感泣已マザル所デアリマス、此上諭ニ其イテ、太政官ハ明治六年七月二十八日第二百七十二號ヲ以テ布告ヲ發シタノデアアル、其布告ノ第六章ニ次ノ如キコトヲ書イテアル「從前地租ノ儀ハ自ラ物品ノ稅家屋ノ稅等混淆致居候ニ付改正ニ當リテ判然區分シ地租ハ則地價ノ百分ノ一ニモ可相定ノ處未ダ物品等ノ諸稅目與ラザルニ依リ先以テ地價百分ノ三ヲ稅額ニ相定メ候へ共向後茶、煙草、材木其他ノ物品稅追々發行相成歲入相増シ其收入額二百萬圓以上ニ至リ候節ハ地租改正相成候土地ニ限リ其地租ニ右新稅ノ増額ヲ割合地租ハ遂ニ百分ノ一ニ相成候迄漸減少可致事」ト云フ句ガアリマス、即チ之ニ由ッテ見マスレバ地價ノ百分ノ一ヲ以テ地租ノ定率ト定メテ居ルノデアアル、明治十年一月四日ニ至リマシテ、地租ハ初テ經減セラレテ、地價ノ百分ノ二箇半トナッテ居ル、其後年ヲ幾度重ネテモ地租ハ輕減サレタコトハナイ、却テ明治



三十二年ニハ市街宅地ノ地租ハ地價ノ百分ノ二箇半、其他ノ地租ハ千分ノ八ヲ増徴セラレ、コトニナツタリデアリマス、又明治四十三年ニモ地租ハ増加セラレ、四箇半ニナツテ居ル、大正三年三月三十日ニ至ツテ稍減セラレマシテ今日ノ現行法ノ四箇半ニナツテ居ル、斯ノ如クシテ地租ハ國稅ト致シマシテ、千四百萬圓ヲ計上スルヤウニナツテ居ル、而シテ附加稅ト致シマシテハ一億二千二百萬圓ヲ算シテ居ル、然ルニ明治六年、月二十八日付ヲ以テ、大藏省ノ出シタ所ノ地方官心得書ヲ見マスルニ、其第十八章ニ次ノ如キコトヲ書イテアル「土地ニ課スル村入費ハ以前一定ノ規則ナシト雖モ今後、地租ノ三分ノ一ヲ超過スベカラス」即チ附加稅ハ本稅ノ三分ノ一ヲ超過スルコトハナラヌト云フコトニナツテ居ル、此三分ノ一ト云フモノヲ以テ村費ノ定率トシテアルノデアリマス、然ルニ今日ニ於テハドウデアルカ、本稅ノ三分ノ一ト云フモノヲ以テ村費ノ定率ト附加稅ハ倍加シテ居ルト云フ現象デアル、斯ノ如キハ即チ地方自治上多大ノ經費ヲ要シ、且ツ適當ノ財源ガ無イト云フコトヲ立證シテ居ルノミナラズ、地方民ノ負擔ハ決シテ輕イモノデハナ

イ、現今ニ於キマシテハ農民ノ窮狀ハ實ニ見ルニ忍ビザル有様ガアルト云フコトヲ明示シテ居ルノデアリマス、今一例ヲ擧ゲマスルニ、之ハ鹿兒島縣ニ於テ調査サレタ所ノモノデアリマスルガ、五箇村ニ涉ツテ調べマシタ所ニ依リマスレバ、土地ニ依ツテ違ヒマスルガ米一石ノ生産費トシマシテハ、一番少イ所ハ米一石ニ對シテ二十二圓三十錢三厘、一番高イ所ハ四十二圓五十八錢一厘ト云フ、此平均額ガ五箇村ノ平均ガ四十三圓三錢トナツテ居ル、然ルニ現今米ノ相場ハ幾ラデアルカ、鹿兒島縣ニ於キマシテハ所ニ依リマシテ差異ハアリマスルガ、一石二十三圓乃至二十五圓デアアル、米ヲ一石作ルニ平均三十四圓ノ金ヲ拂ツテ、サウシテ賣ル時ニ於テハ二十四圓ニシカナラナイト云フコトデアルトスレバ、農民ハ如何ニシテ其日ヲ暮シテ行キ、如何ニシテ生計ノ途ヲ立テ、行クカト云フコトヲ考ヘナクチャナラナイノデアアル、先日大口君ノ質問ニ對シテ水野内相ガ答ヘラレタ一節ニ、地方財政ハ非常ニ行詰ツテ居ル、又財源ガ涸渴シテ居ル結果、無理ナ課稅ヲシテ居ルト云フコトヲ御承知ニナツテ居ル、政府當局者ニ於キマシテモ、農村ノ窮狀ハ十二分ニ認メテ居ラレル、ソレデアリマスカラ本員ハ農村振興ノ目的ヲ以テ農民ノ負擔ヲ減

ジ、且ツ地方財政ノ緩和ヲ圖ル爲ニ地租ヲ國稅ノ中カラ除イテ、之ヲ地方ノ財源ニ資セント欲スル、又營業稅ハ御承知ノ通りニ、日清戰爭ノ影響ヲ受ケタ時局ヲ救フガ爲ニ、非常特別稅トシテ明治二十九年ニ創定セラレタモノデアアル、其組織ハ營業所得ノ如何ヲ問ハナイデ、商工業者ノ働キ其モノニ對シテ課稅スル一種ノ行爲稅デアリマスルカラシテ、商工業ノ發展ヲ阻害スルミナラズ、其稅率ハ過重デアツテ、徵稅法亦不公平ヲ免レナイ、不公平ノ譏リヲ免レナイノデアリマスル、爲ニ商工業者ハ極メテ苦痛ヲ感ジ、商工業ノ發展ハ萎靡シ、財政經濟ニ累ヲ及ボスヤウニナツテ居ルノデアアル、隨テ國民ハ此營業稅ノ廢止ヲ叫ブコト久シイノデアアル、戰時非常特別稅ノ一ニ屬シテ居ル所ノ此營業稅ノ如キハ、勿論時局ノ終了ト共ニ之ヲ廢止スベキデアアルノデアアル、國情ガ許サナカッタノハ仕方ガナイト致シマシテ、既ニ時勢ハ變遷シテ、之ヲ廢止スル時機ハ到著シテ居ル、ソレデアリマスカラ若モ此營業稅ヲ國稅ノ中カラ除イテ、更ニ徵稅ノ組織ヲ改メテ、所得ニ應ジテ納稅セシムル方法ノ下ニ、之ヲ地方財源ニ資シ、且ツ商工業ノ發展ヲ圖ルヤウニ相當ノ手段方法ヲ講ジマシタナラバ、國家ノ爲ニハ却テ利スル所ガ大デアルト信ズル者デアリマス、斯ノ如クシテ地租及營業稅ヲ廢止シタナラバ、一億二千萬圓餘ノ歲入ハ何カラ填補スルカト云フコトハ、當然起ルベキ疑問デアリマスルガ、私ヲ以テスレバ、極メテ容易ニ解決スル問題デアルト思フノデアリマス、我國ノ歲入豫算額ト決算額トヲ照合シテ見マス、常ニ歲入ガ過剩ニナツテ居ル、政府當局ハ每議會毎ニ、本年ハ不景氣デアツテ歲入ノ豫算ガ思フヤウニ出來ナイト云フコトヲ言ツテ居ルケレドモ、事實ハ反對デアアル、試ニ大正元年ヨリ大正十年迄ノ收入租稅及印紙收入豫算額決算額比較増減表ヲ見テ見マスルニ、唯大正四年丈ケガ二百萬圓ダケ缺損ヲシテ居ルダケデアツテ、其他ノ年ハ皆歲入ガ超過シテ居ル、豫算ト實際トガ非常ナ懸隔ガアル、即チ超過ノ中デ最少カッタ年ガ大正三年デアリマスガ、此時ニ於テモ五十九萬六千圓ト云フモノガ現レテ居ル、又大正八年ニハ二億二千六百萬圓ト云フ莫大ナ數字ガ現レテ居ルノデアリマス、之ヲ十箇年間ニ平均ヲシテ見マスニ、年年七千八百四十萬圓ト云フモノガ收入ガ超過ニナツテ居ルノデアリマスカラシテ、地租ノ七千四百萬圓ト云フ金ハ、此超過シタル所ノ歲入ヲ



以テ容易ニ填補スルコトガ出來ル、併ナガラ斯ウ云フ姑息ナ無理ナ策ヲ講ジナイデモ、若シモ、政府當局ニシテ徹底的ニ行政整理ヲ行ヒ、又意義ノアル有意義ナ軍備縮小ヲ行ツタナラバ、二億ヤ三億ノ金ハ容易ニ捻出出來ルモノト私ハ固ク信ジテ疑ハヌノデアリマス、故ニ此租税及營業税ヲ國税ヨリ省イテ地方税ニ移シ、サウシテ地方自治體ノ振興ヲ圖ルノハ刻下ノ急務デアツテ又行ハントスレバ容易ナル事デアアル、決シテ至難ノ業デハナイト信ジマス、是レ本案ヲ提案スル所以デアリマス、何卒慎重審議ノ上、御賛成アラントヲ希望致シマス

次テ本案ハ政府提出所得税法中改正法律案(二)外四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ否決スヘキモノト決シ二月九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(議事ノ經過及結果ハ本項第一(二)參看)

一九 民事訴訟法中改正法律案

民事訴訟法中左ノ通改正ス

第三百十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

當事者ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ證人ニ問ヲ發スルコトヲ得

右ハ十二年一月二十五日大道寺慶男君之ヲ提出ス二月一日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本改正案ハ至極簡單ナ案デアリマスルガ、在朝在野一般ノ法曹界ノ多年切望シテ居リマスル、我

ガ訴訟法上重要ナル意義ヲ有スル案デアリマス、裁判手續ノ中軸トモ申シマスル證人調べニ於キマシテ、從來我國ノ訴訟法ハ民事、刑事ヲ通ジマシテ、裁判官並ニ檢事以外ニハ絶對ニ直接訊問ヲ許シテ居ラヌノデアリマス、隨テ當事者ハ常ニ裁判長ヲ通ジマシテ問接訊問ヲ求メテ居ルハデアリマス、ソレガ爲ニ訊問ノ趣旨ガ徹底致シマセズシテ、其真相ノ得ルコトノ出來ナイ憾ガアルノデアリマス、更ニ四十五議會ヲ通過致シマシタル新刑事訴訟法ノ三百二十八條ニ於テハ、此直接訊問ノ趣旨ヲ認メテ改正サレテ居ルノデアリマス、又當院ダケ通過致シマシタ陪審法案ノ第四十二條ニモ、此趣旨ヲ認メテ居ッタノデアリマス、兎ニ角此直接訊問ト云フコトハ、裁判ノ證據調ノ上デ真相ヲ得ル手續手段ト致シマシテ、斯ク改正シナケレバ裁判ノ眞髓ヲ得ルコトガ出來ナイコトニナル、然ルニ斯ノ如ク刑事訴訟ノ方面ダケ改正サレテ、民事訴訟ダケヲ此儘ニ捨テ、置クト云フコトハ、到底時代ノ進運ニ適セザルコトデアアルト思フノデアリマシテ、本改正案ヲ提出致シマシタ所以デアリマス、ドウカ御一同ノ御賛成ヲ求メマス

(小字及一ハ委員會修正)

(委員會報告書)

民事訴訟法中左ノ通改正ス

第三百十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

當事者ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ證人ニ問ヲ發スルコトヲ得

第三百十三條中「裁判長若クハ陪席判事」ヲ「裁判長、陪席判事若クハ訴訟代理人タル辯護士」ニ改ム

第三百十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

訴訟代理人タル辯護士ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ證人ニ問ヲ發スルコトヲ得

次テ本案ハ上島益三郎君提出身元保證ニ關スル法律案(一三)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



查ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月一日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
三月五日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長北井波治日君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ  
爲ス

民事訴訟法中改正法律案ノ委員會ノ經過結果ヲ報告致シマス、此改正ノ趣旨ハ、現在ノ訴訟法ニ  
依リマスト、當事者即チ原告又ハ被告ガ證人ニ問ヲ發スル時分ニハ、裁判長ヲ經テスルコトニ  
ナツテ居リマス、直接ニ問ヲ發スルコトハ許シテナイ、此法律ハ之ヲ直接ニ問ヲ發スルコトノ出  
來ルヤウニ改正スル趣意デアリマス、簡單ナ法律デアリマスガ、我が民事訴訟法ノ手續カラ言フ  
ト、是ハ可ナリ重要ナ改正案デアリマス、今迄ヨリハ證人訊問ニ付テハ、一大變革ヲ與ヘルモノ  
デアリマス、委員會ニ於テハ、政府ノ方デハ、當事者ト申スト本人ガ這入ルカラ、本人ガ斯ウ云フ  
訊問ヲスルコトニナルト、事件ノ滯滞ヲ來シ、ツマラヌ事ヲ訊クコトニナルカラ贊成ハ出來ナ  
イ、若シ代理人タル辯護士ガ問ヲ發スルコトニ贊成ヲスルナラバ、異議ガ無カラウト云フ  
如キ政府委員ノ説ガアリマシタ、明カナル贊成デアリマセヌガ、先ヅサウ云フ風ニ修正シタ  
ラ、異議ガ無イト云フ如キ山内司法次官ノ答辯ガアリマシタ、委員會ニ於テハ慎重ナル研究ノ結  
果、斯様ニ修正ヲシタノデアリマス、提出者ハ民事訴訟法第三百十五條ノ「改正デアリマシタ  
ガ、其第二百十五條ノ第一項ノ次ニ、左ノ一項ヲ加ヘルコトニ致シマシタ、」訴訟代理人タル辯護  
士ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ證人ニ問ヲ發スルコトヲ得「斯様ニ致シマシタ、」詰リ原案ニ對シテハ、  
「訴訟代理人タル辯護士ハ」ト云フ字ヲ加ヘタノデアリマス、其結果トシテ原案ニハアリマセヌ  
ガ、必要ト認メマシテ、民事訴訟法第三百十三條中ニ「裁判長若ハ陪席判事」トアルノヲ「裁判長陪  
席判事若ハ訴訟代理人タル辯護士」斯ウ云フ風ニ改正ヲ致シマス、前ノ改正ノ結果トシテ、  
斯ウ云フ規定ヲ要スルコトニナツタ、詰リ此規定ハ其終問ニ付テ異議ノ申立ヲシタ時分ニ、如何ナ  
ル處分ヲスルカト云フ規定ヲ此ニ入レル爲ニ、裁判長若ハ陪席判事ノミトナツテ居ルノデアリマ

スガ、問ヲ發スルノハ訴訟代理ハタル辯護士ニモ此權能ヲ與ヘタ以上ハ、此文字ヲ入レテ辯護士  
ノ發シタ問ニ對シテ異議ノ申立ニ對スル一ノ規定ヲ要スルト云フ議論ヨリ、斯様ニ民事訴訟法  
第三百十三條ヲ改正致シマシタ、此法律ハ要スルニ從來證人訊問ニ付テハ、問接訊問デアツテ、一  
何事デモ裁判長ノ手ヲ經テ訊問サレタ事柄ガ、直接ニ訴訟代理人タル、辯護士ガ訊クト云フノ  
デ、餘程進歩シタル改正デアリマス、之ガ爲ニ證人ノ心證ヲ得ルニ付テハ、直接ニ老練ナル辯護  
士ガ訊問シテ、其實實ヲ發見スルコトガ出來ラウト思フ、我國ノ刑事訴訟法ノ改正ニ付テ  
ハ、既ニ直接ノ訊問ヲ許シテ居リマス、陪審法ニ於テモ既ニ許シテ居リマス、尙ホ歐米各國ノ例  
ヲ見テモ、辯護士ガ直接證人訊問ヲシテ居ルコトハ明カナ事實デアリマス、我國ガ獨リ此改正ヲ  
セヌコトハ斷ジテナイト思ヒマス、此案ハ是非成立センコトヲ希望スルモノデアリマス、以上報  
告致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告  
ノ通修正議決ヲ爲シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ニ於テ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

二〇 營業税法廢止法律案

營業税法ハ大正十一年分營業税限リ之ヲ廢止ス

右ハ十二年一月二十六日上田彌兵衛君之ヲ提出ス一月三十日本案及「乃至八」(一八)案ノ十案ヲ  
一括シテ第一讀會ヲ開キ贊成者(松下禎二君)ハ趣旨ヲ辯明セリ(一八)參看)

次テ本案ハ政府提出所得税法中改正法律案(二)外四件委員ニ併モ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末



原案ヲ否決スヘキモノト決シ二月九日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
(議事ノ經過及結果ハ本項第一(二)參看)

二 治安警察法中改正法律案

治安警察法中左ノ通改正ス

第二條 政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カムトスル者ハ發起人ヲ定メ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ

第四條中「十二時間」ヲ「六時間」ニ改ム

第五條第一項中第三號乃至第五號ヲ削リ第六號ヲ左ノ如ク改メ第七號ヲ第四號ニ改ム

三 十四歳ニ滿タサル者

同條第二項中「未成年者」ヲ「十四歳ニ滿タサル者」ニ改ム

第八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動若ハ群集ニシテ安寧秩序ヲ紊シタル場合ニ於テハ警察官ハ集會若ハ群集ヲ解散シ又ハ運動ヲ制限スルコトヲ得

同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動若ハ群衆ニシテ安寧秩序ヲ紊ス虞アル場合ニ於テハ警察官ハ地方長官ノ許可ヲ得テ集會若ハ群集ヲ解散シ又ハ運動ヲ制限スルコトヲ得

同條第二項中「此ノ場合ニ於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者」ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得「ヲ削ル

第十條中「違背シ其ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル」ヲ「違背シタル」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

集會ニ於ケル講談論議ニシテ前項ノ規定ニ違背シ、安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スル虞アル場合ニ於テハ警察官ハ地方長官ノ許可ヲ得テ其ノ講談論議ヲ中止スルコトヲ得

第十七條 削除

第二十條 第二條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條第一項中「若ハ禁止」ヲ削ル

第二十三條、第二十四條、第二十六條、第二十七條、第二十八條及第二十九條中「輕禁錮」ヲ「禁錮」

ニ改ム

第三十條 削除

第三十一條中「重禁錮」ヲ「禁錮」ニ改ム

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案 千二百三十一



第三十二條ノ二 本法ニ依ル行政官廳ノ命令若ハ處分並第八條第二項又ハ第十條第二項ノ許可

ニ對シテハ直ニ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

右ハ十二年一月三十一日砂田重政君之ヲ提出ス三月五日本案ノ第一讀ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今議題ニ供サレマシタ治安警察法中改正法律案ノ趣旨ヲ、極テ簡單ニ説明ヲ致シタイト思ヒマス、此案ハ既ニ吾々ノ同志ヨリ數回此議場ニ提案ヲサレタノデアリマス、而シテ其中ニ於テ女子ノ政談集會ニ參加スルコトノ出來ルト云フ點ノミハ、昨年各派ノ一致ニ依リマシテ漸ク通過ヲ致シタノデアアルガ、其以外ノ總テノ點ハ今日ニ至ル迄尙ホ改正ノ曙光ヲ認メ得ザルコトヲ、吾々ハ遺憾ト致シテ居ル、而シテ此提案ノ根本ノ趣旨ハ、要スルニ法律ニ依ッテ虛偽ヲ強イテ居ルト云フ點ノ改正ヲ圖リタイト云フノガ根本ノ趣旨デアリマス、御承知ノ如ク今日ノ實際實狀ニ於テ、各宗教ニ關係ヲ有スル、即チ神職、僧侶其他諸宗ノ教師、或ハ官公私立學校ノ職員、教員若クハ學生、是等ノ人々ハ常ニ社會ノ先覺者トシテ、又知識階級ノ人トシテ、總テノ政治上ニ於テ相當ノ見識ヲ持チ主張ヲ持ッテ居ル人々デアリマス、斯ノ如キ人ガ所謂政治上ニ於ケル意見ヲ持チサウシテ其意見ヲ述ブル機會ヲ有シ、而モ之ヲ實行スル上ニ於テ活動ヲスルコトノ自由ヲ有シテ居リナガラ、一定フ政治結社ニ加入スルコトヲ禁ゼラレテ居ルト云フコトハ、此人々ヲシテ所謂法律ニ依ッテ虛偽ヲ強イルト云フコトニナルト思フ、此點ノ改正ヲシテ、所謂宗教家モ、教育家モ學生ヲ有ユル人々ヲシテ政治結社ノ自由ヲ與ヘタイト思フノデアリマス、女子ノ結社ニ加入セシムルコトヲ禁止サレテ居リマス、此規定ハ舊イ時代ノ極テ不徹底ナル案デアリマス、今日ニ於テハ斯ノ如キ案ヲ持續スベキ必要ノ無イト云フコトハ、是ハ無論デアリマス、過日モ普通選舉ニ關スル演說ノアリマシタ當時ニ於テ、龍野君ハ明ニ女子ニモ參政權ハ與ヘナケレバナラヌ時期ニ到達シテ居ルト云フ御議論ヲ承ッタノデアリマス、其參政權ヲ與ヘル以前ニ於テ、自由

ニ政治結社ニ加入セシメテ、活動セシムルト云フコトガ、先ヅ其前提トシテ實行サナケレケバナラヌト思フノデアリマス、此點ヲ改正ヲシタイト云フコトガ、即チ本案ノ改正ノ第二ノ要點デアリマス、最後ニ今一ツハ所謂治安警察法第十七條ノ撤廢デアリマス、此問題ハ刑法ニ於テ所謂脅迫其他暴行ノ點ニ付キマシテハ、刑法ニ明文ガ設ケラレテ居ル、然ルニ治安警察法ノ中ニ此脅迫者ノ爭議ニ係ッテ、暴行脅迫ト云フ事ガ特段ノ規定ヲ以テ刑罰ヲ科セラレルト云フコトハ、今日其必要ヲ認メナイ、而シテ他ノ一面ニ於テハ、労働者ノ團體權ヲ認メ其團體的要求ノ權利ヲ認メテ居ル現政府ノ下ニ於テハ、此團體的ノ集團ヲ爲シ、而シテ其集團ノ要求ヲ實行スル方法ヲ講ズル勸誘ヲスルト云フコトニ對シテ、刑罰ヲ以テ臨ムト云フコトハ、確ニ時代錯誤デアルト吾々ハ考ヘテ居リマス、此意味ヨリシテ此十七條ノ前段ハ刑法ニ依ッテ、既ニ定メラレタル法條ニ依ッテ處罰ヲ受クベキ者ハ處罰サレル、而シテ後段ハ日本ノ現代ノ政府ノ執リツ、アル主張、其認メテ居ル所ノ政府ノ方針ト相矛盾スルモノト信ジマスルガ故ニ、是レノ廢止ヲ行ヒタイト云フノデアリマス、大體此點ヲ主眼ト致シテ、其他詳細ノ條文ノ改正ニ至リマシテハ、單ニ之ニ附隨スベキモノデアリマスルカラ、詳細ハ委員會ニ於テ説明致シマス、願クバ諸君ノ御賛成ニ依リマシテ、此案ノ通過ヲ希望シテ已マナイ次第デアリマス

次テ本案ハ安達謙藏君外六名提出職業紹介法中改正法律案(一〇)外七件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ニ着手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

二二 労働組合法案

第一條 本法ニ於テ労働組合ト稱スルハ労働条件ヲ維持又ハ改善組合員相互ノ間ニ於ケル共同



利益ノ保護増進並共濟扶助ノ目的ヲ以テ設立シタル労働者十人以上ノ團體ヲ謂フ  
第二條 労働者ニ非サル者ト雖組合總會ニ於テ組合員三分ノ二以上ノ同意アルトキハ組合員タルコトヲ得

第三條 労働組合ハ法人トス

第四條 労働組合ノ代表者ハ組合設立ノ日ヨリ二週間内ニ組合規約ヲ主タル事務所所在地ノ地方長官ニ届出ツルコトヲ要ス組合規約ニ變更アリタルトキ亦同シ

第五條 労働組合ノ組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 名稱
- 二 目的
- 三 主タル事務所
- 四 組合員ノ資格ニ關スル規定
- 五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 六 組合總會其ノ他ノ會議ニ關スル規定
- 七 組合ノ代表者並其ノ他ノ役員ニ關スル規定
- 八 組合費及加入金ノ徴收方法並會計ニ關スル規定

九 組合ノ目的タル事業並組合員共濟扶助ニ關スル規定

十 組合規約ノ變更ニ關スル規定

第六條 労働組合ハ創立ノ日ヨリ二週間内ニ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第五條第一號乃至第三號

二 設立ノ年月日

三 理事ノ住所氏名及生年月日

前項ノ事項中變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

登記ヲ爲スヘキ事項ニ付テハ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條 労働組合ハ共同ノ目的ヲ達スル爲他ノ労働組合ト聯合シ聯合組合ヲ組織スルコトヲ得

聯合組合ニ對シテハ本法ノ規定ヲ準用ス

第八條 労働組合ノ組合總會ニ於テ議スヘキ事項ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員中ヨリ選

舉シタル代議機關ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ總會ニ關スル規定ハ之ヲ代議

機關ニ準用ス

第九條 労働組合ニ對シテハ所得税、營業税及登録税ヲ免除ス

第十條 労働組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第六十九條ノ規定ヲ準用ス



労働組合カ合併シタルトキハ合併後存続スル組合ハ二週間内ニ於テ變更ノ登記ヲ爲シ又合併ニ因リテ消滅シタル組合ハ解散ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ設立セラレタル組合ハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立セラレタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ノ権利義務ヲ承継ス

第十一條 雇主ハ労働者カ労働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ之ヲ解雇シ又ハ組合ニ加入セス若ハ組合ヨリ脱退スルコトヲ雇傭條件ト爲スコトヲ得ス

第十二條 労働組合又ハ其ノ組合員ハ労働条件ニ關シテ組合又ハ組合員ト締結シタル契約ニ付雇主ニ對シ損害賠償又ハ違約金若ハ保證ノ責務ヲ負ハサルモノトス

第十三條 労働組合ハ毎年一回組合ノ事業並財産ノ狀況ニ關シ地方長官ニ報告ヲ爲シ且之ヲ公告スヘシ

第十四條 労働組合ノ選舉又ハ會議ニシテ法令又ハ組合規約ニ違反スルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ其ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第十五條 第四條ノ場合ニ於テ地方長官ハ組合規約カ法令ニ違反スト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十六條 前二條ノ地方長官ノ處分ニ對シ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキ及主務大臣ノ處分ニ對シ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十七條 労働組合解散シタルトキハ特別ノ規定アル場合ノ外第四條ノ手續ニ依リ地方長官ニ届出ツルコトヲ要ス

第十八條 第四條及第十七條ノ届出若ハ第十三條ノ手續ヲ爲サス又ハ第十四條ノ命令ニ違反シタルトキハ組合ノ代表者其ノ他ノ役員ヲ各五十圓以下ノ過料ニ處ス其ノ届出又ハ手續ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキ亦同シ

第十九條 第十一條ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス  
第二十條 労働組合ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ要求シ若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス賄賂ノ提供及交付又ハ約束ヲ爲シタル者亦同シ  
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

第二十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



本法施行前ニ設立シタル労働組合ハ本法施行後一週間内ニ第四條ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス  
労働組合ノ登記ニ付テハ産業組合法附則ヲ準用ス

右ハ十二年一月三十一日板野友造君之ヲ提出ス二月二十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案提出ノ理由ハ理由書ニ掲ゲマシタ通り、労働者ノ生活ノ安定ヲ保障シ、労働能率ノ増進ヲ助長スル爲メ、團體權ヲ認ムルコトハ時代ノ趨勢ニ鑑ミテ喫緊ノ急務デアアル、斯様ニ認メマシテ提案ヲ致シタ次第デアリマス、只今ノ我國ノ産業界ノ状態ヲ見マスルト、資力ハ最も強大デアリマシテ、サウシテ殆ド其實權ヲ握ッテ居ル、斯ウ云フ有様ニ相成ッテ居リマス、サウシテ之ヲ法制ノ上カラ見テモ、大體ニ於テ資力家ヲ保護スルコトニ厚ク、労働者ノ保護ニ薄キ傾向ノアルコトハ、之ヲ否ムコトヲ容サナイコトニ相成ッテ居リマス、若シ此儘ニ放任ヲ致シテ置キマスレバ、資力家ノ力ハ益強ク、資力家ノ富ハ益増大シマセウガ一方労働者ハ益疲弊ヲシテ、サウシテ敗殘者トナルノ已ムヲ得ザルニ至ルモノアル傾向ヲ見ナケレバナラヌ、即チ少シ形容ガ大キイカモ知レマセヌガ、弱肉強食、斯ウ云フ結果ヲ見ルモノデアルト覺悟ヲシナケレバナラヌ、茲ニ政治家ノ發奮ヲ要シ、茲ニ政治家ノ注意ヲ要サナケレバナラヌ問題ヲ生ジテ來ルノデアリマス、サウ致シマスレバ、此儘ニスルトシマスレバ、到底此資力家ト労働者トノ間ノ平和協調ト云フヤウナコトハ、得テ望マレナイ、又産業ノ發達振興ト云フヤウナコトハ、之ヲ期スルコトガ出來ナイ、斯様ニ考ヘマス、是ガ匡救ノ途ハ何處ニ在ルカト申シマスレバ、唯労働者ノ團體權ヲ認メ、労働者ノ力ノ増大ヲ圖ル、是ヨリ外ニ無イト信ジマス、本案ハ第一條ニ掲ゲマシタ如ク、労働條件ノ維持改善、労働者ノ共同利益ノ保護増進、労働者ノ共濟扶助、此目的ヲ以テ労働者ノ團體ヲ造リ、サウシテ労働者ガ團結シテ活動スルコトヲ公認獎勵セントスル目的ニ出ヅルモノデアリマス、能ク言ハレマス、五指ノ交、打ッ一拳ノ力ニ如カズ、之ヲ労働者個々ノ行爲ニ放任ヲ致シマスレ

バ、拳モ共同利益ノ保護増進デアルトカ、或ハ救濟扶助デアルトカ、労働條件ノ改善デアルトカ云フコトノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ、個々ノ力デハ微力デアッテ出來ナイガ故ニ、團體ノ力ヲ以テ是等ノ目的ヲ達セシメヤウ、斯ウ云フコトニ外ナラヌデアリマス、結局斯ノ如クシテ労働者ノ生活ノ安定、精神上ノ慰安ヲ與ヘ、現ニ頻々トシテ起ッテ居リマス労働争議、是等ノモノヲ未然ニ防ギ、労働者ノ權利、利益ノ保護ト同時ニ、資力家ノ利益ヲ保護シテ以テ産業ノ發達、振興ヲ圖リタイ、斯様ナ趣旨ニ外ナラヌデアリマス、政府ニ於テモ此點ニ深く見ル所ガアリ、調査研究ノ結果、案モ出來テ居ルト聞イテ居リマス、所謂内務省案アリ、農商務省案アリト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、未ダ提案ニ至ラザルコトヲ甚ダ遺憾ト思ヒマス、願クハ此案ヲ委員會ニ移サレ、政府ノ意見ヲモ篤ト披瀝サレルノ機會ヲ得、サウシテ若シ此案ニ多少デモ不十分ノ點ガアリマスレバ、是等ノ總テノ研究ノ結果ヲ併セテ之ヲ完成致シタイト考ヘマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス  
次テ本案ハ安達謙藏君外六名提出職業紹介法中改正法律案(一〇)外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ニ着手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

二三 出版取締法案

出版取締法

第一條 器械的、化學的又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ文書圖書ヲ印刷謄寫シ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト謂ヒ其ノ文書及圖書ヲ刊行物ト謂ヒ其ノ文書ヲ著述編纂シ若ハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト謂ヒ其ノ印刷謄寫ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト謂ヒ其ノ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト謂ヒ其ノ印刷謄寫ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト謂フ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

法律案



第二條 一定ノ題號ヲ用キ時期ヲ定メ一箇月一回以上出版スル刊行物及定期以外本刊行物ト  
同一題號ヲ用キテ臨時出版スル刊行物ヲ定期刊行物ト謂ヒ其ノ他ノ方法ニ依リ出版スル刊行  
物ヲ普通刊行物ト謂フ同一題號ノ定期刊行物ニシテ他ノ地方ニ於テ出版スル時ハ各別種ノ定  
期刊行物ト認ム

第三條 左ニ掲クルモノハ定期刊行物ノ發行者又ハ編輯者タルコトヲ得ス

- 一 本法ヲ施行スル帝國領土内ニ居住セサル者
- 二 未成年者、禁治產者及準禁治產者
- 三 懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行中ノ者

第四條 定期刊行物ノ發行者ハ左ノ事項ヲ内務大臣ニ届出ツヘシ

- 一 題號
- 二 出版ノ時期
- 三 第一回出版ノ年月日
- 四 出版所及印刷所
- 五 發行者、編輯者及印刷者ノ住所、氏名、年齢但シ編輯者印刷者二人以上アルトキハ其ノ主  
トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ノ住所、氏名、年齢

前項ノ届出ハ發行ノ日ヨリ十日以後ニ管轄地方官廳ニ差出スヘシ

第五條 普通刊行物ノ發行者ハ出版ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内  
務大臣ニ届出ツヘシ

第六條 官廳ニ於テ刊行物ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ其ノ刊行物ヲ内務大臣ニ送付スヘシ

第七條 定期刊行物ノ發行者ハ出版ト同時ニ内務省ニ二部管轄地方官廳、管轄地方裁判所檢事  
局及區裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第八條 書簡、通信、報告、廣告、社則、摺則、引札、番付、ビラ、ポスター、選舉ニ於テ用キル候補者  
ノ意見書、諸種ノ用紙、證書類及寫真其ノ他之ニ類スルモノハ届出ツルヲ要セス但シ第二十四  
條ニ該當スルモノハ此ノ法律ニ依リテ處分ス

第九條 普通刊行物ノ届出ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連署ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣  
品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ届出ツルコトヲ得

第十條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル刊行物ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表ス  
ル者發行者ト連署シテ届出ツヘシ

發行者、編輯者、印刷者ノ氏名

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



普通刊行物ニ在リテハ著作者ノ氏名

發行所及印刷所ノ位置、名稱

第十一條 普通刊行物ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スルモノハ其都度第五條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 一度届出ヲ爲シタル刊行物ノ再版ハ届出ヲ要セスト雖若改正増減シ又ハ註解、附録、

圖畫ヲ加ヘタルトキハ第五條ノ手續ニ依ルヘシ

第十三條 第四條第一項第一號、第二號、第四號、第五號ノ事項ノ變更ハ其ノ變更ノ日ヨリ十日

以内ニ發行者ヨリ之ヲ内務大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 死亡シ又ハ第三條ニ該當スルニ至リタル發行者ノ權利及義務ヲ承繼シタル發行

其ノ發行者トナリタル日ヨリ十日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ノ外發行者ノ變更ハ其ノ變更ノ日ヨリ十日以前ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 定期刊行物ハ届出ヲ爲シタル出版時期又ハ出版休止ノ日ヨリ起算シテ百日間出版セ

サルトキハ其ノ出版ヲ廢止シタルモノト認ム

第十六條 發行者若ハ編輯者死亡シ又ハ第三條ニ該當スルニ至リ後繼ノ發行者若ハ編輯者ヲ定

メサル間又ハ發行者若ハ編輯者一箇月以上本法ヲ施行スル帝國領土外ニ旅行スル場合ニ於テ

ハ假發行者若ハ假編輯者ヲ設ケ之ヲ内務大臣ニ届出ツルニ非サレバ定期刊行物ヲ出版スルコ

トヲ得ス

發行者及編輯者ニ關スル本法ノ規定ハ假發行者及假編輯者ニ之ヲ準用ス

第十七條 編輯者ノ責任ニ關スル本法ノ規定ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ準用ス

一 掲載ノ事項ニ署名シタル者

二 正誤書、辯駁書ノ事項ニ付テハ其ノ掲載ヲ請求シタル者

第十八條 定期刊行物ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直接關係者ヨリ

正誤又ハ正誤書、辯駁書ノ掲載ヲ請求シタルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル後次回又ハ第三回ノ

發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書、辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ

正誤、辯駁ノ趣旨法令ニ違反スルトキ又ハ請求者ノ氏名、住所ヲ明記セサルトキハ之ヲ掲載ス

ルコトヲ要セス

正誤、辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ウヘシ

正誤書、辯駁書ノ字數原文ノ字數ヲ超過シタルトキハ其ノ超過ノ字數ニ付發行

普通廣告料ト同一ノ料金を要求スルコトヲ得

第十九條 官報又ハ他ノ定期刊行物ヨリ抄録セシ事項ニシテ官報又ハ定期刊行物ニ於テ正誤シ

又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シタルトキハ本人又ハ直接關係者ノ請求ナシト雖前條ノ例ニ依リ



正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載スヘシ但シ料金ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十條 演説者ハ講義ノ筆記ニシテ出版セラレタルモノハ演説者若ハ講義者ヲ以テ著作者ト

ス但シ筆記者ニ於テ演説者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者

ト看做ス此ノ場合ニ於テ記載ノ事項カ第二十四條ニ觸ルルトキハ演説者若ハ講義者ハ同罪ヲ

以テ論ス

公會ノ席ニ於テ爲シタル演説若ハ講義ヲ筆記シテ之ヲ刊行物ニ記載シタルモノ及凡テ演説者

講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演説者若ハ講義者ハ著作ノ責

ニ任セス

第二十一條 二種以上ノ著作及演説講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ刊行物ト爲ストキハ編纂者ヲ

以テ著作者ト看做ス

前條第一項ノ末段及第二項ノ規定ハ本條ニ之ヲ適用ス

第二十二條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做ス

第二十三條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テスル刊行物ハ其ノ届出ニ署名シタル代

表者ヲ以テ著作者ト看做ス

第二十四條 左ノ事項ヲ刊行物ニ掲載スルコトヲ得ス

一 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫、皇族、神宮及皇陵ニ對シ不敬ニ涉ル事項

二 暴力ニ依リ國家又ハ社會ノ組織ヲ變改セムトスル事項

三 犯罪ヲ煽動シ若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ノ犯罪行爲ヲ賞揚シ又ハ刑事被告人

ヲ陷害スル事項

四 公判ニ付スル以前ニ於テ豫審判事ノ特ニ指定シタル豫審中ノ事項若ハ公開セサル裁判ノ

内容

五 軍事外交ノ機密ニ關シ掲載ヲ禁セラレタル事項及官公署又ハ法令ヲ以テ組織シタル會議

ニ於テ公ニセサル文書又ハ公開セサル議會ノ議事

六 虛偽誇張亂侮猥褻ノ文言圖畫ヲ掲載シテ社會人心ヲ動搖セシメ又ハ善良ナル風俗ヲ壞亂

スル事項但シ研究ノ爲特定ノ者ニ頒布スル目的ヲ以テ豫メ當該官廳ノ許可ヲ得テ出版スル

モノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 内務大臣ハ前條ノ規定ニ觸ルル事項ヲ掲載セリト認メタル刊行物ノ發賣及頒布ヲ

禁止シ必要ノ場合ニハ之ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ内務大臣ハ同一主旨ノ事項ノ掲載ヲ差止ムルコトヲ得

本條ノ規定ニ依ル内務大臣ノ處分ニ關シ不服アルトキハ發行者竝直接利害關係人ハ行政裁判



所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル刊行物ニシテ製本ノ體裁ニ依リ其ノ差押フヘキ部分

ト其ノ他ノ部分ト分割シ得ヘキ場合ニ於テ發行者ノ請求アルトキハ之ヲ分割シ差押ヲ要セサ

ル部分ヲ返還スルコトヲ要ス但シ之カ爲必要ナル費用ハ發行者之ヲ負擔ス

第二十七條 內務大臣ハ外國若ハ本法ヲ施行セサル帝國領土ニ於テ發行シタル刊行物掲載ノ事

項ニシテ第二十四條各號ニ該當セリト認ムルトキハ本法施行地域内ニ於ケル發賣頒布ヲ禁止

シ必要ナル場合ニハ差押フルコトヲ得

刊行物ニ對シ一年以内ニ二回以上前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ內務大臣ハ其ノ刊行物ヲ本法

施行ノ地域内ニ輸入又ハ移入スルヲ禁止スルコトヲ得

第二十八條 前條第二項ニ依ル禁止ノ命令ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル刊行物及第二十九條

ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル刊行物ハ管轄地方官

廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十九條 本法ニ依リ差押ヘタル刊行物ニシテ二年以上其ノ差押ヲ解除セラレサルトキハ差

押ヲ執行シタル行政官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 第三條ニ該當スル者ニシテ事實ヲ詐リ發行者又ハ編輯者トナリタルトキハ三百圓以

下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條ニ依ル届出ヲ爲サスシテ定期刊行物ヲ出版シタルトキハ發行者ヲ三百圓以

下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第五條ニ違反シタルトキハ發行者ヲ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條 第七條、第十一條、第十二條、第十三條ニ違反シタルトキハ發行者ヲ百圓以下ノ罰

金又ハ科料ニ處ス

第三十四條 第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實ヲ以テセサルトキハ發行者及編輯者ヲ百圓以下ノ罰

金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 第十四條、第十六條ニ違反シタルトキハ發行者又ハ實際出版シタル者ヲ百圓以下

ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十六條 第二十四條第一號ノ罪ヲ犯シタル場合ハ著作者、發行者、編輯者ヲ各二年以下ノ禁

錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被告人ニシテ特ニ犯意ナカリシコトヲ裁判所ニ於テ認メシ

トキハ禁錮ノ刑ヲ免除ス

第二十四條第二號ノ罪ヲ犯シタル場合ハ著作者、發行者、編輯者ヲ各一年以下ノ禁錮又ハ千圓

以下ノ罰金ニ處ス

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案



第二十四條第三號乃至第六號ノ罪ヲ犯シタル場合ハ、著作者、發行者、編輯者ヲ三月以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 第二十五條ニ依ル禁止若ハ差止命令第二十七條ニ依ル禁止ノ命令第三十九條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シタルトキハ、發行者、編輯者ヲ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ刊行物ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第二十五條、第二十七條、第二十八條ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十六條ニ依リ處罰スル場合ニ於テ裁判所ハ其ノ刊行物ノ出版ヲ禁止スルコトヲ得

第四十條 本法ニ定メタル犯罪ニハ、刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス

第四十一條 刊行物ハ之ヲ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣知布ニ在ルモノハ凡テ此ノ法律ヲ適用ス

第四十二條 刊行物ニ掲載シタル事項ニシテ故意又ハ過失ニ依リ人ノ名譽ヲ毀損シ若ハ信用ヲ害シタルトキハ、被害者ノ告訴ニ依リ編輯者ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ惡意ニ出テス専ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ、裁判所ニ於テ被告人

ニ事實ノ證明ヲ許シ其ノ證明ヲ得タル場合ニ限り之ヲ罰セス公訴ニ關スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免除ス

第四十三條 本法ニ依ル公訴、私訴ノ第一審裁判所ノ管轄ハ地方裁判所トス

第四十四條 本法ニ依ル公訴ノ時効ハ六箇月ヲ以テ完成ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

新聞紙法及出版法ハ之ヲ廢止ス

第二十九條ノ規定ハ本法施行前ノ差押ニ係ル刊行物ニ之ヲ準用ス

右ハ十二年二月一日星島二郎君之ヲ提出ス二月二十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ  
言論ノ自由ト其制限ハ國家ノ統治上甚大ナル案件デアリマス、元來專制政治ニ於テハ措措キマシテ、佛國ノ革命殊ニ人權宣言以來、言論ノ自由ハ各國共憲法ニ於テ之ヲ認メテ居ルノデアリマスガ、我國ニハ未ダ專制時代ノ遺風ガ殘ッテ居リマシテ、法律ノ範圍内ニ於テト云フ文句ノ中ニ囚ハレテ、現行ノ日本新聞紙法及出版法ニハ、非常ニ非立憲的ナルモノガ多ク殘ッテ居ルノデアリマス、私ハ此法案ニ付キマシテ既ニ二タビ此演壇ニ立ツ次第デアリマス、而モ尙ホ改正ニ至ラヌコトヲ私自ラ恥ヂ、同時ニ議院ノ面目ノ爲ニ自分ハ恥ヅルノデアリマス、實ハ此法案ニ付キマシテハ、政友會ハ以前ヨリ此案ノ改正ヲ叫バレテ、今日副議長ノ地位ニナッ居ラレマス松田源治



君ヨリ此事が提出サレマシテ、全會一致改正スベシト云フ建議案が通過致シタ性質ノモノデアリマス、尤モ今日此議院ノ中ニハ建議案ヲ餘リ尊重シナイト云フ極テ惡イ空氣ガ滿チテ居ルノデアリマスカラ、甚ダ遺憾ニ思フノデアリマスケレドモ、私ハ少クトモ今少シク議院以外ノ輿論、言論自由ノ叫ビガモウ少シク盛ニナツテ欲シイ、斯ウ云フモノハ尙ホ今日多ク輿論ヲ喚起シナイト云フコトハ、現在日本ノ民衆ガ、未ダ言論ノ自由ノ眞ニ目醒メナイト云フコトヲ、自分ハ悲哀ニ感ズル、實際今日ノ日本ノ法律ハ非常ニ多ク、總テノモノ、改造改正ヲ要スルノデアリマスガ、殊ニ出版警察ニ於キマシテ非常ニ改正ヲ要スル、丁度日本ノ現在ノ多クノ現行法規、殊ニ出版法規ハ子供ノ時ニ作ツタ着物ヲ其儘ニ、子供ガ大人ニナツテモ尙且ツ着テ居ルヤウナコトデアリマシテ、其身體ハズン／＼伸ビテ居ルニ拘ラズ、洵ニ見トモナイ小サイ着物ヲ着テ居ル状態デアリマシテ、一刻モ早ク是ハ改正ヲ要スルノデアリマス、實ハサウ云フ次第デ昨年モ此法案ヲ改正スベシト云フ建議案ヲ出サレ、而モ私共ノ尊敬スル松田現副議長、或ハ前内務大臣床次君ノ言論ニ於キマシテ、思想ハ何處マデモ思想ヲ以テ取締ル、徒ニ法規ヲ以テ取締ルモ駄目ダト云フ議論ヲ御發表ニナリナガラ、昨年過激法案ト云フムヅカシイ法案ヲ出サレテ、議會未曾有ノ混亂ヲ來シタノデアリマスガ、又シテモ現政府ハ政友會ト互ニ氣脈ヲ通ズル内閣デアリマスカラ、或ハ事ニ依ツタラモウ一度斯ウ云フ法案ヲ出サレテ、現法規デサヘ舊イト云フ吾々ノ法案ニ對シテ、過激法案デモ出サレハシマヒカト心配致シマシテ、本員ハ先頃質問書ヲ提出致シタ所ガ、現内閣ハ前内閣ヨリモ言論思想ノ自由ニ於キマシテ、多少御理解アリト見エマシテ、今議會ニ過激法案ヲ提出スルノ意ナシト云フ言明ヲ得マシタノデ、初メテ稍安心ヲ致シタ次第デアリマス、實際私ハ現内閣モ多少言論ノ自由ニ於テ、警視總監或ハ警保局長ガ最近發賣禁止ヤ、或ハ差押ナドヲ爲サルコトガ餘程減ツテ居リマスノデ、確ニ今マデノ内閣ヨリ此點ニ於キマシテハ、非常ニ自由主義ヲ採ツテ居ラレルコトニ對シテ、私ハ感謝ノ意ヲ表シテ居ル次第デアリマス、願クハ此内閣ノ存續スル間ニ、少クトモ此出版法規ハ大改正ヲ欲シイト思ヒマスケレドモ、未ダ其提案サヘモ見ナイノデアアツテ、其點ニ付キマシテ甚ダ遺憾ニ思フ、輿論ハ借措キマシテ、私ハ本法ニ於

キマシテ、今マデ新聞紙法及出版法トニツニナツテ居リマシタケレドモ、之ヲ統括シマシテ出版法案ト致シタ、之ガ本法案ノ骨子デアリマス、細目ハ委員會デ十分ニ述ベル積リデアリマスカラ、最モ重要ナル點ハ此新聞紙法ト出版法トヲ統一シテ、一ツノ法案ニシタコトガ、ソレカラ今日言論ヲ致スノニ金ヲ納メテ、即チ保證金ヲ納メテ初テ言論ヲスルト云フヤウナコトハ極テ舊イ思想デアル、之ニ就テハ殆ド世界廣シト雖モ、保證金ヲ納メテ初テ物ヲ言ウタリ、文章ヲ書キ得ルト云フヤウナ國ハ無イ、タツタ一ツ印度ニノミ殘ツテ居ル、斯ウ云フ舊イ制度ヲ廢シテシマヒタイ、是ガ本法案ノ最モ骨子ト爲ツテ居ル、之ニ就キマシテハ多ク現在ノ言論界ノ牛耳ヲ握ツテ居ル新聞社ナドハ、或ハ濫發ヲ防グ爲ニ此精神ニハ反對カノ如キ噂ヲ聞イタノデアアル、如何ニ濫發ヲシマシテモ、自由ニ物ヲ言ヘルト云フ立場カラ、ドウシテモ私ハ此保證金制度ノ全廢ト云フコトニ對シテハ、立憲ノ本質上サウドウシテモシナケレバナラヌト思フ、其他現行新聞紙法、出版法ニ於テハ、朝憲紊亂トカ、安寧秩序トカ、茫漠タル文字ガ使ツテアリマスカラ、裁判官ナリ或ハ當局者ノ自由裁量ニ依リマシテハ、ドンナニデモ言論ヲ壓迫シ得ルヤウニナツテ居リマスノデ、是迄非常ニ多クノ犠牲ヲ拂ツテ居リマス、斯ウ云フコトハイカヌト云フノデ、列舉主義ニ致シテ居ルノガ本改正案ノ骨子デアリマス、具體的ニ斯ウ云フ事項ハ書イテハイカヌト云フコトヲ、五ツ六ツ擧ゲタノデアリマシテ、ソレハ條文ニ就テ御覽ヲ願ヒタイト思フ、其他現在ノ新聞雜誌ニ付キマシテ、是ハイカヌト云フテ差押ラ食ツタラバ、ソレニ對シテ或ハ發行禁止、發賣頒布ノ禁止ヲ食ツタ場合ニ、相當ナル理由ガアツテモ行政處分ニハ其儘從ツテ、何等當局ニ對シテ之ヲ質ス所ノ事ガ認メラレテ居ナイ、是デハイカヌト云フノデ行政訴訟ノ提起ヲシ得ル權利ヲ改正案ニハ認メテ居ル、其他擧ゲマスレバ澤山アリマスケレドモ、詳シイ事ハ委員會デ述べマス、願クハ早ク此舊イ法律ヲ改メテ、御互ニ言論自由ノ爲ニ現行出版法、新聞紙法ヲ改正サレンコトヲ希望シテ、此說明ヲ終リタイト思フ、尙ホ勿論此法案ニ付キマシテハ不備ナル點モアリマスカラ、其點ニ付テハ根本ガ認メテ戴ケレバ、條文ノ末節ハ如何ヤウニモ修正シテ宜イト云フ廣イ考ヲ持ツテ居リマスカラ、宜シク御審議ヲ願ヒタイト思フ



次テ本案ハ安達謙藏君外六名提出職業紹介法中改正法律案(一〇)外三件委員ニ併セ付託スルニ決  
ス委員會ハ審査ニ着手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラザリキ

二四 水先法中改正法律案

水先法中左ノ通改正ス

第三條中第一號ヲ削リ第二號ヲ第一號ニ改メ以下順次繰上ク

右ハ十二年二月二日阪上貞信君之ヲ提出ス二月八日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨  
ヲ辯明セリ

只今日程ニ上ッテ居リマスル水先法中改正法律案ハ、昨四十五議會ニ於キマシテ、本院ヲ通過致  
シテ居ル、而シテ貴族院ニ於キマシテ、會期切迫ノ爲ニ本案ハ審議未了ニ終ッタノデアリマス、故  
ニ今期再ビ茲ニ本案ヲ提出致シマシテ、皆サンノ御同意ヲ仰ガントスルノデアリマス、簡單ニ提  
出ノ理由ヲ述ベマシテ、御贊同ヲ得タイト思フ、本法ハ明治三十三年ノ制定ニ係ル所ノ法律デア  
リマシテ、其第三條ニ於テ、年齢滿二十二年ニ達セザル者及滿六十一年以上ノ者ト云フ制限ガアル  
ノデアリマス、即チ二十三年カラ六十年迄ハ水先人トシテ業務ヲ營ムコトガ出來ルガ、六十歳ニ  
達スレバ直ニ其免狀ヲ返付セナケレバナラヌト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、此制限ニ付  
テ私ハ法制統一ノ上カラ見マシテモ、總テノ點カラ考ヘマシテモ、最モ不適當ナル所ノ制限デハ  
ナカラウカト感ズル、此法律ガ出來マシタ當時ニ於テ、何故ニ斯ノ如キ制限ヲ設ケタカト云フ  
ト、是ハ一ノ政略上ノ立法デアリマス、當時我國ニ於テハ外國人ノ水先人ト云フモノガ多ク居タ  
ノデアリマス、然ルニ本法ヲ制定致シマシテ、總テノ水先人ヲシテ内地人ニ此水先業務ヲ營マシ

メルト云フ考カラシテ、ドウシテモ外國人ノ水先人ハ之ヲ罷メサセナケレバナラヌト云フ必要  
ガ生ジテ來タノデアリマス、爲ニ此法律ニ於キマシテ、外國人ニ對スル所ノ水先人ニ制限ヲ設ケ  
ナケレバナラナカッタノデアリマスルガ、國際上ノ關係ガアリマスルガ故ニ、直ニ之ヲ罷メサス  
ト云フコトニハ參ラヌ、是ニ於キマシテ附則第三十條ニ於テ「此法律施行後五年間ヲ限リ主務大  
臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘ラス 水先免狀ヲ授與スルコトヲ得」ト云フ規定ガ設ケラレテアル  
ノデアリマス、而シテ又此滿五年ヲ經過シマシテモ、尙ホ外國人ニ對スル所ノ所謂水先人ニ對シ  
テハ、營業ヲ繼續シ得ルコトガ出來ルト云フ規定ガ、更ニ第三十三條ノ末項ニ規定サレテ居ルノ  
デアリマシテ、外國人ハ何時迄モ我國ニ於テ水先業務ヲ營ムコトガ出來ルト云フコトニナッテ參  
タノデアリマス、茲ニ於テドウシテモ之ヲ制限シナケレバナラヌト云フ必要カラシテ、只今申上  
ゲタ通り六十年ニ達スレバ當然内外人ヲ問ハズ、總テ免狀ヲ返付シナケレバナラヌト云フ規定  
ヲ設ケテ、此外國人水先人ヲ排斥スル所ノ規定ガ設ケラレタモノデアルト思フノデアリマス、斯  
様ナ理由ニ依リマシテ、即チ政略上ノ立法カラ是ハ設ケラレタノデアリマスルガ故ニ、此規定ガ偶内  
地人ノ水先人ノ爲ニ非常ナル不利益ヲ生ジテ來タノデアリマス、即チ内地人ハ滿六十年ニ至ラズシ  
テ——六十年ト云フ規定デアリマスカラ大抵五十七八歳ニシテ其職ヲ退カナケレバナラヌト云  
フコトニナッテ參ラタノデアリマス、是ハ洵ニ私共今日經濟上總テノ點カラ考ヘマシテ、此水先人  
業務ト雖モ矢張自由競争ニ支配サレル所ノモノデアリマスカラ、苟モ一旦法律ガ認メテ其免狀  
ヲ交付シテ資格ヲ有シタル所ノ者ガ、或ル一定ノ年限ニ達スレバ直ニ其職ヲ退カナケレバナラ  
ヌト云フコトハ、是ハ甚シキ立法ノ一ノ弊害デアルト考ヘル、即チ醫師ニ致シマシテモ或ハ又藥  
劑師ニ致シマシテモ、或ハ獸醫ニ致シマシテモ、或ハ機關士ニ致シマシテモ、苟モ免許制度ヲ設  
ケテ一度人ニ免狀ヲ交付シテ居ルモノニ限ッテ、其免許ヲ受ケタル者ガ一定ノ年齢ニ達スレバ當  
然其職ヲ罷メナケレバナラヌト云フ法制ハ、我國ノ法制ノ上ニ於テ一ツモ無い、獨リ此水先人ニ  
限リテ斯ノ如キ制限ノ規定ヲ設ケテアルト云フコトハ、立法上甚シキ弊害デハナイカト思フ、  
或人ハ六十年ニ達スレバ最早身心ガ老衰シテ、是ガ爲ニ水先人ノ如キ最モ貴重ナル人命ヲ預カ



ル所ノ此職務ニ堪ヘザルガ爲ニ、法ハ斯ノ如キ規定ヲ設ケタモノデアルト云フコトヲ言ッテ居リマスガ、私ハ水先人ノ如キ業務デアルガ故ニ、經驗益々豊富ニシテ、而シテ其技術ト云フモノガ最モ老熟シテ來ナケレバナラヌ、老熟シテ初テ其職務ヲ十分ニ執行シ得ルコトガ出來ルモノダラウト考ヘル、技能圓熟或ハ經驗豊富ナル所ノ水先人ハ、ドウシテモ相當ナル年齢ニ達シナケレバナラヌト云フコトハ申スマデモナイ、然ルニ只今申上ゲタヤウナ風ニ、是ガ一定ノ年齢ニ達スルト云フ爲ニ、職ヲ退カナケレバナラヌト云フコトハ、甚ダ謂レナイコトデアラウト思フノデアリマス、ソレカラ又二十三年以上ト云フコトデアリマスルガ、是ハ別段ニ法律ヲ以テ此規定ヲ設ケル必要ハナカラウカト思フ、ソレハ何デアルカト云ヘバ、明治三十二年ノ遞信省令第三十四號ノ水先人試験規程第三條並ニ船舶職員試験規程ガアリマシテ、滿二十三歳ニ達セザル者ハ所謂水先人トナルコトガ出來ナイト云フ規定ニナツテ居ルノデアリマス、故ニ法律ハ別段此水先法ヲ以テ二十三年以上ト云フ制限ヲ爲スベキ必要ハナイ、即チ此船舶職員規程ニ依ッテ當然制限サレテ居ルノデアリマスガ故ニ、別段斯ウ云フ重複シタル規定ヲ設ケル必要ハナカラウト考ヘルデアリマス、大體斯様ナル理由デアリマシテ、此法律ハ法制ノ統一ノ上カラ見マシテモ、或ハ人ト云フモノニ對シテ一旦附與シタル權利ヲ、故ナク消滅セシメルト云フヤウナコトハ、今日ノ進歩シタル法律ノ上カラ見レバ、甚ダ宜シクナイト云フ考カラ、吾々ハ本案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、詳シイ事ハ委員會ニ於テ尙ホ申上ゲマスカラ、ドウカ滿場ノ御贊同ヲ得タイノデアリマス

次テ本案ハ木下甚三郎君提出電信線電話線建設條例第六條ニ依ル手當金増額ニ關スル建議案(四)外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

報告ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ水先法中改正法律案ノ委員會ニ於ケル經過ヲ御報告致シマス、委員會ハ數回ニ亘リマシテ委員會ヲ開會致シマシテ、色々質問應答ヲ重ネマシタ結果、滿場一致ヲ以テ可決致シタ次第デアリマス、此段御報告致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ニ於テ議決ヲ經ルニ至ラザリキ

二五 商法中改正法律案

商法中左ノ通改正ス

第一百五十二條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

株式會社ノ第二回及其後ノ拂込ハ株主總會ノ議決ヲ要ス

右ハ十二年二月三日山邊常重君之ヲ提出ス二月二十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本員ハ只今議題ニナリマシタ商法中改正法律案ニ付テ、簡單ニ其趣旨ヲ辯明致シマス、御承知ノ通り現行商法ハ明治三十二年三月九日、法律第四十八號ヲ以テ公布セラレタ法律デアリマス、私共ガ現行商法ヲ通覽致シマスルト云フト、改正ヲ要スル點ガ多クアリマスケレドモ、其中最モ改正ノ急ヲ痛切ニ感ジテ居リマスル點ハ株式會社ノ拂込ニ關スル規定デアリマス、現在ノ商法ハ



株式會社ノ第一回拂込ニ付テハ任意主義ヲ採用シマシテ、第一回拂込ヲ濟マセマシテ事業ニ著手スルト云フ會社ガ、殆ド現在ノ八割八分ヲ占メテ居ル、更ニ第二回拂込ト第三回拂込ハ、多クハ取締役會ノ決議ニ依リテ自由ニ株主ニ對シテ請求スルコトガ出來ル、御承知ノ通り財界好況時代ニ澤山ノ會社ガ出來マシテ、其澤山ノ新設會社ガ出來マシタ其多クハ、殆ド現在ニ於テハ第一回拂込ノ株金ハ全部缺損ニナリシマツテ、更ニ第二回第三回ノ拂込ヲ強要シツ、アル有様デアリマス、ソレモ有利ナ事業デアリマシテ、又確實ナル事業デアリマシタナラバ、第二回第三回ノ拂込ヲ株主トシテ拂込ムコトハ敢テ辭シマセヌケレドモ、將來ノ見込付カズ、又事業ノ基礎モ確カデナイ所謂泡沫會社ト云フヤウナ會社ニ對シテ、株主トシテ第三回、第四回ノ拂込ヲスルト云フコトハ甚ダ苦痛デアル、ソレガ爲ニ私共ハ第二回以後ノ拂込ハ、株式會社ノ最高機關タル株主總會ヲ開イテ、其議決ヲ經ルニ非レバ第二回及其後ノ拂込ヲスルコトノ出來ナイヤウニ改正シタイト云フノガ私ノ希望デアリマス、サウ致シマスルト云フト、現在既設會社ノ根本ガ整理セラル、ト同時ニ、將來起リマス株式會社ト致シマシテモ、事業ノ見込ノナキ、又一時的ノ泡沫會社ト云フヤウナモノハ、決シテ設立セラレナイヤウニナルト思フ、尙ホ現在ハ經濟界ノ反動ノ時期ノ整理ガ半バニ進ンデ居リマスケレドモ、此根本法タル商法ノ一部ヲ改正シマシテ、第二回、第三回ノ拂込ニ付テ相當ノ制限ヲ加フルニ非レバ中々多數アル株式會社ノ整理ヲ完全ニスルコトハ出來ナカラウト思フ、ソレガ爲ニ私ハ第五十二條第四項ト致シマシテ「株式會社ノ第二回及其後ノ拂込ハ株主總會ノ議決ヲ要ス」此簡單ナル一項ヲ加ヘタイト云フノガ私ノ趣意デアリマス、何卒御審議ノ上御賛成アラント希望スルノデアリマス

次テ本案ハ上島益三郎君提出身元保證ニ關スル法律案(一三)外四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ否決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出シタルモ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

二六 國籍法中改正法律案

國籍法中左ノ通改正ス  
第二十四條第一項ヲ削ル

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十二年二月六日植原悦二郎君外二名之ヲ提出ス二月二十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(植原悦二郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今議題ト爲ッテ居リマスル國籍法中改正法律案ニ付キマシテ、提出ノ理由ヲ申述ベタイト考ヘマス、此問題ハ極テ重要ナル許リデナク、今日ノ世界ノ大勢ト、日本國內ニ於ケル人口ノ問題トニ考慮致シマスレバ、焦眉ノ急ヲ要スル問題デアルト思ヒマス、併ナガラ此國籍法ノ問題ニ付テハ、直接ニ影響サレル所ハ、主トシテ外國ニ在住スル者ナルガ故ニ、此問題ニ付テ動モスレバ深甚ナル考慮ヲ拂ハレザルコトハ甚ダ遺憾トスルデアリマス、此問題ニ付キマシテハ、昨年ノ議會ニ私ガ建議案ヲ提出致シマシタ、本年度ハ更ニ進ンデ茲ニ法律案ヲ提出致シテ居リマス、元來國籍法ニ付キマシテハ、世界各國トモ大略二ツノ様式ヲ取ッテ居リマス、一ツハ血族主義ニ基クモノ、他ハ屬地主義ノモノデアリマス、元カラ海外發展ヲ力メテ居リマシタ所「アングロサクソン」人、即チ英米ノ系統ニ於キマシテハ、屬地主義ヲ採ッテ居リマス、而シテ帝國主義若クハ軍國主義ノ思潮ニ依リマシテ、國家ノ經綸ヲ行ウテ居リマシタ歐羅巴大陸、特ニ獨佛ニ於キマシテハ、血族主義ノ國籍法ヲ採用シテ居リマス、現在ニ於ケル我國ノ國籍法ハ、帝政時代ニ於ケル所ノ獨逸帝國ノ



血族主義ノ國籍法ノ趣意ヲ採用シタモノト申スベキモノデアルト私ハ考ヘテ居リマス、私ガ申ス迄モナク、今日如何ニ國內ニ於ケル所ノ人口ガ増加シ國內ニ於テ人口ノ過剩ノ壓迫ヲ感ズル國ガアルト致シマシテモ、領土ノ擴張ヲ以テ其人口ノ移轉ヲ圖ルト云フコトハ、既ニ許サザル所ノ時代トナツテ居ルコトハ明カデアリマス、若シ敢テ今日國內ニ於ケル所ノ人口ノ壓迫ノ爲ニ、帝國主義或ハ軍國主義ヲ採リマシテ、國ヲ建ツル國ガアリト致シマスナラバ、獨逸帝國ノ如キ覆轍ヲ見ルコトハ疑ナイト信ジテ居リマス、私共日本ノ現狀ニ鑑ミマシテ、何ト致シマシテモ、日本ノ將來ハ、産業立國ニ依ツテ國是ヲ定メ、國策ヲ樹テナケレバナラヌト確信致シテ居リマス、而シテ御承知ノ如ク、日本ハ四面環海、領土ハ極メテ狭小、國內ニハ人口稠密シ、天然ノ富源ハ極テ貧弱デアリマス、ソレ故ニ我國ガ將來産業立國ヲ以テ其國是ヲ定メナケレバナラナイモノト致シマスルナラバ、原料ヲ海外ヨリ求メルニ致シマシテモ、日本ニ製造出來マシタ所ノ商品ヲ海外ニ販賣スルニ致シマシテモ、多數ノ國民ガ海外ニ發展スルノ策ヲ講ジナケレバナラナイト確信致シテ居リマス、故ニ我國ノ商工業ノ立場ヨリ致シマシテモ、我が國民ヲ努メテ海外ニ發展セシムメ、彼等ヲシテ原料ヲ海外ヨリ集蒐セシメ、又彼等ヲシテ我國ノ製造工業品ヲ海外ニ販賣セシムルノ販路ヲ擴張セシメナケレバナラナイト思フテ居リマス、之ニ就キマシテモ、海外發展ノ極テ焦眉ノ急務ナルコトハ申ス迄モアリマセヌ、更ニ昨年マデハソレ程デモアリマセヌデシタケレドモ、本年ノ議會ニ於テ農村ノ振興問題ガ極テヤカマシクナリマシタ、或點カラ申シマスレバ喜ブベキ現象デアリマセウ、併ナガラ殆ト今日ノ如ク農民ガ生活ニ窮迫シ、農村經濟破綻ノ域ニ至ル狀態ハ、決シテ喜ブベキ事デアリマセヌ、若シ私共ガ、日本ノ現在ノ農村ノ根本的改造ヲ圖ラウト致シマスレバ、ソレニ連ツテ起ル所ノ問題ハ人口問題デアルト確信致シテ居リマス、如何ニ農具ヲ改良致シ、如何ニ産業組合ノ發達ヲ完成致シ、如何ニ經濟的ニ農業ヲ營マシムルヤウニ致シマシテモ、農村ニ於ケル所ノ人口問題ノ調節ヲ圖ラナケレバ、農村ノ根本的振興ヲ畫スルコトハ出來ナイト、私ハ確信致シテ居リマス、既ニ農村ニ於ケル所ノ家族の工業ハ破レテ、今ヤ國內ヲ漲ッテ機械的工業ノ時代ニ進ミ、全國ヲ舉ゲテ産業革命ノ域ニ猛進セントシテ居ルノ

狀態デアリマス、此場合ニ於キマシテ、私共ハ農村ノ問題ヲ極テ眞面目ニ考慮致スニ付キマシテモ、人口ノ問題ヲ考慮致サナケレバナラナイ、此點ニ付キマシテハ政友會カラ農村振興ニ對スル建議案ヲ御提出ニナリマシタトキニ、農村ノ人口ヲ努メテ海外ニ發展セシムル策ヲ講ジナケレバナラナイト云フコトハ、政友會ノ提出者ノ説明ニ依ツテモ明カナル事デアリマス、産業立國ノ立場カラ申シマシテモ、農村振興ノ根本ノ立場カラ考慮致シマシテモ、私共日本ノ國民ノ海外發展ヲ、極テ容易ニ出來ルヤウニ方針ヲ立テナケレバナラナイト考ヘテ居リマス、此場合ニ於キマシテ、私ガ茲ニ提案シテ居リマスル所ノ國籍法、特ニ二重國籍法ノ事ヲ意味スル、我國ニ於キマシテハ前段申シ述ベマシタ通り、血族主義ニ基ク國籍法ヲ定メテ居リマスガ故ニ、我國ノ人ニシテ海外ニ移住シ、其處ニ子供ヲ持チマス所ノ者ニ於テハ、其子供ハ悉ク二重ノ國籍ヲ多クノ場合ニ於テ有スルコトニナツテ居リマス、特ニ私ハ英米ノ兩國ニ於テ有スル所ノ領土内ニ、我が國民ガ移住致シマシテ、其處ニ子女ヲ設ケマシタ場合ニハ、英米等ノ國ニ於キマシテハ屬地主義、即チ其處ニ生レマシタ者ハ如何ナル世界ノ人種デアラウトモ、其生レタ土地ノ國籍ヲ有スル所ノ國籍法ヲ定メテ居リマス、然ルニ我國ニ於キマシテハ血族主義ヲ採ツテ居リマスルガ故ニ、我國ノ國籍法ニ依リマスレバ、我が大和民族ハ如何ナル土地ニ行ツテ子女ヲ舉ゲマシテモ、其子女ハ當然日本ノ臣民タル所ノ國籍トナツテ居ル、此問題ノ爲ニ、如何ニ我國ノ政府ガ南米其他ノ土地ニ移民ヲ送リマシテ、彼等ノ永住的地盤ヲ造ラシメヤウト致シマシテモ、此國籍法ノ爲ニ安心シテ永遠ノ策ヲ立ツルコトハ出來マセヌ、特ニ此二重國籍ノ問題ノ爲ニ、亞米利加ニ在任致シマスル所ノ十四萬ノ同胞ハ、殆ト其將來ノ發展ニ對シテ、前途ノ光明ヲ認ムルコトガ出來ナイ狀態デアリマス、一昨日此演壇ニ於キマシテ清水君ガ申サレマシタ通り、米國ニ於キマシテハ昨年歸化權ノ問題ガ日本人ノ手ニ依ツテ訴訟サレ、米國ノ高等法院ニ依リマシテ、日本人ハ絕對ニ歸化スルコトノ出來ナイト云フ所ノ判決ガ下リマシタ、私ハ此問題ニ付テモ、米國民ガ日本國民ニ對シテ偏見ヲ有スルガ故ニ、成ハ帝國主義、侵略主義ヲ有スルガ故ニ、斯ノ如キ判決ヲ下シタトハ毛頭信セサル者デアリマス、米國ノ高等法院ノ「サザラント」ノ判決ヲ見マスレバ、實ニ公平ナル所ノ



判決文デアリマス、純然タル法理ニ則ツテ、米國ノ歸化法ニ基キマシテ、現在ノ歸化法ニ於キマシテハ如何ナル方面カラ考慮致シマシテモ、日本人ニ歸化ヲ許スコトノ出來ナイト云フコトハ明瞭デアリマス、是マデ米國ニ於キマシテ高等法院ニ於テ、日本人ノ歸化問題ガ争ハレタ事ガ無カッタガ故ニ、米國ノ歸化法ヲ幾多ニ解釋シテ居リマシタ、ソレ故ニ或州ニ於テハ日本人ニ歸化權ガアルト認め、或州ニ於テハ歸化權ナシト認めテ居リマシテ、殆ド其去就ニ迷ウテ居リマシタガ、今日ハ既ニ米國ノ高等法院ノ判決ニ依リマシテ、日本人ハ米國ニ歸化シ能ハザルコトガ明瞭ニナリマシタ、私ガ申スマデモナク、數年前ヨリ日本人ガ最モ米國ニ於テ密集シテ居リマス所ノ太平洋沿岸ニ於テ、排日的ノ幾多ノ法律ガ制定セラレテ居ルコトハ御承知デアリマセウ、數年前マデ加州ニ於テハ日本人ト雖モ土地ヲ所有スルコトガ出來マシタ、然ルニ加州ノ外人土地所有法案ノ制定ニ依リ、今日デハ日本人即チ外國人ガ如何ナルコトヲ致シマシテモ、加州ニ於テ土地ヲ所有スルコトガ出來ナクナリ、オレゴンニ於テモ然リ、ワシントン州ニ於テモ左様ナ状態デアリマス、此場合ニ於キマシテ、日本人ガ太平洋沿岸ニ於テ隨分故國ノ人ノ想像スルコトノ出來ナイ程ニ發展シテ居リマス、其主ナル發展ハ農業デアリマス、然ルニ土地ヲ所有スルコトガ出來ズ、三年以上土地ヲ借用スルコトガ出來ズ、多年十四萬ノ日本人ガ、太平洋沿岸ニ於テ築上ゲタ所ノ根柢ヲ殆ド破壊セラレントスル状態デアリマス、此場合ニ於テ彼等ガ將來發展シ得ル途ハ唯一ツアルノデアリマス、太平洋沿岸ニ於テ既ニ日本人ノ父母ニ於テ生レタル所ノ兒童ハ二三萬ヲ算ヘテ居リマス、是等ノ者ハ米國ノ國籍法ニヨリテ當然米國ノ市民デアリマス、然ルニ日本國籍法ニ依リマシテ、同時ニ是等ノ兒童ハ日本ノ臣民デアアルノデアリマス、米國ト致シマシテハ、或ル一方ニ於テ忠勤ヲ盡ス者ニ對シテハ、假令米國內ニ生レタ兒童ニ對シテモ、其市民權ヲ認めズト云フコトヲ聲明シタルノミナラズ、嘗テハ二重國籍ノ爲ニ獨逸ノ移民ガ隨分惱ンダ所ノ實例ハ澤山アリマス、現在ニ於テ太平洋沿岸ニ於ケル十四萬ノ日本人ガ、將來ノ發展ヲ盡サウトスレバ、米國ニ於テ生レタ所ノ子女ニ當然市民權タル所ノ權利ヲ持タシメテ、是等ニ財產ヲ所有セシメ、其發展ヲ講ズルヨリ外ニ途ガ無イ、我國ノ國籍法ニハ斯様ナ規定ガアリマス、國籍法ノ第二十條ニ於キマシテ、本人ノ志望ニ

依ッテ我國ノ國籍ヲ脱スルコトノ出來ル規定ガ存在シテ居リマス、而シテ二十一條ニ於キマシテハ、斯様ナ規定ガ存在シテ居リマス、滿十五歲未滿ノ者ハ法定代理人ニ依ッテ届出ヲ爲セバ、國籍ヲ離脱スルコトガ出來ルヤウニナツテ居リマス、原則トシテハ外國ニ生レタ所ノ子女ハ國籍ヲ脱スルコトノ規定ヲ設ケテ居リマスガ、第二十四條ニ於キマシテ斯様ナ規定ガアリマス、滿十七歲以上ノ者ハ如何ナル事情ガアラウトモ、絶對ニ國籍ヲ離脱スルコトノ出來ナイ規定ニナツテ居リマス、法ノ精神カラ云ツテモ極テ矛盾ナモノデアリマス、本人ノ死亡ニ依ッテ日本ノ國籍ヲ離脱スルコトガ出來ルト云フ規定ヲ設ケ、滿十七歲未滿ノ者ハ其法定代理人若クハ親ガ自由ニ日本ノ國籍ヲ離脱セシメヤウトスレバ之ヲ爲シ得ルノデアリマス、然ルニ自己ノ自由意思ガ稍起ッテ參リマスル所ノ滿十七歲以上ノ者ハ、國籍ヲ離脱スルコトノ出來ナイ規定ニナツテ居ルガ故ニ、法其モノカラ云ヒマシテモ、矛盾ノ規定ヲ有シテ居ルコトデアリマスノミナラズ、今日ノ國際法ノ原則ニ依リマスレバ、何處ノ國ニ於キマシテモ、本人ノ自由意思ニ依ッテ其國籍ヲ定ムルト云フコトガ原則デアリマス、故ニ現在ノ日本ノ國籍法ハ、法ソレ自體ニ於テモ矛盾ヲ有シ、國際公法ノ見地ヨリ申シマシテモ、一大矛盾ヲ有シテ居ルモノデアリマス、是モ日本ノ國民ノ海外發展ニ有利ナ事デアレバ何ヲカ申サヌデアリマス、然ルニ此規定ガアリマスルガ故ニ、如何ニ吾ミガ日本國民ノ海外發展ヲ望ミマシテモ、又海外ニ於ケル者ガ如何ニ永住的ノ決心ヲ持ッテ海外發展ヲ畫シテモ、殆ド不可能ノ状態デアリマス、ソレ故ニ私ハ此第二十四條ノ規定、即チ滿十七歲以上ノ者デアリマシテモ、本人ノ自由意思ニ依ッテ日本ノ國籍ヲ離脱スルコトノ出來ルヤウニ、現行國籍法ヲ改正致シタイト云フノデ、本案ヲ提出致シタ、尙ホ此國籍法ニ依リマシテ、ドレダケ海外ニ於ケル日本ノ移民ガ、今日現在ニ於テ障礙ト損失ヲ被ッテ居ルカト云フコトノ詳細ハ、事實ヲ擧ゲテ説明致シ、諸君ノ御考慮ヲ煩シタイト思ウテ居リマス、此問題ニ付キマシテハ、世界ノ大勢、我國ノ内情カラ考ヘマシテ、何方ニ於テモ十分ニ御諒解下サレバ御異議ノ無イコト、確信致シテ居リマス、何卒慎重ニ御審議下スツテ、原案通過ヲ御圖リ下サルヤウニ切望致シマス

田中武雄君ハ贊成演說ヲ爲ス



私ハ本案ニ付キマシテ賛成ノ意見ヲ申述ベタイト考ヘマス、内容ニ付キマシテハ只今植原君ガ  
 ラ詳細ニ御説明ガゴザイマシタ如ク、在外ノ同胞ニ付キマシテ誠ニ重大ナル所ノ問題テ、是ハ重  
 要ナル懸案ノ一ツデゴザイマス、特ニ我國カラ進ンデ解決ヲ付ケナケレバナラヌ問題ノ一ツト  
 考ヘテ居リマスガ、其關係スル所ノ一番多イノハ、植原君ノ言ッタ通り亞米利加ニ居リマス十數  
 萬ノ同胞ノ運命ニ關スル問題デアアル、先程ノ御話ノ如ク、日本人ノ立場ト云フモノハ亞米利加ニ  
 於キマシテ、壓迫ニ次グニ壓迫ヲ以テシテ、日ニ月ニ多年築上ゲマシタル所ノ地盤ハ段々ト奪ハ  
 レツ、アルヤウナ状態デゴザイマス、誠ニ氣ノ毒ナ状態ニ在ル次第デアリマス、斯ウ云フ次第デ  
 ゴザイマシテ、今ハ本國ニ籍ヲ有シ、亞米利加ニ市民權ヲ持ッテ居ル人間ノ所有權迄モフンダクッ  
 テシマハウカト云フヤウナ思想ガ、段々ト實ハ蔓延ラシテ居ルノデアリマス、併シ是ハ考ヘテ見  
 マスレバ、正義人道ヲ高唱スル亞米利加人ト致シマシテ、人類共存及共同ノ生活ヲ高唱スル彼等  
 ト致シマシテ、甚ダ矛盾ヲシテ居ル案ノ如クデアリマスケレドモ、又彼等カラ申シマスナラバ、日本  
 人ノ入國ノ云フモノガ、彼等ニ經濟上ノ不安ヲ來シ、或ハ彼等ノ國民性ノ崩潰ヲ來スト云フ風ナ  
 コトモ、彼等ハ是迄ニ叫ンデ來テ居ル、要スルニ我ノ立場ト彼ノ立場トハ極端ト極端ニアアル、ブラ  
 ス「ト「マイナス」ニアル、「マイナス」ト「プラス」ニアル、此「マイナス」ト「プラス」ト「一ツノ紳  
 士條約」ト云フ風ナ「ヌーボー」的ナ案ヲ以テ結付ケテ、今日迄ニ至ッテ居ルト云フ風ナ次第デア  
 併シ之ヲ考ヘテ見マス、何方ガ眞理デアルカ、此眞理ト云フ風ナ問題ヲ、國際間ニハ形式  
 的ニ解決ヲ付ケル所ノ方法ハ甚ダムツカシイノデゴザイマシテ、先ヅ是ガ爲ニハ相互ノ諒解ヲ付ケ  
 ル、此諒解ト云フコトヲ極テ必要ナル事デアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、詰リ諒解トハドウ  
 云フ程度ノ諒解デアルカ、唯御互ニ諒解シ合フト云フ風ナ簡單ナ事デナク、即チ我ガ國民ノ爲  
 ニ要求スル所ノ權利ト云フモノト、ソレカラ特典ト云フモノガ、又要求セラル、國民ノ權利ト云  
 フモノト、サウシテ自分達ノ立場ト云フモノニ對シマシテ、相容レ得ル程度ノ兩立  
 ケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、是ハ此問題ニ限ラズ、世界ノ如何ナル問題ニ付テモ、國際  
 間ニ最モ重要ナル根本原則デアルト考ヘル、歐羅巴ニ於キマシテ、彼ノ諸強國ガ獨逸及戰敗國

ノ救濟ト云フ所ノ立場ヲ無視シテ、サウシテ事ヲ遂ゲヤウト致シマシテモ、中ニ纏リ惡イヤウナ  
 次第デゴザイマス、ドウシテモ此問題ハ、此精神カラ我カラ進ンデ解決ヲ付ケベキモノト私ハ信  
 ズルノデゴザイマス、丁度日本ニ於キマシテモ、軍國主義ノ傾向ガ段々衰ヘマシテ、サウシテ平和  
 的ノ觀念ト平和的ノ思想ト云フモノガ、國民ノ腦裡ニ傳播ヲ致シテ終リマシタ如ク、斯ウ云フ變化ガ  
 矢張亞米利加ノ在留同胞、在外ノ同胞ノ間ニモ起ッテ參リマシタ、昔ハ日本人ガ亞米利加人ニナ  
 リ、或ハ其他ノ國ノ人間ニ籍ヲ移スト云フガ如キハ、是ハ不忠義デアルト云フ風ナ事モゴザイマ  
 シタ、亞米利加ニ於テ亞米利加ニ歸化スルト云フコトハ不臣デアアル、不忠デアルト云フヤウナ斯  
 ウ云フ思想ハ段々轉化シテ參リマシテ、日本ニ於テ日本人トシテ忠實ナル臣民デアリ得ル所ノ  
 日本人ガ、亞米利加ニ國籍ヲ有スルカラニハ、亞米利加ニ市民權ヲ有スルカラニハ、又忠良ナル亞米  
 利加ノ市民タルベシト云フ思想ガ今ハ輿論トナッテ參ッテ居リマス、此輿論ト云フモノハ色ミナ  
 所ニ現レテ居リマスルガ、昨年布哇ニ居リマストキモ、現ニアノ地ノ同胞ハ日本人團體合同ノ上  
 ニ決議ヲ致シマシテ、此年齡制限撤廢、詰リ本案ノ十七歳ト云フ年齡ノ制限ヲ撤廢シテ、如何ナ  
 ル者モ市民ト爲リ得ルト云フコトニシテ貫ヒタイト云フコトヲ頼ンデ來タヤウナ始末デゴザイ  
 マス、翻テ我國ノ國際的ノ立場ト云フモノハ、甚ダ困難ナル立場ニゴザイマス、特ニ亞米利加ノ如  
 キハ自分ノ軍國主義ノ非常ニ濃厚ナル色彩ヲ無視シマシテ、日本ハ軍國主義デアアル、侵略主義デ  
 アルト云フ風ナコトヲ言ヒ、又之ニ類スル宣傳ト云フモノガ割合ニ勢力ヲ得テ參ッテ居リマス、  
 又總テ此様ナ中傷讒誣ノ中ニ立ッテ、吾々ハ何處マデモ斯ウ云フ事ニ神經過敏ニナラズニ、何處  
 迄モ國際信誼ト信ズル所ハ、進ンデ政黨政派ノ區別ナク、之ニ對シテ敢然トシテ進ミマシテ、斷  
 然之ヲ行ヒマシテ、サウシテ先ヅ立場ヲ明ニシテ要求スベキ所ハ要求シ、讓歩スベキ所ハ讓歩ス  
 ルト云フノガ本義デアラウト考ヘルノデアリマス、此國際的立場ニ立チマシテ、何處迄モ國際信  
 誼ヲ高唱スル我國トシマシテハ、ドウカ此案ノ如キハ植原君ノ説明ノ通り、年齡制限ハ斷然此際  
 撤廢ヲ致シマシテ、サウシテ進ンデ我ヨリ之ヲ實行スベキガ正當デアルト考ヘル次第デゴザイ  
 マスガ故ニ、私ハ茲ニ本案ニ對シマシテ賛成ノ理由ヲ申上グル次第デゴザイマス、ドウゾ滿場ノ



諸君モ私ノ説ニ御賛成ヲ下サイマシテ、ドウカ全院一致ヲ以テ在米十四萬ノ同胞、在外數十萬ノ同胞ノ爲ニ、ドウカ本案ニ對スル特別ナ御了解ヲ願ヒマシテ、本案ノ通過スルヤウニ御骨折ヲ下サランコトヲ御願スル次第デゴザイマス

次テ本案ハ上島益三郎君提出身元保證ニ關スル法律案(二三)外三件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

二七 國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案

第一條 明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法第一條ノ期間内ニ下戻ノ申請ヲ爲ササル者ハ大正十三年三月三十一日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得但シ社寺土地處分ニ依リ官有地ニ編入セラレタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ申請ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條 明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法ニ依リ申請シタル者及同法律施行以前ニ下戻ニ關スル申請書又ハ願書ヲ差出シ同法律ニ依リタルモノト看做サレタルモノニシテ主務大臣ノ處分ニ對シ期限内ニ出訴セサル者ハ大正十三年三月三十一日迄ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ社寺土地處分ニ依リ官有地ニ編入セラレタルモノハ此ノ限ニ在ラス

右ハ十二年二月十日阿部武智雄君外十七名之ヲ提出ス二月二十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(阿部武智雄君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

國有土地森林原野下戻法案ハ、此法律案提出ノ人員ヲ見マシテモ、各派ノ御賛成ヲ得テ居ル問題デアリマシテ、且又此衆議院ノ本議場ニ於キマシテハ、幾年ノ間問題トナッテ居ル問題デアリマスカラ、餘リニ時間ヲ要シマシテ、提出ノ理由ノ申上ゲル程ノ必要モアルマイトハ感ジテ居リマス、併ナガラ此問題ハ、全國ノ山下町村民ニ於テハ直接ニ利害ノ關係ヲ及ボシテ居ル問題デア、此提出ナッテ居ル問題ノ成行ノ如何ト云フコトハ、全國山下村民幾十萬ノ日夜ニ心配シテ居ル問題デア、而シテ此問題ニ付キマシテハ、私共ハ數年以前カラ色々攻究モ致シテ居ルデアリマス、地方ノ輿論トシマシテモ、當年私ハ各種ノ地方ノ大會、其他縣々ノ大會ニ臨ンデ見マシタガ、何ノレ地方モ熱心ナル要望ヲ以テ此問題ノ決議ヲ爲シテ居ル、中ニモ東北ニ於キマシテハ、此問題ハ非常ナル利害ノ關係ガアルノ、昨年モ私ガ此演壇ニ於テ其實況ヲ詳シク申上ゲタ次第デアルカラ、當年ハ是ハ申シマセヌガ要スル、此問題ハ遠ク明治八年カラ九年ニ互ル地租改正以來ノ問題デア、改正ノ場合ノ誤謬ヲ訂正スル意味ニ於テ、アノ法律ガ出タノデアリマシタガ、其法律ノ期限ガ短イ爲ニ、非常ニ出願漏ガ多イ、或ハ又出願シテモ、其裁決ガ農商務省ノ裁決、或ハ行政裁判所ノ判決等ガ其當ヲ失ッテ居ルモノガ澤山アルノデ、行政裁判所ノ判決ガ善イ惡イト云フコトヲ評スルノハ甚ダ宜シクアリマスマイケレドモ、最初認メザル證據ガ、後ニ至ッテ其證據ニ認メラレテ居ルモノモアル、或ハ甲ノ村デ認メナイ證據ガ、乙ノ村ニ至ッテ認メタ證據モアルト云フヤウナ譯デ、或ハ地方ニ依リマシテモ非常ニ其間ニ矛盾ガアルト云フコトガ、歴々トシテ現レテ居リマス、要スルニ最後ノ裁決ガ當ヲ得タモノデアリマスルトシマスレバ、今日ヨリ願ミレバ、斯ノ如キ行政裁判所ノ判決ノ證據トシテ出シタモノデ、尙ホ民間ニアルモノガ澤山殘ッテ居ルト云フ狀況デアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスカラ、此問題ハ當衆議院ニ於テハ、前ニ申上ゲマシタ如ク



私ヨリ彼此申上ゲル必要モアリマセケレドモ、一ツハ政府當局、一ツハ貴族院ノ通過、此難關ガ非常ナ難關ニナツテ居リマスル、政府デハ此問題ヲ聽イテ見マスルト、要スルニ地租改正ノ場合ニ錯誤ガアッタト云フコトハ認メテ居ル、ソレカラ下戻法ノ場合ニ非常ニ遺漏ノアッタト云フコトモ認メテ居ル、然ラバ何故此案ニ同意シテ吳レヌカト斯ウ云ヒマスルト、要スルニ此問題ヲシテモウ一遍期限ヲ設ケテ施行スルトナルト、政府ノ折角計畫シテ居ル所ノ此國有林野ナルモノ、計畫ガ壞レテシマフ、是ガ一ツデアリマス、一ツハ斯ノ如キ法案ヲ幾度モ延シテ行クト際限ガナクナツテ來ル、法案ガ一遍期限ヲ定メタ以上ハ、所謂覆水盆ニ返ラズデ、二度ト延バズモノデナイト云フニ止マルノデアリマス、私ヲシテ之ヲ言ハシメバ、政府ノ國有林野ノ計畫ナルモノハ、元々輪廓ガ大キク出來テ居ルケレドモ、其覆ニ甚ダ不條理ナモノガ這入ッテ居ル、此不條理ナルモノハ即チ一種ノ體ノ内ニ宜シクナイ分子デアルカラ、斯ノ如キモノハ速ニ切取ッテ、殘タ立派ナモノ許リ殘シテ、寧ロ計畫ヲ固クスル方ガ宜イデハナイカト云フノガ私共ノ主張デアリマス、今一ツハ國有林野ヲ以テ一ノ國ノ財産トシテ、其財産ヨリ生ズル利益ヲ以テ一ハ國費ノ助ケニスル、一ハ木材ノ需要供給ニ充テル、木材ノ需要供給ニ充テルハ宜シクアルケレドモ、費用ノ點即チ國費ノ補助ニスルト云フ點ノ如キハ、寧ロ費用ニ關係アルナラ國費ヲ更ニ賦課セヨ、徵收セヨ、税金ヲ求メヨ、此國有林野ノ費用ヲ以テ無理ナ輪廓ヲ作り、無理ナ民有ヲ加ヘ置イテ、即チ還スベキ物ヲ還サズシテ置イテ、期限ガ過ギタカラト云ッテ、所謂不當利得ヲシテ居ッテモ、尙ホ且ツ此財産ヲ維持シテ行カナケレバナラヌ道理ハ無イト思フノデス、私共ノ考デハ——斯ノ如クデアルカラ、速ニ政府ニ於テモ此法案ニ同意セラレテ、サウシテ或ル期限ヲ定メ、相當ノ日限ヲ設ケテ下戻ヲ實行スルヤウニシテ戴キタイ思フ、此下戻ノ方ニ入ラウト云フ反別ハ、先年私共ノ取調べマシタ全國ニ涉ル數ハ委員會デ説明スルコトニシマシテ、此處ニ書イタ物ガアリマスケレドモ省キマス、ソレハ要スルニ大シタモノハアリマセヌ、山下村ノ者ガ朝ニ晩ニ出テ、或ハ秣ヒ、或ハ肥料ヲ採リ、或ハ薪炭ヲ採ルト云フ、實ニ必要ナル場所ガ多イノデアッテ、之ヲ民間ニ下ゲテヤッテモ、決シテ國有財産ノ幾分ヲ傷ケルモノトハナルマイト思フ、政府ノ調べマシタ

明治十年三月現在ノ不要存地調ト云フノガアリマス、約千五六百町歩ノモノガアリマスガ、之ヲ見マシテモ、是等ノモノヲ拂下ゲテモ、下戻案ノ幾分ノ緩和ヲ圖ルコトガ出來ルヤウト思フノデアル、斯ノ如キ次第デアルカラ、決シテ政府ガ無理ニ之ヲ維持シテ、彼此レ言フ必要ハアルマイト思フ、要スルニ私ハ忌憚ナク考ヘテ見マス、明治三十二年ニ此法案ヲ出シマシタガ、其頃ノ政府當局ト今日ノ政府當局ノ考トヲ承ッテ見ルト、今日ノ政府ノ當局即チ農商務ノ大臣、次官、其他局長ニ至ルマデ、僕等ノ案ニハ大ニ同意ヲ表シ、同情ヲ表シテ居ルト考ヘマス、然ルニ農商務省ガ御承知ノ通り、三十二年ニ此法案ヲ出シマシタノハ、古イ明治八年以來ノ間違ノモノヲ出シタノデアリマセウガ、ソレ以來連綿ト引續イテ來テ居ル農商務省デアルノデ、大臣ヤ次官、或ハ局長位迄ハ更ッテ居リマスルケレドモ、其外ノ者ハ子々孫々ト言ッテハ無理デアリマスケレドモ、大體ニ於テ其古イ人ガズツ連綿ト來テ居ルノデ、其頭ノ山ヲ咨ムヤウナ氣ガスルノデ、自分ノ何カ財産デモ殺イデヤルトカ、或ハ幾分ヲ分ケテヤルトカ云フヤウナ實ニ官山ヲ保護スル、官山ヲ纏メテ居ルノヲ以テ一種ノ忠君或ハ愛國トモ考ヘテ居ルデセウ、御勤メトモ考ヘテ居ルデセウガ、私共ニ言ハセルト、誠ニ斯ノ如キ遺憾ナ點ガ澤山アリマス、長イ間私等モ委員會デ此問題ヲ言ウテ見マシタガ、理窟ヲ言ウト確ニ私共ノ理窟ガ通り、民間ノ事情ニモ通ジテ居ル證據モ確デアル、然レドモ今申シタヤウニ、國有財産ト云フモノ、統一ヲ圖リ守ッテ居ルト云フ一點ニ止ルヤウニ思ヒマス、故ニ此國有財産ノ決シテ破壞ト云フ程度ニ至ラヌモノト思ヒマシテ、政府デモ同意ヲシ、速ニ御賛成スルヤウ御願ヒ申シマス、尙ホ細カイ事ハ委員會デ申上ゲルコトニ致シマス

次テ本案ハ鶴澤總明君外二名提出社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案(一七)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月五日本案ニ付第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長清水市太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告



本案ハ御承知ノ通り、町村部落又ハ個人ノ所有ニ係ル森林原野若クハ立木竹ニシテ、地租改正ノ際ニ誤テ官有ニ編入セラレタモノガ頗ル多クアリマス、之ヲ明治三十二年四月國有土地森林原野下戻法ヲ公布シ、其下戻ノ申請ヲ爲ス者ハ、明治三十三年六月三十日迄ニ申請ヲ爲スベク、其以後ハ申請ヲ爲スコトヲ得ザルコトニナツテ居リマス、然ルニ其申請期間ハ僅ニ一年二箇月ニ過ぎマセヌカラ、全ク此法律ヲ知ラザル者、又ハ其證據蒐集等ニ空シク時日ヲ費シテ、此期間内ニ申請スルコトヲ許シ、其申請ニ對シテ、全ク誤ッテ官有ニ歸シタルモノ、如キハ、下戻スコトニ致シタイト云フノガ本案ノ主意デアリマス、之ニ對シテ政府ハ一旦期限ヲ附シテ出シタモノヲ、更ニ又期限ヲ附シテ出スト云フコトハ、策ノ得タルモノデハナイ、故ニ同意シ難イト云フコトデアリマシタ、併ナガラ期限ガ切レタト申シナガラ、明治三十三年六月三十日迄ト云フ僅カ一箇年位ノ期間デハ、到底申請スルコトノ出來ナカッタノハ當然デアルカラ、今日ニ至ル迄其期限ヲ延シテ賞ヒタイト云フ請願或ハ建議案ガ出テ居ル所以デアリマス、大體斯ノ如キ人民ノ所有物ヲ誤ッテ官有ニ於テ國有ニ編入シタモノデアリマスカラ、是ハ返シテヤルノガ國家トシテ當然ノ處置デアラウト考ヘマス、政府ノ反對セラル、ノハ穩當デナイト思フ、ソレデ期限ガ切レタモノヲ、更ニ期限ヲ與ヘテ救済ノ途ヲ取ラレタル家祿賞典祿ノ如キモノハ其一例デアリマス、期限ガ切レタモノ、家祿賞典祿ノ法律ト云フモノヲ更ニ制定シテ、之ニ與ヘラレタ事ガアル、其場合ハ恩典デアリマス、國家ガ恩典ヲ與ヘタモノデアリマスガ、本案ノ場合ハ、人民ノ物ヲ人民ニ返シテ呉レト云フノデアリマスカラ、家祿賞典祿ノ如キ恩典トハ同日ノ論デナイ、人民ノ物ヲ期限ヲ延バシテ與ヘテ呉レト云フノデアリマスカラ、本案ニ於テハ、國家トシテ當然期限ヲ延長スベキモノデアルト云フ理由デアリマス、本案ニ付キマシテモ、數回建議案請願又ハ法律案トシテ年々歲々出ルノデアリマス、全ク國民ノ輿望デアリマシテ、本院ノ何時モ之ヲ大多數若クハ全會一致ヲ以テ通過シテ居ル、今日ノ場合ニ於キマシテ、農村ガ荒廢ヲ極メテ居ル際ニ當リマシテ、斯ノ如キ昔カ

ラ人民ノ所有デアッタ物ヲ町村ニ還付シテヤルコトハ、最モ時宜ニ適シタ事ニナルノデアリマス、ソレデアリマスカラ政府ト致シマシテ反對スルト云フコトハ、其當ヲ得ナイモノデアッテ、篤ト熟考セラレテ、本案ハ政府ニ於キマシテモ同意ヲセラル、ノデアラウト云フコトデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、政府ハ本案ニ反對デアル、贊成ハ出來ヌト云フコトヲ述ベラレマシタガ、併ナガラ本案ニ對シテ同情ヲ持タヌノデハナイト云フコトヲ言ハレタ、國家ガ自ラ良心ガアル、ドウ云フ風ニシテ同情ヲ表スルカト云ヘバ、經營ノ方法ニ依ッテ利益ヲ與ヘル、斯ノ如キ緣故アル町村若クハ個人トシテハ、緣故アル國有林ヲ委託シテ、サウシテ或ハ薪炭若クハ秣刈取リ立木ヲ取ルト云フヤウナ、或ル程度マデ權利ヲ認メルト云フヨリカ利益ヲ與ヘテ、サウシテ同情ノ意ヲ表スルト云フヤウニ種々述ベラレマシタガ、併ナガラ是デハ不徹底デアリマス、本案ノ趣意ニ遠ザカルコト甚シイノデアリマスカラ、委員會ハ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、且ツハ各派一致シテ是ハ提出ニナツテ居ル案デアリマスシ、洵ニ國民ノ輿望デ、殊ニ今日ノ農村ノ荒廢ノ際、最モ適切ナル案デアリマスカラ、從來歷代ノ内閣ニ於テ贊成ヲセナシタトシテモ、今日ノ政府ニ於キマシテハ、善政ヲ標榜シテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ採用セラル、ノガ最モ適當ナ事ト思ヒマス、ソレカラ尙ホ委員會ニ於キマシテ、委員石井研二君ヨリ御料林ニ付テ質問ガ出マシタ、國有林ガ既ニ本案ニ依ッテ下戻申請ノ期限ガ延長サル、ニ付テハ、國有林野ヨリ優良ナルモノヲ選擇シテ成立ツタ御料林デアリマスカラ、國有林ガ下戻ノ申請ガ出來ルナラバ、同一政府デ以テ同一ノ取扱ヲスル御料林ノ場合ニ於キマシテモ、受クベキモノト信ズル、斯ウ云フ希望ガ出テ贊成ヲシタノデアアル、此事ヲ併セテ申上ゲテ置キマス、ソレデ結局斯ノ如ク各派一致デ出タ本案ハ、殆ド毎年同一ノ事ヲ決議シテ、委員會ハ國民ノ輿論ヲ容レテ居ルコトデアリマスカラ、本會ニ於カレマシテモ滿場一致可決確定セラレンコトヲ希望スル、尙ホ私ハ本案ニ一言加ヘテ置キマス、政府ニ於キマシテ篤ト御考ニナルノガ當然デアリマスガ、貴族院ニ於キマシテモ、賢明ナル諸公ハ衆議院ガ斯ノ如ク熱誠ナル國民ノ輿望ヲ容レテ可決確定シタルコトヲ之ヲ大ニ諒トセラレ、本案ハ可決確定セラレンコトヲ切ニ希望スル、御案内ノ通り憲法政治ノ模範國デアリ、代議



政體ノ先輩デアリマス英國ニ於キマシテハ、下院ヲ通過スレバ、上院ハ必ズソレヲ通過スルト云フ憲法上ノ慣習ガアルコトヲ承ツテ居リマス、必ズ賢明ナル貴族院諸公ハ、本案ノ如キ各派一致シテ國民ノ輿望ヲ容レテ可決確定シタルモノハ、必ズ貴族院ニ於テモ可決確定セラル、コトヲ希望シテ已マスデアリマス

山邊常重君ハ贊成演説ヲ爲ス

只今議題ニナリマシタ國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案、是ハ非常ニ重要ナル問題デアリマシテ、是ハ第十八回議會以來第三十一回ノ議會ニ至ルマデ、多數ノ請願者ガアリマシテ、明治三十三年六月三十日之ガ法律トナッテ現ハレタケレドモ、其下戻ノ期間ガ僅ニ一年ト二箇月デアリマシタ爲ニ、或ハ下戻ヲ出願スル人ガ、證據ノ蒐集其他ノ爲ニ時日ヲ費シマシテ、殆ド其中ヲ約二割位シカ目的ヲ達スルコトガ出來ナカッタ、元來此國有土地森林原野ハ、地租改正ノ際ニ誤ッテ官有地ニ編入シタ土地デアリマスカラ、一ツノ法律ヲ設ケテ、之ヲ元ノ所有者ニ返スト云フコトハ當然ノ事デアリマス、殊ニ私ノ長野縣ノ如キハ有名ナ山國デアリマス、殆ド全面積ノ八割八歩ハ山林デアリマス、其中國有林及御料林ガ約七割以上ヲ占メテ居リマス、サウ云フ状態デアリマスカラ、丁度今日山國ニ居リマスケレドモ、一番高イ薪炭ヲ使ッテ居リマス、炭ガ一圓ニ今二貫目、ソレカラ水ノ滴タルヤウナ生薪ガ一圓ニ十七貫、山國ニ居ッテ薪炭ニ苦ンデ居ル、恰度航海中飲料水ニ苦シムト同一ノ結果ヲ來シテ居ルデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、ドウシテモ此法案ハ滿場一致ノ御贊成ヲ得テ、是非其一ツノ法律案トシテ、今期ノ議會ニハ通過ヲ希望スルデアリマス、私ハ何モ此處ニ登ッテ演説ヲスル必要ハアリマセヌデシタケレドモ、政府ガ同意ヲシナイト云フノヲ私ハ甚ダ遺憾ニ思フデアリマス、殊ニ委員長モ申サレマシタ通り、山間僻地ニ參リマシテ、殆ド自分ノ庭先カラ山ガアリマスケレドモ、其多クハ國有林、若クハ御料地ニナッテ居ル、ソレガ爲ニ前申上ゲマシタ通り、山國ニ居テ薪炭ノ高イノニ苦メラレテ居ル今日デアリマスカラ、ドウゾ此邊ヲ御斟酌下サイマシテ、本法案ハ滿場一致ヲ以テ通過致シマスヤウ

御贊成アラシコトヲ希望シテ此壇ヲ降リマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日之ヲ否決ス

二八 所得稅法中改正法律案

所得稅法中左ノ通改正ス

第十六條ノ三 自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料ハ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

右ハ十二年二月十日金光庸夫君外二名之ヲ提出ス二月二十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(金光庸夫君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ生命保險ノ契約ニ依ル掛金ヲ第三種所得稅額ノ中カラ控除シタイト云フ案デゴザイマス是ハ提案ノ理由書ニモ説明シテゴザイマス通りニ、歐米先進國ニ於テハ夙ニ實施サレテ居ル所デアリマシテ其效果ノ顯著ナルコトモ亦歴史ノ明證スル所デアリマス、其一例ヲ擧ゲテ見マシレバ英國ニ於テハ西曆千七百九十八年、即チ今ヲ距ル約百三十年ノ昔ニ於テ、所得稅法ヲ議會ニ提案致シマシタ、彼ノ有名ナル大政治家ニシテ時ノ大宰相タル「ウキリアムピット」ガ自ら提案ノ理由ヲ説明シタノデアリマス「ピット」ハ生命保險獎勵ハ單ニ貯蓄ノ獎勵ニ止マラズ、英國ノ國民性デアル所ノ子孫ノ爲ヲ慮ルトカ弱キ者ヲ助ケルトカ云フ英國ノ美風ヲ助長スル意味ニ於テ、切



言シテ居ルノデアリマス、其提案ノ理由ノ一節ヲ此處ニ御紹介致シマス「ビット」曰ク「自己ガ扶養ノ義務ヲ負フ者ノ爲ニ貯蓄ヲ爲ス一ツノ形式ガアル、即チ生命保險デアアル、家族ノ將來ノ爲ニ貯蓄ヲシテ生活ノ安定ヲ準備スルト云フコトハ、國民生活ノ基礎ヲ鞏固ニシ強大ニスル最モ必要ノ方法デアアル、若シ英國ガ家族即チ子孫ノ將來ヲ慮ラヌト云フコトニナッタナラバ、英國ノ運命ハ蓋シ衰運ニ傾クト見ルノガ適當デアアル、今日生命保險ナルモノガ漸次發達シツ、アルト云フコトハ、英國國民ガ子孫ノ爲ヲ慮ル思想ガ充實シテ居ル證據デアアル、此思想ハ何處迄モ獎勵ヲ鼓吹シテ行カネバナラヌ、是ハ政府トシテノ任務デアアル、此法案ニ於キマシテ所得稅カラ保險料ヲ控除シテ、恩典ヲ與ヘルト云フコトハ、此思想ノ上ニ非常ナル效果ガアルト云フコトハ、余ノ信ジテ疑ハナイ所デアアル」云々ト斯様ニ申シテ居ル、其說明ノ趣意ハ現在ノ我國ノ國情ニ照ラシ、探テ以テ直ニ今回ノ改正案提出ノ理由トナスコトガ出來ルト思フ、英國ニ於テ其當時採用シマシタ所ノ規定ハ、今回ノ我改正案ト全然同ジデアッタノデアリマスガ、其後西曆千八百九十六年「ビクトリア」條例ニ依リ、控除額ハ本人ノ總所得ノ六分ノ一ヲ限度トスルト云フ制限ヲ設ケマシタ、次ニ千九百二十年ニ至リマシテ、戰後ノ根本的稅制整理ヲ爲スニ當ツテ、所得稅法ノ改正モ致シタノデアリマスガ、其改正ニ當リマシテハ、從來ハ所得額ノ中カラ保險料ヲ引クト云フ制度デアリマシタノヲ、改正法ハ查定濟ノ所得稅額ノ中カラ保險料一磅ニ就テ三志ダケ控除スルコトニナッタノデアリマスカラ、丁度保險料總額ニ對シ其一割五分ダケヲ總稅額ノ中カラ引タト云フコトニナル、但第三種ノ所得額二百二十五磅、即チ我國ノ邦貨ニ換算シテ、約二千二百五十圓以上ノ者ハ、所得稅ノ普通率ガ一磅ニ就テ六志、即チ三割デアリマスカラ、保險料ノ一割五分ヲ控除スルノハ普通課稅ノ半額ニ當ルノデアリマスガ、所得額二百二十五磅即チ邦貨二千二百五十圓以下ノモノニ就テハ、課稅率ハ一磅ニ付三志即チ一割五分デアリマスカラ、課稅率ノ全額ニ當ル、併ナガラ全額トカ半額トカ申シマシテモ、所得稅ノ控除額ハ保險料總額ノ一割五分デアリマス、然ルニ我國ニ於テハ二千圓内外ノ所得者ハ、平均百分ノ二位ノ稅率ニシカ當ラナイノデアリマスカラ、其所得稅ヲ全免スルトシテモ、英國ノ控除シテ居ル一割五分ニ較ベレバ、約七

分ノ一位ニシカ當ラナイ、尙ホ千九百十六年六月二十二日前ノ契約ニ就テハ生命保險契約高千磅以内、即チ邦貨約一萬圓以内ノ契約ニアリテハ、其控除額ハ一割五分、二千磅即チ二萬圓以内ガ二割二分、二萬圓以上ニ於テハ其保險料ノ三割ヲ所得稅額ノ内ヨリ引クト云フコトニナツテ居ル、是ハ稅法改正ヨリ一定年限以前ニ契約シタモノニ付テハ、從來ノ所得稅額ヲ參酌シテ斯様ニ等級ヲ定メテアル、尙ホ其外「プロシヤ」「ヘツセン」「ポーセン」和蘭等ニモソレトノ類似ノ法律ガ出來テ居ルノデアリマスガ、今斯様ナ法制ヲ實施シタ效果ガドウデアッタカト申シマス、其實例ノ一ツヲ舉ゲテ見マスレバ、英國ニ於ケル保險界ノ權威タル所謂「ウネールド」、イタイテイ「ブル」會社ノ統計ニ依リマスレバ、此法律ヲ發布スル前十年間ニ於テノ增加率ハ九十萬磅デアッタノデアリマスガ、發布後十年後ノ契約ノ增加率ハ四百萬磅デアリマシテ、即チ此法律ノ發布スル前後ノ各十年間ヲ比較シテ見マスルト、其增加率ガ四倍強ニ當ツテ居ル、之ヲ以テ見マシテモ如何ニ其效果ガ多大デアッタカト云フコトガ分かるノデアリマシテ、「ビット」ノ說明セル提案ノ理由ハ、今日マデ一貫シテ其法律ハ實施サレテ居ル、又佛蘭西ノ碩學「マツキニロツク」ノ如キハ「ビット」以上ノコトヲ論ジテ居ル、米國ノ「ホフマン」ノ如キモ元來保險料ト云フモノハ社會的ノ義務ヲ履行スル一種ノ稅金デアアル、普通ノ貯金デアレバ貯金シテ置イテ何時デモ取ダゲテ何シテ用途ニデモ使フコトガ出來ルガ、保險料ハ取ツテ使フコトガ出來ナイノデアリマシテ、其利益ヲ享受スルモノハ多クノ場合ニ於テ、被扶養義務者即チ子孫デアアルカラ、保險料ナルモノハ此社會的ノ扶養義務ヲ履行スル所ノ一ツノ稅金デアアル、稅金ニ稅金ヲ課スルト云フコトハ善クナイコトデアルト云フヤウナ議論ヲ致シテ居リマス、斯様ニ生命保險ハ社會的ノ事業デアルト云フコトハ今更申上ゲル迄モナイコトデアリマスガ、又一面ニハ其蓄積シタル所ノ資金ハ産業ノ資金トナリマシテ、産業貿易ニ貢獻スルコトハ多大ナルモノデアリマスノミナラズ、ソレニ依ツテ間接ニハ稅源モ涵養セレテ租稅ノ收入モ殖エテ參リマス爲ニ、稅法改正ニ依ツテ失フ所ノ收入ヲ補ツテ餘リアル次第デアアルカラ、敢テ憂フベキモノデナイト思フ、又思想問題ノ上カラ之ヲ考ヘテ見マスレバ、保險ナルモノハ勤儉貯蓄ノ美風ヲ養成スルハ勿論、堅忍不拔、自制克己ノ精神



ヲ養ヒ、犧牲的精神ヲ養フ上ニ最モ效果ガアルノデアリマス、加之子孫ノ爲ニ慮ル、即チ弱少者ヲ助ケル意味カラシテ日本ノ武士道ノ精神ニモ合致シテ居ルト私ハ信ズル、此子孫ヲ慮ルト云フコトハ、懸テハソレヲ既往ニ遡ラシテ見レバ、祖先ヲ崇拜スルト云フコトニナル、祖先ヲ崇拜スルト云フコトハ英雄ヲ崇拜スルト云フ意味ニモナルノデアリマス、之ヲ横ニ觀察シテ見マズレバ、忠トモナリ孝トモナル、即チ日本ノ大和魂ヲ形造ル所ノ要素ハ弱キ者ヲ助ケル、子孫ノ爲ヲ慮ルト云フコトガ、總テノ源泉ヲ爲シテ居ルモノトモ云フコトガ出來ル、即チ忠臣ハ孝子ノ門ヨリ出ルト云フノト同ジ筆法デ、詰リ子孫ヲ慮ル人ニハ、惡人ハナイト思フ、即チ斯ウ云フ思想、堅忍不拔、自制克己、犧牲的精神、子孫ヲ慮リ祖先ヲ崇拜シ、忠孝トナリ武士道トナル、即チ文化的事業ノ生命保險ヲ獎勵スルコトハ、大正ノ武士道ヲ鼓吹スルト云フヤウナ意味ニモナル、斯様ナ理由デアリマスカラ私ハ是非トモ、此生命保險ヲ獎勵ヲシタイト思フ、即チ國法ヲ以テ生命保險ヲ獎勵スルト云フコトハ、單リ此所得稅法ノ改正ニ依ッテ保險加入者ノ負擔ヲ輕減スルト云フ單純ナ意味ノミデハナクシテ、大ナル意義ガアルコトデアルト思フ、即チ先刻申上ゲマシタヤウナ思想問題ノ善導、ソレカラ社會的經濟的見地ニ於テ、個人生活ノ安定、資金ノ蓄積ソレカラ課稅上ノ點カラ見レバ、小サナ事デアアルヤウデアリマスルガ、申出ニ依ッテ之ヲ引テヤルト云フコトニ致シマスレバ、申出デナケレバ引カレナイカラ、是等ハ皆申告ヲスルト云フコトニナル、今日ハ所得ノ申告ト云フモノハ極メテ僅少デハナイカト思ヒマスカラ、此案ノ實施ニ依ッテ殆ド大部分ノ者ガ申告ヲスルト云フコトニナリマスカラ、一面ニ於テハ、脫稅ノ防止ト云フコトニモナル、何レノ點ヨリ見マシテモ、本案ノ實施ハ最モ有益ナコトデアルト信ズルカラ、ドウカ全會一致御贊成アラントヲ希望致シマス、詳細ノコトハ委員會ニ於テ申述ベマス

次テ本案ハ林田龜太郎君外一名提出明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(三)外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月五日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ理事堀切善兵衛君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ所得稅法中改正法律案外數件ニ關スル委員會ニ付託ニナリマシタ法案デアリマス、本案ノ内容ハ極ク簡單デアリマシテ、所得稅ヲ賦課スル場合ニ、生命保險ノ掛金ハ所得中ヨリ之ヲ控除スベシト云フ趣意デアリマス、本案ニ對シマシテハ政府ヨリ質問ガアリマシテ、提出者金光君ヨリ之ニ對スル御答辯ガアリマシタ、格別討論ハアリマセシタ、唯政府ガ之ニ對シテ如何ニ考ヘテ居ルカト云フコトヲ委員ノ一人ヨリ質問致シマシタル所、政府ハ主意ニ於テハ敢テ反對致ス譯デアリマセスケレドモ、只今ノ所直ニ此案ニ贊成スル譯ニモ參ラヌト云フ答辯デアリマス、採決ノ結果、多數ヲ以テ委員會ハ可決致シマシタ、ソレカラ此案ハ「所得稅法中左ノ通り改正ス第十六條ノ二」トアリマスノ「二」ノ間違ヒダッタサウデアリマス、提出者ヨリ其訂正ノ旨申出ガアリマシタ

作間耕逸君ハ反對演說ヲ爲ス

本案ノ目的ハ、必シモ不可ナリトハ致シマセヌガ、本案自體ノ趣旨ガ甚ダ明確ヲ缺イテ居リマスノミナラズ、所得稅法ヲ斯ノ如ク改正セラレル以上ハ、ソレト共ニ劃一的ニ他ノ法令トノ關係ニ於テモ整理ヲ必要トスル部分ガ極メテ多イ、且ツ元來斯ノ如キ改正ハ、之ヲ部分的ニ行ハズシテ他日必ズ行ハルベキ、又行ハレナケレバナラヌ稅制整理ノ場合ニ、一樣ニ押シナベテ此改正ヲモ企テラル、コトヲ適當ト認メマスルカラ、今日ニ於キマシテ直ニ本案ニ同意ヲ致シ兼ネル依テ反對ヲ表明致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ作間耕逸君ノ反對演說ニ付院議起立採決ノ結果少數ニテ之ヲ否決シ直ニ本案ノ第三讀會ヲ開キ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族



院ニ送付ス同院ハ三月二十五日修正議決シ同日之ヲ本院ニ回付ス  
(回付案)

(小字ハ貴族院修正)

所得税法中左ノ通改正ス

第十六條ノ三、自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミ  
タル保險料ハ、年額二百圓ヲ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

附則

本法ハ大正十三年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

三月二十六日議事日程ヲ變更シ回付案ヲ院議ニ付ス

横田千之助君ハ回付案ニ同意ノ意思ヲ表明セリ

貴族院ノ本案ニ對スル修正ハ、社督政策ノ精神ヲ貫イタモノデアリマシテ、修正可ナリト思量致  
シマス、之ニ依ッテ私ハ貴族院ノ修正ニ同意ノ意思ヲ表明致シマス

院議異議ナク本案ハ貴族院ノ修正ニ同意スルニ決シ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通  
知ス四月六日法律第四十一號ヲ以テ公布セラル

### 二九 産業組合中央金庫法案

産業組合中央金庫法

#### 第一章 總則

第一條 産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トシ産業組合聯合會及産業組合ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セ

シムルコトヲ得

産業組合聯合會ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ代理スルコトヲ得

第三條 産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立免許ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ

存立期間ヲ延長スルコトヲ得

第四條 産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス

産業組合中央金庫ハ資本金全額ノ拂込前ト雖出資者總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本

金ヲ増加スルコトヲ得

第五條 政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス

産業組合聯合會並産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ二百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモノトス政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス政府ノ產業組合中央金庫ニ對シテ所有スヘキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム第七條 商法中株式會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外產業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第八條 產業組合中央金庫ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

第二章 役員

第九條 產業組合中央金庫ニ理事長副理事長各一人理事監事各三人以上ヲ置ク

第十條 理事長ハ產業組合中央金庫ヲ代表シテ其ノ事務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ產業組合中央金庫ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ產業組合中央金庫ノ業務ヲ監査ス

第十一條 理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ス

理事長、副理事長及理事ノ任期ハ五箇年監事ノ任期ハ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

第十二條 產業組合中央金庫ニ評議員二十名以内ヲ置キ主務大臣之ヲ任命ス但シ其ノ半數以上ハ產業組合關係者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ就キ理事長ノ諮問ニ應スルモノトス

評議員ノ任期ハ三箇年トス

第三章 業務

第十三條 產業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

一 所屬產業組合聯合會又ハ所屬產業組合ニ對シ擔保ヲ徵セスシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

二 所屬產業組合聯合會又ハ所屬產業組合ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

三 所屬產業組合聯合會又ハ所屬產業組合ノ爲ニ爲替業務ヲ爲スコト

四 產業組合聯合會產業組合公共團體又ハ營利ヲ目的トセサル法人ヨリ預リ金ヲ爲スコト

第十四條 產業組合中央金庫ハ必要アリト認メタル場合ニ於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 產業組合中央金庫ハ定期預リ金ヲ爲スコトヲ得



第十六條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外預リ金又ハ業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 預リ金ノ四分ノ一以上ハ國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 公共團體、産業組合聯合會、産業組合其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

三 國債又ハ公債若ハ生産物ヲ擔保トスル三箇月以内ノ短期貸付又ハ手形ノ割引ヲ爲スコト

第十七條 無擔保ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ於テ元利金ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキ又ハ期限前ノ償還請求ニ對シ其ノ拂込ヲ爲サ、ルトキハ産業組合中央金庫ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞元利金ヲ拂込マシムヘシ

第十八條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得

第四章 産業債券

第十九條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得

産業債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條ノ二ノ規定ヲ準用セス

第二十條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第二十一條 産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十二條 産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ク

第二十三條 産業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權利ヲ失フモノトス

第二十四條 産業債券ノ發行ニ關スル印紙稅及登錄稅ハ之ヲ免除ス



第二十五條 産業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

商手第五章 計算

第二十六條 産業組合中央金庫ノ事業年度ハ一箇年トス

第二十七條 産業組合中央金庫ハ毎事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立

第六章 監督及補助

第二十八條 主務大臣ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

第二十九條 産業組合中央金庫ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ

第三十一條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關スル諸般ノ狀況及計算報

告書ヲ差出スヘシ  
第三十二條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ産業組合中央金庫ノ貸付又ハ割引ノ金額若ハ

方法ヲ制限スルコトヲ得  
第三十三條 産業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高歩合ハ毎事業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認

可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ事業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十四條 主務大臣ハ特ニ産業組合中央金庫監理官ヲ置キ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監視セ

第三十五條 産業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢

査スルコトヲ得  
産業組合中央金庫監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ産業組合中央金庫ニ命

シテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得  
産業組合中央金庫監理官ハ出資者總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス  
第三十六條 産業組合中央金庫ハ創立初期ヨリ十五箇年間政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲

第七章 罰則

第三十七條 左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上

千圓以下ノ過料ニ處ス  
一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ



二 主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ

三 第十六條ノ規定ニ反シ預リ金又ハ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第十八條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第十九條第一項及第二十一條第二項ノ規定ニ反シタルトキ

第三十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第三十九條 主務大臣ハ設立委員ヲ置キ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セ

第四十條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集ス

第四十一條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申立書ヲ主務大臣ニ提出シ産業組

合中央金庫設立ノ認許ヲ稟請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第四十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ産業組合中央金庫理事長ニ引渡

スヘシ

右ハ十二年二月十日床次竹二郎君外十一名之ヲ提出ス二月二十日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者

(横田千之助君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ中産以下ニ對スル金融機關ヲ設立スル爲ニ、民法第二十三條ノ規定ニ依ッテ、公益的營利法人ノ樹立ヲ目的トスルモノデアリマス、章ヲ分ツコト七、法條ヲ含ムコト四十二、之ヲ法律的ニ解釋ラスレバ、此法案ノ中ニムツカシキ條項ハ五ツカ六ツニ過ギナイ、跡ハ事務的ノ規定ガ多イノデアリマス、併ナガラ今期議會ニ於テ、各黨各派ノ間ニ農村振興ノ問題ガ大ニ起リ、而モ根本政策ニ伴ッテ此農村ノ急ニ應ズル爲ニ、應急ノ政策モ亦必要ナリト云フ聲ガアル時ニ於テハ、唯法律的説明ヲ以テ満足スルコトハ出來ヌ加之本案ガ世ニ現ル、ヤ、一部ノ銀行家、學者、論客、是等ノ方面カラ既ニ反對的批評ノ聲モヤカマシイノデアリマス、尙ホ議場ニ於テ少クモ下院議場ニ於テハ、大勢本案ヲ迎ヘルヤウデアリマスレドモ、發案者タル私ノ手許ニ來ル所ノ有方ナル方面ニ、強キ反對ガアルト云フコトヲ豫メ諸君ニ警告シテ置カナケレバナラナイ、其反對ハ未ダ勢力ヲ成シテ形ニハ現レテ居ラス、併ナガラ此法案ノ上下兩院ヲ通過スル間ニ於テ、如何ナル力ヲ以テ此方御案進路ヲ害スルカモ知レヌノデアリマスルカラ、私ハ此提案ノ説明ヲスル機會ニ、此法案ガ包含スル所ノ精神、及此法案ガ活動スベキ所ノ直接間接ノ問題ノ働ニ向ッテ、時刻ハ遅レテ居リマスルガ、多少諸君ノ時間ニ付テ寛大ナル雅量ヲ持タレンコトヲ豫メ希望シテ置キマス此法案ノ特質ハ、中産以下ニ對スル金融機關デアルト云フコトハ既ニ申上ゲタ通り、更ニ擔保短期貸付、即チ對人信用ヲ基トスルト云フコトガ第二ノ要點ニナッテ居リマス、其組織ニ於テハ株式會社ノ營利的性質カラ努メテ遠ザカル爲ニ、相互組織ノ組合ニ基礎ヲ置クト云フコトニナッテ居ル、其働ノ方面カラ行キマスレバ、此金融ノ機關ヲ置イテ、金融市場、寧ロ金融市場ト云フヨリハ、國家ノ各方面カラ吸取スル所ノ預金部ヨリ呼出ス所ノ低利資金ノ源泉ニ向ッテ、茲ニ貯水池ヲ置カウト云フノデアアル、此貯水池カラ産業聯合會、産業組合ト云フ用水路ヲ通ジテ、中産以下ノ農民ノ勤勞ニ向ッテ灌漑ヲシヤウト云フノガ本案ノ働ニナッテ居ル、說ヲ爲ス者ハ、斯ノ如キ組織ハ今日ニ於テハ既ニ國家ハ用意シテアル、曰ク勸業銀行ノ働、農工銀行ノ働、是等ノモノガアル以上ハ、殊ニ二三年來是等ノ銀行條例トカ銀行法規ノ上ニ、對人信用貸付ノ途ヲ



規定シタル規定が開カレタ以上ハ、此中央金庫ノ如キハ、屋上屋ヲ架スモノデナイカト云フ議論ガアルノデアアル、併ナガラ勸業農工銀行、御承知ノ通り、其成立ノ初ニ於テ産業ノ助長機關デアアル、産業助長獎勵主義カラ出來テ居ル、銀行取引ノ内容ニ於テ、不動産擔保對物信用ト云フモノヲ基礎トシテ造ラレタモノデアアルト云フコトハ、言フ迄モ無イガ、加之何十年間銀行ノ成長シテ居ル所ノ歴史的關係ニ於テ、此銀行ノ内部ノ取引ハ、悉ク對物信用ト云フ所ノ性質ニ向ッテ成長シ來ツタノデアアリマスカラ、如何ニ銀行法規ノ規定ヲ直シテ見テモ、是ハ對人信用無擔保主義ニ向ッテ此ニ集ツタル所ノ資金ヲ注入レルト云フ事ハ、事情ノ上ニ於テモ非常ニ困難ニナツテ居ルノデアリマス、中央金庫ハ産業助長主義ト云フ意味デナクシテ、全然社會政策ノ見地カラ出テ居ルノデアアル、前段申上ゲマシタ通り、中央金庫ト云フ「タンク」ヨリ産業組合ノ用水路ヲ通ジテ、短期少額ノ無擔保貸付ヲ主トスルノデアアリマスカラ、全然社會政策ノ見地カラ出テ居ルノデアリマス、他ノ方面ニ於テハ、擔保主義トナリ、或ル方面ニ於テハ對人信用主義トナツテ居ルノデアリマスガ、此中央金庫ハ全然ソレヲ排斥致シマシテ、併行主義ヲ避ケテ、專門ニ中産以下ノ無擔保貸付主義ニナツテ居ルノデアリマス、且又是等銀行ノ仕事ト云フモノハ株式組織デアリマスカラ、國家ガ優越ナル或ル特殊ノ待遇ヲ與ヘテアリマスケレドモ、是亦純然タル營利會社デアアルコトハ爭ハレナイ、中央金庫ハ此四十二條ノ規定ノ中ニ點々散在スル如ク、努メテ非營利主義ノ形式ヲ採リ、出來ルダケ組合員ノ利益分配ヲ抑制シテ、大部分ノ農民ニ資金ヲ融通シヤウト云フ精神ノ上ニ立脚シ居ルノデアリマス、勸業銀行農工銀行等ノ從來ノ歴史沿革其働ヲ見マスト、多ク絮説スルコトヲ要セズシテ、中産以上ノ資本家ニ利用サレテ居ルコトハ明カデアアル、國家ガ最初設立シタ目的ハ此ニ無カッタカモ知レヌ、大部分ノ農村ニ向ヒ、此中ノ農民ニ對シテ、農業獎勵發達ノ爲ニ資金ヲ供給スルガ半分以上ノ目的デアッタカモ知レヌガ、爾來發達ノ徑路ヲ見レバ、何人ト雖モ中産以上ガ多ク之ヲ利用シテ居ッテ、中産以下ノ農民ノ利用ト云フモノハ、極ク小部分デアルト云フコトハ明白デアアル、即チ今日ニ於テハアレ等ノ銀行ハ國家有要ノ機關デハアリマスカラ、餘リニ資本主義的色彩ガ濃厚ニナツテ、是ダケヲ以テ農村ノ衰廢ヲ防グナドト云フコトハ思モ及

バヌノミナラズ、却テ資本主義ノ旺盛ニ向ッテ、一鞭ヲ加ヘル傾向ヲ持ツト云フコトヲ斷言シテ憚ラヌノデアリマス、土井權大君ハ先日此演壇ニ立ッテ、各大銀行ガ貸付ケタ金ガ約百二十億、而シテ此金ガ農村ニ向ッテ注ガレタノハ三億ニ過ギヌト云フ數字ヲ擧グラレマシタ、其通りデアリマセウ、勸業銀行、正金銀行其他ノ大銀行ニ各方面カラ集ツテ來ル金ガ百二十億デアアルガ、此中カラ農村ニ注ガレタ金ハ三億ニ過ギヌト云フコトヲ言ツタ、跡百二十七億ト云フモノハ、中産以上寧ロ大資産家ノ利用スル所トナツテ居ルト云フ有様、最近ノ統計ニ依ッテ見マシテモ、郵便貯金十億ト稱シ、而モ此内容ヲ分析シテ見レバ其五割以上ハ、全ク中産以下ノ農村ニ居ル農民ノ懐カラ差出サレテ供給サレタモノデアリマス、然ルニ昨年組合ヲ通ジテ斯ウ云フ方面ニ使ハレタモノハ僅ニ二百何十萬圓、組合以外ノ他ノモノヲ通ジテ使ハレタ金ガ五百萬圓、然ルニ都市ニ向ッテ如何ニ此金ガ出テ居ルカト云ヘバ、都市住宅組合ト云フモノノミニ注ガレタ金ハ、實ニ一千萬圓ノ巨額ニ上ツテ居ル、地方ノ農民ノ方面カラ來リ注ガル、モノハ、多クハ都市及中産以上ノ方面ニ注ガル、ト云フコトハ、土井權大君ノ掲ゲラレタ統計ト、今私ノ申上ゲタル統計ヲ對照セラルレバ、思半バニ過ギルダラウト考ヘルノデアリマス、斯様な意味ニ於テ都市否農村中産以下ノ農民多數ニ向ッテノ金融機關ハ、現在ニ於テハ斷ジテ満足ハ出來ナイ、是ニ於テ本案設立ノ必要ガ生ズルノデアリマスルガ、尙ホ此點ニ付テハ心配ガアルト云フコトデアアル、ソレハ何デアアルカト云フト、近來此産業組合ノ發達ハ非常ニ著大ナモノデアアツテ、日本ノ戶數一千萬戸ノ中之ニ這入ッテル者ガ二百何十萬、斯ウ云フコトニナツテ居ル、而シテ一萬何千ノ組合ガアルガ、此組合ノ可ナリ良クナツタモノハ、往々ニシテ此金ナドヲ使込ム者ナドガ出來、或ハ個人寄託ト云フ名義ニ於テ、始終不都合ナ事ナドガ出來ルノガ多イ、金ノ無イ組合ハ萎靡振ハズシテ、形式ガアツテ精神ガ働イテ居ラヌ、斯様なルモノヲ機關トシテ、之ヲ唯一ノ機關トシテ、中央金庫ノ設立ヲシテ働カスカドウカト云フ所ノ心配ガアルヤウデアアル、之ニ付テ辯明ヲ致シテ置キタイノハ、此中央金庫ノ働ハ、此方面ニ付テハ二ツノ目的ヲ有シ、即チ未ダ大ニ振ハントシテ振ハズ、形ガ備ッテ其實體ガ完備セザルモノニ對シテハ、力メテ之ヲ助長ノ方針ヲ執ッテ、之ヲ出來得ル限リ活カシテ行ク、



發達ノ途中ニ在ッテ動モスレバ剩餘金ヲ個人預ナドヲシテ、此間ニ何等カノ間違ガ生ジサウニナッ  
 タモノハ、丁度成育シテ來タ所ノ少年少女青年男女ノ如キモノデアリマス、此所ガ大切ナ所デア  
 ルカラシテ、茲ニ中央金庫ト云フ保護役ヲ附ケテ、斯ノ如キ剩餘金、云フヤウナモノハ力メテ之  
 ヲ吸收シテ、東西互ニ相倚リ相助ケ、有無相通ジテ此中央金庫ニ依ッテ統一綜合制御スルト云フ  
 所ノ目的ヲ持ッテ居ルノデアリマス、右ハ此法案ニ包含シテ居ル所ノ大體ノ法條ノ說明デアリマ  
 スルガ、之ヲ又國民思想ノ上ニ政治的方面カラ考ヘテ行キマスルト云フト、此法案ノ働、此中央  
 金庫ノ働ト云フモノハ、即チ一面ニ於テハ團結事能ノ發揮トナリ、一面ニ於テハ日本古來ノ美風  
 タル、隣保相倚リ相助クル此情誼ノ延長トナル、更ニ又家族主義ノ親愛味ノ擴大トナルノデア  
 ル、經濟的方面カラ見マスレバ長イ間世間ノ爲ニナリ、或ル場合ニ於テハ社會ノ動搖ヲ起ス所ト  
 ナッテ居ル所ノ、經濟的自由競争主義ニ對スル所ノ一ツノ所謂制御トナル、此増上慢ヲ抑ヘル所  
 ノ一ツノ建物トナルノデアリマス、他ノ方面カラ見テ行キマスルト云フト、嚮ニハ町村制及府縣制  
 ノ選舉權ノ擴張ニ依ッテ、政治的ノ自治ニ對スル參與ノ區域ハ著シク擴大サレタノデアリマス、  
 地方農民ニ向ッテ、共同一致シテ經濟的獨立經濟的自治ノ觀念ヲ養ハナケレバナラヌ必要ガ今日  
 最モ追ッテ居ル此場合ニ於キマシテ此法案ガ能ク働キマスレバ、此方面ニ大ナル力ヲ爲シ、大ナ  
 ル基礎ヲ築クト云フコトハ多ク論ズルヲ要セズシテ明白デアラウト考ヘル說明ガ此所ニ至リマ  
 シテ、私ガ說明ノ初頭ニ於テ申上ゲテ置イタ所ノ有力ナル反對論、隱レタル反對論ト云フモノヲ  
 御紹介ヲシテ、之ニ對スル辯明ヲ一ツ加ヘタイト思フ、有力ナル反對論、隱レタル反對論ハ動モ  
 スレバ上院ニ手ヲ伸バシテ此法案ノ穩健ナル發展ヲ害スルノデハナイカト私ハ憂フルノ點デア  
 リマス、ソレハ外デハナイ大政治家ノ議論デアアル、從來此現在ノ行政殊ニ行政費ヲ統轄スル大臣  
 連中ノヤッテ居ル所ヲ見ルト、國務ハ段々複雑ニナルト同時ニ文化機能ガ分解シテ働ヲ爲ス、國  
 家ノ機能ガ之ガ幾ツモ出來ルト云フコトハ是ハ已ムヲ得ナキ、然ルニモ拘ラズ是ハ已ムヲ得ヌト  
 シテモ、之ト同時ニ國家ノ綜合統一ヲスル機關ト云フノハ、此場合ニ於テ最モ嚴肅ニ嚴密ヲ加ヘ  
 ナケレバナラヌ、然ルニ獨リ此内閣トハ言ハヌ、長イ間ノ因襲ガ勢ヲ成シテ文化機能ハ段々ト發

達シテ、内閣ト云フ綜合統一ノ機能ハ段々ト弱マッテ來テ居ル、是ニ於テカ各省悉ク籠城主義トナ  
 リ割據主義トナリ、各省ノ大臣ハ國務大臣タル立場ヲ多クハ忘レテ、一省ノ行政長官タルコトニ  
 重キヲ措イテ、一省ノ屬僚ノ議論ガ國內ノ輿論ト映ズル、而シテ此屬僚ノ輿論ヲ提ゲテ閣議ニ臨  
 ンデ豫算其他ニ於テ、若クハ法制ノ審議ニ於テ總理大臣ニ肉薄スル、斯ノ如キ狀態ニナッテ居ル、  
 此弊害ノ根柢ニ向ッテ先ヅ政治家ハ答ヲ加ヘナケレバナラヌ、激語デハアルカモ知レヌ、是ハ說デ  
 ハナイ、内閣彈劾ノヤウニ聞エケレドモ私ノ說デハナイ、其反對論ヲ紹介スルノデ、激語デハアル  
 カモ知レヌガ、今日ノ狀態各省大臣ハ豫算分取ノ總大將デアッテ、次官以下ノ役人ハ豫算分取ノ勇  
 將猛卒デアアル、斯ウ云フ評ガアル、是ニ於テ大藏大臣ハ何レノ場合ニ於テモ、積極的トヲ問ハズ之  
 ヲシツカリ袋ヲ締メテ、何デモ出サナイヤウニ出サナイヤウニスルノガ職務ノ如クナッテ居ッテ、總  
 理大臣ハ内閣書記官長、法制局長官ト云フ左右ノ翼ヲ使ッテ綜合統一ニ努メテ居ルガ非常ニ困難  
 ヲ感ジテ居ル、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ國家機能、國家意思ハ各省ニ分裂シテ發揮サレルカラシメ、何  
 時モ國家ノ眞目的ト云フモノハ、貫徹シナイト云フ斯ウ云ウ狀態デハ、或ハ此法案ガ成立シテモ  
 大藏省ハ自分管轄ト云ヒ、農商務省ハ自分管轄ト云ヒ、或ハ兩省交々之ヲ監督シテ、サウシテ此  
 法案ノ活キタ精神ト云フモノガ、國情ニ向ッテ十分ニ發揮サレナイ虞ガアリハセヌカ、斯ウ云フ  
 場合ニ於テハ、何ヲ差置イテモ議會ハ法律ナドヲ作ルト云フ閑事業ヲシナイデ、大困難デハアラ  
 ウガ、行政組織ノ根柢ニ向ッテ斧ヲ振ッテ、制度ノ革新ヲ議會一致デ迫ラナケレバナラヌト云フ反  
 對論ガアル、私ハ此論全部悉ク肯定スルモノデアリマセヌ、併ナガラ確ニ時弊ノ中心ヲ射抜イ  
 テ居ル、所ノ矢デアルト私ハ見テ居ル、或ハ制度ノ革新ガ先デアッテ、此法案ノ成立ヲ後ニスルト  
 云フノモノノ議論デアリマスガ、私ハ別ノ方面カラ此法案ヲ先ニ出シテ宜イト云フ一ノ安心ヲ  
 持ッテ居ル、ソレハ何デアアル、行政組織ハ今私ガ紹介シタ程デナクテモ、サウ云フ弊害ガアリマセ  
 ウ、併シ行政組織以外ニ、今國論ノ大部分ガ此農村ヲ振興シナケレバナラヌ、金融機關ノ用水路ヲ  
 ドンナモノデモ差當リ作ラナケレバナラヌト云フコトニ熱狂シテ居ル所ニ、此ニ見ル所ガ私ニ在  
 ル此零圍氣、此環境ノ下ニ用水路ヲ置キマシタナラバ、行政機能ハ或ハ之ニ向ッテ、完全ナル所ノ



法ト世話焼ハ今ハ不十分カ知ラヌ、然レドモ民論カラ起ル此力ニ依ッテ是ガ動力トナツテ、中央金庫ノ機能ト云フモノガ十二分ノ活動ラスベキ方面ニ向フト云フノハ、私ハ確カデアラウト云フ確信ヲ以テ提出シ、尙ホ私ハ此法案ニ聯關シテ御話ヲ致シテ置キタイ事ハ、固ヨリ此法案ガ獨立孤行シテ國家民人ニ大ナル寄與ヲスルト云フ程ニ、私ハ純法律案ニハ落チテハ居ラヌ、此法律ガ出來テ、而シテ周圍ヨリ盛上グル所ノ各種ノ機關ガ其頭ニナラナケレバナラヌ、是ニ於テ吾ハ他ノ別個ノ方面カラシテ、行政ノ根本的整理制度ノ革新、是ハドウシテモシナケレバ、斯ウ云フ法律ヲ幾ラ作ッテモ、本當ノ働ハ出來ヌト云フコトヲ私共ハ考ヘテ居ル、此意味ニ於テハ私共ハ革新俱樂部ノ方ミガ、其政綱ノ多數ノ中ニ行政ノ根本的整理、根本的革新ヲ絶叫セラル、上ニ於テ、空谷梵音ヲ聞クノ感ヲ懷クノデアリマス、唯革新俱樂部ノ方ガ高イ理想ノ松明ヲ掲ゲテ、國民ヲ指導セラレヤウトスル此點ニ於テ、國政ニ貢獻スルコトハ私ハ多イト信ズル、國民黨ノ歴史ヲ飾ル多年ノ仕事ハ是デアル、自由黨以來三十年間ノ歴史デアリマス、此法律案ノ提出モ此意味カラ成ッテ居ル、吾ハガ行政ノ根本的整理ト云フコトヲ御話ヲシタ點ニ於テ、憲政會ノ尊敬スベキ方々カラ屢冷笑ヲ承ル、或ハ不信用デアルト云フコトノ言モ吐カレルノハ、甚ダ以テ私ハ遺憾ニ思フ、是ハ黨派ノ異同ヲ問ハズ、政治家ガ今見テ爲サナケレバナラヌ大事ナ仕事デアル、之ガ出來ナケレバ、此法案ガ幾ラ全智一致デ通ッテモ本當ノ精神ハ働カナイ、而シテ此行政ノ根本的整理ノ前途ニハ、憲政會ノ聰明ナル方々ガ其遂行ヲ危マル、ヤウニ種々ノ難關ガアル、殊ニ近頃副島博士ナドノ口カラヤカマシイ問題トナリ居ル所ノ樞密院論、此樞密院ノ方面ナドニ付テハ非常ナル困難ガ横ハッテ居ル、然レドモ樞密院ノ諸君子モ長キ經驗ノ上カラ割出シタル所ノ保守、自重、因襲尊重ノ風ニハ滿チテ居リマスルケレドモ、若シ議會多數ノ意嚮ガ此ニ在ルト云フコトガ一致シタナラバ、之ヲ阻害スルコトノ勇氣ナドノアルモノデナイト云フコトハ、私ハ斷言シテ置キマス、此意味ニ於テ憲政會ノ方々ハ、皮相ノ松明ヲ高ク掲ゲルト云フコトヲ仕事トシテ居ラレルヨリハ、實行的政黨トシテ任ジラレテ居ルヤウデアル、此方面カラ云フト、吾ハ行政整理ノ問題ト云フモノヲ冷笑スルドコロデハナイ、之ニ參加シ追隨セラル、ノガ政黨トシテノ本義デアル、細

カイ點ニ付テ御話ヲスベキ點ハ幾多モアリマスケレドモ、是ハ委員會ニ讓リマシテ、尙ホ此問題ノ諸君ノ熱心ナル普通選舉ノ關係等ニモ論及シテ、此法案ト云フモノガ此方面ニ働ラ爲スト云フコトヲ一言致シタイ、吾ハ地租委讓ヲ唱ヘ、而シテ又地方自治制ノ政治的參與ノ方面ニ大擴張ヲ加ヘ、更ニ此方面カラシテ、地方民ノ經濟的ノ自治ニ向ッテ自覺ヲ促シテ居ル、斯ノ如ク地租ノ委讓、地方行政ニ對スル參與ノ區域擴大、而シテ本案ノ提出、是等ノ三方カラ攻寄セテ來テ是カラ打出ス所ノモノガ、眞ニ日本ノ國體、國情、民情ニ合致シタル所ノ、選舉權ノ擴張トナルト云フコトヲ今日カラ御話ヲシテ置ク、更ニ是等ノ法案ト云フモノハ、吾黨經綸ノマダ閃ニ過ギナイ、此閃カラ數千條ノ光芒ヲ發シテ、陸離トシテ國家民人ノ前途ヲ照スノモ永キ未來デハナイト云フコトヲ茲ニ斷言スル本案ノ各條章ニ付キマシテハ、不十分ノ點モアルカモ知レヌ、是等ノ事ニ付マシテハ各黨各派ノ意見ニ基イテ、之ヲ美化シ、玉成スル點ニ於テハ、吾ハ各ナラヌ者デアアル

星島二郎君、南鼎三君ハ質疑ヲ爲シ横田千之助君、黒田政府委員之ニ應答ス

星島二郎君ノ質疑

現在ノ社會組織、殊ニ庶民階級ノ經濟ヲ救フニ付キマシテハ、産業組合ノ發達ガ最モ必要デアルト思フノデアリマシテ、私共殊ニ最近露西亞ガアレ程ノ革命ヲシナガラ、尙ホ産業組合ハ儼トシテ存シテ居ルト云フ事由カラ致シマシテモ、如何ニ是ガ人間共存ノ生活ノ原理ニ適ッテ居ル主義デアルカト云フコトヲ知ルコトガ出來ル、サウ云フ意味合カラ、私ハ最近獨リ庶民ノ經濟上ノ問題デハナクシテ、モウ少シ根本ニ入ッテ思想的ニモ此産業組合ノ發達ヲ期シタイト祈ッテ居ル一人デアリマシテ、自ラ小サイ經驗ナドヲ以テ、此法案ニ對シテハ、殊更興味ヲ持ッテ居ル一人デアリマス、同僚ノ土井權大君モ年來熱心ナル組合運動者デアリマシテ、此度大政黨政友會ヨリ政府ニ先ンジテ斯ル法案ノ出タコトニ付キマシテハ、私ハ政友會ニ敬意ヲ表シタイト思フ、併シ其根



本ノ思想ニ付テ今少シク私ハ提案者ニ對シテ御尋シタイト思フ、ソレカラ又一面當局者ニ對シマシテモ、二三此機會ヲ藉リマシテ、御尋ヲシタイト思フ、第一ノ點ニ付キマシテ現在産業組合ノ運用上困ルノハ、勿論中央ノ金融機關ニ困ッテ居ルデアリマスルケレドモ、寧ロソレヨリモ普通ノ金融機關普通銀行トノ連絡ト云ッタヤウナ點ニ於キマシテ、非常ナル不便ヲ感ジテ居ル、若シ一步進ンデ之ヲ組合ノ中央金庫トセズシテ、寧ロ特殊銀行トシテ一般金融界ト連絡シテ、始メテ本當ノ機能ヲ達セラレハアルマイカ、私ハサウ云フ意味合カラ寧ロ産業銀行或ハ産業組合ノ中央銀行トシテ、普通銀行ト取引スルヤウナ仕組ニ何故セラレナカッタカ、是ハ最重要ナル點ト自分ハ思フ、ソレカラ私ハ殊ニ此法案ノ非常ナル缺點ト思ヒマスル點ハ、獨リ産業組合ノミニ限ッテ居ル點ニ付テ、非常ニ自分ハ遺憾ヲ覺エテ居ル、只今横田氏ノ實ニ法案說明ノ「レコ」ト云フ破リマシタ思想の背景ヲ帶ビタル御說明ヲ聽キマスルト、農村振興、中産以下ノ金融機關ヲ救済スルト云フ點ニ付キマシテ、巨細ノ御說明ガアリマスルガ、今日ノ各種組合ハ獨リ産業組合ノミナラズ、現在ノ森林組合、漁業組合、畜産組合、養蠶組合、耕地整理組合、斯ウ云フヤウナモノガ非常ニ殘ッテ居ッテ、寧ロ數字ノ上カラシマスレバ、此他ノ組合ノ方ガモット、資金ヲ要求シ、其他ノ連絡ヲ要求シテ居ル唯、是ハ或ハ私ノ邪推カモ知レマセヌケレドモ、マタ日本ノ政黨ハ政務調査機關ヲ備ラズ、大政黨政友會デアリナガラ、是ハ確ニ御手落デハナカッタカト自分ハ思フ、若シ政黨ハ地盤ノ利用、所謂無利黨略ノ爲ニヤラレルト云フコトガ理想デアラナラバ、何故斯ウ云フ澤山ノ組合ヲ看逃シテ居ラレルヤト云フコトヲ疑ッテ見タクナルデアリマス、斯ウ云フ點ニ付キマシテ、特ニ提案者ノ御意見ヲ伺ヒタイト思フ、サウシテ此法案ノ最モ缺點ナノハ、勿論詳シイ事ハ委員會デ申上ゲマスケレドモ、三箇組合ニ限ッテ居ルト云フコトニ付テハ、殆ド其機能ガ餘程薄ライデ來ル、思フ、昨日特殊銀行法改正法律案ノ委員會ニ於テ、政府ヨリ配付サレタ日本銀行貸付ノ狀況ヲ見マシテモ、産業組合ニハ僅ニ一千六百萬圓デアリマス、然ルニ耕地整理、漁業、森林、畜産、其他ヲ總計シマスレバ、一億四千萬圓ト云フモノニナッテ居ル、此數字カラ見マシテモ、私ハ此法案ヲ政友會カラ出サレタトキニ、多分漁業組合、森林組合ハ入ッテ居ル

ト思ッテ居ッタ、是ガ明ニナレバ屹度要求ハ起ッテ來ルト思フ、斯ウ云フ點ニ付テ提案者ハ之ヲ改正スルノ意思アリヤ否ヤ、ソレカラ現ニ勸業銀行ノミデモ、此各種ノ組合ニ對シテ一億四千萬圓カラノ資金ヲ供給シテ居ルノニ、今日此提案ハ政友會ノ只今ノヤウナ大キナ思想ヲ持ッタル御說明ニシテハ、餘リニ資本ガ小サイデハナイカ、斯ウ自分ハ思フ、アレ程ノ大キイ領袖ガ出マシテ、大キイ聲ヲ爲サツタカラニハ、モウ少シ私ハ資本ヲ大キクシテ欲シイト思フ、此點ニ付テハドウ云フ御考デアルカ、ソレカラ是ハ思想の背景カラ私ドウシテモ肯ヒ得ナイノハ、此産業組合ノ基礎根柢トナルモノハ、法人ト同様ニ人格ヲ認メル、即チ多數ノ出資口ヲ持ッテ居ル者モ、一口ヲ持ッテ居ル者モ、唯一人一票デアルト云フコトニ本當ノ面白味ガアル、然ルニ産業組合ノ中心機關ヲ造リナガラ、其機關ノ理事ヲ官廳ノ任免トシテ居ルノハ、是ハ矛盾撞著デアアル私ハ此點ニ付キマシテ此法案ノ根本ヲ作ルトキ、是ハ屹度大藏省ニ行カレ、或ハ農商務省ニ行カレ、或ハ産業組合中央會ニ行カレテ、俄作リニ出來上ツタ法案デアアルマイカ、大政黨ノ政務調査機關未ダ備ラズト云フ意味ニ於キマシテ、日本ノ政治界ノ爲ニ憂フルノデアリマス、是等ノ五六ノ點ニ付キマシテ、此機會ニ於キマシテ提案者ノ御說明ヲ願ヒタイト思フ、是ハ、思想問題ニ最モ影響アルモノデアリマス、殊ニ只今普選ト聯關シタル御說明ガアツタカラ、サウ云フ意味ニ於テ殊更理事ノ互選ガ組合員ノ其自治ヲ認メルト云フコトデ、組合ノ中心精神デアリマスカラ、殊更ニ說明ヲ要スル點ト思ヒマス、ソレカラ此機會ニ於キマシテ、政府當局ニ御尋シタイト思フ點ハ、私ハ近來産業組合ノ中ニ於キマシテモ、特ニ市街地信用組合ハ他ノ組合ト違ヒマシテ、殆ド銀行ニ近い業務ヲ致シテ居ル、斯ウ云フモノガ他ノ産業組合ト異ツタ組合銀行ヲ造ルト云フコトノ必要ヲ感ジテ居リマスガ、之ニ對シテ政府ハドウ云フ意見ヲ持ッテ居ラル、カ、隨テ此中央金庫ハ勿論政府ト意見相通ズル大政黨ノ提案デアリマス、カラ、當局者モ御賛成ト思ヒマスガ、斯ルモノガ出來タトシテ、或ハ勸業銀行ノ中ノ興業貸付ガ其方ヘ行クトカ其他色々按排スレバ、今日ノ勸業銀行興業銀行、斯ウ云フモノ、性質ガ殊更ニ別ニ設クル必要ガナクナッテ、將來ニ於テ勸業、興業ノ合併ヲ必要トセラレルヤウナコトデハナイカ、斯ウ云フ點ニ付テ政府ハドウ云フ意見ヲ持ッテ居ラル、



カ、今一步進シテ言ヘバ、今日ノ特殊銀行ガ斯様ナ中央金庫ヲ造ツテ、社會全體ノ國家ノ金融政策ノ根本カラ致シマシテ、日本ノ特殊銀行ノ大改正ヲスル必要ナキヤ、勸興ノ合併ノミナラズ、或ハ朝鮮銀行、臺灣銀行ノ銀行券ノ廢止ノ如キ、或ハ今一步進シテ國家ノ中心銀行ヲモ改造スル意思ナキヤ、既ニサウ云フ時機ニナツテハ居ナイカ、斯ウ云フ點ニ付テ極ク大難把テハアリマスガ、大體政府ハ各特殊銀行ノ條例改正ノ時機ニ達シテ居ルヤ否ヤト云フ點ニ付テ、御答辯ヲ得タイト思ヒマス、詳シイ事ハ委員會會テ御尋致シマスガ、右御答辯ヲ願ヒマス

横田千之助君ノ應答

星島君ノ第一ノ御尋ハ、私ノ提案ノ說明ノ際ニ申シテ居リマスガ、此中央金庫ハ相互組合ノ組織テ、其助協力ノ精神テ出來テ居リマス、銀行ハ營利的方面ニ陷テ居ルカラ、中央金庫トシテ其助協力ノ機關トシテノ働ト云フモノトハ、全ク別ナ事ニナルカラシテ、寧ロ是ハ今日ニ於テハ銀行ノ組織ナラバ、既存ノ銀行ヲ濟シテ居ル、ソレトハ別ノ方面ノモノヲ造ルト云フコトガ本案ノ根本ノ性質デアリマス、ソレカラ今一ツハ單リ産業組合ノミニ、若クハ産業組合聯合會ノミニ貸付ケルト云フコトハ、大變狭イ事デハナイカト云フ御質問デアリマシタガ、是モ提案ノ說明中ニ盡シテアルト思ヒマス、即チ相互組織ノ是ガ働デアツテ、唯若干ノ例外ヲ附ケテアル、餘裕金アル場合ニ於テハ、公益ヲ目的トスル法人是等ノモノ、手ヲ通シテ、相當ニ餘金ガアレバ貸付ケル、是ガ矢張本案ノ金庫ナルモノガ他ノ銀行ナドトハ精神ヲ異ニシテ、別ナ働ヲ中産以下ノ農村ニ向ツテ爲スベキ所ノ時代ガ來タモノト云フ見地カラ是ガ出來テ居リマス、金額少キニ失セズヤ、資本金少キニ失セズヤト云フ御尋、資本金ハ設立ノ當初、最初ニ於テ政府拂込ガ、千五百萬圓ノ三分ノ一ノ五百萬圓、組合ノ拂込ムモノハ千五百萬圓ノ五分ノ一、二百萬圓、合シテ八百萬圓、社債ハ十倍ノモノガ發行出來ルノデアリマスカラ、初年ニ於テ八百萬圓ガ出來ルノデアリマス、是ハ固ヨリ第一歩デアリマスカラ、更ニ増資或ハ組合ノ増加、此方面カラ資本ノ増大ヲ來スヤウニ試ミタイト云フ考デアリマス、理事長其他ノ者ヲ官選ニシタノハドウデアアルカ、是ハ銀行ノ組織ニス

ルカシナイカト云フコトニ對シテ、御答ガ少シ洩レテ居ル事ガアリマス、今星島君ノ御心配ノ通り、色々ノ有力ナル特殊銀行ガ在ル限リハ、是等ノ銀行ガ特別ニ働イテ居ル間ハ、此金額ハ市場ヨリ吸收スルコトハ頗ル困難デアラウ、是ニ於テ國家ハ重農主義ノ基礎ニ立ツテ、低利資金ノ出來ルダケ多ク、將來此方面ニ廻シテ貰ハナケレバナラヌト云フ政策ヲ執ツテ貰ヒタイト考ヘテ、是ガ出來タ同時ニ低利資金ノ收入ヲスル上ニ於テ、理事長以下ノ人々ヲ官選ニスルノヲ便宜トスル、但シ民間カラノ要求ヲ金庫内ニ注入スル爲ニハ、評議員ノ規定ガアルカラ、ソレヲ御參照ヲ願ヒタイ、辯明ノ終リニ申シタ通り、無論是ハ完全ノモノデハナイ、御熱心ナル各黨各派ノ人々ノ御意見ヲ聽イテ、之ヲ玉成スル爲ニ、修正ハ固ヨリ各カナルモノデハナイト云フコトヲ附言シテ置キマス

黒田政府委員ノ應答

星島君ノ御質問ニ對シテ御答辯致シマス、此法案ガ成立シマスルナラバ、市街地信用組合ニ付テノモ矢張同ジヤウニ中央金庫ト云フ風ナモノヲ設ケル必要ハナイガ、政府ハ如何ニ考ヘテ居ルカト云フ御質問ノヤウニ拜聽致シタ、恐ラク此中央金庫ハ、主トシテ市街地信用組合以外ノ農村ノ産業組合ニ向ツテ力ヲ注グヤウニナルコトハ考ヘテ居ル、又ソレガ目的デアラウト先程提案者ノ御説明モ拜承シタノデアリマスルガ、市街地信用組合ニ對シテハ、ソレト同様ニ特ニ茲ニ中央ノ機關ヲ設ケル必要ガアルト云フコトハ、今日ニ於テハマダ考ヘテ居ラナイノデアリマス、ソレカラ第二ノ御質問ハ、此中央金庫ガ出來マシタ曉ニ於テハ、産業組合等ニ對シテハ此金庫ガ資金ヲ供給シ、之ニ向ツテ中央ノ金融機關タル働キヲスルコトニ成ルノデアアルカラシテ、自然勸業銀行ノ業務ノ中カラシテ、其等ノ働キガ此方ニ移ツテ來ル、然ラバ勸業銀行ト興業銀行ハ合併ヲスルト云フコトガ至當デハナイカト云フ風ノ御意見デアリ、尙ホ其他ノ特殊銀行ニ付テモ、此際根本的ニ制度ノ改正ヲスベキ時デハナイカト云フ御話デアリマスガ、此事ニ付キマシテハ過日豫



算委員會ニ於キマシテ大藏大臣カラ申上ゲマシタ通り——單ニ此勸業銀行興業銀行等ニ付テノミナラズ、各種ノ特殊銀行、特殊銀行ノミナラズ、又一般ノ金融機關ニ付キマシテ、今日準備ノ調査ヲ致シテ居ル、ソレ故ニ其等ノ調査ノ結果如何ニナリマスルカハ、今日ニ於テ明言ハ致サレナイノデアリマスルガ、今日ニ於テモ十分ニ根本的ニ調査ノ歩ヲ進メテ居リマス、又中央金庫ガ出來マシテモ、勸業銀行ト致シマシテハ、其特權デアリマスル所ノ割増付債券ニ依ッテ得マシタ零細ノ資金ヲ、此方ノ方ニ供給ラスルト云フ働モアリマスシ、又勸業銀行自身モ依然トシテ産業組合等ニモ資金ヲ供給シ得ルノデアリマス、當然此働キヲ失フ譯デハナイノデアリマスルカラ、前申上ゲマスル通り、全體ニ於テ今日準備ノ調査ヲ致シテ居ル次第デアリマスルカラ左様ニ御承知ヲ願ヒタイト

星島二郎君ノ再質疑

一寸モウ一言最後ノ日本銀行條例ハ不十分デアリマスガ、之ニ對シテ何カ今日改正ノ準備ヲ爲サレテ居リマス否ヤ

黒田政府委員ノ應答

先程申上ゲマシタノハ極ク一般ノ金融機關デアリマシテ、日本銀行モ勿論包含ヲシテ調査致シテ居ルノデアリマス

南鼎三君ノ質疑

中央金庫法ノ御説明ヲ横田君カラ承リマシテ私ハ衷心ヨリ其御精神ニ贊意ヲ表スル者デアリマス、農村救済ト云フ事柄ニ付テハ、不肖等モ大ニ研究シテ居ルノデアアル、單ニ地主ノミ所謂資本主義化シタル所ノ地主ノミヲ保護スルヤウナ事柄デハ農村ガ救済出來ナイ、屹度中以下ノ者デ

アラネバナラヌト云フ其横田君ノ御意見、竝ニ本案ノ功德ハ屹度其等ノ階級ニ波及スルノデアルト云フ御精神ニ對シテハ私ハ非常ニ喜ンデ居ル、而モ斯ノ如キ法案ノ出ルコトヲ吾ミトシマシテハ、其調査力未ダ及バズ、政友會トカ或ハ憲政會トカ或ハ革新俱樂部ノヤウナ團體ガ非常ニ之ヲ研究シテ爲スベキモノデアッテ、今迄斯ウ云フヤウナモノ、出テ居ラナイト云フノモ寧ろ不思議ニ感ジテ居ッタ位デアアル、所ガ茲ニ農村救済ト云フ事柄ニ付キマシテ、憲政會ハ前ニ地租二分減ハ宜イト云フ事柄デアッタガ私ハ反對ノ意見ヲ持ッテ質疑ヲシタノデアアル、所ガ此産業組合ナルモノニ保護ヲスルト云フガ、一體小作人ガドウ云フ工合ニ此恩惠ヲ蒙ルノデアアルカ、大抵大地主ト稱セラレル者ガ殆ド二「パーセント」位ヨリ農村ニハアリマセヌ、或ハ中地主ト云フヤウナ者ガ八「パーセント」又小地主或ハ自作農ノ如キニ至リマシテハ三十「パーセント」程アル、此等ノ人々ハ利益ヲ蒙ッテ、農村ノ中ノ六十「パーセント」ヲ占メテ居ル所ノ小作人ガ是等ノ恩惠ニ浴スルコトノ出來ルヤ否ヤト云フコトヲ御尋シタイ、是ハ其一デアリマス、大抵此地方ニ參リマスト云フト、自作農或ハ小地主等ハ總テノ上ニ於テ一致ヲスルノデアリマスガ、小作人ト云ヘバ直ニ昔ノ奴隸ヲ扱フヤウナ態度デ、同ジ組合ニ入レナイト云フヤウナ惡イ習慣ガアリマス爲ニ、サウ云フヤウナモノヲ成ベク勿除ケテ自分等バカリ小サクスレバ小サクスル利益ガ多イト云フ考カラ、遂ニ此小作人ヲ度外視シハシナイカト云フコトヲ憂ヘル、是ハ第一ノ問、是ガ若モ實現サレマシタナラバ農村ハ非常ニ助カルノデス、農村ト致シマスレバ政友會ガ斯ウ云フ事ヲ編出シタトスレバ、實ニ我國ノ農村ハ政友會様々デ或ハ之ヲ三部經以上ノ有難ガルカモ分ラヌ、併シ有難ク思ヘバ思フ程其處ニ又附込ミ所トナリマシテ、此運用スル上ニ於テ、即チ黨勢擴張等ニ之ヲ使フヤ否ヤト云フコトヲ憂フルノデアアル、サウ云フヤウナ事柄ガ無ケレバ結構デアアルガ、成ベク無イヤウニシテ戴キタイコトヲ希望スルノデアアル、サウ云フヤウナ黨勢擴張ノ爲ニ、既ニ鐵道ノ如キデモ反對黨ノ方デアレハ黨勢擴張ニ使ッテ居ルト云フコトデアアルガ、出來得ルコトナラバソレハヤッテモ宜シイ、泥ガ少シ掛カルカラ自動車ノ便利ナ物ヲ廢メテシマウト云フヤウナ、サウ云フ狹小ナ意見ヲ持ッテハイケナイケレドモ、功德ガ多ク利益ガ多イ程、ソレ程又黨勢擴張



ニ使ヒタイモノデアラウト考ヘル、サウ云フ憂ガ、此法律ノ運用ノ上ニ於キマシテソレガ使ヒ得ルヤウナコトハイケナイカラ、サウ云フコトハ、絶對ニ避ケラル、コトデアアルヤト云フ此二問ヲ御尋シタイ

横田千之助君ノ應答

南君ノ第一問ハ、中農以下ニ御深切ナ御質問デアリマシテ、私モ感謝致シマス、此産業組合ハ購買組合販賣組合事業組合、是等ノモノデ組立ラレテ居リマシテ、勤勞ヲ資本化スル、即チ小作人階級ノ者ニ對人信用ヲ以テ金ヲ貸スト云フコトガ目的デアリマス、此用水路ヲ通シテ中央金庫ト云フ機關カラ金ヲ出スト云フデアリマスカラ、南君ノ主張セラル、多數ノ小作ニ向ッテ少額ノ短期信用ノ貸付ヲスルト云フコトガ、此本案ノ主ナル働キニナッテ居リマス、之ヲ御答致シマス、第二ノ黨勢擴張云々ノコトデアリマスガ、政黨ガ國利民福ヲ圖リ、其圖ッタ結果ハ黨勢擴張ニナルト云フコトハ餘儀ナイ、唯此機關ヲ惡用スルガ如キコトハ、政友會ノ人々ハ毫末モ考ヘテ居ラヌ所デアルト云フコトヲ、此場合申シテ置キマス

次テ本案ハ政府提出日本勸業銀行法中改正法律案(二一)外三件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及一ハ委員會修正)

産業組合中央金庫法

第一章 總則

第一條 産業組合中央金庫ハ法人トシテ其ノ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トシ産業組合聯合會及産業組合ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從タル事務所ヲ設置スルコト得

主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

産業組合聯合會ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ代理スルコトヲ得

第三條 産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立<sup>可</sup>免許<sup>○</sup>ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ存立期間ヲ延長スルコトヲ得

第四條 産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス産業組合中央金庫ハ資本金全額ノ拂込前ト雖出資者總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第五條 政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス産業組合聯合會<sup>及</sup>産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ二百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモノトス政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

千二百九十九



トス

政府ノ産業組合中央金庫ニ對シテ所有スヘキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 産業組合法中産業組合 商法中株式會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第八條 産業組合中央金庫ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

登録稅法及印紙稅法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第二章 役員

第九條 産業組合中央金庫ニ理事長、副理事長各一人理事監事各二人以上ヲ置ク

第十條 理事長ハ産業組合中央金庫ヲ代表シテ其ノ事務ヲ總理ス

副理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ産業組合中央金庫ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監査ス

第十一條 理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ス

但シ其ノ任期ハ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任

ヲ命スルコトヲ得

第十二條 産業組合中央金庫ニ評議員二十名以内ヲ置キ主務大臣之ヲ任命ス但シ其ノ半數以上

ハ産業組合關係者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ就キ理事長ノ諮

問ニ應スルモノトス

評議員ノ任期ハ三箇年トス

第三章 業務

第十三條 産業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

一 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セスシテ五箇年以内ノ定期償還貸

付ヲ爲スコト

二 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

三 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ爲替業務ヲ爲スコト

四 産業組合聯合會、産業組合、公共團體其ノ他ハ營利ヲ目的トセサル法人ヨリ預リ金ヲ爲スコト

第十四條 産業組合中央金庫ハ必要アリト認メタル場合ニ於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第

二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ定期預リ金ヲ爲スコトヲ得



第十六條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外預リ金又ハ業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 預リ金ノ四分ノ一以上ハ國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 公共團體、産業組合聯合會、産業組合○公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

三 國債又ハ公債若ハ生産物ヲ擔保トスル三箇月以内ノ短期貸付又ハ手形ノ割引ヲ爲スコト

第十七條 無擔保ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ於テ元利金ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキ又ハ期限前ノ償還請求ニ對シ其ノ拂込ヲ爲ササルトキハ産業組合中央金庫ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

第十八條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス  
延滯元利金ヲ拂込マシムヘシ

第四章 産業債券

第十九條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限り産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス  
産業債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條ノ二ノ規定ヲ準用セス

第二十條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第二十一條 産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十二條 産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 産業債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五箇年、利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス  
箇年ニシテ其ノ要求ノ權利ヲ失フモノトス



第二十四條 産業債券ノ發行ニ關スル印紙税及登録税ハ之ヲ免除ス

第二十五條 産業債券ノ摸造ニ關シテハ通貨及證券摸造取締法ヲ準用ス

第五章 計算

第二十六條 産業組合中央金庫ノ事業年度ハ一箇年トス

第二十七條 産業組合中央金庫ハ毎事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立

ツヘシ

第六章 監督及補助

第二十八條 主務大臣ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

本法中主務大臣トアルハ農商務大臣及大藏大臣トス

第二十九條 産業組合中央金庫ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ

得ス

第三十一條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關スル諸般ノ狀況及計算報

告書ヲ差出スヘシ

第三十二條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ産業組合中央金庫ノ貸付又ハ割引ノ金額若ハ

方法ヲ制限スルコトヲ得

第三十三條 産業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高歩合ハ毎事業年度ノ初ニ於テ主務大臣又認

可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ事業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十四條 主務大臣ハ特ニ産業組合中央金庫監理官ヲ置キ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監視セ

シム

第三十五條 産業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢

査スルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ産業組合中央金庫ニ命

シテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ出資者總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十六條 産業組合中央金庫ハ創立初期ヨリ十五箇年間政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲

スコトヲ要セス

第七章 罰則

第三十七條 左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案



千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ
- 二 主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ
- 三 第十六條ノ規定ニ反シ預リ金又ハ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ
- 四 第十八條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ
- 五 第十九條第一項及第二十一條第二項ノ規定ニ反シタルトキ
- 六 第三十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附合中則

第三十九條 主務大臣ハ設立委員ヲ置キ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セ

シム

第四十條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集ス

第四十一條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申立書ヲ主務大臣ニ提出シ産業組

合中央金庫設立ノ認許

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第四十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ産業組合中央金庫理事長ニ引渡

スヘシ

第四十一條 産業組合中央金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三月三日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長武藤金吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ノ特別委員會ノ成績ヲ報告ヲ致シマス、委員長ハ數回ニ互ツテ審査ヲ致シマシテ、提案者及政府トノ間ニ數十回ノ質問應答ガアリマシタ、其中ノ要旨ハ大切ノ事デアリマスカラ、特ニ御報告ヲ致シテ置キタイト思ヒマス、資本金ノ三千萬圓ヲ五千萬圓ニ増加スルコトガ出來ナイカト云フ間ニ對シマシテハ、提案者ハ差當リ此資金ハ郵便貯金ヨリ出ス方針ヲ執ッテ、産業組合ノ發達整理ト共ニ徐々ニ此資本ヲ増シテ參ルコトデアッテ、取敢ズ三千萬圓ヲ相當トスルト云フ答辯デアリマス、次ハ長期貸付、擔保貸付ヲ何故此案ノ中ニセナイカト云フ質問デアリマス、之ニ對シテ提案者ハ長期貸付ハ勸業銀行農工銀行デ既ニ行ッテ居ルノデ、此ノ銀行ト接觸衝突ヲシナイ範圍ニ於テ本案ノ機能ヲ發揮スル爲ニ此長期貸付、擔保貸付ヲ入レテカッタノデアルト云フ答辯デアリマス、ソレカラ既設銀行ト中央金庫トノ差ハドウデアアルカト云フコトデアリマス、之ニ對シマシテ提案者及政府ハ此中央金庫ハ相互主義ヲ以テ産業組合ノ機能ヲ發揮シテ、資金ヲ融通スル社會政策ヲ完ウスル爲ニ、即チ勤勞ヲ資本ニ化スル目的デ此金融ヲ圖ルモノデアッテ、既設ノ勸業銀行ヤ農工銀行トハ其設立ノ趣旨ヲ異ニスルト云フ答辯デアリマス、更ニ此中央金庫ハ非營利的法人デアアルガ、利益ノ配當ハドウデアアル、又出資者ハドウデアアルト云フ間ニ對シマシテハ、提案者及政府ハ、是ハ營利ヲ目的トスル仕事デナイノデアアルカラ、利益配當ハ極メテ少額ノモノニシテ、利益ガアルニ致シマシテモ、制限スルト云フコトヲ答ヘラレマシタ、ソレカラ此法文中ノ「所屬」ト云フコトニ付テ、何故廣イ意味ニ於テ所屬ト云フコトヲ除カヌカト云フ間ニ對シテハ、提案者ハ極メテ之ニ力ヲ入レマシテ「所屬」ト云フコトガアルニ付テ、本案ノ機能が最



モ適切ニ働ク所デアッ、特ニ此所屬組合ト云フコトガ必要デアルト云フ答ヲ致サレマシタ、殊ニ此監督ニ付テ、主務大臣何レノ大臣ガ主務大臣トシテ是ガ所管ヲスルカト云フ問ニ付キマシテハ、提案者竝ニ政府ハ、農商務大臣及大藏大臣ヲ主務大臣トスルト云フコトニ明ニ答ヘラレマシタ、ソレカラ産業組合中央會ト中央金庫トノ關係ハドウデアアルカト云フ質問ニ對シテハ、農商務大臣ハ決シテ衝突ノ虞ハナイト云フコトヲ聲明サレマシタ、ソレカラ加入者ノ權利及義務ハ如何デアアルカト云フ問ニ對シテハ、提案者ヨリハ提案ニ此規定ヲ明ニ定ムルト云フコトヲ答ヘラレマシタ、ソレカラ此法案ハ理事者ノ選任ノ仕方ガ官臭ヲ帯ビテ居ル、其理事長、副理事長、監事マデヲ政府カラ任命スルト云フコトニセナイノデ、出資者ノ中カラ之ヲ幾分ナリ出シタラドウダト云フ問ニ對シマシテハ、提案者ハ是ハ此創業ノ際、殊ニ産業組合ヲ働カシテ此金融ヲスルニ付ケテハ、却テ此政府ガ理事者ヲ任命スルト云フコトガ、適當ナ人ヲ得ラレルト云フコトデアアルト云フ答デアリマシタ、更ニ其中デ最モ問題トナリマシタノハ、「所屬」ト云フコトヲ除ッテハドウカト云フ事、ソレカラ年賦貸付ノ方法ヲ加ヘタラドウカト云フ事、ソレカラ生産物ノ擔保ヲ原案ハ三箇月トナッテ居ルガ、何故之ヲ六箇月ニセナイカト云フ質問ニ對シテハ、是ハ提案者及政府ヨリ是等ノ事柄ハ普通銀行ト異ッテ、何處マデモ是ハ絕對的相互主義デ參ルノデアリマスカラ、年賦貸付ノ事、生産物ノ擔保ノ事柄ハ、特殊銀行、普通銀行ト同様ニナルカラ、此金庫ハ何處マデモ普通銀行、特殊銀行ト其性質ヲ異ニスルト云フ答辯デアリマシタ、ソレカラ産業組合聯合會ガ今日マデ金融ヲシテ居ルノニ、個人保證ヲシテ居ルコトハドウカト云フ、之ニ對シマシテハ政府ヨリ、是ハ信用ヲ支持スル上ニ於テ已ムヲ得ナイ、ソレカラ又脫退スル者等ガアル場合ニハ困ルカラ、是等ノ個人保證ト云フモノヲ取ッテ置クト云フ答辯デアリマシタ、ソレカラ資金ノ募集ハ困難デハナイカ、資金ノ募集ニ付テハ政府ハ決シテ樂觀ハ許サヌケレドモ、此本案ノ爲サントスル目的ニ對シテハ差支ナク出來ル、而シテ政府ノ出資ハドウ云フ方法ヲ以テ此資金ヲ出スノデアアルカト云フ問ニ對シテハ、政府ガ本案ガ兩院ヲ通過シタル曉ニ於テハ、追加豫算ヲ今期議會ニ要求シテ之ニ充ツルト云フ答辯デアリマス、尙ホ詳細ナル事ハ速記録ヲ御覽ヲ願ヒタイト思ヒ

マスガ、右様ノ質問應答ヲ重ネタル結果、委員會ニ於キマシテハ、特ニ政府ヨリ國務大臣、政府委員ノ出席ヲ求メテ懇談會ヲ開イタノデアリマス、斯ノ如キ始メテ行ヒマスル法案ニ對シマシテハ、提案者横田君カラ説明ノ際ニ要求モアツタ通り、此案ヲ玉成スル上ニ於テハ、政黨政派ヲ問ハズ、何處マデモ意見ヲ徵シテ、サウシテ之ヲ實際ニ行フコトニ努メタイト云フ主義ニ從ヒマシテ、委員會ハ懇談會ヲ開イテ意見ノ交換ヲ致シマシタ、サウシテ政府ノ此案ニ對スル意見ヲ確メマシタ所、政府ハ大體此案ニ付キマシテハ同意デアアル、又此案ノ條項ニ付キマシテハ、成ベク既設銀行法ト衝突ヲシナイヤウニシ、且又此相互主義ノ社會政策ヲ實行スル上ニ於テ便宜ノ宜イコトニシ、産業組合ノ發達ノ上ニ於テ支障ノ來タサナイヤウナ方法ニ付テ、何處マデモ賛成ヲスルト云フ意味デ、修正ノ點等ニ付キマシテモ、同意ノ意見ヲ聲明サレタノデアリマス、而シテ討論ニ移リマシテ、政友會ノ瀧正雄君ヨリ修正ノ案ガ出シタ、御手許ニ文書ヲ以テ御報告ニナッテ居リマスルガ、大切ノ事柄デアリマスカラ此席ヨリ御紹介ヲ致シマス、第一條ノ「産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主ナル事務所ヲ東京市ニ置ク」第二項ノ「産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トシ」三々トアリマスノヲソレ「ス」ト致シマシテ、以下ヲ全部削除、第三條ノ「設立免許」トアリマスノヲ「許可」ト改メマス、第五條ノ二項ノ「産業組合聯合會」トアリマスノヲ「及」ト改メマス、第七條ノ「商法中株式會社」トアリマスノヲ「産業組合中産業組合」ト改メマス、第八條ノ二項ニ新ニ「登録税法及印紙税法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス」ヲ加ヘマス、第十五條産業組合中央金庫ハ定期預リ金ヲ爲スコトヲ得」トアリマスノヲ全部削除、次ノ第十六條ヲ第十五條ト改メ、其ノ産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外「預リ金又ハ」ト云フコトハ、是ハ十五條削除ノ結果ト致シマシテ削除致シマス、其次ノ第一號「預リ金ノ四分ノ一以上ハ」ト云フノヲ削除致シマス、第二號ノ冒頭ニ「公共團體」トアルノヲ削リ「産業組合聯合會、産業組合」ノ次ニ「公共團體」ト入レマス、即チ冒頭ヲ削ッテ其次ヘ入レマス、第三號ノ「國債又ハ公債若ハ生産物ヲ擔保トスル三箇月以内ノ短期貸付又ハ手形ノ割引ヲ爲スコト」ト云フノヲ削除致シマス、第十七條ヲ第十六條ト改メ、其中ニ「府縣郡市町村」トアリマスノヲ「郡」ト



云フ字ヲ削リマス、之ニ關聯シタル「郡」ト云フ文字ハ全部削除致シマス、第十八條ヲ第十七條ニ改メマス、第十九條ヲ第十八條ト改メマス、而シテ其第二項ニ「産業債券ヲ發行スル場合」云々トアリマスノヲ「産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト改メマス、其次ニ「登録税法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス」ノ一項ヲ加ヘマス、第二十條ヲ第十九條ト改メマス、第二十一條ヲ第二十條ニ改メマス、其條項ノ申ノ「第十九條ノ制限ニ依ラス」ト云フ「第十九」ノ「九」ノ字ヲ「八」ニ改メマス、第二十二條ヲ第二十一條ニ改メマス、第二十三條ヲ第二十二條ニ改メマス、其本文ノ「産業債券ノ所有者」云々トアリマスノヲ「産業債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五箇年、利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス」ト改メマス、第二十四條ニ「除致シマス、ソレカラ第二十五條ヲ第二十三條ニ改メマス、第二十六條ヲ第二十四條ニ改メマス、第二十七條ヲ第二十五條ニ改メマス、第二十八條ヲ第二十六條ニ改メマス、其第二項トシテ新ニ「本法中主務大臣トアルハ農商務大臣及大藏大臣トス」ト加ヘマス、第二十九條ヲ第二十七條ニ改メマス、第三十條ヲ第二十八條ニ改メマス、第三十一條ヲ第二十九條ニ改メマス、第三十二條ヲ第三十條ニ改メマス、第三十三條ヲ第三十一條ニ改メマス、第三十五條ヲ第三十三條ト改メマス、第三十六條ヲ第三十四條ト改メマス、第三十七條ヲ第三十五條ト改メマス、而シテ此第三十七條ノ第三號ノ「第十六條」トアリマスノヲ「第十五條」ト改メ「預リ金又ハ」ヲ削除致シマス、第四號ノ「第十八條」ヲ「第十七條」ニ改メマス、第五號ノ「第十九條」トアルノヲ「第十八條」ト改メマス、而シテ「第二十一條」トアルノヲ「第二十條」ニ改メマス、第三十八條ヲ第三十六條ニ改メマス、第三十九條ヲ第三十七條ニ改メマス、第四十條ヲ第三十八條ニ改メマス、第四十一條ヲ第三十九條ニ改メマス、而シテ其條文中ノ「認可」トアリマスノヲ「許可」ト改メマス、ソレカラ第二十九條ニ改メマス、而シテ其條文中ノ「認可」トアリマスノヲ「許可」ト改メマス、更ニ終リニ第四十一條ヲ新ニ加ヘマス「産業組合中央金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」瀧君ノ修正案ハ右ノ通りデアリマシテ、此修正ニ付キマシテハ、政府ハ全然同意ヲセラレマシタ、此案ハ全ク産業組合ノ發達トシテ、産業組合ノ所屬ニ限ッテ金融ヲスル頗ル普通特殊銀行ト

其領分ヲ異ニシテ、即チ發案ノ目的ニ適フ所ノモノニナツタト信ジマス、此案ノ發案セラレタル所ノ動機ハ、農村振興ノ一端ト致シマシテ政友會ヨリ提出セラレタモノデアリマスルガ、此案ハ我國ニ於テモ十數年前ヨリ多年間ノ懸案デアッテ、殊ニ此種ノ案ハ歐羅巴各國ニ於テハ、其最モ成績ヲ擧ゲテ居ルノハ丁抹デアルト信ジマス、又獨逸ニ於テモ此通リノ案ヲヤッテ居リマスルガ、斯ノ如ク練ツタ結果ハ實際ニ之ヲ行フ上ニ於テ、勸業銀行、農工銀行ト衝突ヲシナイ、從來勸業銀行、農工銀行ノ貸付ノ出來ナカッタ所ニ、此資金ガ廻ッテ行クコトニナリマスカラ、先日横田君壇上ニ於テ此閃キヲ御紹介セラレマシタガ、本員ハ此機會ニ更ニ一層熱ノ加ツタコトヲ認ムルモノデアリマス、更ニ此案ノ兩院ヲ通過シタル曉ニ於キマシテハ、此運用ニ付テハ一層ノ努力ヲ要シ、一層ノ働キヲシナケレバ此目的ヲ達スルコトハ困難デハナイカト思フ、何故ナラバ現在産業組合ノ數ハ一萬四千ニナツテ居リマス、而シテ此働キハ隨分效果ヲ擧ゲテ居ル所モアリマスガ、又甚ダ振ハナイ組合モ少クナイ、此機會ノ活動ト共ニ、産業組合モ段々整理發達ヲサレテ來ルコトハ疑ヒナイ、故ニ此案ノ成立ト同時ニ、此案ノ前途ハ私ハ理事者其人ハ勿論デアリマスガ、組合各自ノ働キト自覺ニ俟タナケレバナラス、又政府ニ於テモ此案ヲ育ッテ行ク上ニ於テハ、尙ホ幾多ノ努力ヲ要スルコト、信ズル者デアリマス、而シテ委員會ニ於テハ全體ニ於テハ之ヲ認メテ、意見ハ一致シテ居リマスルガ、討論ノ際ニ於テ、憲政會ニ於テハ大體ハ贊成デアアルガ、主ナル點ニ付テ修正ノ意見ガ異ッテ居ル、其點ニ付テハ、私ハ別段少數意見デハアリマセヌケレドモ、大切ナ案デアリマスカラ、憲政會並ニ革新俱樂部カラ御提出ニナツタ修正案モ御紹介スル方ガ御便宜ダラウト思ヒマス、第一條第二項「産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トス」トシ其以下ヲ削リマス、是ハ瀧君ノモ同ジデアリマス、ソレカラ第二條モ同様デアリマス、第四條ノ産業組合中央金庫ノ資本金ヲ「三千萬圓」ヲ「五千萬圓」ニ「五」ニ直シタ、ソレカラ「三十萬口」ヲ「五十萬口」トシタ、ソレカラ第五條ノ「産業組合聯合會」ト云フ「フ」ヲ「及」ト云フコトニ致シマシタ「二百口」トアルヲ「三百口」ニ直シタ、ソレカラ第六條ノ「政府ハ千五百萬圓ヲ限リ」ト云フ「フ」ヲ「二千五百萬圓」トナツテ居リマス、第七條ノ「商法中株式會社ニ關スル」云々ト云フ「フ」ヲ「産業組合法中産業組合ニ



關スル規定」ト直ッテ居リマス、第八條第二項ニ「登録税法及印紙税法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス」ト加ッテ居リマス、第十一條ハ「理事長、副理事長」ノ點ノ間ニ「及」ト云フ字ヲ入レマス、及「監事」ト云フノヲ削ッテアリマス、ソレカラ其次ニ「監事ハ出資者總會ニ於テ之ヲ選定スルヲ妨ケス」ヲ加ヘテアリマス、第十二條「中央金庫ニ評議員二十名以内ヲ置キ」云々トアルノヲ「置ク」ト直シマシテ、第二項ニ「評議員中十名以内ハ主務大臣之ヲ任命シ他ノ十名以内ハ出資者總會ニ於テ之ヲ選定ス」ト直ッテ居リマス、第十三條ニ「新ニ理事長、副理事長及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラズ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス」ト云フ條項ヲ置カレテアリマス、第十三條ヲ第十四條トシ、其第一、第二、第三各號ノ「所屬」ト云フ字ヲ悉ク削ッテアリマス、第四號ノ「産業組合、公共團體」ト下ニ「其ノ他」ト云フ字ヲ加ヘテアリマス、第十四條ヲ第十五條、第十五條ヲ第十六條、第十六條ヲ第十七條トシ、第十七條ノ第二號號冒頭ノ「公共團體」ヲ削リマシテ「産業組合」ト下ニ挿入致シマス、第十七條ヲ第十八條トシ、此條文中ノ「郡」ト云フ字全部削ッテアリマス、第十八條ヲ第十九條トシ、第十九條ヲ第二十條ト訂正、其第二項ヲ「産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト改メマス、ソレカラ「登録税法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス」トノ第三項ガ加ハッテ居リマス、第二十條ヲ第二十一條トシ「無記名利札附」ト下ニ「又ハ割引債券トス」ト云フ字ガ加ッテ居リマス、第二十一條ヲ第二十二條トシ、其中ノ「第十九條」トアルノヲ「第二十條」ト改メテアリマス、第二十二條ガ第二十三條、第二十三條ガ第二十四條トナッテ、サウシテ産業債券ノ「所有者」ト云フ所ヲ削リマシテ「消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五箇年利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス」ト訂正、第二十四條ハ全部削除、第二十七條ノ第三號「第十六條」トアルヲ「第十七條」、第四號「第十八條」トアルヲ「第十九條」、第五號「第十九條」ヲ「第二十條」、第二十一條ヲ「第二十二條」ト改メラレテ居リマス、ソレカラ附則ヲ冒頭ニ、第二十九條ヲ新ニ加ヘテ「本法中主務大臣トアルハ第十一條、第二十三條、第二十九條、第三十條、第三十四條、第四十一條及第四十二條ニ在リテハ農商務大臣及大藏大臣其他ニ在リテハ農商務大臣トス」ト云

フコトデ、下岡君ノ御提案ハ此本文ノ條文中ニ於テ、大藏大臣ト農商務大臣ノ所管ヲ明カニシテアリマス「第三十九條」ヲ「四十條」ト改メ、「第四十條」ヲ「第四十一條」ニ改メ、「第四十一條」ヲ「四十二條」ニ改メ、ソレカラ中央金庫ノ設立「認可」トアルノヲ「許可」ト改メ、ソレカラ次ノ「認可」トアルノヲ「許可」ト改メ、「四十二條」ヲ「四十三條」ト改メ、ソレカラ終リニ第四十四條ト置イテ「産業組合中央金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」是ガ下岡君ノ御提出ニナリマシタ修正案デアリマシタ、革新俱樂部ノ植原君ノ御贊成ガアッタデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、斯ノ如キ法案ハ成ベク全會一致ヲ以テ成案ニ致シタイト思ッテ、種々懇談モ申上ゲ、御交渉モ申上ゲタノデアリマスガ、大體ニ於テハ委員會ハ本案ヲ認メテ居リマスルガ、以上申上ゲタ主要ナル三點バカリニ付マシテ、遺憾ナガラ一致ヲ見ルコトガ出來ナカッタデアリマス、即チ下岡君ノ訂正サレタル所ノ要旨ハ、機關組織ニ關シテ、ソレカラ資本ノ額ニ關シテ、年賦償還貸付ノ方法ヲ置キタイ、是ガ要點デアルヤウニ思ヒマス、本案ノ大體ノ修正ニ付キマシテハ、委員會ニ於キマシテモ格別ノ異論ハナカッタデアリマスルガ、以上瀧君ノ案ハ大多數ヲ以テ之ヲ認メマシタ、サウシテ下岡君、植原君ノ御修正ノ案ハ少數ヲ以テ委員會ニ於テハ否決ヲ致シマシタ、右大要ヲ御報告申上ゲマス、本會議ニ於キマシテモ何卒斯ノ如キ案ハ、兩院ガ之ヲ成立致シマスレバ、追加豫算ヲ政府ヨリ提出ニナッテ、且ツ至急之ヲ實行セナケレバナラヌ案デアリマスカラ、何卒此提案ノ趣旨ニ基キマシテ、滿場一致ヲ以テ御贊成ニ與ランコトヲ希望致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開ク  
 (下岡忠治君外五名提出修正案)

産業組合中央金庫法案中左ノ通修正ス

第一章 總則

第一條 産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トシ産業組合聯合會及産業組合ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立免許<sup>可</sup>ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ存立期間ヲ延長スルコトヲ得

第四條 産業組合中央金庫ノ資本金ハ<sup>五</sup>三千萬圓トシ之ヲ<sup>五</sup>三十萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス<sup>五</sup>産業組合中央金庫ハ資本金全額ノ拂込前ト雖出資者總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第五條 政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス<sup>三</sup>産業組合聯合會<sup>及</sup>産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ<sup>三</sup>二百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 政府ハ<sup>二</sup>千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモノトス政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

第七條 政府ノ産業組合中央金庫ニ對シテ所有スヘキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム<sup>産業組合法中産業組合</sup>商法中株式會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第八條 産業組合中央金庫ニハ所得税及營業稅ヲ課セス<sup>目録イナキニテハ</sup>登録稅法及印紙稅法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第二章 役員

第十一條 理事長、副理事長<sup>及</sup>理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ス

監事ハ出資者總會ニ於テ之ヲ選定ス<sup>及</sup>理事長、副理事長及理事ノ任期ハ五箇年監事ノ任期ハ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任<sup>妨ケス</sup>ヲ命スルコトヲ得

第十二條 産業組合中央金庫ニ評議員二十名以内ヲ置キ<sup>ク</sup>主務大臣之ヲ任命ス但シ其ノ半數以上ハ産業組合關係者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

評議員中十名以内ハ主務大臣之ヲ任命シ他ノ十名以内ハ出資者總會ニ於テ之ヲ選定ス<sup>コト</sup>評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ就キ理事長ノ諮問ニ應スルモノトス

第十三條 理事長、副理事長及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス



第三章 業務

第十三條 產業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

一 所屬產業組合聯合會又ハ所屬產業組合ニ對シ擔保ヲ徵セスシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

二 所屬產業組合聯合會又ハ所屬產業組合ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

三 所屬產業組合聯合會又ハ所屬產業組合ノ爲ニ爲替業務ヲ爲スコト

四 產業組合聯合會、產業組合、公共團體其ノ他又ハ營利ヲ目的トセサル法人ヨリ預リ金ヲ爲スコト

第十四條 產業組合中央金庫ハ必要アリト認メタル場合ニ於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 產業組合中央金庫ハ定期預リ金ヲ爲スコトヲ得

第十六條 產業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外預リ金又ハ業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 預リ金ノ四分ノ一以上ハ國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 公共團體、產業組合聯合會、產業組合公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ短期貸付ヲ

爲スコト

三 國債又ハ公債若ハ生産物ヲ擔保トスル三箇月以内ノ短期貸付又ハ手形ノ割引ヲ爲スコト

第十七條 無擔保ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ於テ

元利金ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキ又ハ期限前ノ償還請求ニ對シ其ノ拂込ヲ爲ササルトキハ產業組合中央金庫ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ產業組合中央金庫ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ニ依リ

組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ命令シテ

延滞元利金ヲ拂込マシムヘシ

第十八條 產業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十九條 產業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ產業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金

現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

產業債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條ノ二ノ規定ヲ準用セス

登錄税法中社債ニ關スル規定ハ產業債券ニ付之ヲ準用ス

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案 千三百十七



第二十二條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札附○又ハ割引債券トス但シ應募者又ハ所有者ノ請

求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第二十一條 産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債

券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面

金額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十二條 産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ク

ヘシ

第二十三條 産業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五

箇年ニシテ其ノ要求ノ權利ヲ失フモノトス

第二十四條 産業債券ノ發行ニ關スル印紙税及登録税ハ之ヲ免除ス

第七章 罰則

第三十七條 左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上

千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ

三 第十六條ノ規定ニ反シ預リ金又ハ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第十八條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第十九條第一項及第二十一條第二項ノ規定ニ反シタルトキ

附 則

第三十九條 本法中主務大臣トアルハ第十一條第二十三條第二十九條第三十條第三十四條第四十一條及第四十二條ニ在リテハ

農商務大臣及大藏大臣、其ノ他ニ在リテハ農商務大臣トス

第三十九條 主務大臣ハ設立委員ヲ置キ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セ

シム

第四十條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集ス

第四十一條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申立書ヲ主務大臣ニ提出シ産業組

合中央金庫設立ノ認許○可ヲ稟請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第四十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ産業組合中央金庫理事長ニ引渡

スヘシ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



下岡忠治君外五名ハ右修正案ヲ提出シ提出者(植原悦二郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ只今議題トナツテ居リマスル産業組合中央金庫法案ノ委員長ノ報告ニ對シマシテ、茲ニ修正案ヲ提出シ、其趣意ヲ説明致サウト思フ、私ガ申スマデモナク、本案ハ極メテ重要ナル案デアルト思ヒマス、殊ニ今日ノ如ク農家ノ經濟ガ非常ナル窮乏ヲ告ゲテ居リマスル時代ニ於テハ、斯様な機關ヲ設ケマシテ、中小産業者、農村民ニ新シキ所ノ産業ノ生命ヲ與ヘ、國民全體ノ産業ノ發達ヲ期スルコトニ付テハ、何人モ異議ノナイ所デアリマス、私共ハ多年之ヲ唱ヘテ居リマシタシ、殊ニ私共ノ同志土井權大君ノ如キハ數年前カラ屢此問題ヲ此議場ニ於テ述ベマシタ茲ニ政友會諸君ノ御努力ニ依リマシテ此提案ヲ見ルニ至リマシタノハ、私共非常ノ喜ビヲ以テ迎ヘル者デアリマス、而シテ努メテ此案ノ成立ヲ希望スル者デアリマス、併ナガラ私共極メテ重要ナル案デアリ、此案自體ガ中小産業者ノ金融機關トナツテ、始メテ小産業者ノ發達ニ助成スルコトガ出來ルモノナルガ故ニ、特ニ其點ニ付テ考慮ヲ致シ、而シテ此案ノ成立ヲ考ヘナケレバナラナイト確信致シテ居ル者デアリマス、此意味ニ於テ私共ハ修正案ヲ提出スル次第デアリマス、私共ノ提案ニ付キマシテハ、只今委員長ガ細密ニ鄭重ニ御述べ下サイマシタ、委員長ノ報告ニナリマシタ私共ノ提案ノ中ニ、瀧君ノ修正案ト共通ノ點ガアリマス、其等ノ點ハ總テ除キマシテ、瀧君ノ修正案ト共通點以外ノ點ニ於ケル所ノ吾々ノ修正ニ付キマシテ、其修正ノ理由ヲ申述ベタイト思フテ居リマス、第一ニ資本金ノ點ニ付テ修正ヲ加ヘタイノデアリマス、只今委員長ノ報告サレマシタ通り、私共ハ資本金三千萬圓ヲ五千萬圓ニ致シ、之ニ隨ヒマシテ其口數三十萬ヲ五十萬ト致シタ、而シテ第五條ニ於キマシテ、出口數ハ二百口ヲ超ユル云々ト云フノヲ、是ハ投資者ノ或ハ資金ヲ得ル爲ニ多少ノ便法ナラント思ヒマシテ、二百口ヲ三百口ニ改メマシタ而シテ資本金ヲ三千萬圓ヲ五千萬圓ニ改メマシタ關係上政府カラ出資致サセマスモノモ、ソレニ準ジテ増額セシムルコトガ當然ト思ヒマシテ、政府ノ出資額ハ原案ニ於キマシテ千五百萬圓トアリマシタノ

ヲ私共ハ二千五百萬圓ニ修正シタノデアリマスガ、私ガ申スマデモナク、産業組合ハ一萬四五千ニ達シテ居リマス、而シテ其組合員ハ約二百五十萬ト計算致サレテ居リマス、現在ニ於テ其組合ガ拂込資金トシテ有シテ居ルモノ六千八百萬圓ニ達シテ居リマス、又準備金トシテ有シテ居ルモノ二千七百萬圓以上ニナツテ居リマス、此産業組合ガ農工銀行、勸業銀行カラモ借入レテ居リマス所ノモノガ、約四千七百萬圓ニ相成ツテ居リマス、而シテ是等ノ産業組合ガ預リ金、即チ貯蓄ト致シテ居リマスモノ一億七千萬圓ニ達シテ居リマス、現在ニ於テモ是ダケノ巨額ノ金ヲ取扱ッテ居リマス、其數一萬四五千以上ニ達スル産業組合デアリマス、此産業組合ニ對シマシテ、努メテ金融ヲ滑カニ致シ、産業ノ發達ヲ助成シテヤラウト致シマスニハ、私共三千萬圓ノ資金ハ少々心細イト感ズルノデアリマス、此點ニ於キマシテ私共ハ二千萬圓ヲ五千萬圓ニ致スコトニ致シタ、勿論二千萬圓ト致スニ付キマシテハ、提案サレタ諸君ニ於テハ、其半額ヲ政府カラ出資セシメルカラ、政府ノ今日ノ財政ノ状態モ顧慮シナケレバナラヌト云フ御考察ガアッタコト、推測シマス、是ハ洵ニ御尤ナ事ト存ジテ居リマス、ソレ故ニ私共ハ政府ヲシテ二千五百萬圓ニ出資額ヲ増額セシムルヤウニ原案ヲ修正致シマシタガ、政府ガ年々拂込ムコトニ付キマシテハ、原案ノ通り、五百萬圓宛ト致シテ置キマシタカラ、現在ノ財政状態ヲ顧慮致シマシテモ、政府ノ出資額一千五百萬圓ヲ二千五百萬圓ニ増加シタコトガ、中央ノ政府ノ財政状態ニ影響スル所ノ修正デアルトハ考慮出來ナイ此意味ニ於キマシテ私共ハ努メテ提案者ノ趣旨ニ副フベク、中小産業者ニ對シ資金ノ供給ノ途ヲ開キ、産業ノ發達ヲ助成スル此提案ノ趣意ニ副ヒマシテ、其目的ヲ努メテ優良ニ貫徹セシメタイト思ヒマシテ、此修正ヲ試タ譯デアリマス次ニ私共ノ主ナル修正ハ役員ニ關スル事デアリマス、是ハ只今委員長カラモ報告サレマシタガ、又委員會ニ於キマシテモ、屢議論ノアッタ問題デアリマス、此産業組合中央金庫ヲ相互的純然タル産業組合組織ノモノニスルカ、又ハ一部ノ組合組織ト金融機關トヲ加味シタルモノニスルコト云フコトニ付テハ、頗ル議論ノアル問題デアアル、意見ヲ異ニスル問題デアラウト思ヒマス、私共ノ考ハ若シ日本ノ總テノ産業組合ノ進歩ノ状態ガ許ス事デアラナラバ、斯ヤウナ中央機關ヲ作ルニ致シマシテモ、努メテ相互



的ノモノニスルコトガ最モ其效力ヲ發揮スルニ有力ナルモノナリト信ジテ居ル併ナガラ今日ノ日本ノ産業組合ノ状態、總テノ日本ノ社會制度ノ状態ガ私共ヲシテ徹底的ニ立案セシムルコトヲ許サナイ状態デアリマス、ソレ故ニ政友會ノ諸君ハ更ニ初メ御提案ニナッタモノヲ御修正ナサルニ付テ、努メテ産業組合ノ精神ニ則リ、修正ヲサツタト御言ヒナサリナガラ、役員ノ點ニ付テハ一步モ手ヲ御觸レニナラナイコトハ頗ル矛盾ノモノデルト確信致シマス若シ此産業中央金庫ノ問題ヲ相互的ノモノトシ、相互的組織ノモノトスルナラバ、私共ノ理想ヲ申セバ出資者ノ總會ニ於テ選出スル役員デナケレバナラズト信ジテ居リマス、ケレドモ、今日ノ状態ハ其程度迄行クコトヲ總テノ事情ガ許シマセヌガ故ニ、現在ノ事實ヲ根據ト致シマシテ此法案ヲ實際ニ運用スルニ遺憾ナカラシメンコトヲ期スルガ爲ニ、私共役員ニ付テハ……原案ニ於キマシテハ理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ストアリマスルノヲ、理事長、副理事長、理事ダケハ主務大臣ノ任命ニ存シ、監事ハ出資者總會ニ於テ之ヲ選定スルコトヲ至當ナリト認メマシテ、稍茲ニ民本化スル折衷的ノ修正ヲ致シタ譯デアリマス、次ニ第十二條デアリマス、原案ニ於キマシテハ、産業組合中央金庫ニ評議員二十名以内ヲ置キ、主務大臣之ヲ任命スト、而シテ其半數ハ産業組合關係者中ヨリ選任セラル、ル規定ヲ設ケテアルコトヲ以テ、提案者諸君ハ之ニ依ッテ稍民意ガ容レラレルモノデアアル、組合組織ノ精神ガ此處ニ稍々發揮サル、モノデアアルト御主張ナステ居ルヤウデアリマス、併ナガラ私共ハ更ニ此評議員ニ對シテハ、モウ少シク徹底的ニ組合出資者ノ意思ヲ實現セシムル所ノ規定ヲ設ケルコトガ至當ナリト認メマシテ、評議員十名以内ハ主務大臣之ヲ任命シ、他ノ十名ハ出資者總會ニ於テ之ヲ選定スルコトノ規定ヲ置イタノデアリマス、之ニ關聯致シマシテ寔ニ遺憾ナ事デハアリマスガ、日本ノ現在ノ状態ニ於キマシテハ、斯様な機關ヲ造ラレマシテモ、動モスレバ是ガ政黨ノ間ニ利用サレ、惡用サレルト云フ弊害ガ起リ易イ私共ハ左様ナ事ノナキコトヲ希望致シマスケレドモ、日本ノ現在ノ政略、實業界、社會ノ状態ノ現實ヲ事實ト致シテ考慮スル時ニハ、斯ウ云フ點ニ付テモ多少考慮ヲ致サナケレバナラズト考ヘテ居リマス、此意味ニ於キマシテハ、私共ハ新ニ十三條ヲ設ケマシテ、理事長、副理事長及理

事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラズ、他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズト原則ヲ定メマシタ、併ナガラ時ト場合ニ依リマシテハ相當ノ場合ニ於テハ、他ノ業務ニ從事サセナケレバ適任者ガ得ラレナイト云フコトモアラウト考慮致シマシテ、但書ヲ入レマシタ、但シ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニアラズト規定致シタデアリマス、次ニ私共ノ主ナル所ノ修正ノ一ツデアアルコトハ、原案ニ於キマシテハ第十三條、私共ノ修正致シマシタ修正案ニ依レバ第十四條デアリマス、第十四條ノ一號、二號、三號中ニアリマス所ノ所屬産業組合、若ハ所屬産業組合聯合會トアリマスル其「所屬」云フ字ヲ削除シタコトデアリマス、之ニ付テハ少シク此理由ヲハツキリ申上ゲテ置カナケレバナラナイト思ヒマス、若シ此産業組合中央金庫ヲ純然タル組合組織ノモノト致シマスレバ、此所屬ト云フ字ノ存スルコトニ於テ、寔ニ意味ガアルコトデアリマス、併ナガラ全體ヲ通ジテ役員ノ立場カラ見マシテモ、總テノ機關ノ運用ノ此處ニ規定サレテ居リマス所ノ状態カラ考慮致シマシテモ、純然タル所ノ相互的組合組織ノモノト認メルコトハ出來マセヌ、而シテ私共二千五百萬圓ト云フ資金ヲ政府カラ出サセマスガ、此二千五百萬圓ト云フノハ、取リモ直サズ、國民全體ノ負擔ニ係ルモノナルコトハ明カデアリマス、此産業中央組合金庫ノ組織ハ、純然タル産業組合ノ組織デナイモノデアリマシテ、而モ政府ニ二千五百萬圓ノ金ヲ出資セシメヤウトシマスル以上ハ、此組合ニ所屬スル所ノ組合ノミニ貸金ヲ爲シ、或ハ爲替ノ取引ヲシテヤル、預金ヲ取扱ッテヤルコト云フガ如キコトニナリマシテハ、私共此全體ノ構造其モノカラ考慮致シマシテ、甚ダ不備デアリ、不公平デアルト信ジテ居ルノミナラズ、斯様な規定ヲ設ケテ置キマシレバ、現在存在シテ居ル所ノ産業組合デ、此中央金庫ノ中ニ這入りマシタ所ノモノハ宜シウゴザイマセウガ、是カラ新ニ出來マス所ノモノガ、此産業組合中央金庫ト取引關係ヲ開キタクモ開クコトノ出來ナイヤウナ状態ニナリマス、私共斯様な現在ノ金融機關ノ如キ「ブルジョア」ノ機關デアラナラバ兎ニ角デアリマス、斯様な努メテ民衆ノナ、而モ中小産業者ニ便宜ヲ與ヘヤウ、金融ノ途ヲ開カウト云フ所ノ計畫デアアルモノナラバ、所屬デナイト云フヤウナ差別ヲシテ取扱フベキモノデナイト信ジテ居リマス、此意味ニ於テ私共ハ此「所屬」ト云フ字ヲ削ッタノデアリマ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



ス、之ニ付キマシテハ此所屬ト云フ字ガアルトナイトニ依ッテ其主務大臣ノ之ヲ管理スル所ノ主  
 力ガ大藏大臣ニ屬スルカ、農商務大臣ニ屬スルカ、一ツノ岐レ目デアルト云フヤウナ御議論ガア  
 リマスガ、私共之ヲ傾聽スル價値ハナシト信ジテ居ル、私共ハ農商務大臣大藏大臣ト云フガ如キ  
 差別ヲ致サズシテ政府ハ政府トシ、内閣ハ内閣トシテ、總テ考慮致サナケレバナラナイト確信致  
 シテ居リマス現在ニ於キマシテ日本ノ内閣制度ガ恰モ群雄割據ノ如キ状態デ、一ツノ新シイ所  
 ノ仕事ガ起レバ、官吏ノ就職口、或ハ官吏ノ榮達ヲ圖ルノ途ノ爲ニ、勞働局ヲ作レバ農商務省ト  
 内務省、社會局ヲ作レバ農商務省ト内務省、産業組合中央金庫ヲ作ラウトスレバ大藏省ト農商務  
 省ト、恰モ其勢力ヲ争フガ如キ状態ニ對シテ、私共ハ慊タラザル者デアリマス、斯様ナ事ヲ私共  
 改メテ點カラ申シマシテモ、斯様ナ所屬ト云フ字ノ如キ字ヲ削リマシテ、努メテ此機關ノ普遍的  
 ニ民衆的ニ赴クコトヲ希望スル意味ニ於テ、此所屬ト云フ字ヲ削ツタノデアリマス、更ニ私共ノ  
 重要ナル修正デアリマスガ、是ハ原案ニ付キマスレバ第十五條デアリマス、私共ノ修正カラ申シ  
 マスレバ、第十六條デアリマス、政友會ノ瀧君ノ修正ハ原案ノ十六條ヲ削除ナスツテ居リマス、ソ  
 レニ關聯スル所ノ幾多ノ修正ヲ加ヘラレテ居リマス、此原案十五條ノ規定ハ斯様ナ規定デアリ  
 マス「産業組合中央金庫ハ定期預リ金ヲ爲スコトヲ得」ト云フ規定、是ハ政友會ノ御提案ニ係ル  
 モノデ、政友會ノ提出ニナツタモノデアリマス、ソレヲ瀧君ガ此全文ヲ削除ナスツテ居リマス、ソ  
 レト共ニ原案ノ第十六條、私共ノ修正案ニ依リマスレバ、十七條ノ第三號ニ當リマス「國債又  
 ハ公債若ハ生産物ヲ擔保トスル三箇月以内ノ短期貸付又ハ手形ノ割引ヲ爲スコト」ト云フ、此規  
 定ヲ瀧君ハ削除ナスツテ居リマス、昨日委員會ニ於キマシテ、私共ト意見ヲ同ジウ致シマスル憲  
 政會ノ下岡君ガ、斯様ナ修正ヲ爲シタコトニ付キマシテ、牧野君ハ私共ノ修正ハ無責任デ  
 アルト云フガ如キ言ヲ御吐キニナリマシタ、是ハ牧野君ノ御熱心ノ餘リ斯様ナコトヲ御言ヒニ  
 ナツタ事ダラウト思ヒマシテ、此點ニ付キマシテハ私ハ御答メヲ致シタクナイ、私共ノ修正ハ決  
 シテ無責任デナイト云フコトダケヲ牧野君ヲ御答メスル意味デナクテ、明瞭ニ致シテ置ク必要  
 ガアルト思ヒマス、私共斯様ニ信ジテ居リマス、此大切ナル産業中央金庫ノ法案ヲ政友會ガ御作

リニナツテ、此二ツノ項ヲ削除ナスツタガ爲ニ、全ク骨抜き案ニナツタト信ジテ居ル者デアリマス  
 政友會ノ諸君ハ此提案ノ理由ニ斯様ナコトヲ申シテ居リマス、「農村振興ノ爲施設スベキモノ極  
 メテ多シ雖中小産者ニ對シ資金供給ノ途ヲ開キ其ノ産業ノ發達ニ努ムルコトヲ以テ最急務ナリ  
 トス」ト、而シテ産業組合ノ本質ニ照シ主トシテ對人信用ヲ目的トスル特種金融機關ヲ設立スル  
 意味ニ於テ、此法案ヲ提出シタト説明理由書ニ御述ニナツテ居リマス、私共一ツノ金融機關ヲ造  
 リマシテ、其金融機關ガ既ニ存在シテ居ル、勸業銀行ナリ、或ハ農工銀行ナリニ多小ノ影響ナイ  
 ト云フコトヲ希望スルノハ、絶對ニ不可能ノ事デアリマス、既ニ現在アル所ノ金融機關ガアル如  
 何ナル種類ノ金融機關ヲ造リマシテモ、必ズ既成ノモノニ對シテ多少ノ影響アルコトハ免レマ  
 セス、現在ノ農工銀行、勸業銀行ハ主トシテ中産以上ノ階級ノ金融機關トナツテ居リマス、茲ニ新  
 ニ創設セントスル所ノ、即チ此法案ニ依リマシテ創設セントスル所ノ産業組合中央金庫ナルモ  
 ノハ、努テ中小産業者ノ金融機關タラシメヤウト云フ趣意ニ出ヅルモノデアリマス、ソレ故ニ其  
 範圍ニ於テハ多少農工銀行、勸業銀行等ノ事業ニ影響スル所ガアリマシテモ已ムヲ得ナイ事デ  
 アリマス、若シ此只今申述ベマシタ十五條ト十六條ト三項ノ規定ヲ削除シマスレバ、殆ド此モノ  
 ガ金融機關タルノ素質ヲ大半失フコトニナル、斯様ナモノニナリマスレバ、折角政友會ノ諸君ガ  
 御作リニナラウトシタ精神ヲ十分ニ發揮スルコトガ出來ナイ、ノミナラズ私共ハ此原案ヲ保存  
 スルコトニ依ッテ、此中央金庫ノ其意味ガ發揮セラルルモノト確信致シマシテ、此規定ヲ存續ス  
 ルコトニ致シ、即チ政友會ノ多木君ノ修正案デ此處ヲ削除シマシタモノヲ、私共復活ヲスルト云  
 フ意味デアリマス、次ニ私共ノ企テマシタ所ノ修正ハ原案ニ於キマシテハ第二十條、私共ノ修正  
 案ニ於キマシテハ二十一條ノ規定ニナツテ居リマス「産業債券ハ券面金額五十圓以上トシ無記名  
 利札附トス」ト斯様ニアリマスルモノヲ債券ニ付テ無記名利札附ト云フノハ極テ古イ型デアリ、  
 且ツ幾多ノ不便ノ點モアルノデアリマスカラ「ト云フテ之ヲ全部削除スルニハ及バナイ、是ト  
 併セテ割引債券ヲモ加ヘテ置クコトガ此法案ヲ運用スル爲ニ便法ト信ジマシテ、無記名利札附  
 又ハ割引債券トスト云フ數字ヲ加ヘルコトニ修正致シタノデアリマス、其意味ハ前段申上ゲ



タ通りデアリマス、次ニ私共ノ加ヘマシタ所ノ修正ハ、此法律案ヲ委員會ニ於テ審議スル際ニモ幾多問題ニナリマシタ、此産業組合中央金庫ハ主トシテ大藏省ニ所屬スルカ、農商務省ニ所屬スルカト云フヤウナコトデ幾多ノ問題ガアリマシタ爲ニ、ソレ故ニ政友會ノ諸君モ主務大臣ト云フ規定ヲ設ケラレタノデアリマス、私共ハソレダケノ規定ヲ以テ満足致ス者デアリマセヌ、斯様ニ兩方ノ大臣ガ此法案ノ總テノ事項ニ關係致シマス以上ハ、兩大臣ノ範圍ヲ明ニ限定致シテ置キマシタ方ガ便宜ト心得マシテ、附則ノ初メニ於キマシテ一條ヲ加ヘラレマシタ、ソレハ私共ノ修正ニ依レバ、第三十九條ト相成ル譯デアリマス、其九條ノ修正ハ本法中主務大臣トアルハ第十一條第二十三條、第二十九條、第三十條、第三十四條、第四十一條及第四十二條ニ在リテハ農商務大臣及大藏大臣其他ニ在リテハ農商務大臣トスルト簡様ナ規定ヲ設ケテ、此法ヲ運用スル爲ニ、大藏省ノ所屬、農商務省ノ所屬ヲ豫メ境界ヲ立テ、置ケバ、極テ敏活ニ迅速ニ此群雄割據ノ如キ兩者ニ於テモ、比較的衝突ナクシテ圓滑ニ運用出來ルト信ジマシテ、斯様ナ規定ヲ設ケタノデアリマス、私共ノ修正ハ、只今申述ベタ通りデアリマス、政友會ノ諸君ガ初ニ御提案ナスタトキノ精神ニ成ベク副フヨウニ致シ、私共ノ多年ノ主張ニ成ベク副フヤウニ致シ、日本ノ現狀ニ鑑ミマシテ、此産業組合中央金庫法ガ出來マシテ、此機關ガ整ウタナラバ、茲ニ希望スル所ノ事ガ、努テ最初カラ可ナリ其期待ヲ裏切ラザル狀態ニ實現出來ルヤウニト考慮ヲ致シマシテ、瀧君ノ修正ノ或點ニ於テハ、私共共通ノ點ハ贊成シ、只今ノ特ニ十五、第十六條ノ問題ニ於キマシテ、骨抜ノ原案ニ爲スタコトヲ遺憾ト致シマシテ、ソレヲ復活シ、此中央金庫ノ意味ヲ明確ニ堅實ナラシメヤウトシテ修正案ヲ出シタ譯デアリマスカラシテ、慎重ニ御考慮下スツテ、御贊成アラントヲ希望致シマス

討論ニ入り牧野良三君ハ修正案ニ反對森達三君ハ贊成ノ演説ヲ爲ス

牧野良三君ノ修正案反對演説

本員ハ委員長ノ報告ニ贊成ヲ致シ、只今革新俱樂部ノ植原君ヨリ御提議ニナリマシタル修正案ニ、反對ノ意見ヲ陳述致シタイノデゴザイマス、只今植原君ノ御演説ヲ承ツテ居リマスルト、委員ニ於テ此修正案ヲ御提議ニナリマシタル下岡委員ノ御演説ノ趣旨トハ、大分違ツテ居ル點ガアルヤウニ存ジマス、修正ノ字句ハ固ヨリ同一デアリマスルガ其趣旨ニ至ツテ、多少本員ノ解スル能ハザル點ガアルヤニ拜聽致シマシタ、此點ニ付キマシテハ、下岡委員ノ御説明ニ依ツテ本員ハ反駁ヲ試ミタイト存ジマス、本員ハ本案ニ對シマシテ憲政會並ニ革新俱樂部ノ一部ヨリ修正意見ノ出デタルコトヲ、深く遺憾ト致ス者デゴザイマス、此修正意見ハ吾々ノ意ノ在ル所ヲ、未ダ十分ニ御認下サラナイ結果デアル本案ハ既ニ十分ニ御承知ノ通り、之ヲ口ニ唱ヘテ社會ニ向ツテ理想ヲ叫ブノ案デハナイ、吾々ハ相共ニ諸君ト力ヲ戮セ、政府ヲ督勵シ、之ヲ實行セシムルノ實行案デアリマス、然ルニ只今此所ニ提議サレマシタル案ノ内容ハ、政府ニ向ツテ其不可能ナル事ヲ求メントセラルル理想事項ガ、内容ノ主ナルモノニナツテ居ルト云フコトヲ遺憾ニ感ズルノデアリマス、抑本案ノ目的トスル所ヲ實行センガ爲ニハ、政府ノ出資額ト云フ點ニ於テ、組合ノ出資額ト云フ點ニ於テ、而シテ更ニ大藏、農商務、及法制局等、關係各省ノ圓滿ナル協調ノ點ニ於テ深く御考慮ヲ願ヒタイト思フ、隨ツテ是等ノ關係ニ於テ最上ノ可能性ヲ取入レテ以テ、本案ノ達成ヲ期シタイト思フノハ、本員等ノ衷心ノ望デアアルノデアリマス、然ルニ修正案ノ條項ハ連日ニ互リマシテ、最モ熱心ニ詳細ニ、委員會及懇談會ニ於テ遂ゲマシタル其調査ト研究ト論議ノ結果ヲ、何等同情ナクシテ一蹴シ去ツテ居ラレルノ嫌ガアル、斯ク解シマスタキニ、本員等ハ此修正案ト云フモノハ當初ヨリ是ガ實現ヲ期待サレタノデハナク、吾々ノ理想ハ此點デアルト云フコトノミヲ、茲ニ表白セラレタニ過ギナイノデナカラウカト思フ、元來本案ハ各黨各派ノ希望、ソレヲ内容ト致シテ居ルモノデアアル、隨ツテ假令發案者ハ政友會デアリマシテモ、此案ガ勇マシク呱呱ノ聲ヲ揚ケル、其聲ハ各黨各派同一ノ手ニ於テ發セシメタイト思フノガ吾々ノ希望デアアル、苟モ是ガ一致ノ手ニ依ツテ取上スルト云フコトニナリマシタラバ、一致ノ手ニ依ツテ育テルト云フコトノ責任ト愉快トガソコカラ生ジテ來ルニ相違ナイ、斯ノ如クニシテ願クハ



我國自治生活ニ新生面ヲ與ヘ、國家ノ基礎根幹ヲ、培フトイフコトニ相與ニ俱ニ進メタイ、斯様ニ本員等ハ苦心ヲ致シタ、何トナレバ産業組合中央金庫法案ハ、單ニ農村ニ對スル金融機關タル使命ヲ有スルバカリデナク、我が國民生活ノ一大革新ヲ斷行スベキ重大ナル使命ヲ有シテ居ルト云フコトハ、既ニ提案者ヨリ此壇上ニ於テ説明ヲモラシタ通りデアリマス、現ニ諸君ガ最近ニ於テ憂慮シテ居ラレル小作問題ノ如キニ關シマシテモ、決シテ此問題ハ小作料ノ高下、若クハ搾米ノ高イ低イト云フヤウナ問題ガ其中心ヲ成シテ居ルノデハナイ、今ヤ農村ノ子弟ハ滔々トシテ工業労働、若クハ都會労働ニ赴キツツアル、之ニ走ルコトソレ自身ヲ、私ハ必シモ咎メルノデナイノデアリアスガ、其影響ガ更ニ大ニ寒心ニ堪ヘザルモノガアルコトヲ、此場合ニ於テ一言申シタイノデアアル、何トナレバ彼等ハ何ノ爲ニ是等都會ノ労働若クハ商工ノ労働ニ走ルカト云ヘバ、ソレハ己ノ生活ヲ犧牲ニシテ、唯賃銀ヲ追ウテ茲ニ走ルノ傾向ガアルカラデアリマス、今日吾々ノ農村ハ進ンダ結果ト申シマスカ、臺灣米ヲ用キルコトヲ覺ヘテ來タノデアアル、而シテ其臺灣米ノ一袋ノ代ガ、諸君御承知ノ通りニ十圓ニ充タナイモノガアル、然ルニ農業ニ於テ此一袋ノ臺灣米ヲ得ルト云フコトノ苦心ハ、容易ナモノデナイニモ拘ラズ、商工労働ニ若クハ市街労働ニ赴キマスナラバ、一日ノ労働ノ賃銀ハ少クトモ二圓、二圓五十錢、三圓、三圓五十錢ト云フモノニ至ルコトハ諸君御承知ノ通りデアアル、隨ツテ北臺灣米一袋ヲ得ルニハ、子供一人ガ四五日働ケバソレテ足ルノデアアル、親子共ニ働ケバ二日カ三日ニハ一袋ノ臺灣米ヲ得ルコトガ出來ルノデアアル、故ニ彼等ハ此米、此食糧ヲ得ンガ爲ニ、眞面目ナル農耕ニ従事スルヨリモ、彼等ハ單ニ其賃銀ヲ爲ンガ爲ニ、都會ニ走ラントスルノ傾向ヲ著シク現シテ來タノデアアル、然ルニ彼等ハ之ニ依リマシテ生活ノ満足ヲ得ルト云フコトガ出來タナラバ、吾々ハ彼等ガ是等ノ労働ニ走ルコトヲ咎メタクハナイ、併ナガラ彼等ノ之ニ走ルノハ唯賃銀ノ額ニ向テ走ルノデアアル、其額ニ欺カレテ、彼等ガ彼等ノ祖先以來卑ンデ來タ所ノ労働、彼等ノ隣人ガ卑シム所ノ労働ニ赴クノデアアル、其結果トシテ、彼等ハ労働其モノヲ樂マズ、一日働イテ來テ家ニ歸ツテ決シテ一日ヲ樂マズ、己ヲ裏切り、社會ヲ裏切り、而シテ其時彼等ガ耳ニ聞キ、眼ニ見ル所ノモノハ何デアアルカ、彼等ノ耳ニ

聞ク所ノモノハ非國家的ノ聲デアアル、彼等ノ眼ニ見ルモノハ非國家的ノ文字デアアル、即チ彼等ノ不平ト不滯トヲ煽ラントスル所ノ思想ト云フモノガ、彼等ノ労働ニ走ル所ノ收獲デアッタ、即チ國家ノ思想問題ト云フコトニ付テ甚ダ寒心ニ堪ヘナイト云フノハ、此點ニ深キ々々モノガアルト云フコトヲ諸君ト吾々トハ想ハナケレバナラヌト信ズル、此意味ニ於テ希クハ本員等ハ農村ヲ繁榮セシメ農村子弟ニ職ヲ與ヘ、樂ンデ農村ノ農業ニ從ヒ、喜ンデ祖先以來ノ其土地ヲ守ルト云フ念ヲ彼等ニ與ヘシメ、希クハ以テ陛下ノ國土ヲ安穩ニ維持スル此心得ヲ、諸君ト吾々トハ特ニ深カラシメント欲スル、夫レ産業組合ト申シマスルモノハ、御承知ノ通り經濟的弱者ニ對シテ、經濟的弱者ガ自ら自己ヲ保護シ、發達セシメントスルノ制度デアリマス、而シテ是ガ中央金庫設立ノ目的任務ハ、農村若クハ都會ニ於テ各種ノ生産ニ従事スル中産以下ノ國民ノ必要トスル所ノ資本ヲ最モ確實ニ最モ適切ニ、與ヘントスル所ニ其重大ナル任務ガ在ル、即チ彼等ガ生活上ノ努力及國家ノ生産上ノ努力其モノヲ保護シ、普及シ、發達セシムルト云フコトガ、本案ノ目的骨子ヲ成スルノ任務デアルト云フコトヲ御承知ヲ願ヒタイ、隨テ本案ノ目的ハ國家ガ行フ所ノ社會政策中ノ、最モ重要ナルモノデアルト云フコトヲ御承知ヲ願ヒタイノデアアル、此點ニ關スル誤解ガ、即チ只今此所ニ上リマシタル修正案ノ骨子トナツテハ居ナイカト本員ハ疑フノデアアル、此重大ナル使命ヲ有スル所ノ本案ヲ成立セシメ、實行セシムルガ爲ニハ、各黨各派ノ協調的ナ即チ全會一致ノ決議ニ依ツテ之ヲ進メタイト思フノデアアル、其爲ニハ吾々ハ委員會ニ於テ連日讓歩ニ讓歩ヲ重ネ、協議ニ協議ヲ重ネテ以テ、諸君ノ意思ヲ適當ニ實現センコトニ努メタノデアアル、然ルニモ拘ラズ最後ノ日ニ於テ、突然トシテ修正案ガ提起セラレタト云フコトニ對シテ、本員ハ非常ナル不満足ヲ感ズル者デアリマス、是レ即チ私ガ本案ニ對スル憲政會並ニ革新俱樂部提出ノ修正案ニ付テ、遺憾ト感ズル第一點デアリマス、更ニ第一點ハ本案ヲ成立セシメ、責任ヲ以テ其實行ヲ期スル上ニ於テ、諸君ノ修正案ト云フモノハ、最小限度ノモノデアルト云フコトヲ知ラレナケレバナラヌノデアアル、何トナレバ諸君ニ此場合ニ於テ御披露致シタイ、此修正案ノ骨子ハ、最後ノ懇談會ノ席上ニ於テ法制局長官自ら種々ナル意見ヲ述ベラレ、各委員モ茲ニ種々ナル希



望ヲ述ベ、論議ヲ重ネタ結果ニ於テ、吾々是認スベキ實行ノ上ニ於テ、最小限度ノ修正其ノモノ  
 デアルト云フコトヲ御承知ヲ願ヒタイノデアアル、然ルニ單ナル理想ヲノミ主張セラル、ト云フ  
 ノミナラバ宜イケレドモ、今之ヲ可決シテ以テ實行シナケレバナラヌト云フトキニ、政府之ヲ  
 容ル、能ハズ、實行ヲ妨グルノ修正條項ヲ吾々ニ突付ケテ、然ラバ之ヲ容レヨト言ハル、ニ至テ  
 ハ、本員之ヲ遺憾ニ感ズル所ノ第二ノ理由ト致サバ、得ナイノデアアル、之ヲ以テ本員ハ其修正  
 條項ハ甚ダ遺憾ナル修正意見デアルト云フコトヲ述ベマシテ、更ニ各修正條項ニ對シテ一々具  
 體的ニ其謂レナキコトヲ辯駁致シテ見タイト存ジマス、第一ニ資本ヲ五千萬圓ニセヨト言ハレ  
 マシテ、吾々ガ提出致シマシタル案ノ第四條、第五條並ニ第六條ノ修正意見ヲ提出サレマシタ、  
 是ガ本員ノ承服スルコトノ出來ナイ第一點デアアル、ソレガ三千萬圓ハ少キニ失スルト言ハレマ  
 スケレドモ、五千萬圓ニシナケレバナラヌト云フ根據ハ、唯サウシナケレバナラヌト云フダケノ  
 御議論デアッタヤウニ拜承スルノデアアル、固ヨリ此種ノ金額ノ多イコトハ、吾々決シテ反對ハ致  
 シマセヌ、併ナガラ吾々ハ今之ヲ以テ實行スルガ爲ニ、金額ヲ定メナケレバナラヌト云フコトヲ  
 考ヘナケレバナラヌ、其點ニ於テ第一ニ政府ノ出資額ト、現在我國ノ財政狀態ト云フモノヲ十分  
 ニ考慮シナケレバナラヌ、現ニ此議會ニ於テハ政府ハ吾々ノ意ノ在ル所ヲ尊重シテ、義務教育費  
 ニ三千萬圓ノ増額ヲ爲サントシ、更ニ又本日上程サレマシタル所ノ恩給法ニ於テ、吾々ノ意見ヲ容  
 レテ、金額ニ於テ二千五百萬圓以上ノ増額ヲ斷行セントシ、其中ノ約四百萬圓ト云フモノハ本年  
 ヨリ之ヲ支出スルコトヲ約束シテ居ル、隨テ恩給法實施ノ爲ニハ、既ニ改正恩給法ニ於テ、政  
 府ハ從來ノ恩給ヨリハ五百萬圓ノ増額デアアル、其上ニ更ニ四百萬圓ヲ吾々ノ意ニ依ッテ本年ヨリ  
 増額スルト云ヘバ、此意味ニ於テ九百萬圓ト云フモノヲ支出シナケレバナラヌ、其餘ノ約二千萬  
 圓ト云フモノハ向フ五年、六年ノ間ニ於テ支出スルト云フコトヲ、政府ガ諸君ト吾々トノ前ニ約  
 束シタノデアアル、其政府ガ尙ホ其上ニ吾々ニ向ッテ、産業組合聯合會中央金庫ノ資本トシテ若干  
 ノ金額ヲ支出セヨト言フ、其額ニ對シテ吾々ハ種々ナル交渉ヲ爲シ、而シテ政府ノ財政狀態ヲ數  
 字ニ依ッテ徹底的ニ之ヲ研究シタ結果、最大限デアアル千五百萬圓ヲ向フ三年間ニ出資セシムルノ

約言ヲ得タノデアリマス、即チ此意味ニ於テ千五百萬圓ハ架空ナル千五百萬圓ニ非ズシテ、政府  
 財政ノ根柢ニ付テ、種々ナル調査研究ノ結果デアルト云フコトヲ御承知ヲ願ヒタイノデアアル、隨  
 テ之ヲ唯無條件ニ増加スルト云フコトハ政府ノ容ル、能ハザル、即チ本案ヲ行フ能ハザルコト  
 ヲ豫想シテ、唯之ヲ強要スルノ結果ニ過ギナイ、故ニ吾々ハ此千五百萬圓ヲ維持致シタイ、既ニ  
 政府ハ今申シマシタル金額ハ、二年三年向フニマデ之ヲ支出シナケレバナラヌ、政府ハ無暗ニ將來ニ  
 對シテ左様ナル約束ヲシテハナラヌト云フコトハ、早凍整爾君ノ財政演說ノ場合ニ於テ、此壇上  
 デ爲サレタ演說ノ内容、デハナイカ、然ルニ五年六年ノ向フニ行ッテ出セバ宜シイノデアアルカラ、  
 此所デ約束セヨト言ハルノハ、政府ニ無責任ヲ強フル所ノ無責任ノ言論デアルト吾々ハ斷定致  
 シタイノデアアル、更ニ此三千萬圓ト決定致シマシタル第二ノ理由ヲ申サン、第二ノ理由ハ御承知ノ  
 如ク、其三千萬圓ノ半額一千五百萬圓ハ、産業組合並ニ産業組合聯合會ガ之ヲ支出スルノデア  
 ル、隨テ現在産業組合法ニ其聯合會ノ狀態ヲ考察シナクチャナラヌ、此點ニ於テ植原君ノ舉ゲラ  
 レタル數字ト云フモノハ、本員亦之ヲ其儘用キルコトニ躊躇致シマセヌ、併ナガラ現在一萬四千  
 ノ産業組合ノ中ニ、果シテ責任ヲ以テ此中央金庫ガ設立サレル曉ニ、相違ナク實施シ得ルモノ、  
 數ヲ幾ラト見積ルヲ適當トスルカ、私ハ此場合ニ於テ七千五百位ニ見積ルコトヲ適當ト思フ、更  
 ニ其出資口數ニ向ッテモ、約平均ニ於テ二十口ト見ルコトヲ適當トスル、種々ナル狀況、其狀態、  
 其發達、及其資産狀態、有ユル方面カラ見マシテ、約七千五百ノ組合ヲ約平均二十ノ出資ヲ見ル  
 トシテ、茲ニ十五萬口ト云フ出資ガ、本案成立シテ之ヲ實行スル曉ニ多クノ苦慮ヲ拂ハズシテ、  
 茲ニ集ルモノト推定致シタノデアアル、斯ノ如ク確實ナル責任アル根據ニ依ッテ立テタ所ノ此十五  
 萬口ヲ、謂レナク單ニ形式ノミニノ數字ヲ以テ破ラントセラル、コトハ、餘リニ本案ノ苦心アル點  
 ヲ一蹴シ去ラントスルモノトシテ、甚ダ遺憾ヲ感ゼサルヲ得ナイノデアアル、若シモ本案ガ成立シ  
 實行セラル、曉ニ於テ、本案ノ趣旨ヲ賛成シ、全國ニ於テ、急ニ多クノ産業組合ガ出來テ其産業  
 組合ガ皆十、二十ノ出資ヲ爲サント欲スルコトノ申込ヲ爲シタナラバ、ソレコソ吾々ノ出シタル  
 此法律案ハ適切ナルモノデアルト云フコトニナルノミナラズ、來年度ニ於テ茲ニ吾々ハ、更ニ多



クノ増資ヲ斷行スルト云フ的確ナル資料ヲ得ルノデアアル、斯ノ如クニシテ吾々ハ徐々トシテ堅實ニ此金庫ヲ發達セシメタイ、其念慮カラ吾々ガ責任ヲ以テ募集シ得ルノ金額、及政府當局ガ責任ヲ以テ加入セシメ得ル其ノ口數ヲ十五萬口、千五百萬圓ト推定致シタ、此根據ニ對シテ願クバ修正案ヲ出サレタ諸君モ、十分御考ノ上御贊成アラシムコトヲ希望致シタイノデアアル、現ニ此席ニ於テ下岡忠治氏ガ農村振興ノ演說中ニ述ベラレタル、普魯西ノ「セントラゲ」ツセシヤフトカツセ」ノ如キモ、其設立セラレマシタル千八百九十五年ニハ、其資本ハ五百萬圓デアッタノデアアリマス、僅ニ五百萬圓デアッタ、而シテソレニ依ッテ社會ノ狀態、産業組合ノ眞ノ實力ヲ見タ上デ、直ニ其翌年千八百九十六年ノ六月八日ニハ、勅令ヲ以テ二千萬圓ニ増加致シテ居ル、更ニ十四年經マシテ、千九百九年ニハ之ヲ七千五百萬圓ニ増加シ、又千九百十八年ニ至ッテ一億二千五百萬圓ニナリ、更ニ一億五千萬圓ニ増加シ、往々トシテ堅實ニ漸ク逐ウテ、實際ノ産業組合ノ發達ニ應ジテ、其規模ト其出資額トヲ増加致シテ來テ居ルノデアアル、ドウカ初メカラ吾々ガ確信ナキ大キナ額ヲ喜バナイ、確信ノアル堅實ナル、額ヲ少クシテ之ヲ維持シタイト云フノガ吾々ノ希望デアリマス、修正案ノ第一ノ理由ハ本案ガ兎角官僚的色彩ヲ有シテ居ハシナイイカト云フ理由ノ下ニ、理事長、理事監事、評議員、是等ノ選任ガ總テ政府ノ任命ニナッテ居ルト云フ點ヲ指摘サレテ居リマス、此問題ニ關スル論議ハ一應御尤ナ點ガアルトシテ敬意ヲ表シタイ、而シテ憲政會ノ修正案ニ依リマス、監事並ニ評議員ハ之ヲ組合員相互ヨリ選任セシムル方針ヲ採ッテハ如何、斯様ト述ベラレテ居ラレル併ナガラ本員ハ現在之ヲ實行案ト致ス意味ニ於テ、憲政會ノ修正意見ニ反對致シタイ、其第一ハ抑憲政會ノ人々ノ主張ハ或ハ多少ノ誤解ガアルノデハオイカト思フ、御承知ノ通り本案ノ使命ハ政府ノ行フ社會政策、其政府ノ行フ社會政策ニ吾々ハ民衆的色彩ヲ多ク加ヘテ、以テ國民ノ欲スル所ニ政府ノ手ヲ入レシメタイ、斯様ナ點ニ在ルコトハ御承知ノ通りデアアル、即チ政府ノ爲ニ政府自ラ社會政策ヲ行フ其施設ノ一ツデアルト云フコトニ、御考慮ヲ置カレタイ、又第二ニ國家ノ出資ハ既ニ限定サレテ居ルノデ、社會政策ト云フ意味カラ吾々ハ、國家ノ有スル信用ヲ無限ニ利用致シタイ、其爲ニ理事其他監事ト云フ者ヲ政府ノ任

命ニ致シタイノデアアル、而シテ假令政府ノ出資額ハ有限デアッテモ、吾々ノ之ヲ利用スル上ニ於テハ、國家ノ有スル信用ヲ無限ニ利用シタイ、ソレニ付テハ矢張政府ノ任命ト致シタ方ガ便利デアラウ、之ヲ具體的ニ言ヘバ、政府ガ特殊ノ機關ヲ以テ集メ得タル低利資金ヲ、極度ノ程度マデ吾々ガ之ヲ社會政策的施設、殊ニ中央金庫ノ「キヤナリー」ヲ通ジテ以テ、地方全般ノ小産者ノ資金ニ充テタイ、其爲ニハ矢張幹部ハ政府ノ任命ニスルコトガ最も便利デアアル、斯様ニ認メタノデアアル、更ニ其第三ハ、政府ガ千五百萬圓ノ出資ナルニ拘ラズ、此機關ノ重大部分ヲ成シテ居リマス、出資者總會ニ於テ、官權ヲ振廻サナイト云フ意味ニ於テ、僅カ百圓出資ノ地方ノ一組合ト同ジヤウニ、唯一票ノ議決權シカ行使シナイト云フ規定ニナッテ居リマス、此點ヲ能ク諸君ニ御熟考ヲ願ヒタイ、千五百萬圓ノ出資ヲ爲シテ居ルニ拘ラズ、唯僅ニ一口ノ出資ヲ爲シテ居ルニ過ギナイ、地方ノ産業組合ト同ジヤウニ出資者總會ニ於テ一票ノ議決權ヲ行使スルニ過ギナイ、此點ニ諸君ノ注意ヲ請ヒタイノデアアル、更ニ第四點ト致シマシテハ、本金庫ノ出資者ハ總テ法人デアルト云フ點デアリマス、而シテ之ヲ運用スル所ノ理事ト云ヒ、之ヲ監督スル監事ト云フ者ハ、總テ自然人デアルト云フ點デアアル、本員ハ此點ニ御注意ヲ願ヒタイノハ、本案ニ於テ出資者デアアル所ノ政府ト云ヒ、産業組合ト云ヒ、産業組合聯合會ト云ヒ、是等ハ總テ法人デアリマス、此法人ガ各ノ代表者ニ付テソコニ自然ハガ出來テ、是等ノ人々ノ中ヨリ適當ナル理事者ヲ得ルト云フ困難ヲ、其當初ニ於テハ豫想シナケレバナラズ、其意味ニ於テ本案ノ出資者ハ、即チ組織者ハ法人デアルト云フ意味カラ、本案運用ノ衝ニ當ル理事者ハ、之ヲ政府當局ノ任命ニスルコト云フコトガ、最も適當デアラウ斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、更ニ第五ト致シマシテハ、本金庫ノ設立ノ當初ニ於テ、評議員若クハ監事ヲ選任スルト云フコトニ付キマシテハ、其初ニ於テ、各組合ノ間ニ面白カラヌ競争ヲ惹起スルト云フコトガアリマシタナラバ、其結果ニ於テ圓滿ナル相互主義ノ效果ヲ果ス上ニ於テ、多大ノ障害ナキヲ保セナイト考ヘタノデアアル、是レ即チ吾人ガ此場合ニ於テハ、總テ幹部ハ政府ノ任命ト致シ、此金庫ノ發達ト産業組合ノ發達トノ狀況ニ鑑ミテ、將來ニ於テ多少ノ修正ヲ加ヘルコトヲ以テ、最も適當ナリト考ヘタ所デアリマス、次テ修正意見ノ



第三、即チ一箇條ヲ挿入シテ「理事長、副理事長及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス」ト云フ一條文ヲ以テ挿入致シタイト云フ御意見デアリマス、サリナガラ諸君本員ハ、本案ヲ以テ民衆的ニ致シタイト、官僚的色彩ヲ極度ニ取去リタイト云フ人ガ、斯ノ如キ官僚式規定ヲ此際ニ及ンデ殊更挿入セラレントスルノ意見ノ、那邊ニ在ルヤヲ推スルニ苦シムデアリマス、何トナレバ此條文ノ字句ハ、現在ノ勸業銀行法、農工銀行法、北海道拓殖銀行法、其他特殊銀行ノ總テニアル所ノ文字、其字句ヲ一字一句モ違ヘズシテ持ッテ來ラレテ居ルノデアルケレドモ、現在特殊銀行法ノ規定ノ中デ最モ官僚式規定デアアル、之ヲ改正シテナクチャナラヌト云フ輿論ガ叫ンデ居ルノハ即チ此條文デアリマス、然ルニ何ガ故ニ斯ル條文ヲ挿入シテ以テ、此重役ヲ法律ヲ以テ、若クハ官憲ノ力ヲ以テ、其自由ヲ拘束サレントスルノカ、本員等今日之ヲ省イタノハ、自由ノ儘ニ活動ヲ、營業ヲ、職業ヲ彼等ニ許セト云フノデアアリマセヌ、唯彼等ノ人格ヲ尊重シ、彼等ガ眞ニ德義的ニ、此場合ニ於テ此方面ノ職業ハ之ヲ控ユベシトスルナラバ、敢テ法律ノ規定、官憲ノ壓迫ナクトモ、自發的ニ、德義的ニ、之ヲ爲サハルト云フコトニセシムルコトガ、即チ民衆的デアリ、官僚的分子ヲ除去スル重大ナル點デアルト思フ、斯様ナ修正ヲ爲シテ、斯ル條文ガ特殊銀行ノ總テノ法律ノ中ニアルニモ拘ラズ、之ヲ本員等ノ提案ノ當初ニ削除致シタイト云フノハ、何所迄モ理事者ノ人格ヲ認メ、民衆的立法ト同時ニ、時代精神ニ適合セシメントスルノ微意ニ外ナラザルト云フコトヲ御諒承ヲ願ヒタイト、更ニ修正ノ第四點ニ付テ申上ゲタイト、是ハ即チ第十三條ノ各號ニ「所屬」ト云フ字ヲ削レト云フコトデアアル、即チ第十三條ノ各號ニハ、本金庫ヲ第一線ニ於テ利用スル者ハ、本金庫ニ加入致シテ居ル所ノ所屬産業組合聯合會デナケレバナラヌト限定ヲ致シタル點ニ對スルノ反對デアリマス、而シテ此「所屬」ト云フ文字ヲ此場合此箇所ニ入レルト入レナイトハ、即チ本法案ノ立法ノ方針ヲ右ニスルカ、左ニスルカト云フコトヲ決定スル重大ナル點デアルト云フコトヲ御理解ヲ願ヒタイト、即チ之ヲ入レマシテ、加入産業組合ニ非ザレバ、本金庫ヲ第一線ニ於テ利用スル能ハズトスルコトハ、何所迄モ相互主義ヲ嚴格ニ貫カントスルモノデアリマシテ、此

意味ニ於テ此金庫法案ハ組合ノ大聯合主義トナリ、之ヲ具體的ニ申上ゲマスレバ、農商務的ノ色彩ヲ濃厚ニスルモノデアリマス、又之ヲ削ルト云フコトニナレバ、加入スト否トヲ問ハヌ、一般ノ産業組合若クハ聯合會ニ之ヲ許スト云フコトニナリマスカラ、益銀行のニナル、即チ之ヲ具體的ニ申セバ、大藏省的色彩ヲ多クスルコトニナル、而シテ此立案ヲ銀行的色彩ヲ濃厚ニセシムルカ、組合大聯合式ノ色彩ヲ濃厚ニセシムルカト云フコトハ、本員等之ヲ立案ノ當初ニ於キマシテモ相當注意ヲ拂ツタ點デアアル、即チ吾々ガ之ヲ挿入致シマシタ重大ナル第一ノ理由ハ、本案成立ノ曉ニ於ケル此出資ト云フモノニ對シテハ、非營利法人ノ結果ト致シ、若クハ低利ニ地方中小産者ニ資金ヲ供給スルノ必要カラシテ、剩餘金ト云フモノヲ多ク得ルコトガ出來ナイ、隨テ剩餘金ノ配當ト云フモノハ二歩、四歩、多クモ五歩ト云フ所ノ上ハ、甚ダ多額ハ出ルコトガ出來ナイト思フ、然ルニ地方産業組合ニ於テ資金ヲ利用スレバ、定期預金ニ於テ六歩五厘、若クハ七歩ト云フモノ、利用ガ出來ルノデアアルカラシテ、若シモ産業組合ヲ加入スルト加入セザルトヲ問ハズ、一樣ニ同列ニ本金庫ヲ利用セシメルコトニ致シタナラバ、或ハ自ラ茲ニ出資ヲ差控ヘルト云フガ如キ、不心得ナル組合ヲ生ズルノ虞ガアルノデアリマス、隨テ總テノ組合ヲ總テ此金庫ニ加入セシメテ全國的ニ全般的ニ相互組織ニセシメタイト「ニユトチャル」ノ精神ヲ本當ニ發揮セシムル爲ニハ、矢張「所屬」ト致シテ置イテ、此名ノ下ニ全國ノ産業組合ヲ例外ナク此中ニ包含セシメルト云フコトハ、又立案當初ニ於ケル此精神ノ上ニ、重大ナル注意ノアル點ト御諒承ヲ願ヒタイトデアアル、是レ即チ組合ヲ成ベク均一的ニ、普汎的ニ其出資ヲ爲サシメントスルノデアリマシテ、大株主ヲ成ベク少クセンガ爲ニ、最高二百口ト限定致シタノモ此點デアリマシテ、三百口ニ修正スルニ非ザレバ、此點ニ於ケル出資總額ノ増加ヲスルコトガ出來ヌト云フ憲政會ノ提案ノ中ニハ、多少實施ヲ求ムルコトノ難イト云フコトヲ豫想致シテ居ラレルト思フ、隨テ本員等ノ此點ニ關スル主張ハ、最モ責任アル、最モ正確ナル根據ニ依ルモノデアルト云フコトヲ御承知ヲ願ヒタイト、更ニ此壇上ニ於キマシテ、植原君ヨリ若シモ所屬産業組合若クハ聯合會等ヲ限定スルトキハ、新ニ出來タル所ノ産業組合、若クハ聯合會ガ、之ニ加入スルコトガ出來ナイデハナ



イカト云フヤウニ言ハレルノデアリマス、是ガ即チ現在ノ産業組合若クハ産業組合聯合會ノ、極メテ親密ナル相互的ノ點ヲ無視セラレテ居ルコトデアル、成程目ラ直ニ加入スルコトガ出來ナイト致シマシテモ、出資ハ之ヲ讓渡スコトハ自由デアリマス、其爲ニコソ縣組合モ、聯合會モアル、サレバ縣聯合會ガ自己ノ持數、所有出資ヲ、其下ニ出來タル所ノ新ナル産業組合ニ之ヲ與ヘルト云フコトハ容易デアアルノミナラズ、數箇月若クハ一二年ノ後ニ於テハ、是等ノモノヲ合セテ大體ドレ位ナ増資ヲシタナラバ、全國的ニ直ニ其滿株トナルト云フコトガ豫想出來ルト云フ的確ナル材料ヲ寄セテ、當局カ若クハ其理事者ガ増資ヲ斷行スルニ極メテ便益ガアルト存ズルデアリマス、即チ僅カナ點デアリマスケレドモ、我黨ノ提案ニハ斯ル點ニマデ深切ナル考慮ガ拂ハレテ居ルト云フコトヲ御理解ヲ願ヒタイ、第五條ノ修正案ト致シマシテ、第二十條ニ「割引債券」ヲ挿入致シテハドウダ、産業債券ハ五十圓ノ債券唯一ツトシナイデ、其下ヘ割引債券ニ依ルコトヲ得ルト云フ、便法ヲ認メラレタナラバドウカト云フ點ニ付キマシテハ敬意ヲ表シタイト存ジマス、但シ是ハ突然ノ修正ノ御提議デアリマス、一ツモ此點ニ對スル質問應答モ無ク、用意モ無カッタ爲ニ、吾々ハマダ此點ニ於テ研究ヲ致シテ居ナイ、未ダ研究ノ深ク至ラザルモノヲ輕忽ニ此中ニ入ル、ト云フコトヲ考ヘテ、暫ク之ヲ留保致シクイト存ジマス、第六ノ修正ニ付キマシテハ、即チ本金庫ハ兩大臣ノ管轄ト致シタルト云フ點デアリマス、農商務、大藏、兩大臣ヲ管轄トシタト云フコトハ、兩頭ノ蛇タラシムルノ嫌ガアル、故ニ適當ナル修正ヲ試ミナケレバナラズト云フ所カラ下岡案ニ依リマスルト、澤山ノ文ヲ引來ツテ是レ々々ハ大藏省ト農商務省ノ管轄デアルガ、其他ノモノハ農商務省ノ專屬管轄ニ歸セシムル、斯様ニ言ッテ居ラル、ノデアリマス、私ハ下岡議員ハ長ク官界ニ身ヲ置カレタ所ノ方デアリマシテ、立法技術ニ對シテモ相當ニ御堪能ナ御方ト承ッテ居リマス、此場合ニ於キマシテ斯ノ如ク修正ヲ爲サルコトガ、立法上ニ於テ適當デアルヤ否ヤ、既ニ兩大臣ノ管轄ト爲ス所ノ立法例ハ其數少カラザルノミナラズ、若シ其一部分ヲ限局シテ是レ々々ハ專屬管轄デアル、唯是レレノ條文ニ關スルモノダケハ、兩管轄デアルト云フヤウナ制限の規定ヲ爲ストキニハ、將來豫想スベカラザル確執ヲ生ズルノ嫌ナキヤ否ヤ、

確執ト云フコトハ語弊ガアルガ、却テ圓滿ナル、進歩發達ノ圓滑ヲ期スル上ニ於テ、遺憾ナ點ハ生ジハシナイカト思フ、併シ斷然トシテ是ハ農商務省ノ管轄ニスル、若クハ斷然ト大藏省ノ管轄ニスルト言ハル、ナラバ則チ已ム、御提案ノ如ク多數ノ條文ヲ引張ッテ來テ、是等ハ兩大臣ノ管轄ニスルト云フナラバ、其管轄ソレニ付テ、何等兩頭ノ蛇タル弊害無シト云フコトヲ斷言セラレ、ナラバ、此修正案ニ從フ所ノ考慮ヲ致シテ見マセウ、併ナガラ是等ハ斷ジテ兩頭ノ蛇タル弊害ヲ生セズト云フ確言ナキ以上ハ、斯ル不體裁ナル立法ノ形式ニ從フコトガ出來ヌト云フコトヲ御許シテ願ヒタイト思ヒマス、最後ニ第七ト致シマシテ下岡案ニ依リマス、第十五條、第十六條ノ復活ヲ要求致シテ居ラル、ノデアリマス、此點ニ對スル下岡議員ノ御提案ハ、本員ハ深ク敬意ヲ拂ッテ拜聽致シ且ツ深ク同ジ感ヲ懷クコトヲ言明致シテ置キタイ、唯此點ニ關シテハ、植原代議士ガ之ヲ拔ケバ本案ハ骨抜ニナル——言ハレルコトハ、本員不肖ニシテ其何ノ故タルヲ解スルコトガ出來ナイ、何故カナラバ若シモ本案ハ農商務大臣ニ管轄セシメズ、大藏大臣ニ管轄セシメ、専ラ金融機關トシテノ機能ヲ發達セシムルト云フコトニナルナラバ、即チ大藏省的、銀行的ノ色彩ヲ濃厚ニセシムルト云フナラバ、即チ銀行業務デアアル所ノ預リ金、其他普通ノ預金ヲ取扱フト云フ、十五條及十六條ヲ置クコトガ當然カモ知レマセヌ、併ナガラ今日實行ノ便宜ノ爲ニ、之ヲ大體ニ於テ農商務省、大藏省ノ管轄トシテ、主トシテ産業組合ノ大聯合的ノ「システム」ニ依ルトスルナラバ、其原則ヲ認メル當然ノ結果トシテ、銀行業務ノ嫌アル十五條、十六條ヲ此場合ニ於テ削除スルモノハ當然ノ處置トシテ、首尾一貫洵ニ完全ナル削除デアルト本員ハ解スルノデアリマス、唯本員ハ暫ク此案ニ付テ其進歩發達ヲ期シタイト思ヒマスケレドモ、將來吾々ノ有スル重大ナル理想ヲ實行致ス上ニ於キマシテハ、下岡氏ガ主張サレタル、之ニ對スル金融機關ノ色彩ヲ加ヘナケレバナラヌト云フコトハ十分同感ノ意ヲ表シマス、隨テ是等ノ規定ヲ挿入スル場合ニ於テ、其時機ニ至ッテ更ニ考慮シテ、而シテ本規定ハ産業組合中央金庫ガ其業務ノ根幹ヲ培養スル培養規定デアリマス、願クハ是等ノ規定ガ挿入セラレ、此産業組合中央金庫ノ機能ト云フモノガ、更ニ更ニ一段ノ光彩アル所ノ業務ヲ遺憾ナク行フノ時期來ランコトヲ、本員モ亦切



ニ望ム次第デアリマス、本員ハ是等ノ意見大體ヲ述ベマテシ、下岡案ニ反對ノ意ヲ表明致シタイ  
モノデアリマス

森達三君ノ修正案賛成演説

私ハ植原君ニ依ッテ述ベラレマシタ修正案ニ賛成ヲ致シマシテ、隨テ委員長報告ノ修正案ニハ反對  
ニナル結果トナリマス、近來産業組合ト云フモノガ著シク發達致シマシタト云フコトハ、甚ダ慶  
ブベキ事デアルト考ヘテ居リマス、申スマデモナク近來産業制度ノ大缺陷ト致シマシテ、社會ニ  
多數ノ經濟的弱者、經濟的逆境ニ立ッテ居ル者ガ生ジテ居ルデアリマシテ、而モ之ガ社會中  
ニ多數ヲ占メテ居ルト云フ状態デアリマス、是ニ於キマシテ是等ノ多數ノ人ノ間ニ經濟上ノ弱  
者、逆境ニ立ッテ居ル者ヲ自ラ救ハウト云フ社會運動ガ起ッタノデアリマスルガ、産業組合ト云ヒ  
マスルモノハ、亦此社會運動ノ一種デアルト見テ差支ナカラウト考ヘマス、而シテ此産業組合ノ  
本旨ト云ヒマスルモノハ、御承知ノ通り人間ノ本質デアリマスル共存共榮、相互扶助ノ根本ノ思  
想ノ上ニ立ッテ居ルデアリマシテ、而モ其性質ハ或ハ破壊ニ流レ、或ハ消極ニ流レルト云フコ  
トナクシテ、寧ロ建設的デアッテ、積極的デアルト云フ性質カラ此産業制度ニ依リマシテ、社會ノ  
缺陷デアアル經濟的弱者、逆境ニ在ル者ヲ救フト云フコトハ甚ダ適當デアル甚ダ時宜ニ適シテ居  
ル方法デアルト云フコトハ、何人モ疑ハナイ所デアリマシテ、斯様ナ案ニ依リマシテ、此多數ノ  
經濟上ノ弱者、逆境者ヲ救フト云フコトハ、吾々ノ亦常ニ其希望ヲ持ッテ居ル所デアリマシテ、殊  
ニ此農村振興ト云フコトヲ主張シテ居リマスル私達ニ取リマシテハ、此法案ヲ政友會ノ手カラ  
御提出サレタト云フコトニ對シテモ、非常ニ感謝ヲ致シ、敬意ヲ表シテ居ル次第デアリマス、率  
直ナ所ヲ申シマスルト云フト、私ハ此法案ヲ此壇上ニ依ッテ御説明ニナリマシタ時ニ、實ニ時宜  
ニ適シタ案デアルカラ、是ハ黨派ノ觀念ナドハ全然除イテ出來得ベクンバ賛成ヲシタイモノデ  
アルト云フ考ヲ持ッテ居ルデアリマス、此考ヲ持チマシテ委員會へ臨ミマシタ所ガ、委員長ノ態  
度ト云ヒ、又提案者ノ態度モ甚ダ妥協的デアリマシタ、温情ヲ含マレマシテ、寛大ナル態度デ吾

吾ニ應酬ヲセラレマシタノデ、私達ハ非常ニ愉快ニ感ジマシテ、如何ニモ相互扶助ニ根據ヲ置イ  
テ居ル組合制度ニ付テ論議ヲスルニ相應ハシイ會議デアルト云フ感ジヲ致シマシタガ、其委員  
會ノ最後ノ後半ニ至リマシテ、私達ハ稍意外ニ感ゼザルヲ得ナカッタデアリマス、私達ハ此法  
案ヲ成ベク協調シテ、全會一致ヲ贊成ヲスルト云フ希望ヲ持ッテ居リマシタカラ、寧ロ此際小委  
員會ヲ開クト云フコトガ適當デアラウト云フコトヲ考ヘタノデアリマスガ、併シ是ハ容ル、所  
トナラナカッタノデアリマス、又懇談會ヲ開カレマシタガ、懇談會ト言ヒマスルケレドモ、名ノミ  
ノ懇談會デアリマシテ、政府ノ希望ヲ述ベラレタニ過ギナイデアリマシテ、吾々ノ方カラ十分  
意嚮ノ存スル所ヲ申上ゲルダケノ機會モ時間モ與ヘラレナイデ終ッタデアリマス、此委員會ノ  
最後ノ後半ニ於キマシテハ、甚ダ非妥協的ノ空氣ニ包マレタデアリマシテ、遂ニ私達ハ諸君ト  
共ニ同ジ案ニ賛成スルコトガ出來ズ、違ッテ修正案ヲ出サナケレバナラナカッタコトハ甚ダ遺憾  
ニ存ジマスガ、先程質問ノ一ツトシテ牧野君ノ仰セラレマシタ中ニハ、自分等ハ誠心誠意協調ニ  
努メタイト云フコトヲ仰セラレテ居リマスケレドモ、此委員會ノ最後ノ後半ノ状態ニ於テハ決  
シテ牧野君ノ仰セラレル程、左様ニ爾ク妥協的デアリ、協調的デナカッタト云フコトヲ此際申シ  
テ置キマス斯様ニ不幸ニ致シマシテ、此案ハ私達ガ政友會ノ方々ト同一案ニ賛成スルコトガ出  
來ナイ状態ニナッタノデアリマスガ、併シ能ク考ヘテ見マスルノニ、此産業組合、又ハ中央金庫ト  
云フヤウナモノニ於キマスル其主義ナリ、或ハ理想ナリト云フヤウナモノヲ相比較致シマスル  
ト、全然ト言ウテ差支ナイ位ニ、政友會ノ委員ノ方々モ吾々モ同ジ主義理想ヲ持ッテ居ルデア  
リマシテ、殆ド何等ノ相違ガナカッタト云ウテモ差支ナカッタ斯様ニ私達ガ主義トシ理想トスル  
所ヨリモ、更ニ一步進ンデ徹底シタ主義理想ヲ諸君ガ持タレテ居ルニ拘ラズ、私達ガ諸君ト共ニ  
同一案ニ賛成スルコトガ出來ナイ状態ニナリマシタ其大ナル原因ハ何デアアルカト云フコトヲ深  
ク考ヘテ見マスルト云フト、先ヅ私達ト諸君トノ立場ガ違ッテ居ルト申シマスカ、又此案ニ對スル主  
義トカ理想トカ云フモノデナクシテ、態度トカ方針トカ云フモノガ違ッテ居ッタノデハナカラウカト  
思フノデアリマスガ、繰返シテ言葉ヲ改メテ言ヒマスルト云フト、詰リ諸君ハ餘リニ政府ト云フ



モノ、意思ヤ都合ニ重キヲ置カレ過ギタノデハナカラウカ、私達ハ尠クトモ自由ヲ缺イテ居ラレタト云フコトガ、吾ガ同一案ニ賛成スルコトガ出来ナカッタ最大ナル原因ノ一ツデアルト考ヘマス、第一ハ此事ハ政友會ノ諸君ガ本案ヲ提出セラレタノデアリマスルガ、自ラ再ビ修正案ヲ出サレマシタガ、其修正案ト云フモノハ、過日ノ懇談會ニ於キマシテ、政府當局ヨリ述ベラレタ希望ト殆下全部合致シテ居ルノデアリマシテ、此點カラ見マシテモ、諸君ガ餘リ政府ノ御都合ヤ意思ヲ尊重セラレ過ギタト云フコトハ疑フコトハ出来ナイト考ヘル、第二ハ是ハ決シテ惡意ヲ以テ申上ゲルノデアリマセヌ、寧ロ尊敬ノ意ヲ以テ申上ゲルノデアリマスガ、只今牧野君モ申サレマシタヤウニ、諸君ハ餘リニ此法案ノ完成ヲ急ガレマシテ目先ニ重キヲ置カレマシタガ故ニ、却テ一言葉ハ失禮デアリマスカモ知レマセヌガ、先ノ先ヲ考ヘルト云フヤウナ、サウ云フヤウナ方面ニ缺ケル所ガアツテ、餘リニ目先バカリニ重キヲ置カレルト云フ傾ガナカッタノデアリマセウカ、私ハ是ガ又一ツノ吾々ト諸君ト合致スルコトノ出来ナカッタ大原因デアルト考ヘテ居リマス、之ニ付キマシテハ最前御質問ガアリマシタカラ、其御質問ニ御答ガテラ只今申上ゲタ所ヲ簡單ニ申上ゲテ見タイト考ヘマス、組合ノ數ガ凡ソ一萬四千モアリ、組合員ガ二百五十萬モアルト云フヤウナモノヲ引括メマスル中央金庫ニ對シテ、二千萬圓ノ資本金ハ餘リニ過少デアリマシテ、是ハ少クトモ五千萬圓ニ直スト云フコトガ適當デアルト云フコトハ、委員會ニ於キマスル應酬ニ依リマシテモ、殆下一致スル所デアリマスルガ、唯先程モ申シマセウニ、牧野君ノ仰セラレマスニハ多キコトハ必シモ不可デハナイガ、政府ガ三千萬圓ノ中千五百萬圓デアルナラバ、近キ將來ノ間ニ資スルコトガ出来ルカラ、ソレヲ前提トセラレタト云フテ居リマスルガ、是ハ只今申上ゲマシタ、餘リニ政府ノ意思ヤ都合ヲ諸君ガ尊重シ過ギルノデハナカラウカト思フ第一點デアリマス、私達ハ行政整理デモ、財政整理デモ何デモ多クノ場合ニ於テ今ノ政府ト見解ヲ異ニシテ居リマスルカラ、聊カ自由過ギルカモ知レマセヌガ、諸君ガ懐イテ居ラレマスル行政ナリ財政ノ根本的整理ヲ爲サイマシテモ、此重要法案ノ爲ニ千五百萬圓ノ上更ニ一千萬圓ヲ増加スルト云フコトハ甚ダヤサシイコトデアラウト私ハ考ヘマス若シ諸君ガ内閣デモ造ッテ居レマスルナ

ラバ、必ズヤ吾々共カラ申上ゲマセヌトモ三千萬圓以上ノ資本ヲ増加シテ益々中産階級以下ノ人ノ救済ニ力ヲ盡サレテ居ラレラデアラウト私ハ確信致シマス、ソレカラ産業組合ノ方面ノ資本ガ募集ガ出来ルカト云フヤウナ御疑ノ質問モアリマシタガ、是ハ牧野君ノ御説ヲ其儘申上ゲテモ差支ナイノデアリマシテ、吾々ハ一萬四千ノ全國組合ノ中ノ約一萬ト云フモノハ、此中央金庫ニ加盟シ得ルダラウト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、此考カラ致シマスレバ、一ツノ組合ガ平均二十五口サヘ負擔スレバ、二千五百萬圓ノ金ハ易ミトシテ集ルノデアリマスカラ、牧野君ノ仰セラレルヤウナ御心配ハ少シモナカラウト考ヘルノデアリマス、ソレカラ此中央金庫ノ機關デアリマスガ、相互主義ヲ基礎トシテ居リマスル産業組合ノ集團デアル中央金庫ノ機關ガ、全部官選デアルト云フコトガ甚ダ不合理デアルト云フコトハ、何方モ御異存ガナイト考ヘマスガ、此相互主義、自治的精神ヲ基礎トシテ居リマス、此組合組織ノ幹部ヲ官選ニスルト云フコトガ、相矛盾シテ居ルト云フヤウナコトハ、提案者諸君ニ於テハ、私カラ申上ゲルマデモナク百モ二百モ御承知ノ上ノコトデアリマス、斯様ニ能ク御承知デアリナガラモ、尙ホ此官僚主義、官憲主義ニ陷ラレマシタ原因ハ何處ニアルカト云フコトヲ考ヘテ見マス、此點モ先程ノ牧野君ノ御質問ニ御答ガテラノ説明デアリマスガ、私達ハ本案ヲ諸君ガ御提出ナサイマス場合ニ於キマシテ、採ラレタ主義ト云フコト申シマスヨリモ其方針態度ガ幾分誤ッテ居ルノデハナイカト考ヘマス、ソレハ先程牧野君ガ力強ク申サレマシタヤウニ、此案ハ政府ガ行フ社會政策ノ一デアルト云フコトニ重キヲ置カレテ申サレマシタ、牧野君ノ言葉ヲ借リマスト國家ヨリ汝ハ此形式ニ於テ社會政策ヲ行ヘヨト云フ意味ニ於キマシテ、此法案ヲ提案ナサレテ居リマスガ、是ガ此民主主義ニ立テ居ル中央金庫ノ役員ヲ官選スルト云フヤウナ不思議ナ有様ニ陷ラセマシタ大原因デアリマシテ、寧ロ本質上カラ申シマスルナラバ、組合ノ方ヲ主ト致シマシテ、國民各自ガ吾々ガ中央金庫ヲ組織スルカラ、政府ハ來ッテ之ニ援助ヲ爲セヨ、又其當然ノ義務トシテ其出資ヲ爲セヨト云フ意味ニ於テ本案ヲ提出ナサイマシタナラバ、斯様ナ誤ッタ仕組ニハナラナカッタデアラウト、考ヘルノデアリマス、殊ニ私達ガ是非共申上ゲナケレバナリマセヌノハ、成程此法案ニ於キマシテハ、



政府ハ多大ノ出資ヲ爲スノデアリマスカラ、政府ニ於テ重要ナル役員機關ヲ選出致スト云フコトハ、或ル程度マデハ忍ビマセウ、牧野君ノ御言葉ヲ借リマスナラバ、生レ出ル苦ミト云フ綺麗ナ熱情アル御言葉ニ從ヒマシテ、此機關ヲ官選スルト云フコトハ認メマセウガ、併シ此機關ノ中デモ監事ト云フモノヲ矢張政府ガ選任スルト云フコトハ、何處マデモ私達ハ承認スルコトガ出來ナイノデアリマス、監事ト云フ者ノ作用ハ、私ガ今更申上ケルマデモナイノデアリマシテ、理事長デアルトカ、理事ト云フ人ニ對シテハ、或場合ニ於テハ敵役ニ廻ラナケレバナライ性質ノモノデアリマスガ、此敵役ノ理事ヤ理事長ト云フ者ヲ、同ジ政府ガ任免スルト云フコトハ甚シク不條理極マルモノデアルト私ハ考ヘル、デ如何ニモ色ミノ點ニ於キマシテ讓歩ヲ致シマセウ、生レ出ヅル苦ト云フ御言葉ニ對シテ協調ヲ保ッテ行キタイト考ヘマシテモ、斯様ナ點ニ於キマシテハ、幾ラ生レ出ル苦ミデアリマシテモ、何處マデモ協調スルコトヲ得ナイト云フコトハ甚ダ殘念デアリマス、ケレドモ、吾ミノ考カラ云ヒマスレバ、監事ヲ官選スルト云フヤウナコトハ、殆ド不條理ト云ヒマスヨリモ、此監事トカ役員トカ云フモノ、本質ヲ蹂躪シ盡シタモノデアッテ、何トモ批評ノシヤウノナイモノデアラウト考ヘテ居リマス、ソレカラ十二條ノ次二十三條ヲ入レテ、「理事、理事長ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラズ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ」云々ノ規定ガアリマスガ、之ヲ牧野君ハ甚シク官僚的ノ規定ノヤウニ仰セラレマシテ反對ヲナサツタノデアリマスガ、是ハ私達ノ考ハ殊更ニ斯様ナ規定ヲ入レタノデアリマシテ、此中央金庫ト云ヒマスヤウナ地味ナ確實デアルベキ團體ニ於キマシテハ、他ノ營利會社銀行等ノヤウニ、辣腕ノ人デアルトカ、手腕家デアルトカ云フヤウナ者ハ、寧ロ希望シナイノデアリマシテ、確實デ忠實デ、而モ組合組織ト云フモノニ信仰ヲ持ッテ居リマス者、斯様ナ人ガ來サヘスレバソレデ澤山ナデアリマスカラ、寧ロ斯様ナ規定ハ態ト入レタモノデアルト云フコトヲ御承知願ヒタイノデアリマス、ソレカラ二十九條ニ條項ヲ限定シテ、主務大臣ノ管轄ヲ定メタコトヲ非難サレタヤウデアリマスガ、第七條ニ於キマシテ株式會社ニ關スル規定ヲ削除サレテ、産業組合ニ關スル規定ヲ特ニ本案ニ準用スルヤウニ致シマシタ以上ハ、先ヅ原則ト致シマシテ、農商務大臣ヲ其主管トスルコト

が必要ニナッテ來ルノデアリマシテ、大體ニ於テ農商務大臣ヲ主務大臣トシナケレバナリマセウケレドモ、其會計經濟ニ關スルコトハ、又大藏大臣ヲシテ關係セシメル必要モアリマスカラ、特ニ斯様ナ規定ニ付キマシテハ農商務、大藏、兩大臣ヲ共ニ主務大臣トシタ次第デアリマス、デ私ハ前日此法案ノ趣旨ヲ横田サンガ此處デ御述ニナルノヲ聽キマシタトキニ、此法案ニ反對説ガアルト云フコトヲ御紹介ナサイマシタ中ニ各省大臣ガ割據主義ヲ執リ籠城主義ヲ執ッテ居ルカラ、隨テ國務大臣タル地位ヲ忘レテ、是ガ爲ニ内閣統一ノ働キヲ忘レテ居ルカラ、今日デハ斯様ナ法律案ヲ作ルコトハ止メテ、議會一致デ行政ノ根本組織ヲ改造シタラドウカト云フ御話ガアリマシタノヲ承リマシテサウ云フ事ナラ何モ特別ニ此法案ニ異ツタコトモナイ、ドノ法案デモ左様ナ風ニ考ヘラレルノデアルト不思議ニ思ッテ居リマシタガ、此法案ノ委員會ニ臨ミマシテ、提案者諸君ノ御説明振ナリ、又政府ノ態度ナリヲ見マスト云フト、如何ニモ此間ニ農商務大臣大藏大臣ガ主管爭ヲシテ居ルノデハナイカト云フコトヲ感ズルコトガ出來タノデアリマス若モ之ヲ政友會ガ修正ナサイマシタヤウニ、唯主務大臣ハ「本法中主務大臣トアルハ農商務大臣及大藏大臣トス」ト云フヤウナコトデハ、斯様ナ危險ナル勢力爭ト云フコトハ、或ハ防グコトガ出來ナイノデハナカラウカ、斯様ニ條項ヲ舉ゲテ限定スル方ガ、其權力爭、主管爭ヲ防グニ便デハナカラウカト考ヘタ、之ヲ要シマスルニ、不幸ニ致シマシテ諸君ト私共ハ案ヲ異ニシテ修正案ヲ出サナケレバナライヤウニナリマシタガ、併シ冷靜ニ考ヘテ見マスレバ、諸君ガモウ少シ自由ノ立場ニ立タレテ、諸君獨自ノ御判斷ニ依ッテ此法案ヲ議セラレタナラバ、或ハ私達ノ修正案ニ御同意ナサルヤウナコトニナリハシナイデアラウカ、左様ナ風ニナツタ方ガ又諸君ノ理想ガ實現スルノデハナイカト云フコトヲ考ヘル何卒諸君ニ於テ吾ミノ修正案ニ御賛成ヲ乞フ次第デアリマス

院議異議ナク茲ニ討論ヲ終局ス次ニ下岡忠治君外五名提出修正案ハ院議起立採決ノ結果少數ニテ之ヲ否決シ直ニ本案ノ第三讀會ヲ開キ委員會報告ノ通修正議決ヲ爲シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同



院ハ三月二十四日修正議決シ同日之ヲ本院ニ回付ス  
(回付案)

産業組合中央金庫法案中貴族院回付ノ箇所左ノ如シ

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 産業組合聯合會、<sup>又ハ</sup>産業組合、公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條 無擔保ニテ借入ヲ爲シタル府縣市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ於テ元利金ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキ又ハ期限前ノ償還請求ニ對シ其ノ拂込ヲ爲ササルトキハ産業組合中央金庫ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ  
監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞元利金ヲ拂込マシムヘシ

第十七條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四章 産業債券

第十八條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

所得税法及。

第十九條 登錄税法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

第二十條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第二十一條 産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十八條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

(第二十一條ヲ第二十條ニ改メ以下第二十四條マテ條數順次繰上ケ)

第三十五條 左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



三 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ  
中央金庫ノ設置及監理事務ノ執行ニ關シテ

三 第十五條ノ規定ニ反シ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第十七條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第十八條第一項及第二十九條第二項ノ規定ニ反シタルトキ

(第三十六條ヲ第三十五條ニ改メ以下第四十一條迄條數順次繰上ケ)

同日議事日程ヲ變更シテ回付案ヲ院議ニ付ス

横田千之助君ハ貴族院ノ修正ニ同意ノ旨ヲ表明セリ

本案ニ對スル貴族院ノ修正ハ、此法律案ニアル所ノ産業組合中央金庫ノ雙互組織ノ主義ヲ、衆議院ノ規定ヨリモモツト強メタモノデ、設立ノ當初ニ於テハ資本金モ少額デアリマスカラ、貴族院ノ此修正ハ、後日此法律案カラ起ル中央金庫ノ發展ヲ待ツタ後ハ別問題デアリマスガ、創立ノ當初ニ於テハ貴族院ノ修正可ナルモノト私共ハ信ジマス、此意味ニ於テ貴族院ノ修正ニ同意ヲ表シマス

院議異議ナク貴族院ノ修正ニ同意スルニ決シ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス四月六日法律第四十二號ヲ以テ公布セラル

三〇 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第八條 帝國臣民タル男子ニシテ年齢二十五年以上ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有ス

第九條 選舉人名簿調製ノ期日迄引續キ滿六箇月以上同一選舉區内ニ住居スル者ニ非サレハ選舉權ヲ行フコトヲ得ス

前項ノ期間ハ行政區畫變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第十條 削除

第十三條第一項ヲ削リ第二項中「政府ニ對シ」其ノ下ニ「主トシテ」ヲ加フ

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項中「前項」ヲ「前二項」ニ改ム

政府ノ特別ノ保護又ハ監督ヲ受クル法人ノ無限責任社員、役員及支配人亦前項ニ同シ其ノ法人ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 官吏ハ勅令ヲ以テ指定シタル者ヲ除クノ外被選舉權ヲ有セス但シ退職者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉事務ニ關係アル吏員ハ其ノ選舉區内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

前項ノ吏員並選舉事務ニ關係アル官吏其ノ職ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者ハ其ノ選舉



區内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

第十五條 削除

第十六條 削除

第十八條第四項中「納税額及納税地」ヲ削ル

第十九條 削除

第二十二條 削除

第二十三條中「前二條」ヲ「第二十一條」ニ改ム

第二十四條中「第二十二條」ヲ削ル

第三十八條中「選舉權ヲ有セサルトキハ」ヲ「第十一條又ハ第十二條ニ該當スル者ナルトキハ」ニ改ム

右ハ十二年二月十一日安達謙藏君外十一名之ヲ提出ス二月二十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ贊成者降旗元太郎君ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ今尙ホ此壇上ニ於テ、普選案提出ノ理由ヲ説明セネバナラヌヤウナ國家ノ現狀ニ對シテ、深憂ヲ禁ジ得ナイ者デアリマスト同時ニ、帝國議會、殊ニ衆議院ノ爲ニ恥辱ヲ痛感スル者デゴザイマス、併ナガラ普通選舉ノ即行ハ政治上ノ眞理デアル、時代ノ要求デアル、切言スレバ我國ニ於ケル當面ノ有ユル問題、有ユル政策ヲ超越シタル最大重要ナ中心問題デアルト云フコトハ爭フ

ベカラザル事實デゴザイマス、假令現在ノ衆議院ニ於テ普通選舉ヲ唱フル者ノ數ガ少ウゴザイマシテモ、實質ニ於テハ、此度ノ提案ハ院内ニ於ケル各黨各派、無所屬ノ同志ヲ通ジテノ共同一致ノ提案デゴザイマシテ、之ヲ院外ノ光景、即チ全國新聞記者ノ總動員ニ依ッテ筆ヲ捨テ活動ニ從事サレルト云フ状態ニ至ッタヲ初メトシテ、有ユル階級ヲ通ジテノ熱烈ナル要求デ、今日頃モ昨日頃モ外ニ行ハル、運動ハ極テ眞劔味ヲ帶ンデ居ル、此光景ト對照致シマスレバ、吾々ノ提案ガ眞ニ國民全般ノ輿論ヲ代表スルモノデアルト云フコトノ立證十分デアルト信ジマス、加之反對ノ諸君ト雖モ衷心反對ノ意思ヲ有シテ居ルノデハナイ、異論ヲ有シテ居ル譯デハナイ、唯行掛リノ爲、黨略ニ囚ハレテ、詭辯ヲ以テ一時ヲ瞞過スルニ過ギナイ、ソレハ諸君ノ態度ノ矛盾撞著ヲ極メテ居ルコトニ依ッテモ明白デアアルノデアリマス、曾テ危險思想呼ハリラシタ者モアッタノデゴザイマスルガ、今日何處ニカ左様ナ議論ヲ唱ヘル者ガゴザイマスカ、恒産恒心論ヲ唱ヘタ者ハ今將タ何ノ顔ガゴザイマスカ、況ヤ陪審制度ニ贊成ヲサレテ居ル諸君、地租ノ地方委讓ヲ提唱サル、諸君、何レノ所ニカ普選論ニ反對スル證據ガゴザイマスカ、觀シ來レバ理論ノ上ニ於テモ、事實ノ上ニ於テモ、私ハ眼中ニ敵ナク、密ニ快心ノ微笑ヲ禁ジ得ナイノデゴザイマス、順序トシテ理論ヲ説カネバナリマセヌ、併ナガラソレハ過去四年間ニ互ッテ度々此壇上ニ論議セラレタコトデアッテ、今更諄ク之ヲ説キマスルコトハ、恰モ夏ノ日ニ夏ノ暑サヲ説クノ觀ガアルノデアリマス、併ナガラ一言致シマセウ、現代政治ノ要諦ハ、國民ヲシテ其性能ヲ自由ニ活動發展セシムルニ必要ナル均等ノ機會ヲ與ヘルト云フコトニアラネバナリマセヌ、若シ此均等ノ機會ヲ得タル國民カラ云ヘバ、國民ノ利害ハ直ニ國家ノ利害ト一致シ、國家ノ榮辱ハ直ニ國民ノ榮辱ト一致スルト云フコトニナルノデゴザイマスカラ、隨テ愛國心、奉公心ガ熾烈トナリ隨テ國家ノ隆昌ヲ來スト云フコトニナルノデゴザイマスカラ、嘗テ吾々ガ唱ヘ來ッタ日本ノ國粹ト、西洋ノ文明ノ調和ヲ得マシテ、サウシテ明治大帝ノ大政維新ノ大精神ニ副ヒ奉ルコトニナルノデゴザイマス、併ナガラ政友會ノ諸君ガ、今日ニ於テ尙ホ之ニ贊成スルコトノ出來ナイト云フノハ、唯時期尙早ト云フコトヨリ他ナイノデゴザイマス、時期尙早ソレハ何事デゴザイマスカ、兵役ノ義務

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案



ハ明治ノ初年ヨリ國民平等ニ之ヲ受ケテ居リマス、義務教育モ亦數十年來普及シテ居ルコトデ  
 ハアリマセヌカ、其他ノ文物制度悉ク備ハレバコソ、我國今日ノ地位ヲ世界ニ得テ居ルノデハゴ  
 ザイマセヌカ、加之明治大帝ハ國會開設ノ勅諭ニ於テ、古今ヲ變通シテ斷ジテ之ヲ行フト宜ハセ  
 ラレマシタ、而モ憲法發布ノ詔勅ニ於テハ、「朕カ臣民ハ其ノ負擔ニ堪フルコトヲ疑ハス」ト詔ラ  
 セ給フテ居ルノニ、今現内閣ノ諸公及政友會ノ諸君ハ、今日世界ノ五大強國ノ一ニ列シテ居ルト  
 カ、又ハ二大強國ノ一ニナツテ居ルト云フ自慢ヲ一面ニシツ、尙ホ此國民ニ向ッテ其負擔ニ堪フ  
 ルノ能力ナシト斷定スル理由ガ何處カラ出テ來ルノデゴザイマスカ、加之諸君ニ苟クモ忠君ノ  
 志ガアルナラバ、二十餘年前ニ明治大帝ノ下シ給ヒシ此詔書ニ向ッテ、今ハ裏切り奉ルガ如キ言  
 動ヲ、吾々ノ此提案ニ對シテスルト云フコトハ何事デゴザイマスカ、抑我國ハ、君民同治、陛下  
 ト吾々臣民トノ間ハ、義ハ君臣デアツテモ情ハ父子、故ニ此國體ノ精華ヲ發揚スル爲ニハ、參政權  
 ヲ平等ニ分配スルト云フコトヲ目的トシテ居ル普通選舉ノ實行ト云フコトデナケレバナラヌコ  
 トハ、何人モ異論ハ無イ筈デアル、然ルニ諸君ガ強テ私共ノ提案ニ反對ヲセラル、ノハ、若シ人  
 ガ諸君ヲ目シテ、君臣ノ義ヲ破リ、父子ノ親ヲ損フモノナリト評セラレテモ、一言ノ辯解ノ辭ハ  
 ナカラウト思ヒマス、諸君ハ、神聖ナル我が國體ヲ如何ヤウニシテ解釋セラレテ居ルノデアリマス  
 ルカ、翻テ我が最近ノ政治史ヲ顧レバ、殆ド普通選舉ノ問題ヲ中心ニシテ展開シツ、アリシカノ  
 如キ觀ガアツタノデゴザイマス、否今尙ホ展開シツ、アルノデゴザイマス、現ニ原内閣ニ於テ無名  
 ノ解散ヲセラレタ如キ之ニ依ッテ黨略ノ爲ニ憲政ヲ蹂躪シタルノ非行ヲ敢テシタルノ所以モ、普  
 通選舉ニ關係ヲシテ居ルノデゴザイマス、而シテ之ニ伴ウテ綱紀ノ紊亂、疑獄ノ續出、遂ニ滿鐵  
 阿片ノ醜怪事態ヲ生ゼシムルニ至ツタル所以モ、國費ヲ濫用シテ黨勢ノ擴張ニ利シタル所以モ國  
 民生活ノ困難、思想ノ惡化、上下ヲ不安ニ陥ラシメタル所以モ、更ニ言ヘバ原敬君ノ兇手ニ墮レ  
 タル所以モ、高橋内閣ノ瓦解シタル所以モ、續イテ加藤男ニ變態内閣ヲ組織セシメタル所以モ、  
 畢竟スレバ諸君ガ只今ノ如キ不作法ナル所業ヲ敢テシテ、國家民人ノ利福ヲ顧ミズニ、普通選舉  
 ノ國民的要望ヲ阻止セラレ、抑壓セラレ蹂躪セラレントスル、惡辣ニシテ背理ナル黨略政治ニ對

スル民衆勢力ノ動的、若クハ反動的現象ガ、只今列舉政シマシタルコトニ依ッテ諸君ノ眼前ニ展  
 開シタルデゴザイマス是ガ爲ニ日本國民ノ愛國奉公ノ精神ハ日ニ銷磨シテ、人心倦怠ノ極ニ達  
 シタルコトハ否ムベカラザル、大事實デアルノデゴザイマス、而シテ加藤内閣ガ成立致シマシタ  
 後ニ於テモ、庶政不條理、不徹底ヲ極メテ、内國民ヲ堵ニ安ンゼシメズ、外ハ國威國權日ニ蹙マル  
 ガ如キ狀態ニ在ルノハ、實ニ國民衷心ノ要求ト權利幸福ノ要望ヲ無視シテ、輿論ノ公敵タル政友  
 會ノ支持ニ依頼シ情實情託互ニ相欺キテ、憲政ヲ賊スルノ舉ニ出デタルノ結果ニ歸セナケレバ  
 ナラヌノデゴザイマス、又加藤首相ハ初メ普通選舉ハ考慮セヌト放言セラレタコトガアル、後ニ  
 唯形式的ニ調査會ヲ拵ヘマシタケレドモ、ソレハ唯國論ヲ防止スルノ口實ニ充ツルガ爲ノ一時  
 ノ粉飾ニ過ギナイノデゴザイマス、斯様ナモノヲ拵ヘテ、ソレニ依ッテ普通選舉ノ此熾烈ナル  
 國民ノ要求ヲ阻止セント欲スルガ如キハ、全ク經世の識見ノ低級ナルコトヲ憐マナケレバナラ  
 スノデアリマス、斯ノ如ク政友會内閣以來加藤内閣ニ至ルマデノ間ノ狀態ガ繼續ヲ致シマシタ  
 コトデアアルナラバ、ドウシテ愛國奉公ノ精神ヲ作興スルコトガ出來マセウカ、又倦怠ノ極ニ達シ  
 タル人心ヲ引起スコトガ出來マセウカ、斯様ナ狀態デアツテハ、最早國家ノ前途ハ言フニ忍ビザ  
 ルモノガアラウト思フノデゴザイマス、斯程ノ明白ナル理由ガ諸君ニ分ラナイ程デアアルナラバ、  
 普通選舉ヲ阻止セラレ、ノモ亦當然デゴザイマセウ故ニ吾々ハ此國家ノ現狀ニ對シテハ、如何  
 ニシテモ一日モ此普通選舉ノ問題ヲ即行スルコトヲ猶豫スル譯ニナラヌノデゴザイマス願クバ  
 此度ノ國論、此最高潮ニ達シタル機會ニ於テ、諸君ハ速ニ昨非ヲ改メラレテ、サウシテ吾々ノ提  
 案ニ贊同セラレタコトヲ切ニ希望致シマス、若シ夫レ諸君ガ口舌ノ末ニ走ッテ、サウシテ徒ニ國ヲ  
 念フ誠意ヲ缺クヤウナコトデアアルナラバ、諸君ハ如何ヤウニシテモデス、國家ノ負擔ニ堪フルコ  
 トノ出來ナイト云フコトヲ、國民ノ代表者タル自ラガ自ラヲ人外ニ落シテ、國民ニ披瀝スルモノ  
 ト謂ハナケレバナラヌ、左様ナ事デアアルナラバ、諸君ハ最早自ラ其職ヲ去ッテ、ソウシテ國民  
 ノ前ニ謝罪シテ、サウシテ國家ノ選良ヲ適當ナル者ニ待タナケレバナラヌト云フコトニナルノ  
 デゴザイマス、私ハ諸君ノ如キ頑冥不靈ニシテ、君國ヲ念ハザル者ノ議場ニ何時マデモ長ク居ラ



ル、コトガ、國家ノ幸福ナルヤ否ヤヲ疑フ者デゴザイマスル、願クバ諸君ハ此機會ニ於テ大ニ前途ニ悟ル所アツテ進ムベキ道ヲ進マレルヤウニシタイト思ヒマス、吾々今更本問題ニ付テ長ク此壇上ヲ瀆スコトヲ必要トシマセヌ、惡夢ニ襲ハル、諸君、日ハ既ニ三竿ニナツテ居リマス、願クバ長夜ノ眠ヨリ醒メラレンコトヲ希望致シマス

討論數日ニ互リ戸水寛人君、宮古啓三郎君、龍野周一郎君、牧野良三君、吉良元夫君、武田徳三郎君、福井三郎君ハ反對、前川虎造君、横山金太郎君、上島益三郎君、野田文一郎君、松本君平君、田淵豊吉君、山道襄一君ハ賛成ノ演説ヲ爲ス

戸水寛人君ノ反對演説

諸君、只今降座君ガ議案ノ説明ヲセラル、ト思フテ拜聽シテ居ッタ所ガ、議案ノ説明ヲセラレナイデ、唯政友會ノ惡口ヲ言ツテ居ッタノヲ承ツタノデアル、アレデヤ議案ノ説明ニナラヌ、私ハ反對意見ヲ持ツテ居リマスカラ、其大略ヲ申上ゲル積リデアリマス、深ク辯論ニ這入ル前ニ冒頭ニ於テ述べテ置キタイ事ガアル、ソレハ政友會ハ普通選舉ヲ理想トシテ居ル事柄デゴザイマス、普通選舉ヲ理想トシテ居ルコトハ今日ニ始マッタ事柄デナイノデ、昔カラ其通りデアッタ云フコトハ、反對黨ノ諸君モ能ク御存ジト思フ、サリナガラ此案ヲ今提出セラレテ之ニ賛成スルヤ否ヤト云フコトデアラナラバ、遺憾ナガラ之ニハ賛成出來ナイノデアリマス、社會ガ改良セラレテ面目ヲ一新スルト云フコトデアラナラバ、其曉ニ於テ當方カラ進ンデ、普通選舉案ヲ提出スルコトモゴザイマセウガ、今日ノ状態ニ於テハ普通選舉ノ即時斷行ニハ同意致シ兼ネマス、政友會ハ漸進主義ヲ執ツテ居ルノデアル、漸々ニ選舉權ヲ擴張シテ、最後ニ普通選舉ヲ行ヒタイ、斯ウ云フ段取ニ致シタイノデアリマス、ソレデゴザイマスルカラ、選舉權ノ擴張ニハ反對デナイノミナラズ、近キ將來ニ適當ノ時機ヲ見計ツテ、選舉權ノ擴張ノ案ヲ出ス積リデアリマスカラ、反對黨ノ諸君

モソレニ賛成シタ方ガ宜カラウト思フ、選舉權ノ擴張ハ漸ラ以テ進ンデ行クベキモノデアル、然ルニ時機ノ未ダ到來セザルニ當ツテ、時機ノ未ダ到來セザルニ當ツテ一足飛ニ、普通選舉案ヲ出シタ所デ、サウ云フモノニハ賛成出來マセヌ、突飛ナル言論ヲ弄シテ快ヲ一時ニ取ルト云フコトハ、責任アル政治家ノ爲スベカラザル事ト考ヘマス、即時斷行論者ガ言ハレマスニハ、今ハ即チ議論時代ガ過ギテ居ルノデアル、斷行ノ時機ニ至ツテ居ルト言フノデゴザイマスケレドモ、私ハ斯ノ如ク信ジテ居リマセヌ、私ハ即時斷行ニ對シテハ澤山ノ議論ヲ持ツテ居リマス、仍テ是カラ普通選舉斷行論ノ論據ヲ批評シタイト思フノデアル、斷行論者ノ論據ト云フノハ是マデ大分澤山聞イタコトモアル、又雜誌ヤ新聞デ讀ンダコトモアル、可ナリ澤山アル、ソレヲ一々批評スルダケノコトハ要ラヌト思フ、先ヅ其中デ十カ十一許リ出シテ批評スル積リデアアル、暫時御清聽ヲ請ヒマス、先ヅ第一ニハ自由、平等、友愛ト云フコトニ基イテ、普通選舉ハ主張スルト云フノデアル、是ナドハ實ハ批評スル價值ガ無い、併ナガラ天下ノ名士ガ此壇上ニ起ツテ、ソレヲ述べラレタノデゴザイマスカラ、茲ニ之ヲ批評スル次第デアアル、自由、平等、友愛其自由ト申シマシテモ、絶對ノ自由ハ吾々ガ享有スルコトガ出來ナイ、甲モ乙モ皆自由ヲ主張スル、天下ノ國民皆自由ヲ主張スルト云フコトニナリマス、自由ガ互ニ衝突スルノデアルカラ、政府ニ於テハソレヲ調停シナケレバナラヌ、ソコデ如何ナル自由デモ多少ノ制限ヲ受ケルノデアアル、又國民ガ勝手ニ自由競争ニ從事スルト云フコトデアラナラバ、優勝劣敗ノ結果、必ズ不平等ヲ生ズル、ダカラ自由ノ觀念ト平等ノ觀念トハ兩立シナイ、又平等ト申シマシテモ、天然自然ノ平等ト云フモノハ無イ人間ノ體ヲ見タ所デ大キナ體ノ者モアリ小サナ體ノ者モアリ、背ノ高イノモアリ、又低イノモアリ、目方ノ重イノモアリ輕イノモアルト云フ次第デアアル、天然自然ニ於テ既ニ平等ト云フモノガ無いノデアアル、人爲ヲ以テ果シテ之ヲ平等ニ出來マスカ、自由、平等、友愛ト云フ此三ツノ中ノ友愛ト云フノハ、即チ四海兄弟ノ意味デアアル、天下ノ國民ガ互ニ同情ヲ持チ、互ニ憫隱ノ心ヲ持ツト云フノハ何人ニモ異議ガ無いガ、自由、平等、友愛ト三ツ竝ベテ見ルト、此友愛ハ即チ附加ノ文句デアツテ、主ナル文句ハ自由ト平等トニツデアアル所ガ絶對ノ自由ヲ享有スルコトハ出來ナ



イ、自由ノ思想ト平等ノ思想ハ兩立出來ナイ、サウシテ天然自然ニ平等ガ無イト云フコトデア  
 ナラバ、此自由、平等、友愛ニ基イテ普通選舉ヲ主張スルト云フコトハ、無意味ニナツテシマア  
 ハアリマセヌカ、且又自由、平等、友愛ト云フ言葉ハ、即チ佛蘭西ノ時代ニ起ツタ言葉デア  
 フコトハ、諸君モ御存ジデアラウ、是ハ即チ天賦人權論ニ基イタモノデアアル、自然法ノ學說ニ基  
 イテ居ルモノデアアル、自然法ノ學說ハ十八世紀ニ於テ行ハレテ居ッタ、十九世紀ノ始マリニ於  
 テモ多少人ニ信用セラレテ居ッタ、併ナガラ今日ハサウ云フ學說ヲ信ジテ居ル者ガ無イ、諸君、奈破  
 翁ノ死シダノハ千八百二十一年、今年ハ千九百二十三年、奈破翁ガ死ンデカラ今日ニ至ルマデ一  
 世紀モ經ッテ居ルノデアアル、然ラバ此自由、平等、友愛ト云フコトハ非常ニ古イモノデアアル、陳腐  
 デアル既ニ廢ッタモノデアアル、誰モ顧ミナイモノデアアルト云フコトヲ御存ジデナケレバナラヌ、  
 斯ウ云フモノニ基イテ普通選舉ヲ主張スルト云フノハ、一體ドウ云フモノデアアルカ、第一ノ論據  
 ノ駄目ナコトハ是デ分ル、次ニ第二番目ノ論據ニ移リマス、階級打破ノ意味ニ於テ普通選舉ヲ施行  
 スルト云フノデアアル、上御一人、下萬民デアアツテ、日本ニ於テ階級ヲ廢止シナケレバナラヌト云  
 コトヲ言フ、若シ此議論ヲ推シテ行クナラバ、華族ヲモ廢止シナケレバナラヌト云フコトニナ  
 ル、併ナガラ私ハ今日ノ状態ニ於テ華族廢止論ニハ贊成出來ナイ、華族以外ニ於テ士族、平民ガ  
 アル、併ナガラ其士族ト云ヒ、平民ト云ヒ、今日ニ於テハ同等ノ地位ニ置カレテ居ルノデアアル、ダ  
 カラ華族以外ニ於テハ階級ト云フモノハ無イノデアアル、又日本ニ於テ上流社會、中流社會、或ハ  
 下等社會ト云フ言葉ガ用キラレル談話ノ上ニ於テソレヲ用キルト云フコトガ便利ナ事モアルノ  
 デアルガ、實際サウ云フモノ、間ニハ階級ハ無イノデアアル、下等社會ノ者ハ金デモ出來レバ中流  
 社會ニ加ハル、又上流社會ニ加ハルコトモ出來ル、ダカラ實際ニ於テ階級ノ別ト云フモノハ無イ  
 又有產階級、無產階級ト云フ言葉ヲ使ヒマスケレドモ、幾ラ以上ノ者ガ有產階級デアアツテ、ドノ位  
 ノ財產シカ持ッテ居ナイト云フコトデアアルナラバ、ソレハ無產階級デアアルト、サウ云フ區別ハチ  
 ヲトモ無イノデアアルソレ故ニ實際ハ日本ニ於テ階級ノ區別ト云フモノハ無イト云フコトヲ諸君  
 ニ申シテ置ク日本ニ於テハ階級ノ區別ハ無イノデアアル、印度ニ於テハ坊主トカ、侍トカ、或ハ商

賣人、職工トカ云フ階級ガアルト云フコトハ本ニ書イテアルケレドモ其意味ニ於テ、日本ニ於テ  
 ハ階級ト云フモノハ無イ勞働問題ヲ持出シテ普通選舉ヲ主張スル人ガアル、併ナガラ勞働問題  
 ハ此勞資協調等ニ依テ解決スベキダ、普通選舉ヲ行フト云フコトハ、適當ナ方法デハゴザイマセ  
 ヌ第三番目ニハ財產ト云フモノト人ト云フモノヲ對象セシメル財產ト人トヲ對象セシメテ、昔  
 ハ財產ニ重キヲ置イタケレドモ、今日ハ人ニ重キヲ置ク、ソレ故ニ今日ニ於テハ普通選舉ヲ行  
 ナケレバナラヌト云フノデアアル、ケレドモ其考ハ誤ッテ居リマス、日本ヤ支那ニ於テハ昔カラ人  
 ニ重キヲ置イテ居ル、論語ニ於テモ「廐燒ケタリ子朝ヨリ退イテ曰ク人ヲ傷ヘル乎ト馬ヲ問ハ  
 ズ」ト云フコトガアル、即チ孔子時代ニ於テハ人ニ重キヲ置クト云フコトハ、之ニ依ッテ分ッテ居  
 ル、又秦ノ穆公ノ時分ニ、大切ニシテ居ッタ馬ヲ喪ツタニ拘ラズ、馬ヨリモ人間ノ方ガ大切ダト  
 ヲテ居ル、孔子ノ教ハ支那ニ擴ッテ居ルシ、日本ニモ擴ッテ居ルノデアアツテ、日本ヤ支那ノ人ハ昔カラ  
 皆人ニ重キヲ置イテ居ルノデアアリマス、昔ハ財產ニ重キヲ置イテ、人ニ重キヲ置カヌト云フコト  
 ハゴザイマセヌ、根柢ノ事實ガ違ッテ居リマス、又「ブルジョア」ト云フ言葉ヲ有產階級ト譯シ、  
 「プロレタリア」ト云フ無產階級ト譯シテ、昔ハ有產階級ニ重キヲ置イタケレドモ、今ハ無產階級ニ  
 重キヲ置クト云フ意味デアアルナラバ、ソレハ露西亞ニ往ッテサウ云フ話ヲスルガ宜イ、日本デ  
 ハ通用シナイ又第四番目ニハ、近世ニ於テハ人格ニ重キヲ置クノデアアル、此人格ヲ大切ニシナ  
 ケレバナラヌ、是ハ人ニ對シテ必ズ選舉權ヲ與ヘナケレバナラヌト云フ、議論デアアル、此議論  
 モ矢張誤ッテ居リマス、ソレヲ法律ノ方カラ申シマスレバ、昔羅馬ニ於テハ人格ノコトハ「カ  
 プット」ト言ッテ居ル、羅馬ノ選舉權、被選舉權ト云フモノハ代議士ノ方デハナイノデアアツテ、官  
 吏ノ選舉權被選舉權デアアル、ケレドモ兎ニ角選舉權被選舉權ト云フモノハ「カブット」ノ中ニ  
 入レテアル、其時代ニ於テハ學理ガ進ンデ居ラナカッタ、併ナガラ其後學理ガ段々進歩シテ、  
 「レヒッフエーヒヒカイト」ト「バンドルンダフエーヒヒカイト」トノ間ニ區別ヲシテ居ル、即チ  
 權利能力ト行為能力トノ間ニ區別ヲシテ居ルノデアアル、選舉權ノ方ハ單ニ權利能力ノ方カラ觀  
 察スルト云フ譯ニ行キマセヌ、又是ハ必ズ行為能力ノ方カラ觀察シナケレバナラヌノデア



ル、選舉權ハ其儘デ役ニ立ツモノデハナイ、之ヲ行使シテ始メテ役ニ立ツノデアル、代理人ヲ使ツテ選舉セシメルト云フ譯ニハ行カヌノデ、有權者自ラ投票所ニ往テ選舉スル意味デアルナラバ、專ラ行爲能力ノ方カラ之ヲ觀察シナケレバナラヌ、行爲能力ト云フモノハ、ソレヲ行フコトガ出來ル人間ニ與ヘテ然ルベキデアル、ソレヲ行使スルニ不當ナ人ニ與ヘルト云フ譯ニハ行カナイ、ダカラ人ト云フ事ト選舉權ト云フ事ハ、ソレナニ密接ナ直接ノ關係ハ無イ行爲能力ノ方カラ説明シテ行ケバ、其議論ト云フモノハ破レテシマフデアリマセヌカ、第五番目ニハ、人類ハ生存ノ權利ヲ持ッテ居ルカラ、選舉權ヲ與ヘナケレバナラヌト云フノデアル、國民中ノ一部ノ者ガ選舉權ヲ持ッテ、他ノ者ガ選舉權ヲ持タナイト云フコトデアラナラバ、其持タナイ者ハ即チ禽獸ト同一視サレテ居ルノデアアル、其議論モ誤ッテ居リマス、試ニ考ヘテ見レバ分ル、一歳ヤ二歳ノ子供ガ大人ト同様ニ矢張生存權ヲ持ッテ居ルデハゴザイマセヌカ、併ナガラ選舉權ヲ持ッテ居ラヌ、其子供ニ選舉權ヲ持ッテ居ナイカト云ツテ、禽獸ト同一視セラレテ居ルノデアリマスカ、此點ニ付テモ矢張只今申シマシタ權利能力ト行爲能力トノ區別デ説明スレバ分ル、子供ノ方ハ生存權ヲ持ッテ居リマスケレドモ行爲能力ハ持ッテ居ラヌダカラ選舉權ヲ與ヘル譯ニ行カヌ、大人ト雖モ矢張サウデアリマス、行爲能力ヲ與ヘルニ不當ナ者モアル、國家ノ幸福安寧カラ考ヘテ見レバ、大人ト雖モ矢張選舉權ヲ與ヘテ不當ナ者モアル、ソレ故ニ生存ノ權利ト選舉權ト云フモノトハ、直接ニ關係ノ無イモノデアアル、生存權ガ有ッタカラト云ツテ、直ニ選舉權ヲ與ヘナケレバナラヌト云フコトニ決ッテ居リマセヌ、且又人類ハ生存權ヲ持ッテ居ルカラ、ソレニ選舉權ヲ與ヘナケレバナラヌト云フノハ、其與ニ天賦人權論ガ在ル、既ニ百年モ前ニ廢ッテ居ル所ノ論デアルカラ、是モ陳腐トシテ顧ミルニ足ラナイト思フノデアリマス、第六番目ニハ、議會ニハ有ユル職業、有ユル階級ノ人ヲ出席セシメナケレバナラヌ、サウシナケレバ天下ノ輿論ヲ聽クコトガ出來ナイ、其理由ヲ以テ人ニ選舉權ヲ與ヘナケレバナラヌト云フ此議論モ誤ッテ居リマス、誤ッテ居リマス、誤ッテ居ル理由ヲ聽イテ下サイ、代議士ハ國民一般ノ代表者デアアル、何某ハ何々ノ國ノ選出デアアル、何々府ノ選出デアアル、云フコトヲ申シマシテモ、既ニ代議士トシテ選舉セラレタ

ル以上ハ、矢張國民一般ノ代理デアアル、ダカラ人ヲ選舉スルニ當ッテハ、其人ガ國家ノ利益ヲ圖ルニ適當デアアルカ否カト云フコトヲ標準トシテ、ソレヲ選ブノガ當リ前デアアル、自分ノ職業、自分ノ階級ノ利益ヲ圖ル爲ニ、ソレヲ選ブナドト云フ私心ヲ包藏シテ居ッテハイカヌノデアリマス若モ労働者ガ労働者階級ノ利益ヲ圖ルト云フコトヲ土臺ニシテ代議士ヲ選ビ、八百屋ガ八百屋ノ利害ヲ代表スル人ヲ選ビ、魚屋ガ魚屋ノ利害ヲ代表スル人ヲ選ブ、斯ノ如キ代表者ヲ以テ國會ヲ組織スルコトナラ、ソレハマルデ英吉利人ノ言フ「ギルド、ソシヤリズム」デアリマセヌガ、「ギルド、ソシヤリズム」ト帝國議會ヲ混同スルヤウナ議論ハ採ルニ足ラヌノデアリマス、第七番目ニ投票ノ買収、選舉干渉、請託ヲ防グガ爲ニ普通選舉ヲ行ハナケレバナラヌ、是等瑣末ナ議論ハ殆ド採ルニ足ラヌノデアリマスケレドモ、少シク批評ヲ加ヘマスガ、國民サヘ代議政體ニ慣レテ居タナラバ、サウ云フ投票ノ買収トカ選舉干渉トカ請託トカ云フ事ハ行ハレヌ筈デアアル、左様ナ事ノ行ハル、ノハ、即チ國民ガ代議政體ニ慣レザルノ致ス所デアアル、國民ガ代議政體ニ慣レナイナラバ、普通選舉ヲ行ツタ所デ、矢張投票ノ買収、選舉干渉、請託ガ生ズルノデアリマス、近頃出版ニナツタ「ブライズ」ノ「モイダレン、デモクラシー」ラ讀ンデ見ルト、亞米利加ノヤウナ、處デモサウ云フ事ガ行レテ居ルト書イテアル、次ニ第九番目ニハ、普通選舉ヲ行フノハ日本ノ輿論デアアルト云フ、其様ナ事ハチットモ當テニナラヌ、新聞ノ論說ハ色々澤山アツテモ、ソレハ新聞社ノ議論タルニ過ギナイ、其議論善惡ハ別トシテ、兎ニ角新聞社ノ議論ガ輿論デアアルト云フハレナイ、今日「レフエレンダム」ガ無イカラ、新聞ノ論說ヲ輿論ト見ナケレバナラヌト云フヤウナ暴論モアルケレドモ、「レフエレンダム」ト新聞ノ論說トハ全く違ツタモノデアアル、又選舉ノ結果ヲ以テ輿論ヲ代表スルモノトシタナラバ、政友會ノ議員ノ方ガ多數デハアリマセヌカ、政友會ノ言フ所ガ輿論デアアルト見テ可ナリデアアル、若シモ選舉ノ結果ヲ以テ輿論ヲ知スルコトガ出來ナイト云フコトナラ、日本ニハ輿論ヲ知スルモノガ備ハッテ居ラヌノデアアル、私ノ考フル所デハ、今日ハマダ普通選舉ニ關スル研究ガ足りナイト思フノデアアル、成程普通選舉ニ關スル種々ノ論文モ雜誌ナドニ載ッテ居ル、又著書モ多少アルケレドモ、大ニ普通選舉ヲ研究シタ結果デハナイノデ



アル、ダカラ今日輿論ガドウノ斯ウノト云フガ、實ハ吾々ノ言フ所ガ即チ輿論ニ合致シテ居ルト思フノデアアル、第十番目ニハ、明治大帝ノ御誓文ニ「萬機公論ニ決スヘシ」ト云フコトヲ能ク引合ニ出サレタリ、詔書ヲ引合ニ出シテ、普通選舉ノ即時斷行ヲ主張シテ居ル人モアルケレドモ、然ラバ先帝ガ普通選舉ノ即時斷行ヲ望マセラレタカドウカト云フコトヲ尋ネタナラバ、誰モ然リト答ヘナイト思フ、明治大帝ノ御意思ヲ御忖度申上ゲルコトハ甚ダ畏多イ事デアリマスカラ、斯ウ云フ事ニ付テハ議論ヲ費サナイ方ガ宜イノデアアル、ソレ故ニ此事ハ略シテ置キマス、第十一番目ニハ、世界ノ大勢ヲ根據トシテ普通選舉ヲ主張スル人ガアル、如何ナル處ニ於テモ普通選舉ハ行ハレテ居ル、是ガ即チ世界ノ大勢デアルカラ、日本モ之ニ順應シテ普通選舉ヲ行ハナケレバナラヌト云フ議論ガアル、此議論モ誤ツテ居ル、世界ニ普通選舉ガ流行ルカラ、流行ヲ趁ウテ普通選舉ヲ行ハナケレバナラヌト云ウテ、歐羅巴ノ流行ヲ趁ヒサヘスレバ宜イト思フテ居ルノデアアル、若シモ歐羅巴ニ於テ「コレラ」流行リ「ベスト」ガ流行ルト云フコトナラ、日本モ亦其真似ヲシテ「コレラ」ヤ「ベスト」ヲ流行ラセルノデアアルカ、流行サヘスレバソレガ宜イト思フノハ大ナル間違デアアル、世ノ中ニハ一種ノ「ハイカラ」ガアル歐羅巴ニ於テ流行ル所ノモノハ、亞米利加ニ於テ流行ル所ノモノハ悉ク宜イト思フテ居ラシイ、是等ハ即チ其心ガ歐羅巴人、亞米利加人ノ爲ニ征服セラレテ居ルノデアアツテ、探ルニ足ラナイモデアアル、歐羅巴ハ後進國デアアルト云フコトヲ云フ人ガアル、併シチナガラ歐羅巴必シモ先進國ト云フ譯デハナイ、或點ニ於テハ日本ヨリ先進ノ所モアルガ、他ノ點ニハ日本ヨリ後進ノ所モアル、ダカラ日本モ歐羅巴ト同ジ徑路ヲ取ツテ進マナケレバナラヌト云フ理由ハ無イノデアアル、本論ノ冒頭ニ於テ申シタ通り、社會ノ改良セラレタ後ニ理想ノ普通選舉ヲ行ヘバ、ソレハ別問題デアアルガ、今日ノ歐羅巴ニ於テ流行シテ居ル普通選舉ハ、歐羅巴ノ社會ノ腐敗ヨリ生ジタ「ミクロロブ」デアアル、微菌デアアル、之ヲ川ニ例ヘテ見タナラバ、是ハ即チ濁流ニ浮ンデ居ル泡ノヤウナモノデアアル、歐羅巴ニ於テ行ハレテ居ル所ノ普通選舉ハ、社會改良ノ結果デハナイノデアアツテ、物質的文明、一方ニ偏シタル文明、腐敗シタル文明、亡國の文明、サウ云フモノガ極度ニ達セントシツ、アル故ニ普通選舉ガ出來テ來タ、根本的ニ普通選舉ヲ

論ジヤウト云フナラバ、矢張文明ノ性質カラ論ジナケレバナラヌト考ヘル、物質的文明ガ進歩スルト云フコトハ固ヨリ利益デアアル、之ヲ進歩セシメナイデ宜イト云フノデハナイ、併ナガラソレバカリデハ足リナイノデアアル、精神の文明ヲ大ニ發達セシメナケレバナラヌト云フコトヲ言出シテ居ル人ガ澤山アル、日本ニ於テモ既ニ此事ヲ唱ヘテ居ル者ガアリ、又歐羅巴ニ於テモ其事ヲ論ジテ居ル者ガアル、普通選舉ヲ根本的ニ研究シヤウト云フコトデアアルナラバ、此文明ノ性質カラ論ジナケレバナラヌト考ヘマス、明治四十四年ニ京都帝國大學教授ノ松本文三郎君ガ老子ノ序文ニ於テ既ニ此事ヲ述ベテ居ル、即チ歐羅巴カラ日本ガ物質的文明ヲ大ニ輸入シタ所ガ、文明ノ精神的方面ヲ閉却シテ居タガ爲ニ、即チ物質的文明ノミガ大ニ進歩シテ、其爲ニ大ニ弊害ガアルノデアアルト云フコトヲ述ベテ居ル、又昨年ノ四月ニ猪狩史山ガ「亡ビ行ク文明」ト云フ本ヲ書イテ、歐羅巴ノ文明ガ行詰リニ瀕シテ居ルト云フコトヲ述ベテ居リマス、其他日本ニ於テ物質的文明ニ満足シナイデ、精神の文明ノ研究ニ從事シテ行カナケレバナラヌト云フモノガ澤山アツタノデアリマス、歐羅巴ニ於テモ矢張其通りデアアル露西亞ノ「ソロビラフ」ガ善ニ關スル本ヲ著シテ居ル、露西亞ニ於テハ「トルストイ」「ドストエフスキ」ソロビラフ「此三名ヲ以テ三大家ト云ウテ居ル、其「ソロビラフ」ガ矢張物質的文明ヲ排斥シテ居ルノデアリマス、「ソロビラフ」ノ議論ノ仕方ハ儒教ト稍似通ツタ點モアル、惻隱ノ心ハ仁ノ端ナリ、羞惡ノ心ハ義ノ端ナリト云フコトガアルガ、「ソロビラフ」モ矢張惻隱ノ心及ビ羞惡心ヲ以テ自分ノ議論ノ出發點トシテ居ル、第一ニ羞惡ノ心ヲ算ヘ、第二番目ニ惻隱ノ心ヲ算ヘ、第三目ニハ長上ニ對スル崇敬ノ心ヲ算ヘテ居リマシテ、此崇敬ノ心ニ基イテ宗教ノ起源ヲ論ジテ居ル、又右ノ三者ニ基イテ人間ガ禽獸ト大ニ異ツテ居ル所以モ論ジ、人間ヲ進歩發達セシメテ、神ノヤウニシナケレバナラヌ、神ノ王國ヲ造ラナケレバナラヌト云フコトヲ述ベテ居ルノデアアル、又物質的文明ヲ排斥スルノ結果、資本主義及ビ社會主義ヲ排斥シテ居ルデス、資本主ト労働者ガ争ツテ居ツテ、労働者ガ往々社會主義ノ方ニ馳ツテ居ルガ、資本主義モ惡イ、又社會主義モ惡イ、是ハ皆物質的文明、物質的富ニ基イテ居ルノデアアルカラ、ソレガ惡イト云ウテ居ルノデアリマス、之ヲ要スルニ「ソロビラフ」ハ物質的文明ハソレ



許リデハ甚ダ弊害ガ有ルト云フコトヲ主張シテ居ルノデアアル、又「スベングラ」ノ「デクライン、オブ、ウエスタルン、シビリゼーション」ト云フ本ガアル、「泰西文明ノ衰頹」ト題スル本ガアル、此中ニ於テモ矢張歐羅巴ノ今ノ文明ハ最早衰亡ニ瀕シテ居ルト云フコトヲ説イテ居ルノデアアリマス、又昨年出版ニナッタ所ノ「プロフェッソル、フインネ」ノ「コーゼス、エンド、キユーアルス、フオル、ゼ、ソシヤル、アントレスト」ト云フ本ガアル、「社會ノ不安ノ原因及救済」ト題スル本ガアル、此中ニ於テモ矢張精神的文明ヲ以テ物質的文明ノ缺點ヲ補ハナケレバナラヌト云フコトヲ言ッテ居ルノデアアル、此外ニ歐羅巴ニ於テハ今日ノ物質的文明デハ、ドウシテモ此社會ヲ救済スルコトガ出来ナイカラ、大ニ精神的文明ノ研究ニ從事シナケレバナラヌト云フコトヲ言ッテ居ル者ガ澤山アルノデアアル、ソレデ此頃歐羅巴ニ居ル人ガ本屋ノ柵ヲ覗イテ見ルト云フコト、印度ノ「タゴール」ノ翻譯書ナドガ随分アル、又老子ヤ莊子モ載ッテ居ル、老子ヤ莊子ハ可ナリ大キイカラ、其翻譯ガ澤山アルト云フコトハナカラウト思ヒマスガ、老子ニ至ッテハ數十種類モ載ッテ居ルト云フコトヲ聞イテ居ル、兎ニ角歐羅巴ニ於テハ今日精神的文明ヲ研究スルト云フコトニ非常ニ熱中シテ居ルノデアアル若モ物質的文明ガ新文明デアアルナラバ、更ニ其上ニ新々文明ノ發生ヲ促シツ、アルノデアアル、即チ文明ノ潮勢ガ大ニ變遷シツ、アル所デアアル、普通選舉ヲ行フノガ世界ノ大勢ダト言ハレテ居ルケレドモ、サウデハナイ、歐羅巴式ノ普通選舉ハ物質的文明ト稱スル所ノ舊文明ノ賜デアアル、物質的文明即チ腐敗シテ居ル所ノ文明カラ發生シタ所ノ產物デアアル、滔々タル濁流ノ上ニ浮ンデ居ル所ノ泡ノヤウナモノデアアル、若モ新文明ガ大ニ發達シタナラバ、普通選舉ニ關スル人ノ觀念ハ必ズ變化スルト思ヒマス、然ラバ新々文明ト云フモノハ如何ナルモノデアアルカト申シマスルト、云フト之ニハ新造説ト變遷説ト兩方アル、新造説ニ依リマスルト云フト、文明ト云フモノハ杉ノ木松ノ木ノヤウナモノデ、成長スルダケ成長シタナラバ、ソレデ老衰シテ倒レテシマフ、其代リノ新シイ文明ガ出ルト云フノデアアル、所ガ變遷説ニ依リマスルト云フト、今日ノ文明ガ段々ニ改造セラレテ、新シイ文明ガ出来ルト云フノデアアリマス、ソコデ此新造説ガ宜イカ變遷説ガ宜イカト云フコトヲ言ヘバ、兩方共多少ノ眞理ヲ含ンデ居ルケ

レドモ、此事ハ餘リ長ク論ズルト脱線スル虞ガアルカラ、此邊デ止メテ置イテ自分ノ結論ヲ申シマスレバ、是カラ東西文明ノ融合ガ始マルノデアアル、東西文明ノ融合ガ始マル、是ハ是迄ノ歴史ニ依ッテモ、説明出來ル、例ヘバ「アレキサンドル」大王ガ希臘軍ヲ率キテ亞細亞ニ侵入シマスレバ、希臘ノ開化ガ輸入セラレテ居ル、十字軍ガ起レバ亞細亞ノ文明モ歐羅巴ニ採用セラレルト云フコトニナルノデアアル、今日ニ於テモ歐羅巴ト亞細亞トノ交通ガ盛ニナッテ居ルモノデアアルカラ、東西文明ノ融合ガ自ラ生ズル、既ニ始マリツ、アル、唯歐羅巴人ガ東洋人ヲ排斥シテ居ッタガ爲ニ、此文明ノ融合ガ遅々トシテ進マザル傾ガアツタケレドモ、今日ニ於テハ白色人種必シモ優勢デナイト云フコトヲ段々考ヘテ居ルカラシテ、黄色人種ノ文明——其他ノ文明ノ善イモノハ悉ク採ルト云フ氣ニナッテ居ルノデアアル、東西文明ノ融合ガ既ニ始マッテ居ルノデアアル、即チ老子ヤ莊子ヲ歐羅巴人ガ讀ムト云フノハ其前兆デアアル、又本屋ノ話ヲ聞ケバ、支那ノ本デモ日本ノ本デモ續々歐羅巴ニ輸出セラレテ居ルノデアアル、即チ歐羅巴ニ於テハ段々ニ此東洋文明ノ精華ヲ學ブ積リニナッテ居ル、老子莊子ノ「チラズ、今度ハ孔孟ノ書籍モ歐羅巴人ニ大ニ研究セラレ、佛敎ノ如キモ既ニ研究ガ始マッテ居ルケレドモ、今後更ニ盛ニ研究セラレ、モノト考ヘルノデアアル、要スルニ東西文明ノ融合ト云フノハ即チ今日ノ大勢デアアツテ、普通選舉即時斷行ガ此大勢ニ伴ッテ居ルトハ思ハレナイ、普通選舉ノ即時斷行ヲイケナイト云フ者ハ時代錯誤ト言ハレテ居ルケレドモ、ソレハ私ハアベコベニ考ヘテ居ル、普通選舉ノ即時斷行ガ却テ時代錯誤デアアルママイカト思ハル、ノデアアル、普通選舉ト云フノハ物質的文明ト稱スル濁流ノ泡デアアル、歐羅巴ハ今ハ腐敗シツ、アル、病氣ニ罹ッテ居ルノデアアル、歐羅巴ガ病氣ニ罹ッテ居ル結果、普通選舉ガアルノデアアルカラシテ、普通選舉モ矢張病氣ノ一種類ト見テ宜シイ、第十八世紀カラ第十九世紀ニ跨ッテ科學ガ進歩シテ居ルガ——其結果トシテ產業ガ發達シテ居ルノデアアル、產業ガ發達スルト今度ハ金持ハ益金持ニナリ、貧乏人ハ益貧乏ニナツタ、其貧富不均ノ結果社會主義ガ發生シタ、獨逸ニ於テハ「カールマルクス」ノ説モ段々行ハレタ、佛蘭西ニ於テハ「サンヂカリズム」ガ起ッテ來タ、英國ニ於テハ「ギルド」トシ「アリスム」ガ起ッテ來タ、亞米利加ニ於テハ「アイ、ダブルユー、ダブルユー」ガ起



リ掛ケテ來タト云フ譯デアアル、即チ歐羅巴ガ病氣ニ罹ッテ居ルノデアアル、普通選舉モ矢張其貧富ノ不均カラ生ジタモノデアアル、貧富ノ不均カラ社會主義モ出、貧富ノ不均カラ普通選舉モ出タノデアアル、サウスレバ貧富ノ不均ガ親デアッテ、社會主義、ソレカラ普通選舉ト云フモノハ即チ子デアアル、即チ社會主義ト普通選舉ハ兄弟同志ダ、社會主義ガ赤色ナラバ、歐羅巴ニ行ハルル普通選舉ハ赤色ニ非ズシテモ少クトモ桃色デアアル、兎ニ角現在ノ歐羅巴ニ行ハレテ居ル普通選舉ハ、吾ガ社會ガ改良セラレテカラ後ニ行ハントスル理想的ノモノデナクテ、今歐羅巴ニ行ハレ居ル所ノ普通選舉ハ物質的文明ト稱スル所ノ濁流ノ泡デアアル、腐敗カラ生ジタ「コレラ」ヤ「ペスト」ト同ジヤウナモノデアアル、吾ガ他日行ハウトスル所ノ理想的普通選舉ハ別トシテ、歐羅巴ニ於ケル普通選舉ハ斯ノ如キモノデアアル、ソレデ此普通選舉ハ危險思想ノ導火線デアアル、教育モ無ク財產モ無イ者ハ心ガ單純デアアル、心ガ單純デアアルカラ人ノ煽動ニ乘リ易イ、故ニ相當ノ準備無クシテ今進ニ普通選舉ヲ實行シタナラバ、惡化シテ居ル所ノ思想ヲ持ッテ居ル者ガ「ジョンポール」ノ如キ口調ヲ以テ「ロベスピール」ヤ「ダントン」ノ如キ態度ヲ以テ煽動シタナラバ、如何ナル事ガ生ズルカ分リマセヌ教育モ無ク財產モ無イ者ガ進ニ選舉權ヲ與ヘラレマスト云フト、皆ガ皆ト云フ譯デアアリマセヌケレドモ、中ニ心得違フスル者ガナイトモ限ラヌ、其上ニ思想ガ惡化スルコトデアアラバ、如何ナル事ガ生ズルカ分リマセヌ、大ニ警戒ヲ要スルト思ヒマス速記シテアル物ヲ配ッテ宜シイ、諸君ガ妨害シテ大切ノ所ヲ聽カナイデ置イテ本ヲ配ッタナラバ何ニモナラヌ、是ヨリ國民性ノ點カラ少シク論ジテ掛ラナケレバナラヌ、根本的ニ普通選舉ヲ論ズルナラバ、國民性カラ論ジテ行カナケレバナラヌ、米國ノ歴史ト日本ノ歴史ト對照ヲシテ見ルト、日本ノ歴史ノ方ガ餘程奇麗デアアル、外國ニハ汚イ事柄ガ澤山アル、佛蘭西ニ於テ「セントバートン」ノ虐殺ニ於テ、老若男女ノ區別ナク無茶苦茶ニ殺サレタコトガアル、日本ニハ斯様ナ事ガ決シテ無イ、又西班牙ニ於テ「インクイジション」ガアツテ、即チ宗教ニ關シテ異教ヲ奉ジタ者ヲ裁判所ニ喚出シテ、之ヲ非常ニ苦メタコトガアル、日本ニ於キマシテハ左様ナ慘酷ナコトヲシナイ、又支那ノ歴史ヲ見ルト云フト、秦ノ白起ガ四十萬ノ軍勢ヲ坑ニ埋メテシマッタト云フトガ書イテアル、楚

ノ項羽モ矢張サウ云フトコトヤッタ、即チ二十萬カラノ者ヲ虐殺シタト云フトガ書イテアル、英布ガ其手先ニナッタコトガ書イテアル、日本ニ於テハ左様ナ慘酷ナ事ハナイ、又支那ノ歴史ニ於テハ子ヲ換ヘテ食フト云フトコトガ書イテアル、城攻ニ遭ッテ城ノ中ニハ食物ガ足リナイト云フ場合ニ於テハ、自分ノ子供ヲ殺シテ食フノハ慘酷ダカラ、子ヲ換ヘテ食フト云フトコトガアル、斯様ナ事ハ日本ニハ無イ、日本ノ歴史ヲ見レバ武士道ノ精華ガ澤山アル、極ク近世ノ歴史ヲ見マシテモ、榎本釜次郎ヤ大島圭介ガ五稜廓ニ於テ中ニ立派ナ行動ガアル、又丁汝昌ニ對スル日本ノ海軍ノ行動ヲ見マシテモ、武士道ニ適ッテ居ル日本ノ歴史ヲ見レバ甚ダ奇麗ナモノデアアツテ歐羅巴ノ類デハナイノデアアル、支那ノ類デハナイノデアアル日本人ガ實業ニ従事スルニ當ッテハ、労働者ニ對シテハ大ニ温情ヲ示シテ居ルノデアアル、中ニハ間違ッタ事ヲスル者モ無イトハ限ラヌケレドモ、大體ニ於テハ日本人ノ温情ノ示シ方ハ、歐羅巴人ノ比較デハナイノデアアル、日本人ノ惻隱ノ心ハ歐羅巴人ヨリハ以上デアアルト私ハ信ジテ居ル、ソレ故ニ日本ニ於テ勞資協調ヲ盛ニ行ッタナラバ大ニ効果ガアルト思フ、此勞資協調、是ハ非常ニ大切ナ事デアアル、ソレヲ盛ニ行ッタナラバ、ソレニ依ッテ生活ノ安定モ段々期待スルコトガ出來ル譯デアアリマスルカラ、労働者社會ダツテ餘リ不平ハ無イ、強テ普通選舉ニシナケレバナラヌナドト言ッテ迫マル者ハ、サウ餘計居ラヌト思フ、然ルニ此日本ノ國民性ヲ度外視シテ、妄ニ歐羅巴人ノ真似ヲスル、近來ノ思想ガ惡化シテ居ルノデアアル、此際ニ於テ強テ普通選舉ヲ即時斷行シタナラバ、其結果ハ屹度宜シクナイ、大ニ用心ヲシナケレバナラヌノデアアル、大ニ警戒ヲ加ヘナケレバナラヌト思フノデアアリマス、先刻申シマシタ通り東西文明ノ融合、精神的文明ヲ以テ、物質的ノ文明ノ缺點ヲ補ッテ、之ニ由テ新々文明ヲ拵ヘルト云フコトガ、是ガ世界ノ大勢デアアル、此世界ノ大勢ニ順應セント欲スルナラバ、普通選舉ノ實行ハ暫時見合セテ置イテ、差當リ中流社會ニ重キヲ置イテ可ナリト思フ、即チ中流社會中心主義ヲ執ッテ往ッテ宜イト思フノデアリマス、此中流社會中心主義、中流社會ニ重キヲ置クト云フトハ、昔カラ色々ノ學者ガ述ベテ居ル事デアアル、即チ「アリストテレス」ガ矢張此事ヲ述ベテ居ル、金持ト貧乏人ハ動トモスルト衝突スル、ソレ故ニ中流社會ガ真中ニ居ッテ調停ヲシナケレバナラヌト言



ウテ、中流社會ニ重キヲ置イテ居ル、近世ニ於テハ「矢張」ヘーゲル」ガ中流社會ニ重キヲ置イテ居ルノデアリマス、世界ノ大哲學者ト云ヘバ昔ニ於テハ「アリストテレス」アリト云テ可ナリ、近世ニ於テハ「ヘーゲル」アリト云テ宜シイノデアアル、此二人デ中流社會中心主義ニ贊成シテ居ルノデアアル、「ヘーゲル」ノ中流社會ト申シマスルノハ、可ナリ區域ガ廣イ、職業組合ヲ拵ヘテ居ル所ノ職工モ其中ニ含ンデ居ル、私ノ所謂中流社會ハ區域ガ廣イ、諸官省ニ居ル所ノ官吏、ソレカラ市役所ヤ區役所ニ居ル所ノ吏員、會社員、其他智識階級ハ勿論、労働者中ノ稍上位ニ在ル所ノ者ハ悉ク之ニ含ンデ居ル積リデアアル、斯ノ如キ種類ノ中流社會ニ重キヲ置クト云フコトハ今日ノ急務ト考ヘテ居ル、又日本ニ於テハ是迄ハ中流社會ガ日本ノ中堅ト成ツテ居ツテ、徳川時代ニ於テモ澤山ノ士族ガアツタガ、士族以外ニ於テモ商賣人デモ、農家デモ、隨分中流社會ニ列シテ居ル者ガ澤山アツタノデアアル、要スルニ徳川時代ニ於ケル社會ノ中心ハ、所謂中流社會デアツタ、ソレテアルカラ維新ノ事業モ容易ク行ハレタ事ト私ハ考ヘテ居ル、近頃日本ニ於テハ段々ニ此中流社會ガ没落スル虞ガアル、是ハ甚ダ悲シムベキ事デアアル、中流社會ノ没落シナイヤウニ色々ノ政策ヲ講ジナケレバナラヌノデアアル、ケレドモ未ダ其處マデ至ツテ居ラヌノハ甚ダ遺憾ニ思ヒマス、衆議院議員ノ選舉ヲ行フニ當ツテモ、差當リ此中流社會ニ重キヲ置クベシト思フノデアリマス、即チ區域ノ廣イ所ノ中流社會ニ重キヲ置カナケレバナラヌト私ハ考ヘテ居ル、只今行ハレテ居ル所ノ此選舉法、是デハ私共ノ思想ニ適ハヌノデアアルカラ、近キ將來ニ於テ適當ナ時機ヲ見計ツテ、大ニ此選舉權ノ擴張ヲ圖ラナケレバナラヌト思フノデアリマス、千九百二十年即チ大戦争ガ濟ンデカラ間モナク、亞米利加人ノ「クルーク」シヤンク「ハ」ボビユラー、ガバーメント、インゼ、ユナイテッドステーツ」ト云フ本ヲ出シタ、是ハ普通選舉ニ反對センガ爲ニ書イタ所ノ本デアアル、頁ノ數ハ四百五十五頁デアアル、餘リ大冊トハ申サレマセヌケレドモ、片々タル小冊デハナイ、「クルーク」シヤンク」ガ此本ヲ書イテ普通選舉ニ反對シテ居ル、議論ヨリモ寧ロ事實ヲ澤山列舉シテ居ルノデアアル、其大要ヲ申シマスルト、立派ナル人物ハ議員タルコトヲ好マナイ、政治ニ奔走シテ居ル所ノ人ハ、群衆ニ媚ルコトヲ以テ能事スレリト致シテ、經綸ヲ度外視シテ居ルガ爲ニ、近頃ノ政治ハ

見ルニ足ラヌト云フコトヲ言ツテ居ルノデアリマス、亞米利加人ノ「クルーク」シヤンク」ハ類ニ之ヲ論ジテ居ル、即チ盛ニ普通選舉ニ反對シテ居リマス、其亞利加人ノ言フ所ハ大ニ參考ニナルト思フカラ此處テ述ベル、又英國ニ於テ選舉法ヲ改正シタノハ近頃ニ於テ四回アル、即チ千八百三十五年、千八百六十七年、千八百八十四年カラ五年ニ跨ツテ居ルモノガ一つ、モウ一つハ千九百十八年、此四回ニ選舉法ノ改正ヲ行ツテ居ル、千八百三十二年ニ「ジョンラッセル」ガ選舉法改正案ヲ出シタ頃ニハ、民間ニ於テハ大ニ選舉權ノ擴張ヲ望ンデ居ツタ者ガ澤山アル、又議場ニ於テモ選舉權ニ關シテ大議論ヲ爲シテ居リマシタ、所ガ千八百六十七年ニハ情景ガ大ニ變ツテ居リマシテ民間ニ於テモ、ソレ程熱烈ニ選舉權ノ擴張ヲ主張シテ居ナカッタ、代議士モ矢張其通り餘リ盛ニ其事ヲ論ジナカッタケレドモ、保守黨モ自由黨モ、悉ク民間ニ於テハ人望ヲ得タカッタモノデアリマスカラ、選舉法擴張案ハ直ニ無難ニ通ツテシマッタノデアアル、千八百八十四年カラ五年ニ跨ルマデノ選舉法改正ハ、是ハ前ノ改正ノ餘波タルニ過ギナイノデアアル、又千九百十八年ノ選舉法改正、是ハ戰爭中ニ行ハレテ居ツタモノデアリマスカラ、民間デハ餘リ注意シナカッタ、僅テ千九百六十七年ニ於テ、選舉法ノ改正ヲ行ツタ頃ニハ、自由黨モ保守黨モ、他日労働黨ガ出ルト云フコトハ餘リ氣ガ付カナカッタ、所ガ千九百五年ノ總選舉ニ於テ、労働黨ノ議員ガ選舉セラレタト云フコトデ、自由黨モ保守黨モ非常ニ驚イタ、更ニ昨年即チ千九百二十二年ノ總選舉ノ結果ヲ見ルト云フト、統一黨ガ三百四十四人、「ロイドジョージ」ノ率キテ居ル國民自由黨ガ五十七人、「アスクイス」ノ率キテ居ル所ノ自由黨ガ六十人労働黨ガ百三十八人、即チ自由黨ガ二ツアリ、二ツアリマシテ、此二ツノ議員ノ數ヲ合セマシテモ労働黨ニハ敵ハナイノデアアル、ソレデ近頃此二ツノ自由黨ガ合併シテ一ツニナッタ宜カラウト云フ相談ガアリマスケレドモ、ソレガ未ダ行ハレテ居ナイ、兎ニ角選舉ノ結果保守黨ノ系統ヲ引イテ居ル所ノ統一黨ガ多數デアツテ、是ハ即チ中流社會ノ人ガ大ニ奮闘シタ結果デアアル、統一黨ガ多數デアアルカラ是ガ今日内閣ヲ造ツテ居リマス、ダケレドモ今カラ二三十年モ経ツタナラバ、必ズ労働黨ガ内閣ヲ組織スルデアラウト云フコトヲ言ハレテ居ルノデアリマス、ソレデ今日ニ於テハ統一黨モ自由黨モ、曩ニ選舉法ノ改正ヲヤッタ



コトヲ悔ンデ居ルヤウナ次第デアル、若モ労働黨ガ内閣ヲ組織スルト云フコトデアッタナラバ、今日ノ英吉利ノ隆盛ヲ維持スルコトガ出來ルカドウカト云フコトヲ人ガ心配シテ居ルノデア  
 ル、英吉利人ノコトデアリマスカラ、必ズ困難ヲ切抜ケテシマフデアリマセウ、併ナガラ若モ踏  
 損フト云フト、労働黨ノ爲ニ英吉利ノ國ト云フモノハ滅茶ノ一ニセラレル虞レガアル、事ニ依ル  
 ト英吉利ノ盛ト云フモノハ今日ガ絶頂デアッテ是カラ下リ坂ニナルカモ知レナイ、下リ坂ニナリ  
 ツツアルノデアアル、英吉利人モ矢張斯ノ如キ心配ヲシテ居リマス、要スルニ英吉利ニ於テハ普通  
 選舉ヲ行ッテ居リマスケレドモ、ソレハ英吉利ノ政治ノ失敗デアリマス、英吉利人ハ此事ニ付キ  
 大ニ心配ヲシテ居ル、ソレカラ露西亞ニ於テハ「ボルシエヴィズム」ガ矢張失敗ニ終ッテ居ル、「レ  
 ニン」ガ政府ノ要路ニ立ッテ改革ヲシ、「ボルシエヴィズム」ヲ行ヒマシタケレドモ、矢張失敗ニ終ッ  
 テ居ル、産業ガドウシテモ發達シナイ、ソレ故ニドウシテモ資本階級ノ人ノ援助ヲ求メナケレバ  
 ナラヌト言ッテ、此頃ハ資本階級ニ向ッテ御世辭ヲ使ッテ居ルヤウナ次第デアル、先刻申シマシタ通り  
 ニ、社會主義ト普通選舉ハ是ハ兄弟同志デアアル、兩方共赤色デアアル、所ガソレハ兩方共今失敗シテ居  
 ル、政友會ガ普通選舉ヲ行フ時ハ、即チ社會ノ改良ヲ爲シ、其面目ヲ一新シタ時ニ行フノデアアルカ  
 ラ、決シテ不都合ハナイ英國ノ事ハ只今申上シマシタ通りニ、動モスルト其國運ガ傾ク虞ガアル  
 ノデアアルガ、普通選舉ヲ行ッテ居ル米國ガドウデアアルカト云フコトハ、大ニ參考ニナル、米國ニ於  
 テハ「アイ、ダブルユー、ダブルユー」ト云フモノガアル、是ハ大戦争以前ニ於テハ頗ル隆盛デアッ  
 ケレドモ、大戦争中ニ於テ大ニ壓迫ヲ被ッタ爲ニ、今日ハ既ニ其勢ガ衰ヘテ居リマス、唯米國ニ於  
 テハ御存知ノ通りニ熟練ノ労働者ト不熟練ノ労働者トノ間ニ争ガアッテ、其不熟練労働者ハ動モ  
 スルト「アイ、ダブルユー、ダブルユー」ニ這入ッテシマフ虞レガアル、普通選舉ガ行ハレテ居リマ  
 スカラ、若シ「アイ、ダブルユー、ダブルユー」ガ盛ニナルト、米國ノ政情モ決シテ安心ガ出來ルモ  
 ノデハナイ、又米國ナドハ普通選舉デ行ッテ居ルト言ッテ居ルケレドモ、黑人ニ選舉權ヲ行使セシ  
 メナイ、ダケレドモ黑人ガ今日ノ情勢ニ果シテ満足スルヤ否ヤモ問題デアアル、他日黑人モ普通選  
 舉ノ仲間入ヲシテ選舉權ヲ行フト云フコトデアルト、亞米利加ノ情勢モ變ッテ來ル、サウナリマス

ルト亞米利加ニ普通選舉ヲ行ッタガ爲ニ、或ハ又亞米利加ノ國運ガ傾クヤウニナルカモ知レマセヌ、  
 併シ亞米利加ノ國運ガ傾クト致シマシテモ、今日ノ英吉利ノ情勢ト比較シテ見マスカラ、幾ラカ  
 安心ガ出來ル程度デアアル、普通選舉ハ英吉利ニ禍ヲシテ居ル、亞米利加ニ對シテモ餘リ幸ラシテ  
 ハ居ラヌト思フ、ダカラ普通選舉ヲ行フ時ニハ餘程注意ヲシナケレバナラヌ、國情ヲ能ク考ヘテ  
 行ハナケレバナラヌ、無暗ニ突飛ニ普通選舉ノ即時斷行ヲヤッタナラバ、飛デモナイコトニナリハ  
 セヌカト思フ若モ日本ニ於テ今日ノ情勢ノ儘デ普通選舉ヲ行ハウト云フコトデアッタナラバ、行ッ  
 タ當座ハ格別ノ危険モアルマイ、労働黨ナドト云フモノガ直ニ隆盛ニ赴クト云フコトハナイケ  
 レドモ、暫ク經ツト必ズ労働黨ガ盛ニナル、英吉利ニ労働黨ガ段々ニ盛ニナリツ、アルガ、ソレヲ  
 見レバ大抵日本ノ事モ分ルデアラウ、日本ガ即時普通選舉ヲ行ッタナラバ、他日労働黨ガ出來ソレ  
 ガ盛ニナル、労働黨ガ盛ニナッテ内閣ヲ組織スルコトニナル、サウナルト政權ハ憲政會ナドニ行  
 キハシナイ、必ズ労働黨ガ内閣ヲ組織スルコトニナル、サウスルト日本ハ衰ヘルト思ヒマス、之  
 ニ反シテ若日本ニ於テ社會ノ状態ガ眞ニ改良セラレテ、面目ヲ一新スルマデ普通選舉ヲ見合セテ  
 置イテ、差當リノ所ハ先刻申シマシタ、廣イ區域ノ中流社會ヲ中心トスル所ノ中流中心主義ヲ採ッ  
 タナラバ、日本ハ必ズ勃興スルト思ヒマス、物質的文明ニ拘泥シナイデ、一方ニ於テハ勞資協調等  
 ヲ盛ニシテ、日本ノ社會ノ改良ニ力ヲ盡シ、又教育ヲ盛ニシテ無智ノ人ノ居ラヌヤウニシテ、サウ  
 シテ他ノ一方ニ於テハ新々文明ノ指導者ヲ以テ自ラ任ジタナラバ、日本ハ世界ノ手本ニナルト  
 思フノデアアル、今マデ日本人ハ随分西洋人ノ眞似ヲシタ、今日ニ於テモ漫ニ歐羅巴ノ眞似ヲシ  
 テ、普通選舉ヲ即時斷行セイト言ッテ居ル者アルケレドモ、サウ云フコトハ寧ロ止メニシテ良イ  
 制度ヲ拵ヘテ良イ社會ヲ造上ゲテ歐羅巴ノ手本ニナッタラ宜カラウト思ヒマス、尙ホ詳シク論ズ  
 レバ澤山ゴザイマスケレドモ、今日ハ是デ御免ヲ蒙リマス

前川虎造君ノ贊成演説

選舉法中改正法律案ノ提出者ノ一人トシテ、降旗元太郎君ノ説明ノ補遺ヲ致シ、旁意見ヲ述ベ



ヤウト思ヒマス 此選舉法改正問題ハ第四十二議會以來ノ宿題デアリマシテ、今日マデ此席上ニ  
 問題トナルコト今日ヲ加ヘテ 五回デアリマス、五回ノ間相互ニ討論ヲ致シタ 問題デアリマスガ  
 故ニ、最早其論點ハ盡キテ居ルデアリマス、唯ヤルカヤラヌカト云フ問題ダケガ殘ッテ居ル  
 デアリマス、此ニ於テ私ハ此問題ニ反對スル諸君ニ伺ヒタイト思フデアリマス、一體此世ノ中  
 ニ生存シテ居ル所ノ國民ガ、何レノ國民トシテモ重大ナル其國ニ對スル責任ト云フモノヲ負  
 シテ居ルト云フコトハ、諸君モ御否定ハ出來ヌマシ、又之ニ對スル所ノ權利ト云フモノモ、必ズ  
 相當ニ取得シテ居ルト云フコトハ、御否定ガ出來ヌマシ、殊ニ我國ノ如キハ、近年  
 國用ノ頻繁ナルニ付キ 苛斂誅求至ラザル所ナク、國家ガ今日マデ唯一ノ收入ト致シテ居ル所  
 地租ナルモノハ、最早國用ノ幾部分ヲモ滿スコトハ出來ナイ何ニ依ッテ補充致シテ居ルカト云  
 バ、則チ消費稅ニ課スル所ノ税金ガ主ナルモノデアリマス、我國ノ國民ガ此消費稅ヲ負擔セザル  
 者ハ一人モ無イノデアアル、故ニ此稅ヨリ生ジテ來ル所ノ權利其ノモノガ相當ノ働キアラザル以  
 上ハ、國家ト云フモノ及憲政ト云フモノ、根本ノ義ガ、甚ダ怪シク相成ッテ來ルト私ハ考ヘルノデ  
 アリマス、殊ニ御考ヲ願ヒタイノハ、吾々ノ此日本ノ國民ト致シマシテハ、一方ニ納稅ノ義務ヲ  
 負擔シテ居ル許リデハナクシテ、一方ニ血稅即チ徵兵ニ取ラレト云フ所ノ一大義務ヲ國家ニ  
 拂ッテ居ルデアリマス、此血稅ナルモノニ對スル義務ハ、若シ少シデモ懈ッテ時分ニハ、裁判所  
 ニ呼出サレ、輕キハ罰金重キハ懲役ニ服サナケレバナラヌト云フ位、一方ノ義務ニ對シテ、責任  
 ハ非常ニ重ク相成ッテ居ルデアリマス、又税金ニ對シテモサウデアリマス、成程直接營業稅ヲ  
 納メテ居ル人ガ、或ハ今日ハ選舉權ヲ得テ居ルカモ知レマセヌケレドモ、一般消費稅ヲ納メテ居  
 ル所ノ國民ハ、此稅ヲ取ラレマス爲ニ高キ著物ヲ著、高キ鹽ヲ嘗メ、高キ物價ヲ擔ッテ生存シナケ  
 レバナラヌト云フ實ニ悲シムベキ今日ノ狀況ニナッテ居ルデアリマス、故ニ國家ニ對スル直接  
 ノ納稅義務ナシト雖モ、是等ノ納稅者ガ若シ自己ノ存在ト云フコトヲ考ヘズニ居ッテナラバ、自  
 ラ此國家ト云フモノハ 根本カラ何物モ無クナルト云フ 今日ノ有様ニナッテ居ルデアリマス故  
 ニ斯ノ如ク一方デハ國民ニ對スル義務ノ誅求ハ誠ニ激シク出來テ居ル、此場合ニ何ヲ苦ンデカ、

國民ノ權利タル所ノ選舉權ヲ與ヘルト云フコトニ各カデアアルカト云フコトヲ私ハ伺ヒタイノデ  
 アル此問題ニ付テハ屢外國ノ例ヲ引カレテ、既往ノ四十五議會ニ於テ三日ニ互ッテ色々外國ノ例  
 ヲ舉ゲラレテ討論ヲサレテ居リマス、所ガ外國ノ例ハ暫ク措イテ、若シ吾々ガ吾々ヨリ古ヘテ作  
 スト云フ考ガナカッタナラバ、此東洋ノ平和、東洋ノ民族ヲ如何ニシテ是カラ吾々ガ助ケテ行ク  
 カト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、既ニ憲法布カレテ今日ニ至ッテ、其憲法ノ運用其モノニ於テ  
 此日本ノ國ガ巧ニ之ヲ應用シ、巧ニ此權利ノ分配ヲ致シテ、國家ガ益隆盛ニナルト云フコトニナッ  
 タトキニハ、是ハ隣國支那ノ國民ヲ救済スル意味ニモナレバ東洋各國ニ於ケル所ノ模範ノ憲政  
 國ヲ此デ吾々ハ造ラナケレバナラヌデアアル、縱シ歐羅巴ニ例ガ無クトモ吾々ガ眞理ト道理ヲ  
 許ス所ナラバ、之ニ從ハナケレバ、ナラヌデアアル、況ヤ歐歐羅巴各國ニ於テハ、既ニ往ク所トシ  
 テ普選ノ行ハレザル所ナク、唯一ノ土耳其半島アルノミデアリマセヌカ、斯ノ如キ有様ニナッ  
 テ居ル、今日ニ於テ諸君ガ御躊躇ナサルト云フコトハ、私共甚ダ了解ニ苦ムデアリマス、是ニ  
 於テ私ハ一言申上ゲナケレバナラヌ、此普選ニ反對サル、所ノ諸君ノ中ニ、既往五週年ニ互ッテ  
 一回毎ニ主張ガ異ナラレテ居ルト云フコトデアアル、最初大正九年ニ此議場ニ現レタトキニ、時ノ  
 總理大臣ノ原敬君ガ普選ハ危險ヲ含ンデ居ルカラト言ッテ、是ハ普選ト云フモノガ惡イカ善イカ  
 ト云フ問題ニ觸レズシテ、議會マデ解散サレテ居ルデアリマス、所ガソレカラ以後ニナッテ來  
 テ、段々變遷シテ回ヲ重ネル毎ニ普選ハ吾々ノ理想デアアルガ、時期ノ問題デアルト云フコトヲ言  
 ハレ、現ニ戸水君ハ多クハ、戸水君ノ言ハル、事ハ何ヲ言ッタカ私ニハ分リマセヌ、ケレドモ此ニ  
 臨ンデ最初言ハレタ言葉ニ、普通選舉ハ政友會ノ理想トスル所デアアルト云フコトダケハ分リマ  
 シタ、ソレカラ近キ將來ニ於テ政友會ガ之ヲ提案スルデアルト云フコトモ言ハレマシタ、此二  
 ツダケハハッキリ分ッタ、諸君ハ既ニ普選ヲ理想トセラレ、近キ將來ニ於テ發案サレルト云フコト  
 マデニ進メラレテアル以上ハ、何故ニ今少シ此審議ヲ眞面目ニ爲サラヌカ、戸水君ノ一時間有餘  
 ニ互ッテ辯舌、吾々ハ何事ヲ言ハレタカ聽取ルコトサヘ出來ナカッタ今日ノ狀態デアリマス、私  
 ハ此聽取ラレヌト云フコトニ對シテハ、或ハ戸水君ノ御言葉ガ低ク、或ハ又吾々ガ聽クダケノ能



カガナホッタノカモ知レマセヌガ、兎ニ角戸水君ノ議論ト云フモノハ、吾々何ヲ言ハレタノカ分  
 ラスト云フコトハ事實デアアル、或ハ他日筆記ヲ見タラ分ルカモ知レヌガ、分ラナカッタト云フコ  
 トハ事實デアリマス、故ニ私ハ之ニ向ッテ何トモ申上ゲヤウハナイ、申上ゲヤウハナイガ、兎ニ角  
 政友會ノ諸君ガ今日普選ト云フモノニ向ッテ、深甚ナル御同情ヲ拂ハレテ居ルト云フコトダケハ  
 事實デアルト思フ、何トナレバ諸君ハ本期ノ議會ニ於テ、來年度ニ於テ地租ヲ地方ニ委譲サレル  
 ト云フコトヲ建議サレテ居リマス、之ニ關スル委員會ニ於テハ度々政府ト質問應答サレテ、  
 政府モ略之ニ御同意ヲ爲スッタヤウニ吾々ハ聽取ッテ居リマス、果シテ然ラバ直接國稅ナルモノ  
 ハ、果シテ何ヲ現在ノ此選舉法ニ掲ゲテアルカ、直接國稅三圓ト云フモノニ對シテハ、何ヲ今後  
 御標準ニ爲サルノデアアルカ、成程マダ直接國稅ノ中ニハ所得稅ガ殘ッテ居リマス、營業稅ガ殘ッテ  
 居リマス、併ナガラ所得稅ナリ營業稅ナルモノハ多ク都市ニアル稅デアッテ、郡村ニハ少イモノ  
 デアル、所得稅ハ郡村ニハアリマスガ、若シ此儘ニシテ、選舉法ヲ此法律ヲ改正セズシテ、地租ヲ  
 地方ニ委譲シタト云フ場合ニハ、現在ノ選舉權ハ少クトモ五十萬位ニ減ルト私ハ信ズル、三百萬  
 ニ過テル選舉權ガ五十萬ニ縮小シテモ、尙ホ此選舉法ノ改正サレテ居ラヌト云フ程、諸君ハ此憲  
 政ト云フコトニ不忠實デハナイト信ジテ居ル、思フニ戸水君ハ近キ將來ニ於テ、此改正案ガ政友  
 會カラ出サレルト云フコトヲ言ハレタノモ、此意味デアラウト私ハ信ジテ居リマス、詢ニ結構ナ  
 事ト考ヘル、併シ此處デ申上ゲナケレバナラヌノハ、要スルニ是ガ出テ來テモ矢張人格ト云フモ  
 ノヲ認メル所ノ選舉法改正デアアルカ、或ハ納稅ト云フモノヲ認メル外、何モノヲモ認メヌト云フ改  
 正デアアルカ、此ニ至ッテハ吾々マダ何人カラモ其御主張ノアル所ヲ聞カヌノヲ甚ダ遺憾ト致スノ  
 デアリマス、併シ吾々ノ主張シテ居ル所ハ納稅資格ノ撤廢デアリマス、人トシテノ人格ヲ認メル  
 ト云フコトデアリマス、所ガ此問題ハ私共ガ申サズトモ、諸君モ御存知ノ通り最早今日ノ此世  
 界ノ大勢ト申セバ、皆ガ言ハレテ居ルコトデアリマスガ、此大勢及此日本ノ立場カラ考ヘテ、一  
 日此普通選舉ノ實行ト云フコトガ遅レ、バ、一日ダケ此國家ノ組織ト云フモノニ對シテ、甚ダ憂  
 フベキ狀況ガ生ジテ來ル傾向ガ現レテ居ルコトヲ御會得ガ願ヒタイト思フノデアアル、私ハ選舉權

ヲ與ヘヨト言ッテ騒イデ居ル此空氣ニ對シテ申スノデアリマセヌ、一體此憲法政治ナルモノ  
 ハ、國民ヲシテ其國ノ事ハ其國民全體ニ依ッテ解決スベク出來テ居ル政治デアアル、然ルニ日本ノ  
 國民ノ約六千萬中ノ半ハ男子デアアル、其男子ノ中ノ少クトモ一千二百萬人以上ハ丁年以上ノ  
 男子デアルトシタナラバ、此能力アル青年男子ニ向ッテ選舉權ヲ與ヘ、總テノ政治ヲ民衆化シテ、  
 以テ其力此國ヲ維持シテ行クト云フコトニシナイ以上ハ、國家ノ生存ハ愚カ、國際的ノ關係ニ於  
 テ屢失敗ヲ致スト云フヤウナ、憐ムベキ狀況ニ陥リハシマイカト云フコトヲ深ク私共ハ憂ヒテ  
 居ルモノデアアル、之ヲ一ニ證據ヲ舉ゲルコトハ、是ハ他ニ機會ヲ以テ憲政會ノ私ハ望月小太郎君  
 ニ讓ラウト思ヒマスガ、望月君ノ口ヲ藉ッテ申セバ、隨分日本ノ國際關係ハ甚ダ面白カラヌ狀況ニ  
 ナッテ居ル、ソレハ何カラ來タカト云フニ、今日ハ國民ノ力ガ一ニナッテ當ルノデナクシテ、個々別々  
 ニナッテ當ッテ居ルト云フ、此形ガ外侮ヲ招キ、其結果軟弱外交トナリ、外交ニマデ影響ヲ來ス  
 ト云フヤウナ今日ノ有様ニナッテ居ルデアラウト私ハ密ニ考ヘテ居ルノデアリマス、終ニ臨ン  
 デ私ハ一言申上ゲタイ、諸君ハ最初大正九年ニ普選ヲ此處デ即決否決ヲ爲サントスル其瞬間ニ  
 於テ議會ノ解散ヲサレタ、原内閣ノ爲ニ解散ニナッタ、其當時諸君ハ選舉區ニ出ラレテ言ハレタ  
 人モアリ、言ハレヌ人モアリマス、所ガ諸君ノ中ノ普選ヲ唱ヘラレル諸君ハ何ト云フタ、今度ノ選  
 舉ト此此ノ選舉ハ此選舉法デアアルノデアアル、大正十七年ノ選舉ハ吾々ハ此普通選舉デアアルノデ  
 アルト云フコトヲ言ハレタ諸君ガアル、若シ大正十七年ノ選舉ヲ此普選ニ依ッテヤラレルト云フ  
 御覺悟ガ既ニアルトシテ、何故ニ大正十二年ノ今日ニ此普選ヲオヤリニナルコトガ出來ナイカ、  
 是ハ私ハ了解ニ苦ム、所ガ此疑問ニ對シテハ世間言ヒ傳フル所ニ依レバ、ソレハ政友會ガ今日  
 此選舉法ヲ極テ便利ニ自己ノ黨派ノ入ヲ選出スルガ爲ニ、極テ便利ニ造上ゲテ居ルノデアアル折  
 角此造上ゲタ所ノ選舉法ヲ唯一回ニシテ打棄ルト云フコトハ殘念デアアルカラ、モウ一回之ヲ使  
 ハウト云フ御意思ニ外ナラヌト云フヤウナ噂ヲ聞ク、成程サウデアラウ、諸君ガ四大政綱ト唱ヘ  
 ラレタ所ノ彼ノ積極政策カラ現レタ問題、交通、鐵道、教育、産業、是等ノ問題ハドウ云フ譯デ出  
 來上ッテ居ルカト云フト、一千萬圓ノ皇室ヨリ賜ッタ所ノ教育費スラモ、之ヲ高等學校ノ建設ノミ



ニ御使ヒニナツテ、資本家ノ子弟ノ教育場所ニ御使ヒニナツテ居ル、ソレカラ又鐵道ハ到ル處我黨  
 ニ入黨シタナラバ、鐵道ヲ敷イテヤルト云フ爲ニ鐵道網、一萬哩ノ鐵道網ヲ御作リニナツテ居ル、  
 所ガ其他總テ産業ノ上ニ於テモ、諸君ノ同志ハ必ズ此低利資金ヲ借ルコトニ便利デアルト云フ  
 事ダケハ世間知ラズ識ラズ傳ツテ居ル所ノ言葉デアリマス、果シテ然ラバ此時イタ所ノ種ノ收穫  
 ヲ、此次ノ選舉ニ御取リニナラウト云フ爲ニ普選ニ反對セラル、ト言ハナケレバナラヌ斯ノ如  
 クシテ能ク今日此民心ヲ治メテ行クコトガ出來ルデアラウカ、出來ナイデアラウカ、御考ヲ願ヒ  
 タイ、私ハ敢テ政友會ヲ目シテ、或ル人ミノ如ク、非常ニ黨勢ヲ圖ル御方許リノ御集合デアルト  
 云フ考ハ持ツテ居リマセヌ、併ナガラ諸君ハ茲ニ二百八十何人ト云フ黨員ヲ擁シテ、一番議會ニ  
 絶對ノ多數ヲ持タレテ居ル諸君、此諸君ハ議會政治ノ中心ニ居ラレテ、總テノ政治ヲ執ラレルト  
 云フコトニナレバ、此憲法政治ト云フモノハ詰リ是等ノ人ミガ定メタ事ガ自ラ政治ニ現レルト  
 云フ當然ノ結果ニナルノデアアル、故ニ諸君等ノ一言一行ハ極テ大切ニ、極テ國民ノ利害休戚ニ大  
 關係ヲ有スルコトハ明カデアアル、併ナガラ退イテ其根柢、諸君ノ今日居ラル、所ノ基礎トナツテ  
 居ルモノハ何處デアアルカト云ヘバ、日本全國二百萬人ヨリ築キ上ゲラレタ所ノ基礎デハナイカ、  
 三百萬人カラ造上ゲラレタ所ノ基礎ノ上ニ立ツテ、左様ナ權力ヲ何時マデモ此議會デ振ツテ居ル  
 ト云フヤウナコトハ、憲法政治ノ意義根本ニ於テ決シテ許スベキモノデハアリマセヌソレデア  
 ルカラ諸君達ハ、ドウカ一日モ早ク此普通選舉ヲ布カレテ、其上ニ諸君ガ十分ナル所ノ意見ヲ吐  
 イテ、茲ニ國民ノ同意ヲ得テ選出サレルト云フコトデアラナラバ、國民モ必ヤ承知スルデアラ  
 ウ、諸君ガ爲ス所ハ吾ミガ選上ゲタ所ノ者ガスルコトデアラカラ、已ムヲ得ヌト云フ諸君ガ付  
 クデアラウ、併ナガラ二百萬人カラ選上ゲラレタ所ノ諸君ガ、唯吾等ハ國政ヲ執ルベク委託サレ  
 タ所ノ日本國民ノ總テヲ代表シテ居ル者デアルト云フ此權威ヲ、諸君ハ此處デ無暗矢鱈ニ發揮  
 サレルト云フコトハ、國民全體ニ付テ甚ダ迷惑千萬デアルト私ハ考ヘルノデアアル、ソコデ私ハ最  
 後ニ申上ゲマスガ、ドウカ此普選ノ問題ハ、既ニ政府ニ於テモ調査委員會ヲ設ケラレテ、著々役人  
 部内ニ於テモ調査ヲ進メラレテ居ルト云フコトヲ聞イテ居リマス故ニ、此普選案ヲ委員會ニ付

託シテ、サウシテ反對ノ諸君ト贊成ノ諸君ト十分ニ私ハ意見ヲ闘ハシテ、其上デマス早イト云フ  
 コトニ得心ガ行クナラバ、吾ミモ其方ニ贊成スルカモ知レナイ、諸君モ亦吾ミノ意見ニ贊成サレ  
 ル場合ガナイトモ限ラナイ、唯即決否決ト云フコトデ之ヲ葬ツテシマフト云フコトハ、私ハ大雅  
 量アル諸君、大度量アル諸君ニ似合ハナイ仕方デアルト私ハ考ヘルノデアアル、天下ノ大政黨ヲ以  
 テ任ジ、天下ノ重キヲ以テ任ゼラレル政黨ニシテ、是位ノ雅量ガ無い、飽迄モ即決否決デ叩潰ス  
 ノダト云フヤウナ小サナ根性デ、今日ノ此世界の舞臺ニ立ツテ此日本ヲ率キ、諸君ノ力ヲ持ツテ行  
 クコトガ出來ルカ出來ヌカト云フコトガ問題デアアル、ソレカラ諸君ノ總裁高橋君ハ、政治ハ力デ  
 アルト云フコトヲ言ハレタ、洵ニ私モ之ニハ贊成デアアル、併シ其力ナルモノガ暴力デアアルカ、神  
 聖ナル力デアアルカト云フコトニ付テハ御研究ヲ願ヒタイ、所謂此力ナルモノ云、正シキ上ニ於テ  
 築カレタ所ノ力デナケレバナラヌ、色々ノ事ヲシテ築上ゲタ此虚偽ノ力ノ  
 上ニ成立ツタモノデ威ヲ振フト云フコトハ、是程詰ラヌ事ハナイノミナラヌ、即チ此一事既ニ亡  
 國ノ徵アリト云フテモ差支ナイト思フ、諸君ハ諸君個人トシテハ立派ナ諸君バカリデアリマス、  
 故ニドウカ諸君ノ此二百八十ノ團結ヲ以テ、ドウカ此日本ト云フモノニ頭ヲ置イテ、日本國ノ利  
 害休戚、此國民ヲ如何ニスルカト云フ立場ニ復ラレテ、サウシテ心靜ニ此普選案ヲ御熟慮アラシ  
 コトヲ望ミマス、私ハ是ダケノ事ヲ申述べマス

宮古啓三郎君ノ反對演説

諸君、此案ハ極テ重大ナルモノト存ジマシテ、私共ハ極メテ鄭重ニ扱フ意見ヲ持ツテ居ルノデアリ  
 マス、所ガ諸君ノ只今迄述ベラレタ提出ノ理由ヲ拜聽致シマシテ、憲政會ノ前總務デキラツシヤ  
 ル所ノ降旗君ノ御演説、並ニ革新俱樂部ノ前川君ノ御演説、是ガ即チ提案ノ趣旨ノ辯明デアリマ  
 スカラ、大ニ私共ハ傾聽致シマシタデアリマスガ、洵ニ失望致シマシタ、此重大ナル普選案ノ  
 提案ノ趣意ト云フモノハ、只今迄申サレタ如キモノデアラナラバ、獨リ私共バカリデハナイ、是  
 ハ天下ノ人ガ大ニ失望致シハセヌカト思フノデアリマス、實ハ此重大ナル案ニ對シマシテハ、モ